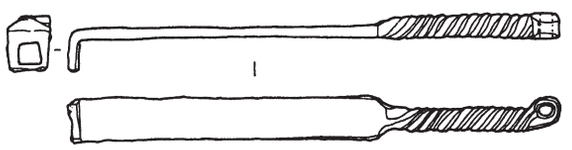
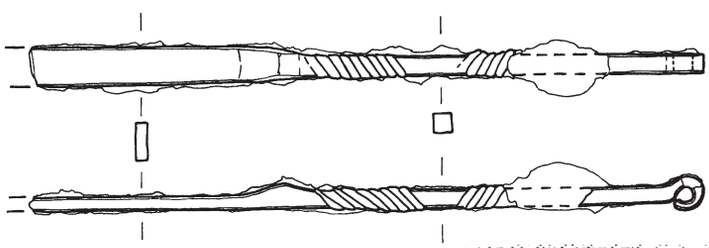
元総社蒼海遺跡群（22）

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書



長屋王邸宅跡出土の鍵
（奈文研1991より）



元総社蒼海遺跡群（22）10区
H－8号住居跡出土の鍵

２００９．３

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

８区東半全景（北より）

８区西半南全景（北より）

口絵２

８区西半北全景（東より）

10区東半全景（西より）

10区西半全景（西より）

33区全景（西より）

は　じ　め　に

前橋市は、関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、２万年前から人々が生活を始めました。そのため市内のいたる所に人々の息吹を感ぜられる歴史遺産が存在します。

古代において前橋台地には、広大に分布する穀倉地帯を控え、瀾橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ王山古墳・天川双二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上野毛の国の中心地として栄えました。また、続く律令時代になってからは総社・元総社地区に山王廃寺、国分僧寺、国分尼寺、国府など上野国の中枢をなす施設が次々に造られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条市が鎬をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられる厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地であり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され、日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する元総社蒼海遺跡群（22）は古代上野国の中枢地域の調査であります。上野国府推定区域に隣接することから、調査成果に多くの注目を集めております。今回の調査では、国府そのものに関する遺構の検出はかないませんでしたが、古墳時代から平安時代にいたる多くの竪穴住居跡を検出しました。今は一本の糸に過ぎない調査成果も織り上げて行けば、国府や国府のまちの姿を再現できるものと考えております。残念ながら、現状のままでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、この調査事業を円滑に進められたのは、関係機関や各方面のご配慮の結果といえます。また、寒風の中、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申し上げます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成21年３月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団
団　長　　依　田　三次郎

例　　言

1．本報告書は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う元総社蒼海遺跡群発掘調査報告書である。

2．調査主体は前橋市埋蔵文化財発掘調査団である。

3．発掘調査の要項は次の通りである。

調　査　場　所	群馬県前橋市元総社町1312―３ほか
遺　跡　コ　ー　ド	20Ａ130―22
発 掘 調 査 期 間	平成20年10月７日～平成21年２月６日
整理・報告書作成期間	平成21年２月10日～平成21年３月６日
発 掘 ・ 整 理 担 当 者	宇佐美義春　瀬田哲夫　櫻井和也　村上章義　関　健吾

4．本書の編集は、前橋市教育委員会の指導のもと、宇佐美義春が行った。原稿執筆はＩを山下歳信（前橋市教育委員会)、「調査区出土遺物」を関、他を宇佐美が担当した。

5．遺構図版はデジタル編集（担当　土屋一未）で行い、遺物に関しては版下を作成した。

6．発掘調査・整理作業に関わった方々は次の通りである。

【発掘調査】赤神和幸・内嶋勝義・大和田幸宏・奥沢淳子・片亀　登・神谷英孝・木暮孝一・木村　哲
木村広美・桑原和子・小坂定一・後藤孝文・小林清次・小屋文明・佐藤和子・島田圭子
下田直樹・曽我部鋏一・高木利雄・高野繁雄・高橋洋子・永田　薫・永田光子・林　　実
平岩丈夫・増田初江・町田英子・間庭啓治・三原一重・村山寿美子・山根一郎

【整理作業】坂田裕之・佐藤京子・島田圭子・須田公恵・高橋洋子・山下雅恵

7．発掘調査で出土した遺物、及び図面等の資料は前橋市教育委員会文化財保護課に保管してある。

凡　　例

1．挿図中に使用した北は、座標北である。

2．遺跡位置図には、国土交通省国土地理院発行の１：20万、１：２万５千の地形図を使用した。

3．遺構の略称は、Ｈ：古墳時代～平安時代の竪穴住居跡　Ｗ：溝跡　Ｄ：土坑　Ｐ：柱穴・ピット
Ｔ：竪穴状遺構　Ａ：道路状遺構　Ｏ：落ち込み、である。

4．遺構・遺物の縮尺は、［遺構］住居跡・溝跡・土坑・竪穴・落ち込み　１：60　竈１：30
［遺物］土器・鉄製　品　１：３　瓦１：５　石製品・土製品　１：２、を原則とした。

5．一覧表・観察表について。（　）は現存値、［　］は復元値を表す。

6．土層注記について。粘性・締まりの順で示し、表現内容は、◎粘性・締まりが強い、○粘性・締まりがある、△粘性・締まりがややある、×粘性・締まりがない、である。

7．遺構・遺物の記号・網掛けは以下の通りである。

遺構　●：土器　□：瓦　△：石製品　×：鉄製品　：遺構構築面　：粘土範囲
：焼土範囲　：灰分布

遺物　：灰釉・緑釉断面、黒色処理　：還元炎焼成の須恵器断面
：油煙　：竈構築粘土付着範囲

8．主な火山降下物等の略称と年代は以下の通りである。

As-C	（浅間Ｂ軽石、1108年）	Hr-FP	（榛名二ッ岳伊香保テフラ、６世紀中葉）
Hr-FA	（榛名二ッ岳渋川テフラ、６世紀初頭）	As-C	（浅間Ｃ軽石、４世紀前半）

目　　次

口絵１・２
はじめに
例言・凡例
Ⅰ　調査に至る経緯 …… 1
Ⅱ　遺跡の位置と環境 …… 1
Ⅲ　調査方針と経過 …… 6
Ⅳ　基本層序 …… 7
Ⅴ　８区の遺構と遺物 …… 11
Ⅵ　10区の遺構と遺物 …… 61
Ⅶ　33区の遺構と遺物 …… 91
Ⅷ　まとめ ……109
報告書抄録

表　目　次

Tab. 1　元総社蒼海遺跡群周辺遺跡概要一覧表 … 4
Tab. 2　８区土坑一覧表 …… 20
Tab. 3　８区溝跡一覧表 …… 20
Tab. 4　８区ピット一覧表 …… 20
Tab. 5　８区遺物観察表 …… 21
Tab. 6　10区土坑一覧表 …… 66
Tab. 7　10区溝跡一覧表 …… 67
Tab. 8　10区ピット一覧表 …… 67
Tab. 9　10区遺物観察表 …… 67
Tab.10　33区土坑一覧表 …… 93
Tab.11　33区ピット一覧表 …… 93
Tab.12　33区遺物観察表 …… 94

挿図目次

Fig. 1　前橋の地形 …… 1
Fig. 2　遺跡の位置 …… 2
Fig. 3　周辺遺跡図 …… 3
Fig. 4　基本層序 …… 7
Fig. 5　元総社蒼海遺跡群位置図とグリッド設定図 …… 8
Fig. 6　８区全体図 …… 9
Fig. 7　10・33区全体図 …… 10
Fig. 8　８区Ｈ－１・２号住居跡 …… 27
Fig. 9　８区Ｈ－３・４・７・９号住居跡 …… 28
Fig.10　８区Ｈ－５・11号住居跡 …… 29
Fig.11　８区Ｈ－８・10号住居跡 …… 30
Fig.12　８区Ｈ－12号住居跡 …… 31
Fig.13　８区Ｈ－13号住居跡（1） …… 32
Fig.14　８区Ｈ－13号住居跡（2） …… 33
Fig.15　８区Ｈ－14・16号住居跡 …… 34
Fig.16　８区Ｈ－15号住居跡 …… 35
Fig.17　８区Ｈ－17・19号住居跡 …… 36
Fig.18　８区Ｈ－18・20号住居跡 …… 37
Fig.19　８区Ｈ－21・22・27号住居跡 …… 38
Fig.20　８区Ｈ－23・25・26号住居跡 …… 39
Fig.21　８区Ｈ－24号住居跡、Ｈ－23・24号住居跡掘り方 …… 40
Fig.22　８区Ｈ－28号住居跡 …… 41
Fig.23　８区Ｈ－31・32号住居跡 …… 42
Fig.24　８区Ｈ－33号住居跡 …… 43
Fig.25　８区Ｈ－29・30号住居跡、Ｔ－１・２号竪穴状遺構 …… 44
Fig.26　８区Ｔ－３号竪穴状遺構 …… 45
Fig.27　８区Ｔ－４号竪穴状遺構、土坑（1） …… 46
Fig.28　８区土坑（2） …… 47
Fig.29　８区土坑（3）、Ｗ－26号溝跡 …… 48
Fig.30　８区Ａ－１号道路状遺構 …… 49
Fig.31　８区Ｈ－１～Ｈ－11出土遺物 …… 50
Fig.32　８区Ｈ－12出土遺物 …… 51
Fig.33　８区Ｈ－13・14出土遺物 …… 52

Fig.34　8区H—15～H—22出土遺物 …… 53
Fig.35　8区H—23～H—31 (1) 出土遺物 …… 54
Fig.36　8区H—31 (2) ～H—33出土遺物…… 55
Fig.37　8区T—2・3出土遺物 …… 56
Fig.38　8区T—4、D—7・16・17出土遺物 … 57
Fig.39　8区D—21・24 (1) 出土遺物…… 58
Fig.40　8区D—24 (2)・26出土遺物 …… 59
Fig.41　8区D—26、W—26、A—1、P—1・21、
　　調査区出土遺物 …… 60
Fig.42　10区H—1号住居跡 …… 71
Fig.43　10区H—2号住居跡 …… 72
Fig.44　10区H—3・5・8号住居跡 …… 73
Fig.45　10区H—4号住居跡 …… 74
Fig.46　10区H—6号住居跡 …… 75
Fig.47　10区H—7号住居跡 …… 76
Fig.48　10区H—9・10号住居跡 …… 77
Fig.49　10区H—11号住居跡 (1) …… 78
Fig.50　10区H—11号住居跡 (2) …… 79
Fig.51　10区H—12・13・16号住居跡 …… 80
Fig.52　10区H—14・15号住居跡、土坑 (1) …… 81
Fig.53　10区土坑 (2) …… 82
Fig.54　10区土坑 (3)、O—1号落ち込み …… 83
Fig.55　10区H—1～H—3 (1) 出土遺物 …… 84
Fig.56　10区H—3 (2)・4出土遺物…… 85
Fig.57　10区H—5～H—7 (1) 出土遺物 …… 86
Fig.58　10区H—7 (2) ～H—10出土遺物 …… 87
Fig.59　10区H—11～H—13出土遺物 …… 88
Fig.60　10区H—14～H—16、T—1 (1)
　　出土遺物 …… 89
Fig.61　10区T—1 (2)、D—27、調査区
　　出土遺物 …… 90
Fig.62　33区H—1号住居跡 …… 96
Fig.63　33区H—2・7号住居跡 …… 97
Fig.64　33区H—3号住居跡 …… 98
Fig.65　33区H—4・5号住居跡 …… 99
Fig.66　33区H—5号住居跡竈、土坑 ……100
Fig.67　33区H—6号住居跡 ……101
Fig.68　33区H—8号住居跡 ……102
Fig.69　33区H—1～H—4出土遺物 ……103
Fig.70　33区H—5出土遺物 (1) ……104
Fig.71　33区H—5出土遺物 (2) ……105
Fig.72　33区H—5 (3) ～H—8出土遺物 ……106
Fig.73　33区H—1・3 (1) 出土瓦 ……107
Fig.74　33区H—3 (2)・6出土瓦……108
Fig.75　竪穴住居跡時期別分布図 ……110

図版目次

PL. 1　8区竪穴住居跡 (H—1～9)
PL. 2　8区竪穴住居跡・竈 (H—10～13)
PL. 3　8区竪穴住居跡・竈 (H—13～16)
PL. 4　8区竪穴住居跡 (H—17～24)
PL. 5　8区竪穴住居跡 (H—25～32)
PL. 6　8区竪穴住居跡 (H—33)、
　　竪穴状遺構 (T—1～T—4)
PL. 7　8区土坑 (D—1～D—15)
PL. 8　8区土坑 (D—16～D—26)
PL. 9　10区竪穴住居跡 (H—1～H—4)
PL.10　10区竪穴住居跡 (H—4～H—7)
PL.11　10区竪穴住居跡 (H—8～H—11)
PL.12　10区竪穴住居跡 (H—11～H—16)
PL.13　10区土坑 (D—1～D—17)
PL.14　10区土坑 (D—18～D—30)
PL.15　10区土坑 (D—31～D—39)
PL.16　33区竪穴住居跡 (H—1～H—4)
PL.17　33区竪穴住居跡 (H—5～H—8)
PL.18　出土遺物 (8区)
PL.19　出土遺物 (8区)
PL.20　出土遺物 (8・10区)
PL.21　出土遺物 (10区)
PL.22　出土遺物 (10区)
PL.23　出土遺物 (10・33区)
PL.24　出土遺物 (33区)

Ⅰ　調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い実施され、9年目にあたる。本調査地は、周辺で埋蔵文化財調査が長年に亘って行われていることから、遺跡地であることが確認されている。

平成20年4月1日付けで、前橋市長高木政夫（区画整理第二課）より前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。教育委員会ではこれを受け、内部で組織する前橋市埋蔵文化財発掘調査団へ調査実施の協議を行った。調査団では直営による本調査の実施が困難であるため、民間調査機関に調査業務を委託したいと回答した。民間調査機関の導入については、依頼者である前橋市の合意も得られ、平成20年10月1日付けで前橋市埋蔵文化財発掘調査団と前橋市との間で埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結した。

それを受けて調査団は民間調査機関である技研測量設計株式会社と10月3日付けで業務委託契約を締結し、平成20年10月7日より発掘調査を開始した。

なお、遺跡名称「元総社蒼海遺跡群（22）」（遺跡コード：20Ａ130―22）の「元総社蒼海」は区画整理事業名を採用し、数字の「(22)」はすでに実施した調査と区別するために連番を付したものである。

Ⅱ　遺跡の位置と環境

1　遺跡の位置（Fig. 2）

本調査地は、前橋市街地から利根川を隔てて、西へ約3.6kmの地点、前橋市元総社地内に所在し、西約0.4kmには関越自動車道が南北に、南には国道17号、主要地方道前橋・群馬・高崎線が東西に、また東約0.5kmには市道大友・石倉線が南北にそれぞれ走っている。本調査地の立地する地形は前橋台地であり、榛名山麓を源にする牛池川、染谷川が開析し形成した細長い微高地との比高差3～5ｍを測る。遺跡が立地する台地上は主として桑畑などの畠地として利用されているが、本遺跡地の所在する位置は南東に開く緩やかな谷地形を呈しており、水田として利用されていた。

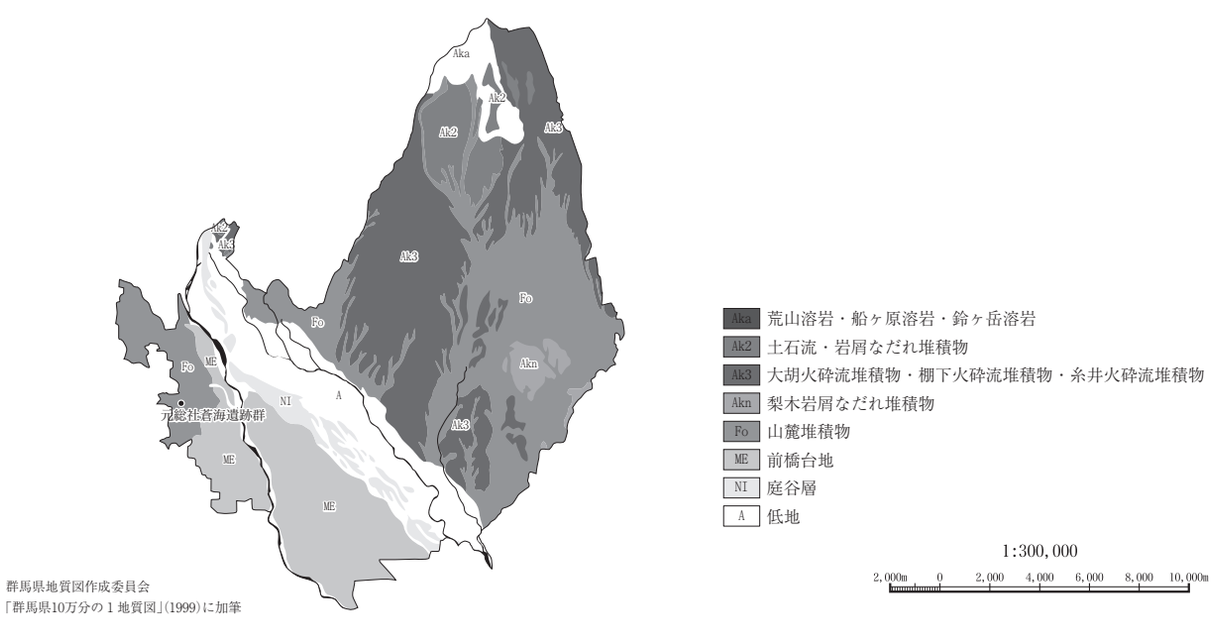


Fig. 1　前橋の地形

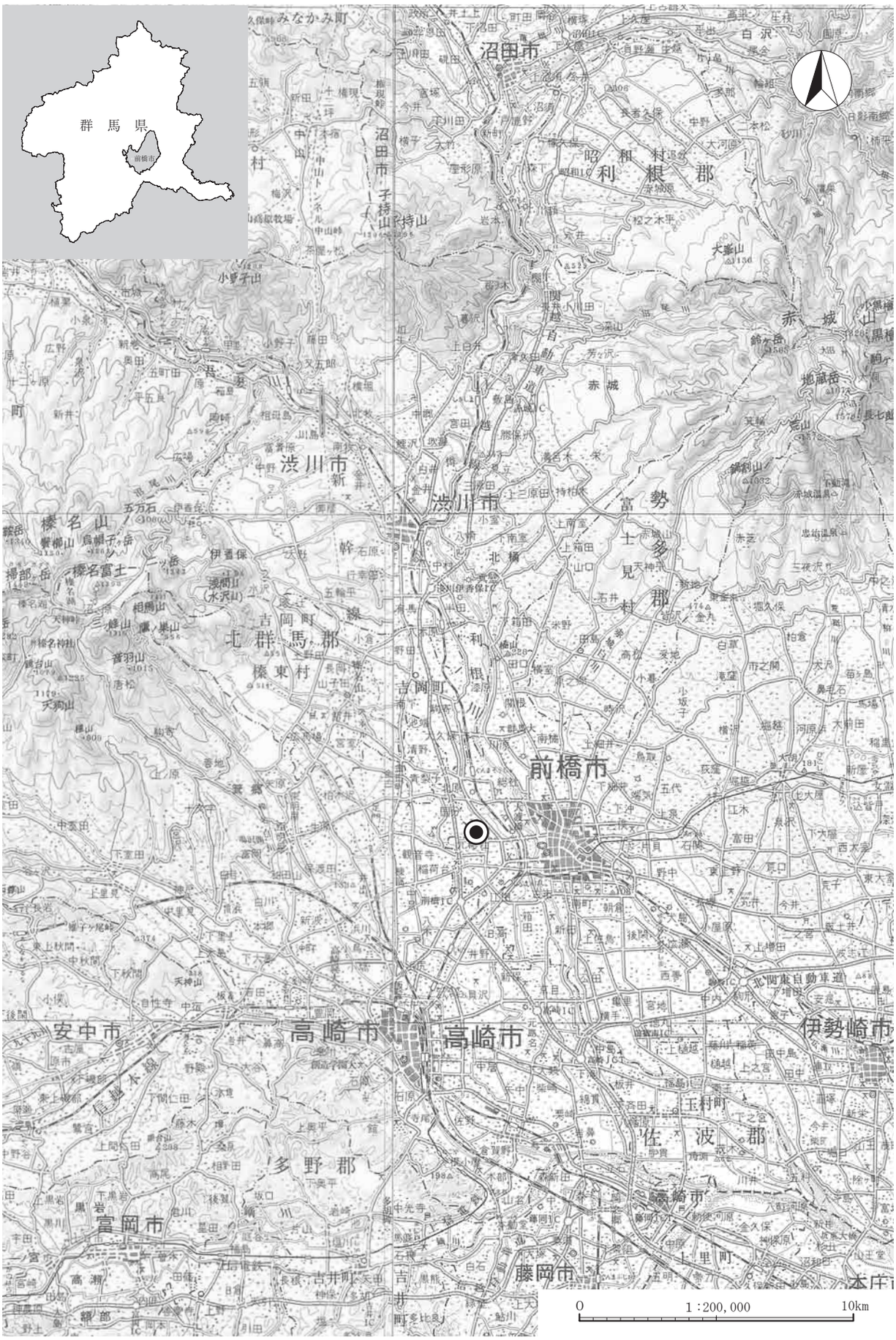

群馬県
前橋市
沼田市
昭和村
利根郡
赤城
渋川市
富士見村
多野郡
吉岡町
榛東村
北群馬郡
前橋市
高崎市
安中市
伊勢崎市
玉村町
佐波郡
富岡市
藤岡市
上里町
北関東自動車道
0
1:200,000
10km

Fig. 2　遺跡の位置

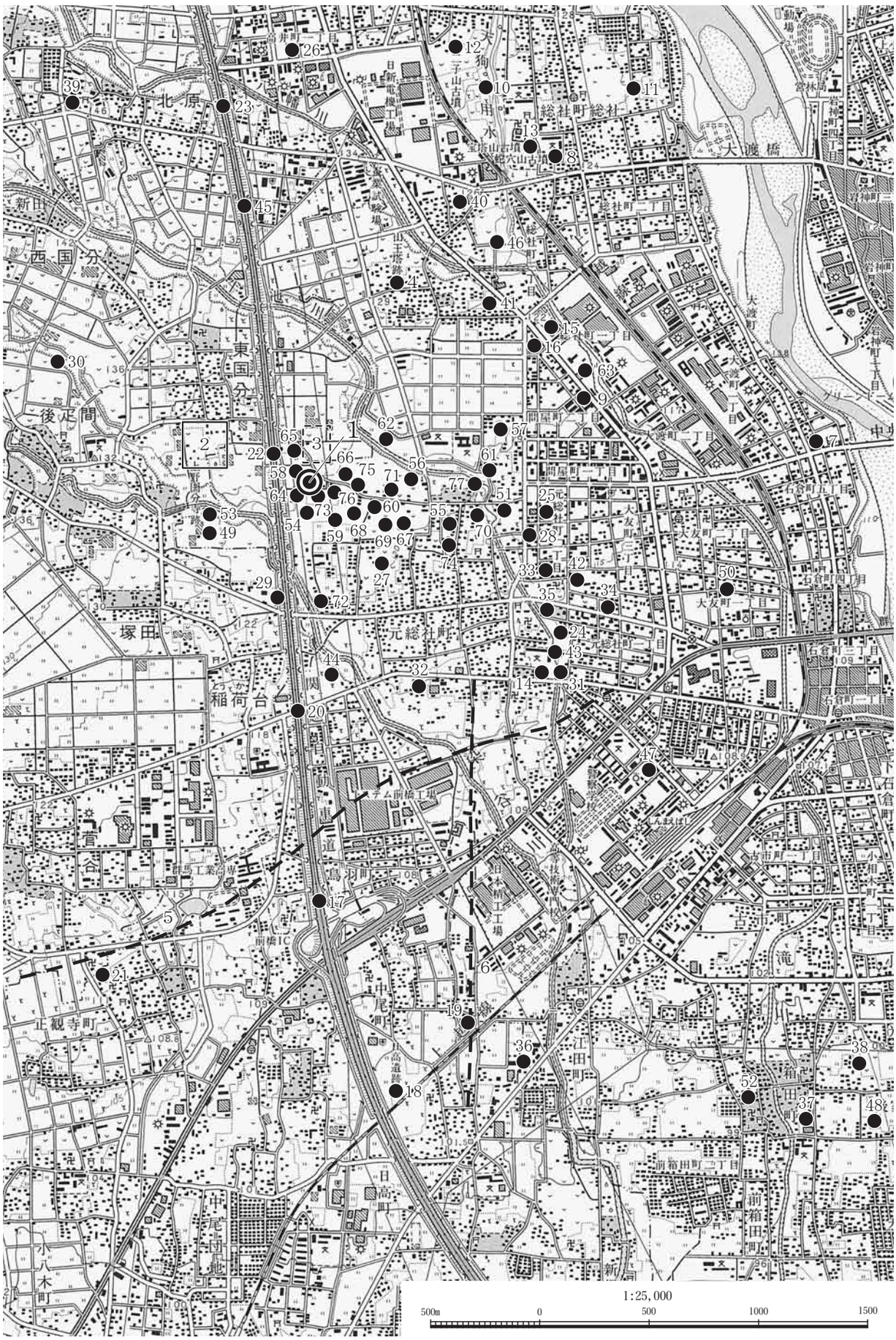


Fig. 3　周辺遺跡図

2　歴史的環境

本遺跡が立地する元総社地域には上野国府推定地や上野国分寺を中心に連綿と遺跡が広がる地域である。周辺では関越自動車道建設や区画整理事業等に伴う発掘調査が行われており、多くの遺構・遺物が確認されている。本遺跡周辺地域における時代ごとの遺跡の概要は以下の通りである。

該期の遺跡は八幡川右岸の微高地上に産業道路東（15）•産業道路西（16）•総社閑泉明神北Ⅲ遺跡（61）、本遺跡の立地する牛池川右岸に上野国分僧寺・尼寺中間地域（22）・元総社小見Ⅲ遺跡（59）などが挙げられる。

弥生時代の遺跡としては日高遺跡（18・19）、上野国分僧寺・尼寺中間地域・正観寺遺跡（21）等があるが、その分布は散漫である。

古墳時代になると、本遺跡周辺の区域は県内でも中心的な地域であったことが窺われる。それを示すものとして総社古墳群が挙げられ、古墳時代後期・終末期に至り、王山古墳（7）・二子山古墳（12）・愛宕山古墳（10）・宝塔山古墳（13）・蛇穴山古墳（8）等の首長墓が多数築造された。

奈良・平安時代に至ると、本遺跡周辺は上野国府・国分寺（2）・国分尼寺（3）・山王廃寺（4）の建設に示されるように、古代の政治・経済・文化の中心地として再編成される。

上野国府は本遺跡の南東の区域におよそ900m四方に推定され、関連遺跡として元総社小学校校庭遺跡（14）・元総社寺田遺跡（43）•元総社宅地遺跡（55）などがある。また元総社明神遺跡（24）では南北方向の溝跡、閑泉樋遺跡（25）では東西方向の大溝が確認され、国府域の東外郭線が想定された。

国分寺は昭和55年遺構の調査により、主要伽藍の礎石、築垣、堀等が確認されている。国分尼寺は昭和44・45年のトレンチ調査により伽藍配置が推定され、その後平成12年の前橋市埋蔵文化財発掘調査事業団の確認調査により、東南隅と西南隅の築垣、それと平行する溝跡や道路状遺構が確認された。関連遺跡として中尾遺跡(17)・鳥羽遺跡（20）・上野国分僧寺・尼寺中間地域などが挙げられる。

山王廃寺は昭和３年に日枝神社境内が「山王塔址」として国指定史跡となり、その後昭和49～56年にかけて７次にわたる本格的な発掘調査が行われた。この調査で金堂の検出、および「放光寺」篦書の平瓦出土により山王廃寺が「山ノ上碑」「上野交替実録帳」にみられる「放光寺」であることが有力視されるようになった。また平成９～11年の調査でも土坑から大量の塑像が出土し、平成18・19年の調査では北・東・西面の回廊を検出している。

また本遺跡の南約1.5kmにはＮ－64°－Ｅ方向に東山道（国府ルート）が、日高遺跡（19）では幅約4.5mの推定日高道が国府方向へ延びると推定されている。これらは当時の交通網を物語る重要な遺構である。

室町時代になると、上野国守護の上杉氏から上野国守護代に任命された長尾氏が永享元年（1429）に蒼海城を築き、これを本拠地とした。蒼海城は県内でも最古級の城郭に位置づけられ、縄張りは国府の堀割と関係深いと考えられている。本遺跡周辺には屋敷に堀を巡らせた城館跡が数多く認められる。

Tab.１　元総社蒼海遺跡群周辺遺跡概要一覧表

番号	遺　跡　名	調査年度	時代：主な遺構・出土遺物
1	元総社蒼海遺跡群（22）	2009	本遺跡
2	上野国分寺跡（県教委）	1980～88	奈良：金堂基壇・塔基壇
3	上野国分尼寺跡	(1999)	奈良：西南隅・東南隅築垣
4	山王廃寺跡	(1974)	古墳：塔心礎・根巻石・金堂基壇・講堂版築・回廊礎石
5	東山道（推定）	—	
6	日高道（推定）	—	
7	王山古墳	1972	古墳：前方後円墳（６Ｃ中）
8	蛇穴山古墳	1975	古墳：方墳（８Ｃ初）
9	稲荷山古墳	1988	古墳：円墳（６Ｃ後半）
10	愛宕山古墳	1996	古墳：円墳（７Ｃ初）
11	遠見山古墳	未調査	古墳：前方後円墳（５Ｃ後半）
12	総社二子山古墳	未調査	古墳：前方後円墳（６Ｃ末～７Ｃ初）
13	宝塔山古墳	未調査	古墳：方墳（７Ｃ末）
14	元総社小学校校庭遺跡	1962	平安：掘立柱建物跡・柱穴群・周濠跡
15	産業道路東遺跡	1966	縄文：住居跡
16	産業道路西遺跡		縄文：住居跡
17	中尾遺跡（事業団）	1976	奈良・平安：住居跡

番号	遺　跡　名	調査年度	時代：主な遺構・出土遺物
18	日高遺跡（事業団）	1977	弥生：水田跡・方形周溝墓・住居跡・木製農具、平安：条里制水田跡
19	日高遺跡（高崎市）	(1978)	弥生：水田跡
20	鳥羽遺跡（事業団）	1978～83	古墳：住居跡・鍛冶場跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡（神殿跡）
21	正観寺遺跡Ⅰ～Ⅳ（高崎市）	1979～81	弥生：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
22	上野国分僧寺・尼寺中間地域（事業団）	1980～83	縄文：住居跡・配石遺構、弥生：住居跡・方形周溝墓、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：掘立柱建物跡・溝状遺構・道路状遺構
23	北原遺跡（群馬町）	1982	縄文：土坑・集石遺構、古墳：水田跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡
24	元総社明神遺跡Ⅰ～Ⅲ	1982～96	古墳：住居跡・水田跡・堀跡、奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：住居跡・溝跡
25	閑泉樋遺跡	1983	奈良・平安：溝跡
26	柿木遺跡・Ⅱ遺跡	1983、88	奈良・平安：住居跡・溝跡
27	草作遺跡	1984	古墳：住居跡、平安：住居跡、中世：井戸跡
28	閑泉樋南遺跡	1985	古墳：住居跡、奈良・平安：溝跡
29	塚田村東遺跡（群馬町）	1985	平安：住居跡
30	後疋間遺跡Ⅰ～Ⅲ（群馬町）	1985～87	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：道路状遺構
31	寺田遺跡	1986	平安：溝跡
32	天神遺跡・Ⅱ遺跡	1986、88	奈良・平安：住居跡
33	屋敷遺跡・Ⅱ遺跡	1986、95	古墳：住居跡、平安：住居跡、中世：堀跡・石敷遺構
34	堰越遺跡	1987	奈良・平安：住居跡・溝跡
35	大友屋敷Ⅱ・Ⅲ遺跡	1987	古墳：住居跡、平安：住居跡・溝跡・地下式土坑
36	勝呂遺跡	1987	平安：水田跡
37	村前遺跡	1987	平安：溝状遺構・水田跡
38	五反田遺跡	1987	平安：水田跡
39	熊野谷遺跡	1988	縄文：住居跡、平安：住居跡・溝跡
40	村東遺跡	1988	古墳：住居跡・溝跡、奈良・平安：住居跡、中世：堀跡
41	昌楽寺廻向遺跡・Ⅱ遺跡	1988	奈良・平安：住居跡
42	堰越Ⅱ遺跡	1988	平安：住居跡
43	元総社寺田遺跡Ⅰ～Ⅲ（事業団）	1988～91	古墳：水田跡・溝跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
44	熊野谷Ⅱ・Ⅲ遺跡	1989	平安：住居跡
45	弥勒遺跡・Ⅱ遺跡	1989、95	古墳：住居跡、平安：住居跡
46	国分境遺跡（事業団）	1990	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
47	国分境Ⅱ遺跡	1991	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
48	国分境Ⅲ遺跡（群馬町）	1991	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・畠跡、中世：土壙墓
49	大屋敷遺跡Ⅰ～Ⅵ	1992～2000	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：掘立柱建物跡・地下式土坑・溝跡
50	元総社稲葉遺跡	1993	縄文：土坑、平安：住居跡・瓦塔
51	五反田Ⅱ遺跡	1995	平安：水田跡
52	上野国分寺参道遺跡	1996	古墳：住居跡、平安：住居跡
53	大友宅地添遺跡	1998	平安：水田跡
54	総社閑泉明神北遺跡	1999	古墳：畠跡・水田跡・溝跡、中世：溝跡
55	箱田川西遺跡	1999	古墳：溝状遺構、平安：水田跡
56	元総社西川遺跡（事業団）	2000	古墳：住居跡・畠跡、奈良・平安：住居跡・溝跡
57	元総社小見遺跡	2000	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡・道路状遺構
58	元総社宅地遺跡１～23トレンチ	2000	古墳：住居跡、平安：住居跡・掘立柱建物跡・鍛冶場跡・溝跡・道路状遺構、中世：溝跡、近世：住居跡
59	元総社小見内Ⅲ遺跡	2001	古墳：住居跡・溝跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡、中世：掘立柱建物跡・溝跡
60	総社甲稲荷塚大道西遺跡	2001	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：畠跡、近世：溝跡
61	総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡	2001	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡、近世：溝跡
62	総社閑泉明神北Ⅱ遺跡	2001	古墳：住居跡・溝跡、平安：住居跡・溝跡
63	元総社小見Ⅱ遺跡	2002	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：溝跡・道路状遺構
64	元総社小見Ⅲ遺跡	2002	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：溝跡・道路状遺構
65	元総社草作Ⅴ遺跡	2002	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
66	元総社小見内Ⅳ遺跡	2002	奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡、中世：土壙墓
67	総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡	2002	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・畠跡・溝跡
68	総社閑泉明神北Ⅲ遺跡	2002	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
69	元総社北川遺跡（事業団）	2002～04	古墳：水田跡、奈良・平安：住居跡・畠跡、中・近世：掘立柱建物跡・水田跡・火葬墓
70	稲荷塚道東遺跡（事業団）	2003	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡・竈構築材採掘痕・井戸跡
71	元総社小見Ⅳ遺跡	2003	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
72	元総社小見Ⅴ遺跡	2003	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：掘立柱建物跡
73	総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡	2003	古墳：畠跡、中世：畠跡
74	元総社小見内Ⅵ遺跡	2003	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：井戸跡
75	元総社小見内Ⅶ遺跡	2003	縄文：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：畠跡・溝跡
76	元総社小見内Ⅷ遺跡	2003	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：竪穴状遺構
77	元総社小見Ⅵ遺跡	2004	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
78	元総社小見Ⅶ遺跡	2004	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
79	元総社小見Ⅸ遺跡	2004	奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
80	元総社小見内Ⅸ遺跡	2004	奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
81	元総社小見内Ⅹ遺跡	2004	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・工房跡・粘土採掘坑、中世：溝跡・土壙墓
82	元総社蒼海遺跡群（２）、（６）	2004	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・井戸跡・鍛冶工房跡、中世：溝跡
83	総社閑泉明神北Ⅴ遺跡	2004	古墳：水田跡、奈良・平安：住居跡
84	元総社蒼海遺跡群（１）	2005	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：溝跡・土壙墓
85	元総社蒼海遺跡群（４）	2005	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
86	元総社蒼海遺跡群（５）	2005	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：周溝状遺構・土壙墓
87	元総社蒼海遺跡群（７）	2005	奈良・平安：住居跡・溝跡
88	元総社蒼海遺跡群（８）	2006	奈良・平安：住居跡
89	元総社蒼海遺跡群（９）・(10)	2006	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡
90	元総社蒼海遺跡群（11）	2006	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
91	元総社蒼海遺跡群（12）	2006	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：井戸跡
91	元総社蒼海遺跡群（13）	2008	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・工房跡・溝跡、中世：溝跡・土壙墓
92	元総社蒼海遺跡群（14）	2008	古墳：住居跡・水田跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：溝跡・竪穴状遺構・井戸跡
93	元総社蒼海遺跡群（15）	2008	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：溝跡
94	元総社蒼海遺跡群（16）	2008	奈良・平安：住居跡・畠跡、中世：溝跡
95	元総社蒼海遺跡群（18）	2008	平安：住居跡
96	元総社蒼海遺跡群（19）	2008	古墳：小区画水田跡、中世：井戸跡

Ⅲ　調査方針と経過

1　調査方針

委託調査箇所は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業の道路予定地で、調査面積は８区約991㎡、10区約276㎡、33区約95㎡の、計約1,362㎡である。グリッド座標については平成12年の上野国国分尼寺寺域確認調査から用いている４ｍピッチのものを継続して使用した。すなわち、西から東へ８区ではＸ―61、Ｘ―62、…、10区ではＸ―95、Ｘ―96、…、33区ではＸ―141、Ｘ―115、…、北から南へ８区ではＹ―243、Ｙ―244、…、10区ではＹ―74、Ｙ―75、…、33区ではＹ―82、Ｙ―83、…、であり、グリッド名は北西杭の名称である。

公共座標については、以下の通りである。

・元総社蒼海遺跡群（22）

	測点	旧日本測地系		世界測地系	
８区	Ｘ65・Ｙ248	Ｘ＝＋43008.000	Ｙ＝－71940.000	Ｘ＝＋43362.000	Ｙ＝－72231.000
10区	Ｘ100・Ｙ76	Ｘ＝＋43696.000	Ｙ＝－71800.000	Ｘ＝＋44050.903	Ｙ＝－72091.754
33区	Ｘ144・Ｙ84	Ｘ＝＋43664.000	Ｙ＝－71624.000	Ｘ＝＋44018.902	Ｙ＝－71915.756

検出が予想される主な遺構は古墳時代～平安時代の住居跡、土坑　中世の溝跡等であり、調査は、①表土掘削（バックフォー0.7乃至0.45㎡使用）、②遺構確認、③方眼杭等設置の順で行うこととした。遺構確認については、As-B 軽石と As-C・Hr-FP 軽石が混入する土層を手がかりとした。図面作成は、トータルステーションによる測量を主として使用し、平板測量・遣り方測量を併用することにした。遺構図は原則として１／20、竈は１／10の縮尺である。遺物については、平面分布図を作成し、台帳に記録して収納した。包含層遺物は、原則的にグリッド単位で採取し、台帳に記載して収納した。

2　調査経過

本遺跡の発掘調査は、平成20年10月７日より現地調査を開始した。重機による表土掘削は10月７日～10月10日にかけて行った。８区では工事及び排土場の関係から、東半部調査を先行し、排土は西半部へ、西半部も南半と北半とのうって返しの調査となった。10区でも作物や伐採の関係から、西半部を先行して調査することになった。表土掘削後、人力による遺構確認、一部遺構の掘り下げを開始した。10月15日に８区東半、10区西半、33区の BM 杭とグリッド杭の打設を行い、遺構掘り下げ、遺構精査を継続。８区では竪穴住居跡・溝跡・土坑・道路状遺構などが確認されたが、プランの判然としない部分にはサブトレンチを設定して、遺構確認を進めた。10区西半では As-B を含む溝が多く、竪穴住居跡はこの下に確認されるため、溝群の調査と測量を先行させた。33区では遺構確認後は10区西半の調査を先行させたため、11月11日に至ってようやく本格的に調査を開始した。11月12日に高所作業車による８区東半、10区西半の全景撮影。11月15・17～19日に10区西半と８区東半の埋め戻し及び８区西半南の表土掘削、21日に10区東半の表土掘削。12月12日、８区西半南と33区の全景撮影。12月17・18日両日で33区、８区西半南の埋め戻しと８区西半北の表土掘削を開始。遺構確認後は、埋め戻し部分で下水道工事が始まるため年明けまで調査を中断することにした。12月22日に10区東半の全景撮影、26日に埋め戻しを行い、本年の調査を終了させた。１月６日より８区西半北の調査開始。すでに遺構確認は終了していたので、ただちに遺構掘り下げ・精査開始。14日に BM 杭・グリッド杭打設。２月５日に全景撮影、６日には全調査終了、９日に埋め戻しを行った。

整理・報告書作成作業は、２月10日より本格的に開始した。すでに遺物洗浄・注記・接合・復元及び実測図作成作業の大半は終えており、以後、写真撮影と収納、遺構の図面修正・写真整理、報告書の図版作成・原稿執筆・編集作業等を行い、平成21年３月６日までにすべての作業を終えた。

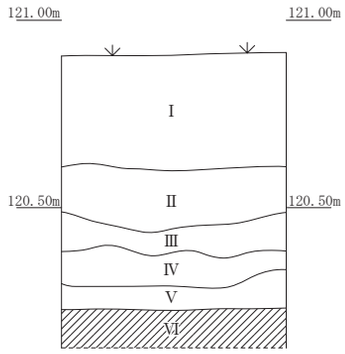
Ⅳ　基本層序

８区では、土層の遺存は悪く、表土下50（南側）～80cm（北側）で地山の硬質砂質層になる。遺構確認面はⅡ層下位～Ⅲ層上面である。Ⅰ層は整地面。10区との対応では、区Ⅱ・Ⅳ層が10区Ⅳ・Ⅹ層に対応する。

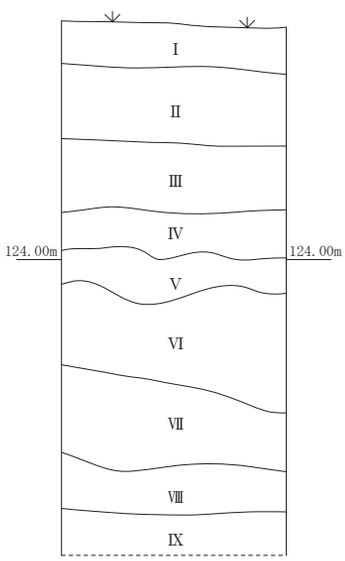
10区では、土層の遺存は比較的良好であるが、Ⅴ層のいわゆる「Ｃ黒」は間欠的な分布である。縄文～弥生の包含層と思われるⅦ層黒色土も西半部では見られない。遺構確認面はⅣ層下位面である。

33区のⅠ～Ⅴ層は10区Ⅰ～Ⅴ層に対応する。縄文～弥生の包含層は見られない。遺構確認面はⅣ層下位～Ⅴ層下位面である。

８区基本層序



10区基本層序



８区基本層序
Ⅰ　表土層
Ⅱ　10YR2/2　黒褐色土　△△　C混の暗褐色土、As-C2%
Ⅲ　10YR4/1　褐灰色土　△△　漸移層
Ⅳ　10YR4/2　灰黄褐色土　△○　灰黄色土
Ⅴ　10YR4/6　褐色土　△×　橙褐色土層
Ⅵ　10YR7/6　明黄褐色土　硬質砂質土層（総社砂層？）

10区基本層序
Ⅰ　10YR3/2　黒褐色土　耕作土
Ⅱ　10YR3/2　黒褐色土　×△　B混土、砂質
Ⅲ　10YR3/2　黒褐色土　××　B混土、As-C微量
Ⅳ　10YR3/3　暗褐色土　△△　C混の暗褐色土
Ⅴ　10YR3/1　黒褐色土　△△　C混の黒色土
Ⅵ　10YR3/4　暗褐色土　△△　黄褐色土粒多
Ⅶ　10YR2/2　黒褐色土　○△　黒色土、黄褐色土粒少量
Ⅷ　10YR4/4　褐色土　○△　漸移層
Ⅸ　10YR5/6　黄褐色土　△△　黄褐色土層
Ⅹ　10YR7/6　明黄褐色土　△◎　硬質砂質土層（地山）

33区基本層序
Ⅰ　10YR3/2　暗褐色土　×△　表土。As-B、As-C混入
Ⅱ　10YR2/3　黒褐色土　×○　As-B、As-C混
Ⅲ　10YR2/2　黒褐色土　○○　As-B、As-C混
Ⅳ　10YR2/2　黒褐色土　○○　As-C主体、Hr-FP混（C茶）
Ⅴ　10YR2/2　黒褐色土　○○　As-C主体（C黒）
Ⅵ　10YR2/3　黒褐色土　○△　白色粒1%
Ⅶ　10YR4/4　褐色土　△◎　砂質凝灰岩質ブロック含む
Ⅷ　地山

33区基本層序

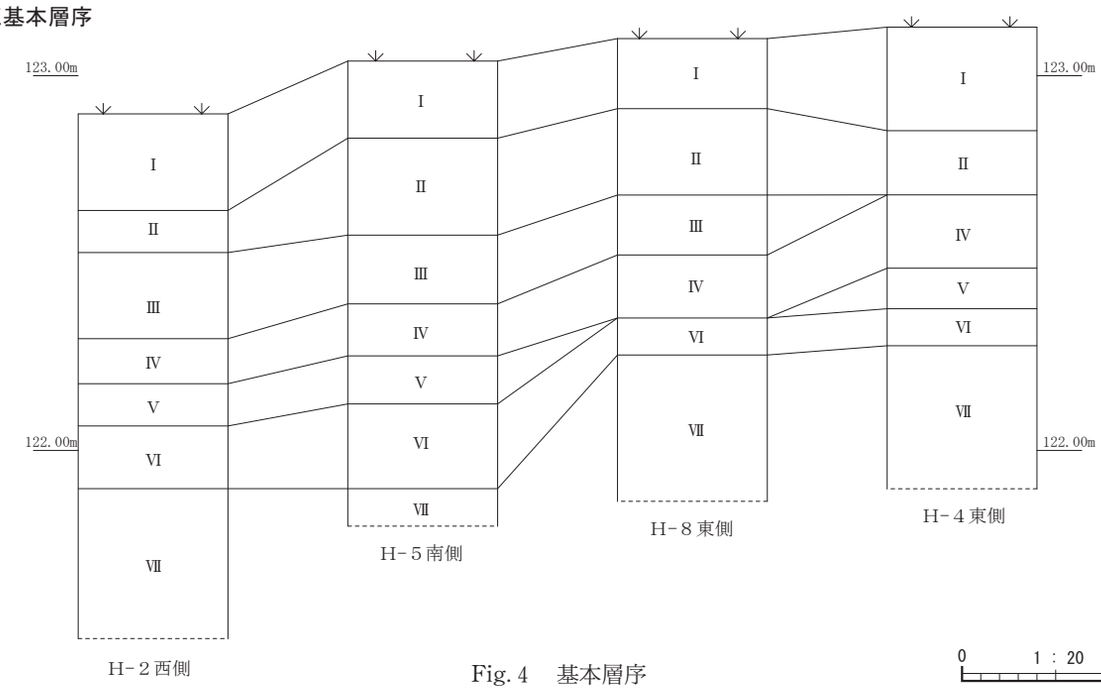


Fig. 4　基本層序

0　1：20　50cm

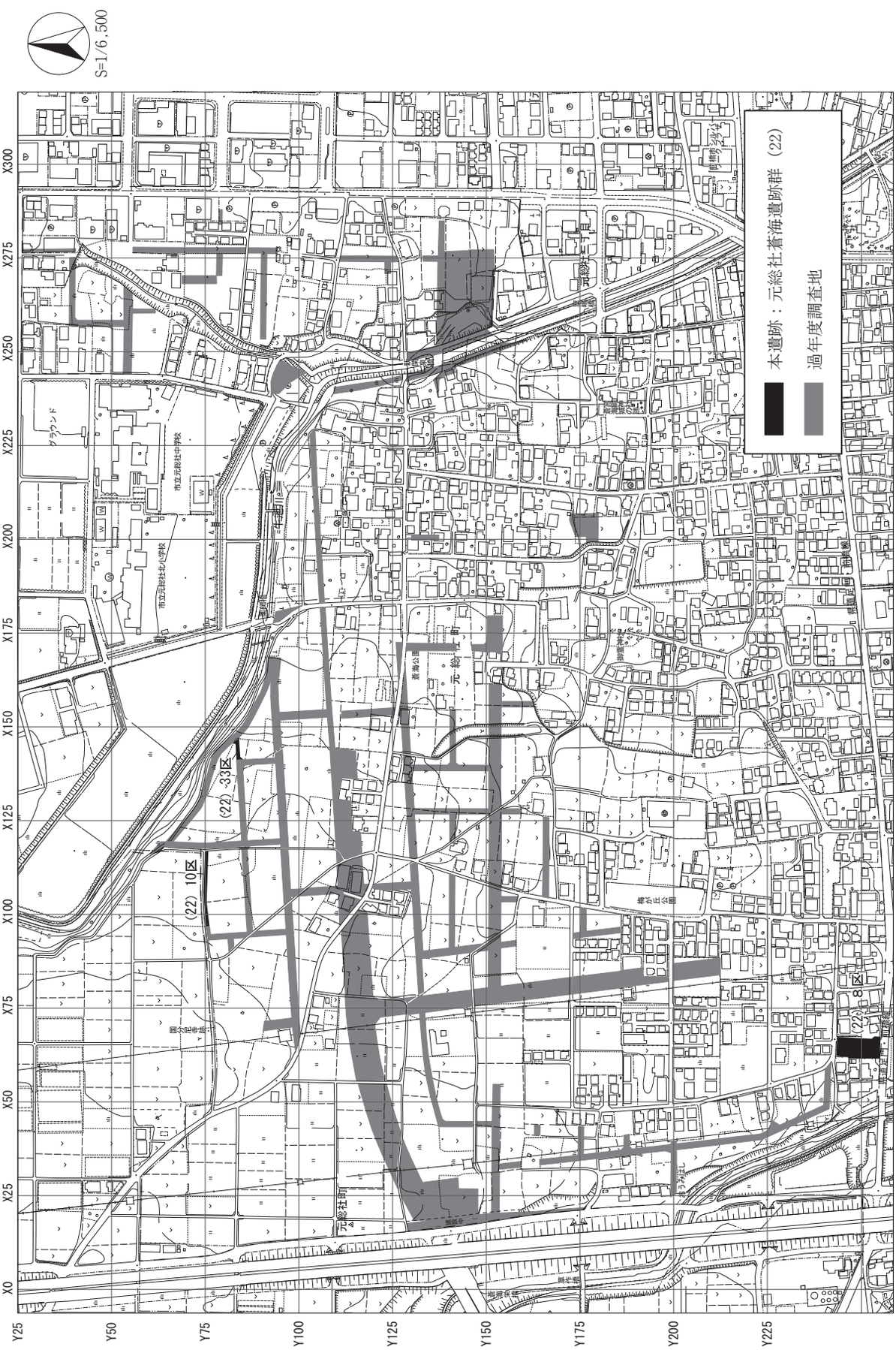


Fig. 5　元総社蒼海遺跡群位置図とグリッド設定図

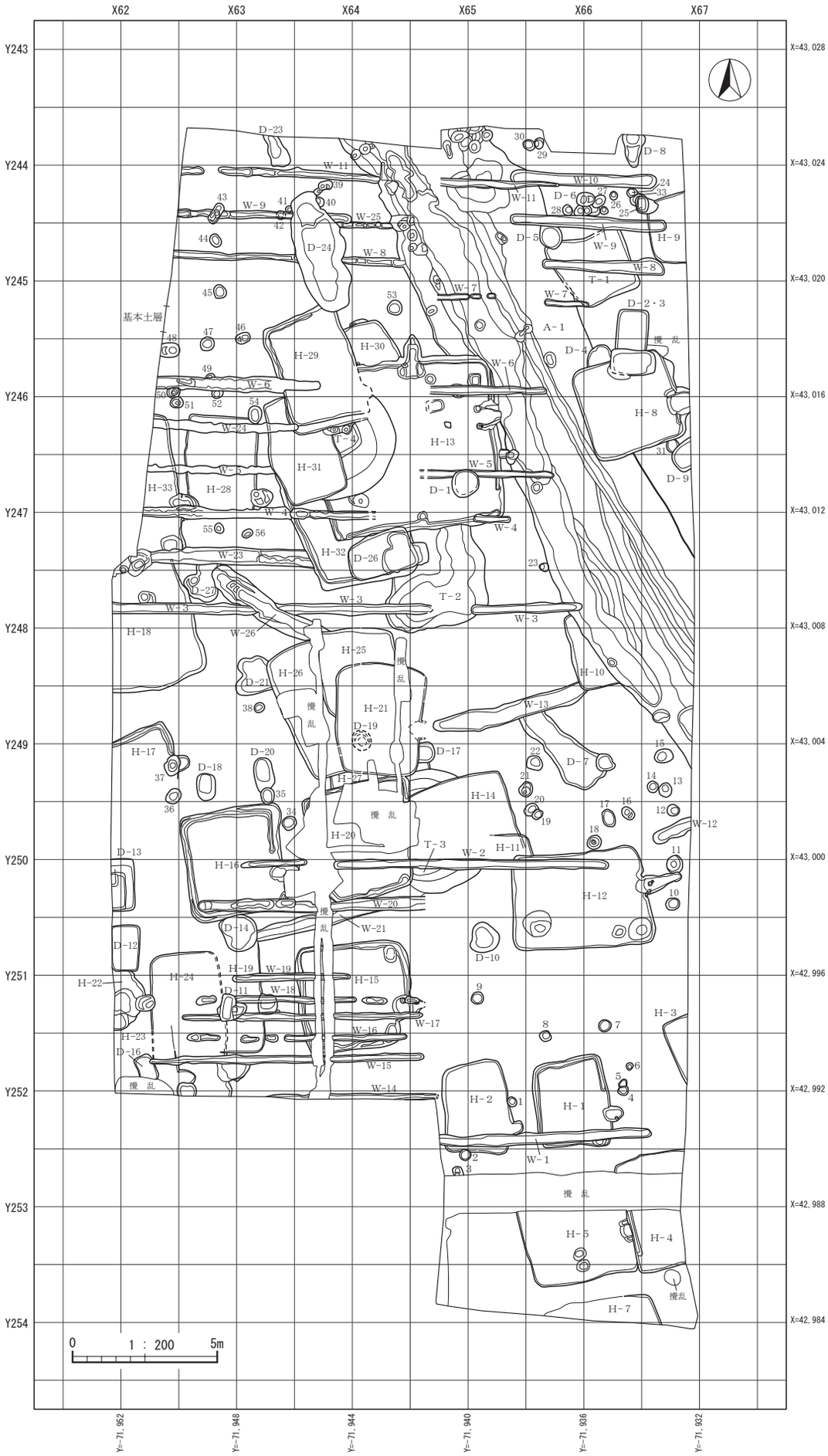

X62
X63
X64
X65
X66
X67
Y243
Y244
Y245
Y246
Y247
Y248
Y249
Y250
Y251
Y252
Y253
Y254
X=43,028
X=43,024
X=43,020
X=43,016
X=43,012
X=43,008
X=43,004
X=43,000
X=42,996
X=42,992
X=42,988
X=42,984
Y=-71,952
Y=-71,948
Y=-71,944
Y=-71,940
Y=-71,936
Y=-71,932
基本土層
撹乱
0
1 : 200
5m

Fig. 6　8区全体図

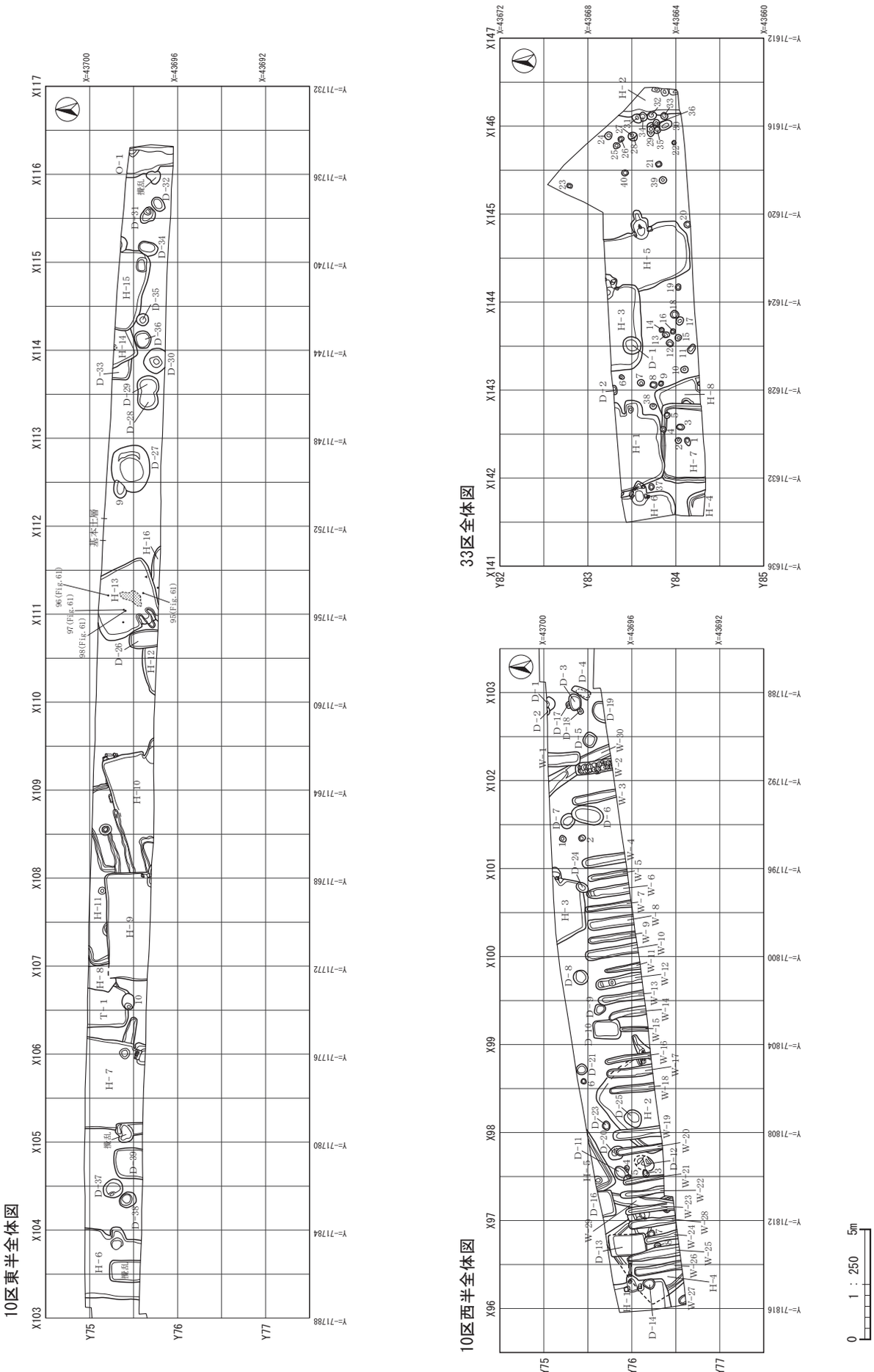


Fig. 7　10区・33区全体図

Ⅴ　８区の遺構と遺物

竪穴住居跡32軒、竪穴状遺構４基、土坑27基、溝25条、ピット55口、道路状遺構１条が検出されている。古墳時代後期～中近世までの遺構群で、主体は古墳時代後期～平安時代の遺構である。遺物もこの期のものが多く、縄文～古墳前期、中近世の遺物はわずかである。なお、Ｈ－６号住居跡は倒木痕のため欠番とした。

１　竪穴住居跡

Ｈ－１号住居跡（Fig.９・31、Tab.５、PL.１）

位置　Ｘ65・66、Ｙ251・252　**主軸方位**　Ｎ－87°－Ｅ　**遺存・重複**　Ｗ－１に南側を切られる以外、遺存は比較的良好。　**形状・規模**　東竈の方形。南北軸長3.21m、東西軸長2.60m、最大壁高13㎝。　**掘り方・床面**　掘り方は坑状の掘り込みが２カ所。貼り床。硬化面は、竈前面から西側と、東壁北側に伸びる。床面積約6.4㎡。　**施設**　竈、貯蔵穴、周溝。竈は東壁南寄りを幅1.1m、奥行き0.84mの楕円形状に掘り込んで構築される。床面への掘り込みは浅く、煙道部に向かってゆるやかな登り勾配となる。P_1は貯蔵穴と思われる。周溝は竈脇で途切れる。南壁下ではＷ－１に切られたか。　**遺物**　床面№遺物は２点（2）。埋土一括片58点、灰釉、須恵器坏・高台坏・甕、土師器坏・甕、内黒、羽釜など。竈一括片29点、須恵器坏（1）・高台坏、羽釜。貯蔵穴一括片３点、須恵器坏、羽釜など。掘り方一括片13点、須恵器坏・高台坏、土師器坏・甕、羽釜など。　**備考**　10ｃ前半

Ｈ－２号住居跡（Fig.９・31、Tab.５、PL.１・18）

位置　Ｘ64・65、Ｙ251・252　**主軸方位**　Ｎ－87°－Ｅ　**遺存・重複**　Ｗ－１に南側を切られる。Ｐ－１・２と重複（新旧不明）　**形状・規模**　南北長軸の長方形。南北軸長3.34m、東西軸長2.37m、最大壁高11㎝。　**掘り方・床面**　掘り方は坑状の掘り込み。貼り床。硬化面は住居中央部に広がる。床面積約7.9㎡。　**施設**　竈は東壁南寄りを幅0.9m、奥行き0.55mの楕円形状に掘り込む。燃焼部の床面への掘り込みはほとんどない。　**遺物**　床面№遺物18点（３～７）。埋土一括片72点、須恵器坏（いわゆるロクロ坏含む）・高台坏・甕、土師器坏・甕、羽釜など。竈一括片23点、須恵器坏・高台坏、土師器坏、羽釜。竈掘り方一括片８点、須恵器坏・高台坏、羽釜。　**備考**　10ｃ前半

Ｈ－３号住居跡（Fig.10、PL.１）

位置　Ｘ66、Ｙ251　**主軸方位**　東竈としてＮ－68°－Ｅ　**遺存・重複**　東側過半は調査区外　**形状・規模**　北壁現長0.97m、西壁現長2.25m、最大壁高は調査区壁面土層から約35㎝。　**掘り方・床面**　直床。特に硬化面はない。**施設**　未確認　**遺物**　小細片のみで11点、須恵器坏・甕、土師器甕、鉄滓。　**備考**　時期不明。平安時代か。

Ｈ－４号住居跡（Fig.10・31、Tab.５、PL.１）

位置　Ｘ66、Ｙ253　**主軸方位**　東竈としてＮ－77°－Ｅ　**遺存・重複**　Ｈ－５を切る。撹乱溝で北側床面を断ち切られる。東側は調査区外。　**形状・規模**　南北に長軸をもつ長方形か。北壁現長2.5m、西壁長4.0m、最大壁高18㎝。　**掘り方・床面**　掘り方は西壁から北壁際を幅広の溝状に掘り込む。床下土坑１基。貼り床。南寄りに床硬化面。　**施設**　床硬化面には竈の廃材と思われる礫群が散在しており、竈の前面にあたる部分と思われる。西壁下に周溝が巡る。　**遺物**　床面№遺物２点、須恵器高台坏・甕片。埋土一括片35点、灰釉、須恵器坏・高台坏（8）、甕、土師器坏・甕・台付甕（9）。　**備考**　９ｃ後半～10ｃ

Ｈ－５号住居跡（Fig.11・31、Tab.５、PL.１・18）

位置　Ｘ65・66、Ｙ253　**主軸方位**　Ｎ－83°－Ｅ　**遺存・重複**　Ｈ－４に竈、撹乱溝に北壁を切られる。　**形状・規模**　東竈の方形。西壁現長2.62m、南壁長3.43m、最大壁高９㎝。　**掘り方・床面**　掘り方には溝状やピット状の掘り込みがあり、竈前面は一段深く掘り込む。貼り床。床硬化面は竈前面から西に向かって伸びる。　**施設**　竈、ピット。竈は東壁を幅約0.39m掘り込んで構築される。煙道部はＨ－４に切られる。燃焼部は深さ10㎝のしっ

かりした掘り込み。P_1（－17㎝）、P_2（－10㎝）は住居に伴うかどうか不明。　**遺物**　床面№遺物１点（10）。埋土一括片10点、須恵器坏、土師器坏・甕。　**備考**　７ｃ後半

Ｈ－７号住居跡（Fig.10・31、Tab.５、PL.１・18）

位置　Ｘ65・66、Ｙ253　**主軸方位**　東竈としてＮ－83°－Ｅ　**遺存・重複**　南側大半が調査区外。　**形状・規模**　北壁長3.72m、東壁現長1.17m、最大壁高は調査区壁面土層から約26㎝。　**掘り方・床面**　掘り方深度は浅く、部分的に直床。特に硬化面はない。　**施設**　未検出　**遺物**　埋土一括片６点、灰釉(11)、須恵器坏・甕、土師器坏。掘り方一括片６点、灰釉、須恵器坏、土師器甕。　**備考**　９ｃ中葉

Ｈ－８号住居跡（Fig.12・31、Tab.５、PL.１・18）

位置　Ｘ66、Ｙ245・246　**主軸方位**　Ｎ－75°－Ｅ　**遺存・重複**　Ｄ－２～４と重複。Ａ－１に西側壁上部が切られる。竈煙道部は調査区外。　**形状・規模**　東竈の方形。南北軸長3.35m、東西軸長3.30m、最大壁高34㎝。　**掘り方・床面**　壁際は溝状に、竈前面から南東コーナー付近はやや広めに掘り込む。貼り床。特に硬化面はない。　**施設**　竈、ピット。竈は東壁を幅0.8m掘り込む。袖部が遺存する。燃焼部の掘り込みはほとんどない。P_1は深さ８㎝。　**遺物**　床面№遺物は１点(12)。埋土一括片73点、須恵器坏・盤・甕、土師器坏・甕など。　**備考**　８ｃ代

Ｈ－９号住居跡（Fig.10、PL.２）

位置　Ｘ66、Ｙ244　**主軸方位**　東竈としてＮ－84°－Ｅ　**遺存・重複**　Ｗ－９に西壁を切られる。Ｐ－25と重複。東側過半は調査区外。　**形状・規模**　北壁復元長約1.43m、西壁復元長約2.14m、南壁現長1.06m、最大壁高は調査区壁面土層から約47㎝。　**施設**　未検出　**遺物**　土師器坏片６点、有稜の模倣坏片である。　**備考**　時期不明。古墳時代後期か。

Ｈ－10号住居跡（Fig.11・31、Tab.５、PL.２）

位置　Ｘ65・66、Ｙ248　**主軸方位**　東竈としてＮ－78°－Ｅ　**遺存・重複**　Ａ－１に東側過半が切られる。Ｗ－13と重複。　**形状・規模**　北壁現長0.23m、西壁長2.55m、南壁現長1.32m、最大壁高11㎝。　**掘り方・床面**　ほぼ直床。特に硬化面はない。　**施設**　未検出　**遺物**　床面№遺物１点（13）。埋土一括片29点、須恵器蓋・坏・高台坏（14）・甕、土師器坏・甕、その他瓦片１点。　**備考**　９ｃ後半～10ｃ

Ｈ－11号住居跡（Fig.11・31、Tab.５、PL.２・18）

位置　Ｘ65、Ｙ249・250　**主軸方位**　Ｎ－89°－Ｅ　**遺存・規模**　Ｈ－12・14、Ｔ－３の埋土中に構築されている。Ｗ－２に切られる。サブトレンチのため竈南側損壊。　**形状・規模**　東竈の方形か。北壁現長1.10m、東壁北側現長1.70m、最大壁高６㎝。　**掘り方・床面**　掘り方は浅い。貼り床。竈前面から中央部に硬化面が伸びる。　**施設**　竈は東壁を奥行き0.6m掘り込んで構築される。燃焼部は皿状。　**遺物**　床面№遺物は４点、須恵器皿(15)・甕、こも石。埋土一括片59点、灰釉、須恵器蓋・坏・高台坏・甕、土師器坏・甕、羽釜、その他瓦片３点、鉄釘片１点。竈から須恵器高台坏（16）、掘り方内一括片25点、須恵器蓋・盤・坏・甕、土師器坏・甕。　**備考**　９ｃ後半

Ｈ－12号住居跡（Fig.12・32、Tab.５、PL.２・18）

位置　Ｘ65・66、Ｙ250　**主軸方位**　Ｎ－87°－Ｅ　**遺存・重複**　Ｈ－11、Ｗ－２に切られる。　**形状・規模**　東竈で、東西長軸の長方形。東西軸長4.92m、南北軸長3.47m、最大壁高21㎝。　**掘り方・床面**　掘り方は西壁際が深めに掘り込まれる。床下土坑２基。床下土坑１は埋め戻された貯蔵穴であろうか。貼り床、部分的に直床。硬化面は壁周辺を除き、広く伸びる。　**施設**　竈は東壁やや北寄りを幅0.63m、奥行き1.27mの長楕円形に掘り込み、煙道部壁はほぼ垂直に立ち上がる。燃焼部は皿状。袖部がわずかに遺存する。床下土坑１の西側に残る床面の高まりは、貯蔵穴を巡っていた周堤の残欠であろうか。　**遺物**　№遺物は床面19点（17・18・20～23・25～27・29)、竈内13点（24・30）であるが、うち11点は土師器甕（30）の同一片。埋土一括片132点、灰釉、須恵器皿・坏・高台坏・甕・瓶、土師器坏・甕、羽釜、内黒、その他瓦片６点。竈一括片42点、灰釉、須恵器坏・高台坏・

甕、土師器坏・甕。掘り方一括片10点、須恵器坏・鉢（28）、土師器坏・甕。床下土坑１からは須恵器坏（19）・高台坏、土師器甕、内黒など37片。床下土坑２からは須恵器坏•甕、土師器坏、鉄釘片など10片。　**備考**　10ｃ代

Ｈ―13号住居跡（Fig.13・14・33、Tab.５、PL.２・３・18）

位置　X63～65、Y245～247　**主軸方位**　N―85°―E　**遺存・重複**　T―４・D―26に切られる。H―29～32・D―１は当住居埋土中構築。　**形状・規模**　東・北竈の方形。南北軸長5.95m、東西軸長6.17m、最大壁高42㎝。**掘り方・床面**　掘り方深度は全体的に浅く、部分的に直床となる。壁周辺を除きよく締まる。床下から土坑２基、旧貯蔵穴検出。土坑はいずれも方形を呈し、埋め戻しの貯蔵穴と思われる。　**施設**　竈、貯蔵穴、柱穴、周溝。竈は４基。竈１は東壁北寄りにあり、黒褐色粘質土を構築材としている。天井部は崩落するが、袖部はよく遺存する。袖部には長胴甕を据えて焚口としており、右袖部に口縁部欠損の甕が逆位に検出された。燃焼面は床面とほぼ同じレベルにあり、特に掘り込みは見られない。住居廃絶時の竈である。竈２は北壁中央にあり、袖部の痕跡はなく、竈１使用時には使われていなかったようである。燃焼面には灰層（第25層）が残り、竈埋土が自然埋没状況を示していることから特に埋め戻しはしていない。袖部両側に浅い凹部があり、焚口構築材が据えられていたようである。この竈に対応する貯蔵穴が床下土坑１であろう。竈３は北壁西寄りにあり、H―30の掘り方下に多量の白色粘土ブロックを伴って検出された。ピット状の浅い凹部が見られる。ただ、主軸が住居プランとずれること、灰・焼土の分布がほとんど見られないことなど、竈とするにはやや疑念もある。竈４は東壁ほぼ中央にあり、煙道部のみが遺存する。南東コーナーの旧貯蔵穴がこの竈に対応するであろう。竈１の左袖部下に検出された土坑２も竈４に対応する貯蔵穴かもしれない。P_1～P_4は主柱穴、P_{10}は出入り口に係わるピットか。P_5～P_7はT―４の壁面に残ったピットで、P_7はP_2の建替えか。P_8、P_9は浅い掘り込み。周溝は南東と南西の両コーナーで途切れるが、比較的しっかりした掘り込みである。　**遺物**　№遺物13点（31・33・37）、図示以外ではこも石６点で、甑（37）以外はほぼ床直上の遺物である。埋土一括片173点、須恵器甕、土師器坏・高坏・甕・鉢。竈１は袖部の甕１個体以外で土師器甕片11点。竈３一括片30点、須恵器坏・高坏脚・甕、土師器坏・甕、須恵器坏などはH―30の掘り方内遺物と思われる。貯蔵穴から土師器甕片６点。　**備考**　７ｃ後半

Ｈ―14号住居跡（Fig.15・33、Tab.５、PL.３）

位置　X64・65、Y249　**主軸方位**　東竈としてN―77°―E　**遺存・重複**　H―11に竈が切られる。T―３の埋土上に構築される。H―20に切られるか。　**形状・規模**　西壁現長2.36m、北壁現長2.68m、最大壁高17㎝。　**掘り方・床面**　T―３埋土にかかる部分ははっきりしないが、西側ではほぼ直床。住居跡中央部を中心に硬化面が広がる。　**施設**　未検出　**遺物**　床面№遺物１点（38）。埋土一括片60点、須恵器蓋・坏・甕、土師器坏・甕・台付甕（38と同一片）、その他瓦片１点、器種不明鉄器１点。　**備考**　９ｃ中葉

Ｈ―15号住居跡（Fig.16・34、Tab.５、PL.３・18）

位置　X63・64、Y250・251　**主軸方位**　N―85°―E　**遺存・重複**　W―16～19に切られるが、床面には達していない。　**形状・規模**　東竈の方形。北壁長3.50m、南壁長3.05m、西壁長3.57m、東壁は竈を境として北側長1.90m、南側長0.66m、最大壁高30㎝。床面積約10.8㎡。　**掘り方・床面**　坑状の掘り込みが３カ所（床下土坑１・２）で、貼り床はこの部分が中心となり、他はほぼ直床。硬化面は竈前面から住居中央に伸びる。　**施設**　竈、ピット、周溝。竈は東壁を幅0.7m掘り込んで煙道部とし、燃焼部は皿状の掘り込み。煙道口に平瓦を立てている。P_1は貯蔵穴か。周溝は竈右袖部付近で途切れる以外は全周する。しっかりした掘り込みである。　**遺物**　№遺物は20点で、竈内から左袖部周辺にある。39・40・42～44以外では同一個体の土師器甕片が多いが、図示できるほどには復元できない。埋土一括片126点、須恵器坏・高台坏（41）・甕・瓶、土師器坏・甕、その他瓦片３点。竈一括片68点、須恵器坏•甕、土師器坏•甕、その他瓦片４点。床下土坑一括片16点、須恵器坏•甕、土師器甕。　**備考**　９ｃ中～後半

Ｈ―16号住居跡（Fig.15・34、Tab.５、PL.３）

位置　X62・63、Y249・250　**主軸方位**　N―81°―E　**遺存・重複**　W―２・20に壁を切られる。　**形状・規模**　東竈の方形。拡張か崩落かは判然としないが、４隅が周溝外側に広がる。南北軸長3.73m、東西軸長3.34m、最大壁高22㎝。　**掘り方・床面**　床下土坑２基。北西部は壁に沿って幅広の溝状に掘り込む。貼り床。硬化面は竈前面から住居中央部に広がる。床面積約8.3㎡。　**施設**　竈は東壁南寄りを幅0.63m、奥行き0.53mの緩勾配に掘り込んで煙道部としている。燃焼部は床面を15㎝ほど掘り込む。周溝は竈両脇で途切れる。　**遺物**　床面№遺物は、須恵器高台坏・盤（47）・こも石の３点。埋土一括片89点、須恵器蓋・坏・盤・甕、土師器坏・甕、内黒、その他瓦片２点。竈一括片29点、須恵器坏・甕、土師器甕（コの字口縁）、その他瓦片１点。　**備考**　８ｃ代

Ｈ―17号住居跡（Fig.17・34、Tab.５、PL.４）

位置　X62、Y248・249　**主軸方位**　N―68°―E　**遺存・重複**　掘り込みが浅いため壁はほとんど遺存せず、周溝と床面のみの検出。西側は調査区外。　**形状・規模**　東竈の方形？北壁（周溝上端）現長1.85m。調査区壁面土層から最大壁高は８㎝。　**掘り方・床面**　貼り床。硬化面は竈前面から住居中央に伸びる。　**施設**　竈、周溝。竈は東壁を幅0.60m、奥行き0.48m、深さ８㎝に掘り込むが、燃焼部はＰ―37が重複して不明。周溝は比較的しっかりした掘り込みである。　**遺物**　№遺物はない。埋土一括片５点、須恵器坏（46）・高台坏・甕、土師器坏・甕。竈一括片４点、土師器坏・甕。　**備考**　時期不明。10ｃ代か。

Ｈ―18号住居跡（Fig.18・34、Tab.５、PL.４・18）

位置　X62、Y247・248　**主軸方位**　N―79°―E　**遺存・重複**　掘り込みが浅く、壁がほとんど遺存しないため、平面図は掘り方図である。W―３・23に切られる。西側は調査区外。　**形状・規模**　掘り方西壁現長3.75m、同南壁現長3.33m。　**掘り方・床面**　掘り方は坑状の浅い掘り込み。P_1、P_2検出。床面は一部削平した可能性もあるが、確認面では特に硬化面は見られない。　**施設**　未検出。Ｈ―33の貯蔵穴西側の床面下掘り方内には焼土・焼土ブロックが多量に混入しており、あるいは当住居跡の竈（北竈）の残欠の可能性もある。　**遺物**　床面№遺物は須恵器甕底部と土師器坏（47）の２点。埋土一括片15点、須恵器坏・甕、土師器坏・甕、内黒。掘り方一括片42点、灰釉、須恵器坏・甕、土師器坏・甕、内黒。P_1内一括片14点、須恵器皿・坏・甕、土師器坏・甕。大半が小細片であるが、底径大や回転ケズリの須恵器坏底部片や有稜の短口縁土師器坏などがある。　**備考**　８ｃ中～後半

Ｈ―19号住居跡（Fig.17・34、Tab.５、PL.４・18）

位置　X62・63、Y250・251　**主軸方位**　N―89°―E　**遺存・重複**　D―11に切られ、H―24を切る。掘り込みが浅く、北壁～東壁は未検出。　**形状・規模**　東竈の方形？東壁現長3.7m、南壁現長1.46m、最大壁高６㎝。　**掘り方・床面**　貼り床。床硬化面は竈前面から南北～西に広がる。　**施設**　竈はW―17・18に断ち切られて遺存は悪いが、東壁を幅約0.7m、奥行き0.48m、深さ28㎝掘り込んで燃焼部としている。　**遺物**　床面遺物は灰釉皿（48）、須恵器坏・高台坏・甕片の８点。埋土一括片36点、灰釉、須恵器坏・高台坏・甕、土師器甕。竈一括片７点、須恵器坏、土師器甕。掘り方一括片26点、須恵器坏・高台坏、土師器坏・甕、羽釜。　**備考**　９ｃ中～後半

Ｈ―20号住居跡（Fig.18・34、Tab.５、PL.４・19）

位置　X63・64、Y249・250　**主軸方位**　N―78°―E　**遺存・重複**　H―14を切るか。溝に壁上部を断ち切られるが、遺存は比較的良い。　**形状・規模**　東竈の台形状。北壁長3.67m、南壁長2.57m、西壁長3.76m、東壁長3.70m、最大壁高35㎝。床面積約10.2㎡。　**掘り方・床面**　貼り床。床硬化面は壁際を除き、住居全面に広がる。　**施設**　竈、周溝。竈は東壁ほぼ中央を幅0.47m、奥行き0.25m掘り込んで煙道部の立ち上がりとし、燃焼部は床面を３㎝ほど皿状に掘り込む。周溝はしっかりした掘り込みで、竈北側から南東コーナーの東壁下で途切れる。　**遺物**　床面№遺物４点（49・51・52）。埋土一括片76点、須恵器蓋・皿（50）・坏・高台坏、土師器坏・甕・台付甕、羽釜、内黒、その他瓦片４点。竈一括片７点、土師器甕、内黒。掘り方一括片18点、須恵器高台坏・甕、土

師器坏・甕。　**備考**　9ｃ中～後半

Ｈ―21号住居跡（Fig.19・34、Tab.5、PL.4・19）

位置　X63・64、Y248・249　**主軸方位**　E－3°－S　**遺存・重複**　H―25・26を切る。H―20との切り合いは微妙である。　**形状・規模**　東竈で、南北長軸の長方形。南北軸長3.85m、北壁長2.95m、南壁長2.36m、最大壁高16㎝。　**掘り方・床面**　掘り方深度は浅く、部分的に直床。床硬化面は壁際を除き、ほぼ全面に広がる。　**施設**　竈の遺存は悪く、遺構確認時に削平したか。竈上部はW―13に切られている可能性もある。　**遺物**　床面№遺物は高台坏３点で、53は完存である。埋土一括片91点、灰釉、須恵器坏・高台坏・甕、土師器坏・甕、内黒、羽釜。掘り方一括片28点、須恵器坏・甕、土師器甕、羽釜。　**備考**　10ｃ代

Ｈ―22号住居跡（Fig.19・34、Tab.5、PL.4）

位置　X62、Y251　**主軸方位**　不分明　**遺存・重複**　西側は調査区外。D―12に切られ、H―23を切るか。掘り込みが浅く、壁は遺存しないため平面図は掘り方図である。　**形状・規模**　掘り方壁が住居壁と同一なら、竈はコーナー竈となるが、東竈の可能性も残る。調査区壁面土層から、軸長3.43m、最大壁高23㎝。　**掘り方・床面**　坑状の掘り込み。貼り床、部分的に直床。　**遺物**　№遺物は竈出土で２点、須恵器坏・皿（54）。埋土・掘り方一括片15点、灰釉段皿、須恵器坏・甕、土師器甕、内黒皿。竈一括片25点、須恵器坏・高台坏・甕、土師器甕。　**備考**　9ｃ後半～10ｃ

Ｈ―23号住居跡（Fig.20・21・35、Tab.5、PL.4・19）

位置　X62、Y251　**主軸方位**　N―82°―E　**遺存・重複**　H―22・D―16に床面、D―15に竈が切られ、H―24を切る。西・南側は調査区外。　**形状・規模**　東竈。東壁現長0.68m、最大壁高７㎝。　**掘り方・床面**　貼り床。床下土坑１基。硬化面は住居中央部を中心に広がる。　**施設**　竈は造替えしている。新旧いずれも皿状の掘り込み。　**遺物**　№遺物１点（56）で、床下土坑内出土。埋土一括片７点、須恵器蓋・坏・甕、土師器甕、羽釜。竈一括片４点、灰釉、須恵器坏。掘り方一括片11点、緑釉（55）、須恵器坏・甕、土師器坏・甕、羽釜。　**備考**　10ｃ代

Ｈ―24号住居跡（Fig.21・35、Tab.5、PL.4・19）

位置　X62、Y250・251　**主軸方位**　N―89°―E　**遺存・重複**　H―23・D―11に切られる。掘り込みは浅く、壁の遺存は悪い。　**形状・規模**　東竈で、南北長軸の長方形。南北軸長約5.0m、東西軸長2.62m、最大壁高９㎝。　**掘り方・床面**　掘り方深度は比較的深めで、幅広の溝状あるいは坑状（床下土坑）に掘り込む。貼り床。床面は締まるが、特に硬化面はない。　**施設**　竈は東壁南寄りにあり、壁を幅0.86m、奥行き0.77mの半円形状の緩い登り勾配に掘り込む。燃焼部に掘り込みはない。構築材はシルト質の白色粘土で、袖部や左側壁上部に残る。　**遺物**　床面№遺物５点、緑釉碗（57）、灰釉皿、須恵器坏（58）、土師器甕。埋土一括片93点、灰釉、須恵器坏・甕、土師器坏・甕・、内黒、羽釜。竈一括片35点、須恵器坏、土師器坏・甕。掘り方一括片64点、須恵器蓋・盤・坏・高台坏・甕、土師器坏・甕、その他こも石１点。　**備考**　9ｃ後半～10ｃ

Ｈ―25号住居跡（Fig.20・35、Tab.5、PL.5・19）

位置　X63・64、Y248　**主軸方位**　N―85°―E　**遺存・重複**　H―26を切り、H―21に南壁を切られる。　**形状・規模**　東竈の台形。北壁長2.51m、南壁長2.42m、西壁長3.03m、東壁長2.42m、最大壁高21㎝。　**掘り方・床面**　貼り床。よく締まるが、特に硬化面はない。床面積約7.2㎡。　**施設**　竈は東壁を幅0.53m、奥行き0.25mに掘り込む。燃焼部の掘り込みはない。　**遺物**　床面№遺物は内黒(59)とこも石の２点。埋土一括片109点、灰釉、須恵器蓋・坏・高台坏・甕、土師器坏・甕、羽釜、その他瓦片４点。　**備考**　10ｃ代

Ｈ―26号住居跡（Fig.20・35、Tab.5、PL.5・19）

位置　X63、Y248・249　**主軸方位**　東竈としてN―68°―E　**遺存・重複**　H―21・25に東側過半を切られる。　**形状・規模**　南北に長軸をもつ長方形か？北壁現長1.90m、南壁現長1.08m、西壁長4.34m、最大壁高24㎝。　**掘**

り方・床面　貼り床。よく締まるが、特に硬化面はない。　**施設**　未検出　**遺物**　№遺物は60～63とこも石の５点。埋土一括片49点、緑釉、灰釉、須恵器蓋・坏・高台坏・甕、土師器坏・甕、内黒。　**備考**　10c 代

Ｈ―27号住居跡（Fig.19・35、Tab.５、PL.５）

位置　X63・64、Y249　**主軸方位**　東竈としてＮ―78°―Ｅ　**遺存・重複**　Ｈ―20・Ｄ―17に切られ、北壁のみ遺存。床面の一部はＨ―21・26の、東壁はＴ―３の埋土中にかかる。　**形状・規模**　北壁復元長3.35m、最大壁高15cm。　**掘り方・床面**　貼り床。特に硬化面はない。　**施設**　未検出　**遺物**　埋土一括片15点、灰釉、須恵器坏・甕、土師器坏・甕、羽釜（64）。　**備考**　10ｃ代

Ｈ―28号住居跡（Fig.22・35、Tab.５、PL.５）

位置　X62・63、Y246　**主軸方位**　Ｅ―２°―Ｓ　**遺存・重複**　Ｈ―33の竈に西壁の一部を、W―４に南壁を切られる。Ｐ―54との新旧不明。　**形状・規模**　東竈で、南北長軸の長方形。南北軸現長3.28m、東西軸長2.52m、最大壁高11cm。　**掘り方・床面**　掘り方深度は比較的深く、壁際を溝状に掘り込む。P_1はしっかりした掘り込みで、住居内施設の一部として機能していた可能性が感じられる。P_2や北接する坑状の落ち込みは住居より古い。貼り床。硬化面は竈前面から中央部に伸びる。　**施設**　竈は東壁南寄りを幅0.55m、奥行き0.57mに掘り込み、段を設けて煙道部としている。燃焼部は皿状の掘り込みで、硬化・赤化は見られない。左袖部と煙道部に構築材の白色粘土ブロックが残る。　**遺物**　床面№遺物は１点（65）。埋土一括片24点、土師器坏・甕・鉢・甑。竈一括片75点、須恵器皿・坏・高台坏・甕、土師器坏・甕。この内、須恵器坏・高台坏などは混入遺物であろう。　**備考**　７ｃ代

Ｈ―29号住居跡（25・35、Tab.５、PL.５）

位置　X63・64、Y245・246　**主軸方位**　Ｎ―70°―Ｅ　**遺存・重複**　Ｈ―30を切り、Ｈ―31の埋土中構築。南側過半はＨ―13・Ｔ―４の埋土中にある。Ｄ―24との切り合い不明。一段深い掘り込みのＨ―13と同時並行で調査を進めたため、竈と東壁の一部を掘り過ぎているが、W―６に断ち切られていた可能性もある。　**形状・規模**　東竈で、南北長軸の長方形。南北長軸長3.79m、東西軸長2.76m、最大壁高26cm。　**掘り方・床面**　掘り方深度は浅い。貼り床。壁周辺を除き、ほぼ全面に硬化面が広がる。　**施設**　竈、周溝。竈は損壊させたが、竈前面の灰層が残る。周溝は北西コーナーの一部に巡る。　**遺物**　床面№遺物は68の１点。埋土一括片106点、灰釉（66）、須恵器坏・高台坏（67）・甕、土師器坏・甕、内黒、羽釜、その他瓦片４点。　**備考**　10ｃ代か。

Ｈ―30号住居跡（Fig.25・35、Tab.５、PL.５）

位置　X63・64、Y245・246　**主軸方位**　東竈としてＮ―70°―Ｅ　**遺存・重複**　Ｈ―29に切られる。南東部はＨ―13・Ｔ―４の埋土中。Ｈ―13と同時進行で調査を進めたため南東部の壁・竈は損壊させているが、竈に関してはW―６に断ち切られていた可能性もある。　**形状・規模**　東西長軸の長方形。南北軸復元長3.35m、東西軸復元長4.40m、最大壁高17cm。　**掘り方・床面**　掘り方深度は東側で深めで、Ｈ―13の竈と思われる粘土ブロックを検出している。貼り床。遺存部分の床面はやや軟弱。　**施設**　未検出　**遺物**　№遺物は須恵器坏（69）、瓦片、鉄釘片の３点。埋土一括片115点、緑釉、灰釉、須恵器蓋・皿・坏・甕、土師器坏・甕・台付甕、その他瓦片２点。　**備考**　９ｃ～10ｃか。

Ｈ―31号住居跡（Fig.23・35・36、Tab.５、PL.５・19）

位置　X63、Y246　**主軸方位**　Ｎ―70°―Ｅ　**遺存・重複**　Ｈ―32を切り、Ｔ―４埋土中構築。Ｈ―29・30は当住居埋土中構築。　**形状・規模**　東竈で、南北長軸の長方形。東壁は竈の南北で30cmほどずれる。南北軸長3.75m、北壁長2.10m、南壁長1.97mm、最大壁高34cm。　**掘り方・床面**　Ｔ―４埋土中構築のため掘り方の状況ははっきりしない。貼り床。硬化面は、壁周辺を除き、ほぼ全面に広がる。　**施設**　竈は東壁北寄りにあり、幅0.58m、奥行きは東壁北側から計測して0.66m掘り込んで煙道部としている。燃焼部は、床面を７cmほど掘り込んでいる。燃焼面は硬化している。ピット状の凹部は支脚据付け痕か。煙道部のピットは埋土の状況から新しい。右袖部南

側には灰分布が顕著である。　**遺物**　床面№遺物は17点（70～72・75・76・78・79・81）。埋土一括片282点、須恵器蓋・皿（73）・坏（74）・高台坏・甕、土師器坏甕・台付甕、内黒、羽釜。竈一括片23点、須恵器坏・甕、土師器甕・台付甕。床下一括片141点、須恵器蓋・皿・坏・高台坏（77）・甕、土師器坏（80）・皿・甕・台付甕・鉢。須恵器蓋（70）や土師器坏（80）は混入遺物であろう。　**備考**　9ｃ後半～10ｃ

Ｈ―32号住居跡（Fig.23・36、Tab.５、PL.５・19）

位置　X63・64、Y246・247　**主軸方位**　東竈としてＮ―69°―Ｅ　**遺存・重複**　Ｈ―31・Ｄ―26に切られ、東側はＨ―13埋土中にある。Ｈ―13の調査が先行したため、東壁・竈は確認しえぬまま損壊。ただ、遺構確認面でのＨ―13埋土中には焼土分布が見られなかったことから、あるいはW―４に断ち切られていた可能性はある。　**形状・規模**　南北に長軸をもつ長方形のようである。西壁現長4.40m、南壁長3.25m、最大壁高24㎝。　**掘り方・床面**　掘り方深度は中央に浅く、壁際周辺に深めで、南西コーナーと西壁北側（Ｈ―31南西コーナー直下）に坑状の掘り込みが見られる(Fig.28、Ｔ―４南西部の円形ピット)。貼り床。床面はかなり硬化して滑沢である。　**施設**　竈は損壊。周溝はしっかりした掘り込みである。　**遺物**　床面№遺物は須恵器皿(82)・坏(86)・高台坏(83)・甕、土師器甕、内黒（85)、鉄釘片。埋土一括片464点、緑釉、灰釉、須恵器盤・皿・坏・高台坏・甕・瓶、土師器坏（84・87）・皿・甕・台付甕・鉢、内黒、その他瓦片３点。掘り方内一括片16点、須恵器甕、土師器坏・皿・甕。土師器坏84・87は混入、あるいはＴ―４の遺物の可能性もある。　**備考**　10ｃ代

Ｈ―33号住居跡（Fig.24・36、Tab.５、PL.６・19）

位置　X62、Y246・247　**主軸方位**　Ｎ―83°―Ｅ　**遺存・重複**　竈がＨ―28の南西コーナーを切る。西側の大半が調査区外。　**形状・規模**　東竈で、南北に長軸をもつ長方形か。東壁現長4.50m、最大壁高10㎝。　**掘り方・床面**　掘り方深度は全体に浅めであるが、貯蔵穴西側が一段低く掘り込まれ、焼土・焼土ブロックが多量に混入していた。位置的にはＨ―18の竈残欠の可能性もある。貼り床。硬化面は壁際を除く全面に広がる。　**施設**　竈、貯蔵穴。竈はW―４に断ち切られて遺存は悪い。両袖部に軟砂岩切石残欠が残る。貯蔵穴の掘り込みは浅く、底面も凹凸があって安定していない。　**遺物**　床面及び貯蔵穴内№遺物は須恵器蓋（88）皿（89）・坏（91）・高台坏（92)、土師器甕（コの字状口縁）の12点。埋土一括片173点、須恵器皿・坏（90）・高台坏・甕、土師器坏・甕、内黒。竈一括片63点、須恵器坏、土師器甕。　**備考**　９ｃ前半～中葉

２　竪穴状遺構

Ｔ―１号竪穴跡（Fig.25、PL.６）

位置　X65・66、Y244・245　**遺存・重複**　W―７・９にコーナーを、W―８に壁を切られる。Ｄ―５との新旧不明。　**形状・規模**　ややいびつな方形。上径2.26×2.67m、壁高20㎝。底面は平坦で、北西コーナー付近に焼土分布が見られる。　**遺物**　埋土一括片31点、須恵器坏・高台坏・甕、土師器坏・甕、瓦。　**備考**　時期不明。平安時代か。

Ｔ―２号竪穴跡（Fig.25・37、Tab.５、PL.６・19）

位置　X64・65、Y247　**遺存・重複**　W―３に切られる。北端部はＨ―13埋土中にある。Ｈ―32、Ｄ―26との新旧不明。　**形状・規模**　逆Ｌの字状を呈し、やや深めの皿状の掘り込み。Ｈ―32、Ｄ―26と重複する北西部も遺構確認面よりは一段下がる。この部分も一連の遺構とすれば、本来は方形で、その中に一段低い逆Ｌの字状の掘り込みが伴う遺構となる可能性もある。南北軸長3.84m、東西軸長3.54m、最大深37㎝。中央部に浮いた状態で焼土・粘土ブロックが分布する。　**遺物**　№遺物は須恵器皿（93・94）・坏・高台坏（95～98）・甕、瓦の14点で、いずれも浮いた状態で出土。埋土一括片114点、灰釉、須恵器蓋・皿・坏・高台坏・甕、土師器坏・甕・台付甕、瓦。　**備考**　９ｃ中～後半

Ｔ－３号竪穴跡（Fig.26・37、Tab.５、PL.６・19）

位置　Ｘ64・65、Ｙ249・250　**遺存・重複**　Ｈ－11・14・20は当遺構の埋土中構築。Ｗ－２が壁の一部を断ち切る。　**形状・規模**　円形。壁上位はやや漏斗状に開く。上径4.33×3.96m、底径2.92×2.74m、深さ1.10m。底面に幅30㎝前後、深さ約12㎝のＴ字の溝状の掘り込みをもつ。　**遺物**　№遺物は土師器皿（104）・坏２個体（102）の３点で、いずれも浮いた状態である。埋土一括片187点、須恵器蓋（100）・盤・坏・高台坏・甕・瓶・鉢、土師器皿（106）・坏（103・105）・甕。　**備考**　８ｃ前半。埋土は特徴的で、13層の木炭主体層を境に、地山の硬質砂質ブロックを含む粗粒の上層（８・９・11層）と、同ブロックの混入の少ない細粒の下層（14・15・16層）に大別が可能である。前者を竪穴掘削時の排土、後者を自然埋没土とすると、木炭層形成後に前者が流入（埋め戻し？）したことになる。

Ｔ－４号竪穴跡（Fig.27・38、Tab.５、PL.６・19）

位置　Ｘ63・64、Ｙ246　**遺存・重複**　Ｈ－13を切る。Ｈ－29・30・31・32は当遺構埋土中の構築。　**形状・規模**　円形。上径4.43×4.12m、底径2.85×2.59m、深さはＨ－13床面より65㎝。底面に上径2.04×1.18m、底径1.79×0.85m、深さ17㎝の長方形の掘り込みをもつ。この掘り込みの底面壁際には幅20㎝ほどのごく細く、浅い掘削痕が残る。なお、南西部のピットはＨ－32の床下土坑。　**遺物**　№遺物は、須恵器甕（112・115）、土師器坏（111・114）の４点で、いずれも浮いた状態である。埋土一括片379点、須恵器蓋・盤（110）・坏（107～109）・高台坏・長頸瓶・甕、土師器皿・坏（113）・甕・甑、内黒。　**備考**　８ｃ中～後半。Ｔ－３と異なり、埋土は比較的単一な土質である。

３　土坑（Fig.27～29・38～41、Tab.２・５、PL.７・８・20）

24基。埋土As-C混土18基、As-B混土４基、他２基。Ｂ混の４基（Ｄ－２・３・11・12）は、いずれも長方形を呈する。Ｂ混入が確認できないＤ－13も形状や調査区壁面土層の掘り込み面から見て中世以降の土坑である。底面が横穴状に掘り込まれるが、性格は不明。Ｃ混の土坑は、円形や隅丸の長方形を呈するものが多く、Ｄ－17などもこの種の土坑であろう。Ｄ－６はピット状の小ぶりな土坑、Ｄ－７は溝状を呈する。Ｄ－24は楕円形の大きなもので、№遺物33点、一括片949点の他、瓦片４点、石製紡錘車片１点、鉄滓１点が出土して、遺物のゴミ穴のような観を呈する。埋土下層に木炭（網掛け部分）がブロック状に認められる。土器は緑釉、須恵器蓋・皿・坏・高台坏・長頸瓶・小型壺・甕、土師器坏・甕・台付甕・鉢、内黒などで、９ｃ前半～中葉であろう。Ｄ－26はＨ－32の床面を断ち切り、南壁を同住居跡と共有するような土坑で、東壁に方形の張り出しが付設される。埋土は埋め戻しと思われ、厚い灰層（14層）がある。一括片117点、灰釉、須恵器蓋・坏・高台坏・甕・瓶、土師器坏・甕・台付甕、内黒、その他瓦片４点、こも石１点。須恵器甕・瓶類（64片）が目立つ。10ｃ代であろう。

４　溝跡（Fig.６・29・41、Tab.３・５）

25条。As-C混土のＷ－12・13・21・26以外は、As-B混土を埋土とし、走向方位もほぼ東西、底面に半月状の掘削痕を残すものが多い。中世以降の畠跡の畝間溝と思われる。Ｗ－12・13・21は走向方位がほぼ同じで、Ｗ－26はその逆向きとなり、北西端部にステップ状の段が付く。南東部はＨ－25に切られる。Ｗ－26一括片128点、須恵器皿・坏・高台坏・甕、土師器坏・甕など。９ｃ代であろう。

５　道路跡（Fig.30・41、Tab.５、PL.８・20）

溝状遺構に沿って硬化面の形成された道路跡。走向方位Ｎ－27°－Ｗ。Ｈ－８・10・13を切り、Ｗ－３～８等の溝群に切られる。西側の一段深い掘り込みはAs-C混土の溝状遺構で、幅約1.72～1.28m、深さ約80㎝、底面標高119.90前後で、特に溝底面の高低差は見られない。この溝状遺構が埋没した（あるいは埋め戻した）後に、その

東側に硬化面が上下３～４枚形成されている。この遺構に沿うように、あるいは内側に見られるピットは関連する遺構であろうか。北側に多い。遺物は、№遺物が高台坏（163）と刀子（169）の２点。一括片796点、緑釉、灰釉、須恵器蓋・皿・坏・高台坏・甕・瓶・甑把手、土師器皿・坏・甕・台付甕、内黒、羽釜、その他瓦片29点、軽石５点、近世陶器片２点、焙烙片３点。この内、須恵器坏・高台坏・甕、土師器坏・甕片の５器種で757点を占める。時期的には古墳～平安時代の遺物が混在し、当遺構の時期特定の決め手にはなりにくい。

6　ピット（Fig. 6・41、Tab. 4・5）

55口。As-B 混土のピット６口、As-C 混土37口、その他12口。C混ピットは、H－１周辺、H－12・16・29とT－１北側など５カ所に比較的まとまった分布が見られるが、並びの抽出できたピット群はない。

7　調査区出土遺物（Fig.41、Tab. 5）

調査区一括出土遺物として、縄文土器、弥生土器、灰釉陶器、須恵器、土師器、瓦、近世陶器、石器、古銭などが採取されている。器種としては、灰釉では埦、須恵器では蓋・皿・坏・高台坏・甕・瓶・羽釜、土師器では坏・甕などがある。近世では瀬戸・美濃の碗、万古系の急須蓋などが見られるが、主体は奈良・平安期の遺物である。

８区のまとめ

狭い調査区ながら、予想を超える遺構・遺物の検出をみた。表土から遺構確認面までは比較的浅く、遺構の中でも一部の竪穴住居跡に関しては、もともと掘り込みが浅かったためか、遺構確認の段階ですでに床面が露出してしまった住居跡がある。H－17・18・22号住居跡などで、ことにH－18・22号住居跡に関しては掘り方まで掘り下げて住居跡本来の壁を想定した。

H－13号住居跡は、古墳時代後期の比較的規模の大きな住居跡で、やや不確かな１基の竈（竈３）を除き、３基の竈をもち、検出状況から東壁北側の竈が住居廃絶まで使われていた竈であることが確認されている。床下からは旧竈に対応する貯蔵穴も検出されている。少ない遺物の中でも、土師器坏などの様相は７世紀でも後半と思われるが、タテケズリの長胴甕やほぼ完形で出土した土師器高坏はやや古様を呈するようでもあり、類例をまって再考したい。

銅鋺模倣といわれる、丸底で直立・内傾する短口縁の土師器坏、あるいは土師器皿、暗文系の平底の坏などをもつ８世紀代の遺構は少ないが、竪穴状遺構としたT－３・４号竪穴跡は、いずれも上径４ｍを越える大きな円形を呈し、底面にTの字溝や長方形坑の掘り込みをもつ特異な遺構である。底面は地山の砂質・硬質の黄褐色土を掘り抜いており、地山土採掘跡の可能性も考えられるのだが、その割には採掘時に出るはずの「屑」の混入が少ないように思われる。あるいは室（むろ）のような構造物を考えた場合、その、上に開くという断面逆台形状の謂わば「開放性」が室のイメージにそぐわない感じもするのである。一方、時期は下るが、D－26号土坑などは長方形の深い掘り込みで、一見天井部をもつように壁がオーバーハングし、東側に方形の張り出し部が付設されるなど、室としての可能性の強い遺構である。この遺構の埋土には厚い灰層が認められるが、この点はT－３号跡に見られる木炭層と類似した状況がみてとれる。また、D－24号土坑にも間欠的に木炭層が見られる。この土坑は、埋土上下層から出土するその遺物量の多さから、土器投棄坑かとも思われる遺構であるが、これら３基の遺構に見られる灰・木炭層の由来は明確ではない。いずれにしろ、T－３・４号跡の性格については、いまひとつ墓跡の可能性を挙げるにとどめて、今後の課題としておきたい。

Tab. 2　8区土坑一覧表

番号	位置		平面形	規模（m）			埋土	出土遺物・備考
	X	Y		上径	底径	深さ		
1	64・65	246	円形	0.93×0.91	0.77×[0.76]	0.16	C混	H-13埋土中。土師器坏（有稜）、土師器甕
2	66	245	長方形	1.55×0.88	1.30×0.72	0.32	B混	H-8を切る　須恵器坏・高台坏・甕、土師器坏・甕、羽釜、鉄釘片
3	66	245	長方形	(1.39)×1.09	(1.34)×0.96	0.21	B混	D-2に切られる
4	66	245	円形？	(0.67)×0.80	(0.59)×0.75	0.18	C混	H-8と重複。須恵器皿、土師器坏
5	65	244	円形	(0.79)×0.75	(0.70)×0.65	0.22	C混	T-1と重複。W-9に切られる。須恵器甕、土師器坏・甕
6	65・66	244	楕円形	0.62×0.48	0.45×0.28	0.41	C混	須恵器甕、土師器坏・甕
7	65・66	248・249	長方形	(3.45)×1.37	(3.37)×1.21	0.16	C混	W-13に切られる。須恵器高台坏（Fig.38-116）・坏・皿・蓋・甕、土師器坏・甕
8	66	243	楕円形	(1.20)×0.80	(0.92)×0.42	0.47	C混	土師器坏・甕
9	66	246	隅丸長方形	(1.0)×0.87	(0.90)×0.66	0.10	C混	須恵器坏・高台坏・甕、土師器坏・甕、瓦
10	65	250	不整形	1.05×1.08	0.68×0.60	0.31	C混	須恵器甕、土師器坏
11	62	251	長方形	0.93×0.50	0.76×0.27	0.59	B混	須恵器瓶・坏、土師器坏・甕
12	61・62	250	長方形	1.58×(0.96)	1.49×0.91	0.18	B混	須恵器坏・甕、土師器甕、羽釜、陶器
13	61・62	250	長方形	1.82×(0.79)	1.53×(0.74)	0.94	砂質土	須恵器甕、土師器坏・甕
14	62・63	250	不整形	(1.24)×1.17	(1.07)×1.02	0.09	C混	H-16と重複。須恵器高台坏・甕、土師器甕
15	欠番（H-23のカマド）							
16	62	251	長方形	(0.95)×0.62	(0.91)×0.52	0.15	C混	灰釉陶器（Fig.38-117）・須恵器坏、土師器甕
17	64	249	隅丸長方形	1.04×0.68	0.90×0.46	0.22	焼土・白色粒	須恵器坏・高台坏（Fig.38-118）・甕、土師器坏、羽釜
18	62	249	隅丸長方形	0.94×0.64	0.63×0.42	0.37	C混	
19	64	248・249	円形	0.72×0.64	0.31×0.27	0.23	C混・焼土	P-35と重複。灰釉陶器、土師器坏・甕
20	63	249	隅丸長方形	(1.17)×0.67	0.82×0.46	0.43	C混	H-26と重複
21	63	248	不整形	(1.23)×1.24	(1.06)×1.07	0.14	C混	須恵器坏（Fig.39-119）・高台坏(120)、土師器坏
22	W-26のつづきのため欠番							
23	63	243	楕円形	(1.28)×0.62	0.82×0.35	0.34	C混	
24	63	244・245	楕円形	4.26×1.76	3.50×1.05	0.64	C混 木炭層有	H-29と重複。遺物多量。Fig.39-121～137、Fig.40-138～153
25	撹乱のため欠番							
26	64	247	長方形	2.36×1.45	2.13×1.32	1.30	C混 灰層有	W-26と重複。Fig.40-154～156、Fig41-157～159
27	62	247	不整形	(1.35)×1.26	(1.18)×1.05	0.16	C混	

Tab. 3　8区溝跡一覧表

番号	位置		規模（m）				断面形	走向方位	底面標高	埋土	備考
	X	Y	長さ	上幅	下幅	深さ(cm)					
1	64～67	252	(7.6)	0.45～0.35	0.35～0.26	21～33	箱型	N-88°-E	120.04～119.93	B混？	
2	63～66	250	(12.70)	0.40～0.25	0.28～0.15	21～32	箱型	E-W	120.06～119.95	B混	須恵器坏、土師器坏・甕
3	62～65	247	(16.45)	0.40～0.28	0.25～0.20	21～26	箱型	E-1°-S	120.10～120.04	B混？	須恵器坏・盤・甕、土師器坏・甕
4	62～65	247	(12.70)	0.45～0.28	0.25～0.18	27～43	箱型	E-1°-S	120.28～120.12	B混	
5	62～65	246	(14.05)	0.38～0.28	0.30～0.15	7～16	箱型	E-1°-S	120.33～120.24	B混	土師器坏・甕
6	62～65	245	(13.55)	0.55～0.35	0.35～0.20	16～19	箱型	E-1°-S	120.34～120.21	B混	灰釉陶器、須恵器坏・甕、土師器坏・甕、内黒
7	64・65	245	(5.55)	0.25～0.20	0.20～0.18	6～8	箱型	E-2°-S	120.44～120.35	B混	須恵器坏・瓶、瓦
8	62～66	244	(16.95)	0.58～0.30	0.45～0.18	7～21	箱型	E-2°-S	120.50～120.26	B混	須恵器蓋・坏、土師器坏・甕
9	62～66	244	(16.90)	0.45～0.35	0.35～0.17	9～21	箱型	E-2°-S	120.51～120.26	B混？	須恵器坏・甕、土師器坏・甕
10	65・66	244	(5.08)	0.50～0.45	0.38～0.35	21～26	箱型	E-2°-S	120.30～120.19	B混？	須恵器蓋・坏、土師器坏・甕
11	62～65	244	(13.10)	0.35～0.25	0.30～0.15	6～27	箱型	E-2°-S	120.54～120.26	B混？	灰釉陶器、須恵器坏・甕・瓶、土師器坏・甕
12	66	249	(1.5)	0.50～0.40	0.30～0.25	12	U字状	N-70°-E	120.15～120.14	C混	
13	64・65	248	(5.5)	0.75～0.65	0.70～0.45	17～25	U字状	N-76°-E	120.15～120.02	C混	須恵器坏、土師器坏・甕
14	63・64	252	(5.95)	0.25～0.20	0.20～0.15	6～10	箱型	N-89°-E	120.43～120.35	B混	
15	62～64	251	(9.45)	0.35～0.25	0.25～0.15	5～9	箱型	N-89°-E	120.42～120.34	B混	須恵器坏・甕、土師器甕
16	62～64	251	(7.65)	0.33～0.20	0.25～0.15	11～25	箱型	N-89°-E	120.39～120.21	B混	須恵器蓋・坏・瓶、土師器坏・甕
17	62～64	251	(8.35)	0.35～0.21	0.23～0.16	6～11	箱型	E-W	120.44～120.32	B混	須恵器坏・甕、土師器坏・甕
18	62～64	251	(7.65)	0.31～0.20	0.20～0.15	7～21	箱型	E-W	120.43～120.24	B混	土師器台付甕・甕
19	62・63	251	(4.05)	0.30～0.20	0.20～0.15	4～6	箱型	E-W	120.44～120.40	B混	須恵器皿・坏・高台坏、土師器坏・甕
20	62～64	250	(7.90)	0.50～0.35	0.38～0.17	4～16	箱型	E-W	120.46～120.31	B混	須恵器坏・高台坏・甕、土師器坏・甕、瓦
21	63・64	250	(4.40)	0.55～0.40	0.29～0.25	13～45	U字状	N-76°-E	120.35～120.00	C混・焼土	
22	W-3のつづきのため欠番										
23	62・63	247	(5.60)	0.55～0.38	0.39～0.28	23～24	箱型	E-1°-S	120.36～120.32	B混	
24	62・63	246	(5.0)	0.38～0.20	0.25～0.20	29～39	箱型	E-1°-S	120.23～120.14	B混	
25	63・64	244	(1.95)	0.25～0.18	0.20～0.15	4～9	箱型	E-2°-S	120.56～120.47	B混	
26	62・63	247・248	(4.57)	0.95～0.75	0.45～0.30	59～63	U字状	N-56°-W	120.00～119.96	C混	Fig.41-160・161

Tab. 4　8区ピット一覧表

番号	位置		平面形	深さ(cm)	底面標高	埋土	備考	番号	位置		平面形	深さ(cm)	底面標高	埋土	備考
	X	Y							X	Y					
1			円形	12	120.18	B混	Fig.41-170	5	66	251	円形？	20	120.02	白色パミス	P-4に切られる。
2	64	252	円形	7	120.26	C混	須恵器坏、土師器甕、羽釜	6	66	251	円形	19	120.05	B混	
3	64	252	円形？	23	120.08	C混		7	66	251	円形	24	119.99	白色パミス	
4	66	252	円形	21	119.99	白色パミス		8	65	251	円形	18	120.11	白色パミス	

番号	位置 X	位置 Y	平面形	深さ(cm)	底面標高	埋土	備　考	番号	位置 X	位置 Y	平面形	深さ(cm)	底面標高	埋土	備　考
9	65	251	円形	20	120.12	白色パミス	須恵器坏	33	66	244	円形？	26	120.21	C混	
10	66	250	円形	18	120.10	B混		34	63	249	円形	22	120.29	白色粒	
11	66	250	円形	48	119.77	C混		35	63	249	円形	15	120.38	C混	
12	66	249	円形	32	120.00	C混		36	62	249	円形	43	120.11	白色粒	
13	66	249	円形	31	119.97	C混		37	62	249	円形	56	119.99	B混	須恵器甕、土師器坏・甕、瓦
14	66	249	円形	12	120.16	白色パミス		38	63	248	円形	12	180.49	B混	
15	66	249	円形	51	119.76	C混		39	63	244	円形	48	120.09	C混	
16	66	249	円形	16	120.12	白色パミス		40	63	244	円形	22	120.33	C混	D-24と重複
17	66	249	円形	12	120.06	B混		41	63	244	円形	11	120.48	C混	
18	66	249	円形	41	119.87	C混	須恵器坏・高台坏、土師器坏・甕	42	63	244	円形	19	120.40	C混	W-9に切られる。
19	65	249	円形	38	120.00	C混		43	62	244	円形	31	120.28	C混	
20	65	249	円形	29	120.09	C混	土師器坏・甕	44	62	244	円形	20	120.39	C混	
21	65	249	円形	51	119.84	C混	Fig.41-173	45	62	245	円形	19	120.36	C混	
22	65	249	円形	34	120.00	C混	土師器坏	46	63	245	円形	36	120.19	C混	
23	65	247	円形	32	119.96	白色パミス		47	62	245	円形	25	120.29	C混	
24	66	244	円形	26	120.22	白色パミス		48	62	245	円形	24	120.31	C混	
25	66	244	方形	67	119.78	C混・焼土	須恵器甕、土師器坏・甕	49	62	245	円形	39	120.14	C混	
26	66	244	円形	36	120.10	C混		50	62	245	円形	21	120.31	C混	W-6に切られる。
27	66	244	円形	36	120.11	C混		51	62	246	円形	26	120.25	C混	
28	65	244	円形	39	120.05	C混		52	62	245	円形	26	120.25	C混	W-6に切られる。
29	65	243	円形	59	119.87	白色パミス		53	64	245	円形	16	120.39	C混	
30	65	243	円形	12	120.35	C混		54	63	246	円形	30	120.21	C混	H-28と重複。
31	66	246	円形	8	120.15	C混		55	62	247	円形	17	120.38	C混	
32	欠　番							56	63	247	円形	12	120.43	C混	

Tab. 5　8区遺物観察表

遺物番号	出土層位	器種	口径・器高・底径(cm)	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備考
1	H-1 竈	須恵器 高台坏	[13.1]・4.85・[6.8]	①粗粒 小礫　②硬質 黒斑 ③被熱 赤褐色　④1/4	轆轤成形。口縁はやや肥厚し、外反。回転糸切り後、高台貼付。高台の成形は粗略。	被熱痕。
2	H-1 床面	須恵器 坏	—・(2.1)・4.8	①粗 小礫　②硬質 黒斑 ③灰黄色　④下半完存	轆轤成形。轆轤目は弱い。体部内湾。	
3	H-2 床面	須恵器 坏	12.9・4.1・5.5	①粗 小礫 赤色粒　②硬質 黒斑 ③黄褐色　④底部完存 口縁1/2	轆轤成形。轆轤目は弱い。体部は直線的、口縁ゆるやかに外湾。口唇部肥厚。回転糸切り。	
4	H-2 床面	須恵器 坏	—・(2.35)・6.8	①密 黒色粒　②硬質 ③暗灰黄　④下半完存	轆轤成形。轆轤目は弱い。体部は内湾。回転糸切り。	
5	H-2 床面・竈	須恵器 高台坏	[14.2]・5.6・7.5	①粗 小礫 赤色粒　②硬質 黒斑 ③灰黄色　④高台4/5 体部1/3	轆轤成形。厚手で、やや粗略な作り。口縁ゆるやかに外反。高台貼付後全面回転ナデ。	赤化粘土付着。 被熱痕。
6	H-2 床面	須恵器 高台坏	12.5・(4.0)・—	①粗 小礫　②硬質 ③暗灰～黒灰色　④1/3 高台剝落	轆轤成形。轆轤目は弱い。体部はわずかに内湾。口縁ゆるやかに外湾。回転糸切り後、高台貼り付け。	
7	H-2 床面	須恵器 大甕	—・—・—	①密　②堅緻 ③暗灰色　④頸部破片	轆轤成形。７波の波状文。	
8	H-4 床面	須恵器 高台坏	—・(3.0)・6.8	①やや粗 小礫　②硬質 黒斑 ③淡茶褐色　④下半完存	轆轤成形。高台は粗略な作りで、高台貼付後、回転ナデ。高台底面に棒状具の圧痕。	煤付着。
9	H-4 埋土	土師器 台付甕	—・(7.8)・[9.2]	①やや粗　②硬質 黒斑 ③暗茶褐色　④下半1/8、脚1/3	ハの字形の脚。外面はナナメケズリ後、脚貼付用のヨコナデ。内面ヨコナデ。脚内面はヨコナデ後、縦方向の指ナデ。	
10	H-5 床面	土師器 坏	13.6・4.1・—	①密 赤色粒　②硬質 ③橙褐色　④1/2	丸底。口縁と底部の境に明瞭な鋭角な稜。口縁は、Ｓの字状。	全面漆塗膜。
11	H-7 床面	灰釉陶器 埦	[14.3]・4.85・6.9	①密 淡灰色　②堅緻 ③淡灰色　④高台完存 口縁1/3	轆轤成形。三日月高台。体部内湾。口端部屈曲して外反。漬け掛け。高台部と内面中央は無釉。高台貼付後、全面回転ナデ。	
12	H-8 床面	土師器 坏	10.2 ・3.0・—	①やや粗　②硬質 ③茶褐色　④4/5	小型。丸底風。ゆるい稜を持ち、口縁は短く、内傾。底部外面にケズリ。稜の下はオサエ。内面ナデ。	内面に斑状にタール付着。
13	H-10 床面	須恵器 高台坏	—・(3.3)・8.6	①密 黒色微細粒　②堅緻 ③淡灰色　④下半略完存	轆轤成形。轆轤目はやや強め。体部内湾。回転糸切り後、高台貼り付け。その後、周辺を回転ナデ。	
14	H-10 埋土	須恵器 高台坏	—・(1.8)・7.2	①精選　②硬質　③内外面黒灰色・断面暗灰黄色　④高台完存	轆轤成形。轆轤目は弱い。回転糸切り後、高台貼り付け。その後、周辺を回転ナデ。	
15	H-11 床面	須恵器 皿	14.2・3.0・7.1	①やや粗 赤色細粒　②硬質 ③暗茶褐色　④口縁1/2 高台完存	轆轤成形。轆轤目弱い。体部内湾気味、口縁ほぼ水平に屈曲。回転糸切り後、高台を貼付。その後、周辺を回転ナデ。	一部被熱痕。
16	H-11 竈	須恵器 高台坏	[15.8]・5.7・[7.8]	①精選　②硬質 ③灰色　④口縁1/8　高台1/3	轆轤成形。轆轤目弱い。体部内湾、口縁外湾。切り離し技法不明。高台貼付後、その周辺を回転ナデ。	赤化粘土付着。 一部被熱痕。
17	H-12 床面	灰釉陶器 埦	—・(2.5)・[7.8]	①密 黒色粒 白色粒微量　②堅緻 ③淡灰色　④破片	轆轤成形。三日月高台。高台部と内面中央部は無釉。	
18	H-12 床面	灰釉陶器 皿	—・(2.0)・[7.4]	①密 白色粒微量　②堅緻 ③淡灰黄色　④下半1/2	轆轤成形。切り離し技法不明。貼付高台。外面の施釉は遺存部には見えない。内面は中央部無釉。	

遺物番号	出土層位	器種	口径・器高・底径(cm)	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備考
19	H-12 床下土坑	須恵器 坏	[12.8]・(3.4)・[5.2]	①粗 小礫　②硬質 黒斑 ③茶褐色　④1/5	轆轤成形。轆轤目は外面でやや強い。全体に厚手。体部～口縁は直線的に外反。回転糸切り。	内面に油煙付着。
20	H-12 床面	須恵器 坏	13.7・3.8・6.4	①密 石英微細粒　②硬質 ③淡茶褐色　④2/3	轆轤成形。轆轤目は外面で強い。体部下半は内湾し、上半は直線的。口縁外反。回転糸切り。	内面重ね焼き痕。外面粘土付。
21	H-12 床面	須恵器 坏	[14.4]・3.95・[7.6]	①密　②堅緻 ③灰白～黒灰色　④1/3	轆轤成形。轆轤目は外面で強い。口縁やや歪む。底部凹底。体部わずかに内湾。口縁直線的に立ち上がる。回転糸切り。	
22	H-12 床面	須恵器 坏	13.6・3.8・6.3	①密 石英微細粒　②硬質 黒斑 ③灰黄色 色むら有　④完存	轆轤成形。轆轤目は弱い。凹底。体部は直線的で、口縁は外湾。回転糸切り。	内外面に油煙付着。
23	H-12 床面	須恵器 高台坏	13.8・5.2・7.0	①密 石英微細粒　②硬質 黒斑 ③黄褐色　④高台完存、口縁1/2	轆轤成形。体部は内湾し、口縁は屈曲して外反。轆轤目は弱い。回転糸切り後、高台貼付。その後、その周辺を回転ナデ。	
24	H-12 床面	須恵器 高台坏	[13.0]・5.4・[6.7]	①やや粗 黒色粒　②堅緻 ③灰色　④1/3	轆轤成形。轆轤目は外面に強い。体部は内湾し、口縁は屈曲して外反。回転糸切り後、高台貼付。周辺を丁寧な回転ナデ。	赤化粘土付着。
25	H-12 床面	須恵器 高台坏	14.1・4.7・6.9	①密 石英微細粒　②硬質 黒斑 ③灰黄色　④完存	轆轤成形。轆轤目は外面でやや強め。体部わずかに内湾し、口縁は外湾。高台貼付後、底面全面回転ナデ。	外面に漆塗膜。
26	H-12 床面	須恵器 坏	[14.8]・(4.8)・(7.0)	①密 石英微細粒　②硬質 ③灰黄～淡灰茶色　④高台剝落	轆轤成形。轆轤目は弱い。体部はわずかに内湾。口端部は外湾。回転糸切り後に高台貼付。その後、周辺を回転ナデ。	
27	H-12 床面	須恵器 高台坏	—・(4.1)・[6.7]	①密 石英微細粒　②硬質 ③灰黄色　④体部1/3	轆轤成形。轆轤目は弱い。体部は直線的に外反。回転糸切り後に、高台貼付。その後、周辺を丁寧な回転ナデ。	底部内外面に墨書「本」。
28	H-12 掘り方	須恵器 鉢	[29.2]・6.8・[20.4]	①粗 小礫 黒色粒　②堅緻 ③灰色　④破片	轆轤成形。内外面回転ヘラナデ。平底。体部～口縁ゆるやかに外湾。外面下端にヘラケズリ。底面ケズリ。作りはやや粗略。	
29	H-12 床面	須恵器 耳坏	—・4.1・6.0	①密 小礫　②硬質 黒斑 ③茶褐色　④底部完存 口縁1/2	轆轤成形後、左右の口縁部を押しすぼめる。外面は轆轤目が消えるほどに指アテ痕顕著。回転糸切り。	底部内面に墨書「代」。
30	H-12 床面	土師器 甕	17.8・(18.4)・—	①密 比較的精選　②硬質 ③茶褐色　④上半2/3	薄手で、口縁肥厚。頸部～口縁はコの字状。口唇部つまみあげ。外面はヨコケズリとタテケズリ。内面はヨコヘラナデ。	
31	H-13 床面	土師器 坏	11.6・4.4・—	①密 赤色粒　②やや軟質 ③橙褐色　④一部欠損	扁平な丸底風。有稜で、口縁は長く直立、口端部外湾。全体に厚手。	
32	H-13 埋土	土師器 坏	[13.0]・(4.2)・—	①密 赤色粒　②やや軟質 ③淡茶褐色　④1/3	丸底。ゆるい稜。口縁は長く、直線的に外傾。口縁はヨコナデ。外面底部はケズリ。内面はナデ。	
33	H-13 床・埋土	土師器 高坏	13.5・13.4・12.9	①密 小礫　②硬質 黒斑 ③茶褐色　④口縁 一部欠損	坏部はＳ字状で有段。坏部ヨコナデ後、内面に放射状ミガキ。脚部はタテケズリ。裾部ヨコナデ、内面はオサエとヨコナデ。	
34	H-13 埋土	土師器 甕	[21.0]・(8.2)・—	①やや粗 小礫多　②硬質 黒斑 ③茶褐色　④上半1/3	球胴か。肩部張る。頸部ゆるやかに外反。口端部つまみあがる。口縁ヨコナデ、外面肩部ヨコケズリ、内面ヨコナデ。	須恵器甕の模倣か。
35	H-13 竈	土師器 甕	[18.8]・(18.0)・—	①密 小礫多　②硬質 黒斑 ③赤茶褐色　④上半1/4	長胴。全体に厚手。肩部の張りは無く、口縁部外反。口縁内外にヘラナデ。胴部外面にタテケズリ、内面ヨコヘラナデ。	
36	H-13 竈袖部	土師器 甕	—・(34.3)・6.2	①やや粗 小礫多　②硬質 ③灰茶～茶褐色　④口縁欠損	長胴。肩部の張りは無い。底部木葉痕。外面はタテケズリ、内面はヨコヘラナデ。調整は粗略。	外面に被熱痕。
37	H-13 床面	土師器 甑	21.3・25.5・8.0	①密 小礫多　②硬質 黒斑 ③淡黄褐色　④上半2/3 下半完存	戴頭の砲弾形。口縁外反。口縁ヨコナデ。外面タテケズリとヨコケズリ。内面ヨコヘラナデ後、下半にミガキ状の丁寧なナデ。	
38	H-14 床面	土師器 台付甕	11.5・14.0・8.5	①やや粗 角閃石　②硬質 ③茶褐色　④虫食い状に欠損	小型。ゆるいコの字口縁。薄手。口縁ヨコナデ。外面上半ヨコケズリ。内面ヨコヘラナデ、上半に一部指ナデ、脚内外ヨコナデ。	
39	H-15 床面	須恵器 坏	[14.7]・3.8・7.0	①密　②硬質 ③黒灰～灰黄色　④2/3 底部完存	轆轤成形。轆轤目は弱い。体部内湾気味。口縁外湾。回転糸切り。	
40	H-15 床面	須恵器 坏	12.9・3.2・5.6	①密　②やや軟質 ③灰黄色　④2/3	轆轤成形。轆轤目は弱い。体部内湾、口縁外湾。回転糸切り。	全面漆塗膜。被熱痕の変色有。
41	H-15 埋土	須恵器 坏	[14.0]・3.8・[7.0]	①密　②硬質 黒斑 ③灰黄色 断面赤橙色　④破片	轆轤成形。体部内湾、口縁ほぼ直線的に外反。回転糸切り。	内面に墨書。
42	H-15 床面	須恵器 皿	13.3・2.6・8.5	①密 黒色粒　②堅緻 ③淡灰色　④1/2	轆轤成形。高台ハの字。体部～口縁ほぼ直線的に開く。	
43	H-15 床面	須恵器 皿	14.5・2.3・7.2	①密　②堅緻 ③淡灰色　④口縁一部欠損	轆轤成形。高台はリング状。口縁はほぼ水平に伸びる。回転糸切り後、高台貼付。周辺を回転ナデ。	被熱で赤褐色に一部変色。
44	H-15 床面	須恵器 瓶	—・(7.4)・9.4	①密 長石 黒色粒　②堅緻 ③灰色　④下半略完存	轆轤成形。外面回転ヘラナデ。貼付高台。	
45	H-16 床面	須恵器 盤	[24.0]・(3.9)・[21.0]	①密 黒色粒　②堅緻 ③灰色　④破片	轆轤成形。全体に厚手。凸底。体部わずかに内湾。口縁直立。底部外面は右回転のケズリ。	
46	H-17 埋土	須恵器 坏	—・(1.1)・[7.1]	①密 小礫　②硬質 黒斑 ③灰黄色　④下半1/2	轆轤成形。凹底。回転糸切り。	

遺物番号	出土層位	器種	口径・器高・底径(cm)	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備考
47	H-18 床面	土師器 坏	13.2・4.0・8.4	①密　②やや軟質 ③橙褐色　④略完存	箱形。体部やや内湾、口縁直立。口縁ヨコナデ、体部外面ヨコケズリ、内面ヘラナデ。底面ケズリ後、周辺にヘラナデ。	
48	H-19 床面	灰釉陶器 皿	15.0・3.5・7.0	①密 黒色微粒　②堅緻 ③淡灰色　④1/2	轆轤成形。三日月高台。体部内湾。口縁直線的に開く。高台貼付後、底面全面回転ナデ。高台周辺と内面中央部無釉。	
49	H-20 床面	灰釉陶器 埦	[14.3]・(3.4)・—	①密 黒色粒　②堅緻 ③灰黄色　④上半1/3	轆轤成形。体部わずかに内湾。口縁直線的に外反。内外面下半は無釉。	
50	H-20 埋土	須恵器 皿	[13.7]・3.1・[8.0]	①密 黒色粒　②堅緻 ③青灰色　④1/2	轆轤成形。高台ハの字状。体部～口縁直線的に開く。高台は造り出しか。	
51	H-20 床面	須恵器 坏	[15.5]・3.6・[10.0]	①やや粗 黒色粒　②堅緻 ③灰白色　④1/3	轆轤成形。轆轤目弱い。凹底。体部内湾気味。口縁直線的に外反。回転糸切り。	
52	H-20 床面	須恵器 皿	14.4・3.1・6.4	①密　②硬質 黒斑 ③暗灰黄色　④完存	轆轤成形。高台はリング状。体部わずかに内湾。口縁水平に伸びる。回転糸切り後、高台貼付。周辺回転ナデ。	内面に油煙付着。
53	H-21 床面	須恵器 高台坏	13.7・5.2・6.3	①やや粗 小礫　②硬質 黒斑 ③灰茶褐色　④完存	轆轤成形。轆轤目弱い。厚手。体部わずかに内湾。口端部肥厚し外湾。回転糸切り後高台貼付。周辺回転ナデ。	内外面に油煙付着。被熱痕。
54	H-22 床面	須恵器 皿	[14.4]・2.4・[6.3]	①密 黒色粒　②硬質 ③暗灰黄色　④1/2	轆轤成形。高台リング状。体部～口縁直線的に開く。回転糸切り後、高台貼付。周辺回転ナデ。全体に厚手。	
55	H-23 掘り方	緑釉陶器 皿	—・(1.6)・[8.1]	①密　灰色　②堅緻 ③灰色　④破片	轆轤成形。内面に沈線２条。造り出し高台か。全面に施釉。	
56	H-23 床面	須恵器 高台坏	11.6・(5.4)・—	①密 赤色粒　②硬質 ③橙褐色　④脚端欠損 口縁2/3	轆轤成形。埦形。高台はハの字か。体部～口縁内湾して立ち上がる。高台貼付後、底面全面回転ナデ。丁寧な作り。	
57	H-24 床面	灰釉陶器 皿	[13.2]・2.75・6.1	①密 灰黄色　②堅緻 ③灰黄色　④高台3/4 口縁1/8	轆轤成形。三日月高台。体部～口縁内湾気味。高台貼付後、底面全面回転ナデ。高台と内面中央無釉。刷毛掛け。	
58	H-24 床面	須恵器 坏	11.2・3.2・6.2	①密 黒色粒　②堅緻 ③灰白～暗灰色　④1/2	轆轤成形。轆轤目弱い。やや厚手。体部内湾気味。口縁わずかに外反。回転糸切り。	内面に油煙付着。
59	H-25 床面	須恵器 高台坏	15.9・(5.4)・—	①密 小礫 赤色粗粒　②硬質黒斑 ③橙褐色　④口縁5/6	轆轤成形。埦形。体部～口縁内湾。回転糸切り後、高台貼付。周辺回転ナデ。黒色処理後、太目のタテ・ヨコのミガキ。	
60	H-26 床面	灰釉陶器 埦	—・(3.0)・[7.8]	①緻密 黒色粒 淡灰色　②堅緻 ③淡灰色　④破片	轆轤成形。三日月高台。体部内湾。貼付高台。高台部と内面中央部は無釉。	
61	H-26 床面	須恵器 坏	[13.2]・4.6・6.7	①やや粗　②硬質 黒斑 ③灰黄～黒灰色　④1/2	轆轤成形。轆轤目弱い。高台はリング状。体部内湾、口縁外湾。回転糸切り後、高台貼付。周辺は回転ナデ。	
62	H-26 床面	灰釉陶器 埦	[14.8]・4.5・8.0	①密 黒色粒 灰黄色　②堅緻 ③灰黄色　④1/2	轆轤成形。高台ハの字に開く。体部内湾気味、口端部わずかに外反。高台貼付後、全面回転ナデ。高台部と内面中央無釉。	
63	H-26 床面	須恵器 埦	[15.8]・5.15・7.7	①密 赤色粒　②硬質 黒斑 ③黄褐色　④底部完存 口縁1/5	轆轤成形。平底。体部～口縁内湾気味。体部下半～底部右回転ケズリ。内面黒色処理後、内面と口縁外面にミガキ。	外面に墨書。
64	H-27 埋土	須恵器 羽釜	[24.0]・(6.0)・—	①粗 小礫多　②硬質 ③淡茶褐色　④破片	轆轤成形。口縁内傾。	
65	H-28 床面	土師器 甑	[18.2]・(9.3)・—	①粗 小礫　②硬質 ③淡黄褐色　④1/10 底部欠損	外面はヨコナデとヘラミガキ。内面はヨコナデとヘラナデ。	
66	H-29 埋土	灰釉陶器 埦	—・(2.3)・[8.0]	①密 黒色粒 灰黄色　②堅緻 ③灰色　④1/5	轆轤成形。三日月高台。外面下半に回転ケズリ。遺存部は無釉。	
67	H-29 埋土	須恵器 高台坏	[13.8]・4.6・[8.4]	①粗 小礫多　②硬質 ③黒褐色　④1/4	轆轤成形。作り方は粗い。全体に厚手。	
68	H-29 床面	須恵器 坏	—・(2.6)・5.3	①密 白色粒　②堅緻 ③黒褐色　④1/2	轆轤成形。内面はミガキ。底面は回転糸切り後周辺に粗略な手持ちヘラナデ。	
69	H-30 床面	須恵器 坏	[12.9]・2.5・7.7	①密 黒色粒　②堅緻 ③灰色　④1/4	轆轤成形。底径大で凹底。器高低い。底面は回転糸切り。	
70	H-31 床面	須恵器 蓋	—・3.9・22.6	①密 黒色粒　②堅緻 ③灰色　④3/4	轆轤成形。有かえり。ボタン状つまみ。天井部回転ケズリ。	
71	H-31 床面	須恵器 皿	13.8・2.3・7.6	①密 赤色粒　②堅緻 ③青灰色　④ほぼ完形	轆轤成形。回転糸切り後、高台貼付、周辺回転ナデ。	
72	H-31 床面	須恵器 皿	[12.5]・2.5・6.8	①密　②堅緻 ③黄褐色　④2/3	轆轤成形。全体に厚手。回転糸切り後、高台貼付、周辺回転ナデ。内面黒色処理とヘラミガキ。	
73	H-31 埋土	須恵器 皿	14.6・3.3・8.2	①密 白色粒　②堅緻 ③青灰色　④4/5	轆轤成形。底面はヘラ起こし後、高台貼付して、回転ナデ。	
74	H-31 埋土	須恵器 坏	[14.3]・[3.9]・[8.2]	①密 赤色粒　②堅緻 ③青灰色　④1/3	轆轤成形。凹底。体部～口縁直線的に外反。	
75	H-31 埋土	須恵器 坏	[14.4]・(4.0)・—	①密　黒色粒　②堅緻 ③灰色　④1/5	高台坏か。轆轤成形。体部下半は内湾気味。口縁わずかに外湾。	
76	H-31 床面	須恵器 高台坏	—・(2.3)・7.6	①密　白色粒　②堅緻 ③黒灰色　④1/4	轆轤成形。回転糸切り後、高台貼付、周辺回転ナデ。	
77	H-31 床下	須恵器 高台坏	[15.6]・6.0・8.0	①密 ②堅緻 ③灰色　④2/3	轆轤成形。口縁～体部は直線的に外反。器高高い。回転糸切り後、高台貼付、周辺回転ナデ。	

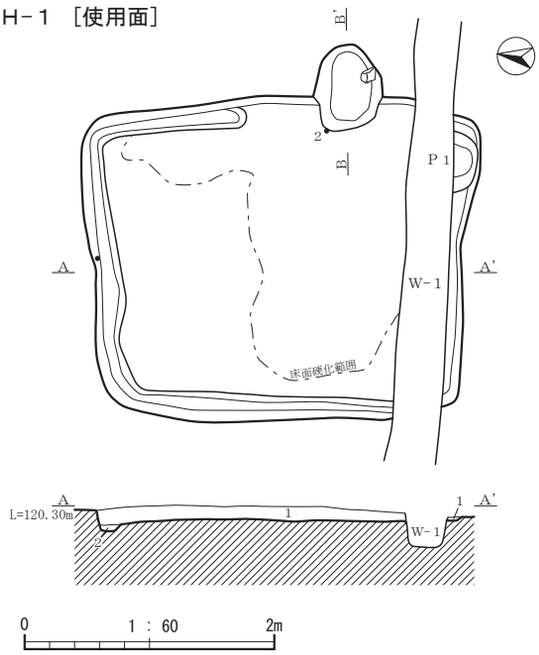
遺物番号	出土層位	器種	口径・器高・底径(cm)	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備考
78	H-31 床面	須恵器 坏	9.4・2.5・5.0	①密 白色粒　②硬質 ③茶褐色　④ほぼ完形	轆轤成形。小ぶりな器形。回転糸切り。	
79	H-31 床面	須恵器 高台坏	—・(5.8)・9.8	①密 黒色粒　②堅緻 ③灰色　④下半1/2	轆轤成形。埦形。厚手。回転糸切り後、高台貼付、周辺回転ナデ。	
80	H-31 床下	土師器 坏	[13.0]・(3.7)・—	①密 白色粒　②硬質 ③茶褐色　④1/8	丸底。口縁は直立。口端部わずかに外反。口縁ヨコナデ、外面ケズリ、内面ヘラナデ。	混入遺物。
81	H-31 床面	土師器 台付甕	—・(6.9)・6.8	①密 白色粒 黒色粒　②硬質 ③赤褐色　④下半1/3	脚はハの字に開く。球胴。外面ヨコケズリ。内面ヨコヘラナデ。	混入遺物。
82	H-32 床面	須恵器 皿	12.9 ・2.8・7.0	①やや粗 白色粒　②硬質 ③暗褐色　④完形	轆轤成形。小ぶりな器形。口縁外反。回転糸切り後、高台貼付、周辺ナデ。内面黒色処理後、ミガキ。	
83	H-32 床面	須恵器 高台坏	—・(2.1)・8.5	①密 白色粒 黒色粒　②堅緻 ③灰色　④1/5	轆轤成形。高台ハの字に開く。回転糸切り後、高台貼付、周辺ナデ。	
84	H-32 埋土	土師器 坏	—・(0.35)・—	①密 黒色粒　②硬質 ③黄褐色　④破片	底部片。内面はナデ。底面はヘラケズリ。	底部内面に墨書。混入。
85	H-32 床面	須恵器 高台坏	14.7・5.1・7.9	①密 小礫 赤色粒　②硬質 ③茶褐色　④2/3 高台欠損	轆轤成形。埦形。轆轤目強め。回転糸切り後、高台貼付、周辺ナデ。内面黒色処理後、放射状ミガキ。	高台破損面を磨いている。
86	H-32 床面	須恵器 坏	[12.6]・3.85・6.1	①密 白色粒　②堅緻 ③灰色　④1/3	轆轤成形。体部内湾気味。口縁外反。回転糸切り。	
87	H-32 埋土	土師器 坏	12.2 ・(3.65)・—	①やや粗 白色・黒色粒　②硬質 ③赤褐色　④1/3	外面はヘラケズリ。内面はナデ。丸底。口縁ゆるやかに屈曲してわずかに内傾。口縁ヨコナデ。	混入遺物。
88	H-33 床面	須恵器 蓋	13.8 ・3.85・3.5	①密 黒色粒　②堅緻 ③暗青灰色　④4/5	轆轤成形。ボタン状のつまみ。ドーム状の天井。端部は水平に伸びる。かえり無し。天井右回転ヘラケズリ。	
89	H-33 床面	須恵器 皿	14.2・2.6・7.4	①密 小礫　②堅緻 ③淡灰～暗灰色　④一部欠損	轆轤成形。高台はリング状。体部は直線的。口縁は水平に伸びる。回転糸切り後、高台貼付、周辺回転ナデ。	内面に重ね焼き痕。
90	H-33 埋土	須恵器 坏	13.6・3.0・7.0	①密 小礫　②硬質 ③灰黄～暗灰色　④一部欠損	轆轤成形。轆轤目弱い。凹底。体部内湾。口端部外湾。回転糸切り。器高低い。	被熱による変色部あり。
91	H-33 床面	須恵器 坏	13.6 ・3.2・7.0	①やや粗 黒色粒　②堅緻 ③灰白～暗灰色　④2/3	轆轤成形。轆轤目弱い。凹底。体部わずかに内湾気味。口縁直線的に外反。回転糸切り。器高低い。	
92	H-33 床面	須恵器 高台坏	[14.6]・6.0・7.1	①密 黒色粒 白色粒　②堅緻 ③暗青灰色　④2/3	轆轤成形。轆轤目やや強め。体部内湾。口縁直立。高台はハの字状。回転糸切り後、高台貼付、周辺回転ナデ。	
93	T-2 埋土	須恵器 皿	[18.0]・2.9・9.4	①やや粗　②堅緻 ③灰白色　④2/3	轆轤成形。高台ハの字。体部わずかに内湾、口縁略水平に伸びる。回転糸切り後、高台貼付、周辺ナデ。大ぶりな器形。	
94	T-2 埋土	須恵器 皿	[13.6]・2.55・7.4	①密 黒色細粒多　②堅緻 ③青灰色　④高台完存 口縁1/5	轆轤成形。高台ハの字状に開く。体部直線的。口縁わずかに外湾して伸びる。回転糸切り後、高台貼付、周辺回転ナデ。	
95	T-2 埋土	須恵器 高台坏	[16.6]・5.0・9.0	①密 黒色粒　②堅緻 ③黒灰～灰白色　④1/2	轆轤成形。高台ハの字状に開く。身は深く埦形。体部内湾。口縁は直線的に開く。回転糸切り後、高台貼付、周辺回転ナデ。	
96	T-2 埋土	須恵器 高台坏	15.0・5.1・9.2	①密 黒色粒　②堅緻 ③青灰色　④高台完存 口縁1/2	轆轤成形。高台ハの字。轆轤目弱い。体部内湾。口縁わずかに外湾。回転糸切り後、高台貼付、周辺回転ナデ。	
97	T-2 埋土	須恵器 高台坏	14.3・(5.4)・[6.3]	①密 白色粒 黒色粒　②堅緻 ③暗青灰色　④3/4	轆轤成形。轆轤目やや強め。体部～口縁直線的に外反。回転糸切り後、高台貼付、周辺回転ナデ。	高台破損面を磨いている。
98	T-2 埋土	須恵器 高台坏	[15.8]・5.2・8.4	①密　②堅緻 ③灰黄～黒灰色　④1/2	轆轤成形。高台は薄くリング状。体部わずかに内湾。口縁直線的。回転糸切り後、高台貼付、周辺回転ナデ。	
99	T-2 埋土	土師器 台付甕	—・(4.5)・[15.8]	①密 角閃石　②硬質 ③茶褐色　④脚部1/3	小型台付甕。ハの字に開き、さらに裾広がり。脚部は回転ナデ。甕の内面と底面はヘラナデ。	
100	T-3 埋土	須恵器 蓋	—・4.0・[17.3]	①密 黒色粒多　②堅緻 ③青灰色　④天井・つまみ部遺存	轆轤成形。環状つまみ。天井平坦。端部は直線的に開く。かえり無し。	
101	T-3 埋土	須恵器 坏	16.2・4.05・12.0	①やや粗 長石多　②堅緻 ③暗青灰色　④1/2	轆轤成形。大型。やや凸底。体部～口縁略直線的に外反。底部回転ケズリ。	
102	T-3 埋土	土師器 坏	11.2・3.1・—	①密 赤色粒　②硬質 ③茶褐色　④1/2	丸底風。中央部は略平坦。底部～口縁の境に稜。口縁内傾。口縁ヨコナデ。稜下はオサエ、その下はケズリ。	
103	T-3 埋土	土師器 坏	13.75・3.85・—	①やや粗 赤色粒　②硬質 黒斑 ③茶褐色　④1/2強	丸底。底部～口縁内湾。口端部わずかに内傾。口縁ヨコナデ。外面ケズリ。内面ナデ。	
104	T-3 埋土	土師器 皿	18.2・3.0・—	①密　②やや軟質 ③茶褐色　④1/2強	丸底。口縁との境に鋭角な稜。口縁くの字に屈曲。口縁ヨコヘラナデ。底部外面ケズリ。内面上半ヘラナデ。中央部ナデ。	
105	T-3 埋土	土師器 坏	[13.6]・(3.55)・—	①密　②硬質 ③茶褐色　④1/3	丸底。底部より屈曲して口縁、口縁内傾。口縁ヨコナデ。底部上半オサエ。下半ケズリ。内面ナデ。	
106	T-3 埋土	土師器 皿	18.85・3.9・—	①やや密 角閃石　②硬質 黒斑 ③茶褐色　④3/4	扁平な丸底。口縁との境にゆるい稜。口縁外湾。口縁ヨコヘラナデ。底部外面ケズリ。内面上半ヘラナデ、中央部ナデ。	油煙付着。

遺物番号	出土層位	器種	口径・器高・底径(cm)	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備考
107	T-4 埋土	須恵器 坏	[13.2]・3.2・8.4	①密　②硬質 ③淡灰～黒灰色　④2/3強	轆轤成形。轆轤目弱い。凹底。体部～口縁直線的に外反。回転糸切り。器高低い。	
108	T-4 埋土	須恵器 坏	13.4・3.2・7.7	①緻密 黒色粒多　②堅緻 ③青灰色　④2/3	轆轤成形。凹底。体部内湾。口縁わずかに外湾。轆轤目強め。回転糸切り。器高低い。	内部底面に「＋」の線刻。
109	T-4 埋土	須恵器 坏	13.4・3.6・7.4	①緻密　②硬質 ③灰白～黒灰色　④一部欠損	轆轤成形。凹底。体部内湾。口縁わずかに外湾。轆轤目弱い。回転糸切り。	
110	T-4 埋土	須恵器 盤	18.2・4.8・12.0	①密 黒色粒　②堅緻 ③灰白色　④1/2	轆轤成形。体部下半内湾。上半～口縁直線的に外反。高台貼付後、回転ケズリ。	
111	T-4 埋土	土師器 坏	13.2・4.1・—	①密 角閃石　②硬質 ③茶褐色　④2/3	丸底。底部上半～口縁内湾。口端部内傾。口縁ヨコナデ。外面ケズリ。内面上半ヨコナデ。中央部ナデ。	
112	T-4 埋土	須恵器 甕	17.4・(6.2)・—	①密 白色粒　②堅緻 ③暗灰色　④上半略完存	肩の張る器形。外面は、頸部に凸線、胴部に平行タタキ。内面が同心円当具痕。	
113	T-4 埋土	土師器 坏	12.1・3.5・—	①密　②硬質 ③茶褐色　④完存	丸底。底部上半～口縁内湾。口端部内傾。口縁ヨコナデ。底部上半オサエ。下半ケズリ。内面上半ヨコナデ。中心部ナデ。	
114	T-4 埋土	土師器 坏	[11.2]・3.7・—	①密 黒色粗粒　②硬質 ③暗茶褐色　④1/3強	丸底。底部上半～口縁内湾。口端部内傾。口縁ヨコナデ。底部上半オサエ。下半ケズリ。内面上半ヨコナデ。中心部ナデ。	
115	T-4 埋土	須恵器 甕	—・(10.3)・—	①密 白色粒 黒色粒　②堅緻 ③灰色　④上半1/2	外面はタタキ後、上半に回転ケズリ。内面は同心円？当具痕。	
116	D-7 埋土	須恵器 高台坏	[15.2]・4.2・7.6	①密　②堅緻 ③灰白色　④高台完存 口縁1/6	轆轤成形。轆轤目強め。高台環状。体部～口縁直線的に外反。回転糸切り後、高台貼付、周辺回転ナデ。	
117	D-16 埋土	灰釉陶器 埦	13.2・4.1・7.0	①密　②堅緻 ③灰黄色　④一部欠損	轆轤成形。三日月高台。体部内湾。口縁やや外反。高台貼付後、底面全面回転ナデ。高台と内底面中央無釉。漬け掛け。	
118	D-17 埋土	須恵器 高台坏	[13.0]・4.8・(6.4)	①粗 小礫　②硬質 黒斑 ③暗灰茶褐色　④1/4	轆轤成形。轆轤目弱い。体部直線的、口縁肥厚し、わずかに外反。回転糸切り後、高台貼付、周辺を粗略な回転ナデ。	
119	D-21 埋土	須恵器 坏	—・(2.0)・6.5	①密 黒色粒　②硬質 ③灰色～茶褐色　④底部完存	轆轤成形。回転糸切り。	
120	D-21 埋土	須恵器 高台坏	—・(2.5)・(7.0)	①密 石英微量やや多　②硬質 ③灰～灰茶褐色　④高台略完存	轆轤成形。高台ハの字に開く。厚手。回転糸切り後、高台貼付、周辺回転ナデ。	内面に一部油煙付着。
121	D-24 埋土	緑釉陶器 埦	14.1・3.7・6.4	①密 黄色 黒色粒　②硬質 ③黄褐色　④3/4	轆轤成形。台状の底部。体部～口縁ゆるやかに外湾。釉は淡い緑で全釉。切り離し不明。	
122	D-24 埋土	緑釉陶器 皿	[13.9]・(2.4)・—	①密 淡黄色　②硬質 ③黄褐色　④1/10以下	轆轤成形。口端部は水平に伸びる。釉は淡い緑。	
123	D-24 埋土	須恵器 蓋	—・3.5・[15.1]	①密 白色粒　②堅緻 ③青灰色　④2/3	轆轤成形。回転糸切り後、環状つまみ貼付。端部折り曲げ。天井部回転ケズリ。	
124	D-24 埋土	須恵器 蓋	—・(3.3)・—	①密 黒色粒　②堅緻 ③白灰色　④2/3 端部欠損	轆轤成形。環状つまみ。天井部回転ケズリ。	
125	D-24 埋土	須恵器 蓋	—・3.65・[24.0]	①密 赤色粒 小礫　②堅緻 ③濃灰色　④1/2	轆轤成形。擬宝珠状つまみ。端部折り曲げ。天井部回転ケズリ。	
126	D-24 埋土	須恵器 蓋	—・3.7・[17.1]	①密 黒色粒　②堅緻 ③青灰色　④3/4	轆轤成形。環状つまみ。端部折り曲げ。天井部回転ケズリ。	
127	D-24 埋土	須恵器 皿	14.7・3.0・7.5	①密 小礫　②堅緻 ③濃灰色　④ほぼ完形	轆轤成形。体部～口縁直線的。回転糸切り後、高台貼付、周辺ナデ。	
128	D-24 埋土	須恵器 皿	[14.2]・3.0・[8.4]	①密 白色粒　②堅緻 ③青灰色　④1/2	轆轤成形。全体に薄手。体部～口縁直線的。回転糸切り後、高台貼付、周辺ナデ。	
129	D-24 埋土	須恵器 皿	—・(2.55)・8.1	①密 黒色粒　②堅緻 ③灰色　④1/3	轆轤成形。回転糸切り後、高台貼付、周辺ナデ。	底部外面に墨書。
130	D-24 埋土	須恵器 皿	[16.1]・3.2・[8.0]	①密 白色粒　②堅緻 ③濃灰色　④1/2	轆轤成形。体部直線的。口端部水平に伸びる。回転糸切り後、高台貼付、周辺ナデ。	
131	D-24 埋土	須恵器 皿	14.4・2.8・[9.2]	①密 白色粒　②堅緻 ③灰色　④1/2	轆轤成形。高台ハの字に開く。体部直線的。口端部水平に伸びる。回転糸切り後、高台貼付。	
132	D-24 埋土	須恵器 坏	12.8・3.7・7.5	①密 白色粒　②堅緻 ③濃灰色　④ほぼ完形	轆轤成形。体部～口縁直線的。回転糸切り後、周辺回転ケズリ。	
133	D-24 埋土	須恵器 坏	12.45・2.9・7.5	①密 白色粒　②堅緻 ③紺色　④完形	轆轤成形。凹底。体部直線的。回転糸切り。	
134	D-24 埋土	須恵器 坏	12.7・3.3・7.5	①密 小礫　②堅緻 ③灰色　④ほぼ完形	轆轤成形。凹底。体部直線的。回転糸切り。	
135	D-24 埋土	須恵器 坏	13.1・3.1・7.8	①密 白色粒　②堅緻 ③黄灰色　④ほぼ完形	轆轤成形。凹底。体部直線的。回転糸切り。	
136	D-24 埋土	須恵器 坏	14.1・3.5・8.1	①密 黒色粒　②堅緻 ③黄灰色　④ほぼ完形	轆轤成形。凹底。体部直線的。回転糸切り。	
137	D-24 埋土	須恵器 坏	11.5・3.5・6.0	①密 白色粒 小礫　②堅緻 ③濃灰色　④完形	轆轤成形。体部内湾気味。口縁ゆるやかに外反。回転糸切り。	
138	D-24 埋土	須恵器 坏	[12.7]・3.4・[7.6]	①密 白色粒　②堅緻 ③黄灰色　④1/3	轆轤成形。体部わずかに内湾。回転糸切り。	
139	D-24 埋土	須恵器 坏	12.8・3.2・6.0	①やや粗 白色・赤色粒　②硬質 ③黒褐色　④3/4	轆轤成形。底径小。体部内湾。内面黒色処理後、ミガキ。	
140	D-24 埋土	須恵器 坏	[12.2]・4.5・6.0	①やや粗 白色粒 小礫　②硬質 ③黒褐色　④3/4	轆轤成形。底径小。体部内湾。口端部外反。内面黒色処理後、ミガキ。	

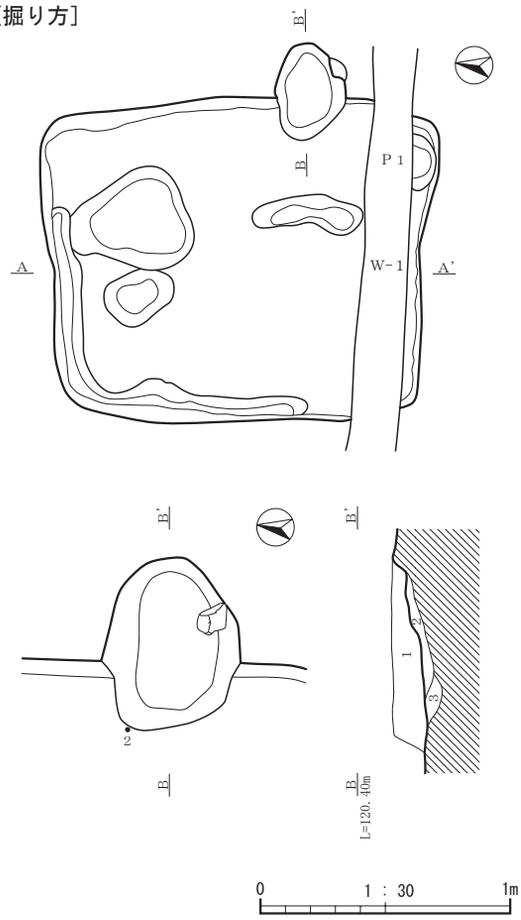
遺物番号	出土層位	器種	口径・器高・底径(cm)	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備考
141	D-24 埋土	須恵器 坏	[12.9]・4.9・5.9	①やや粗 白色粒 小礫　②硬質 ③茶褐色　④2/3	轆轤成形。凹底。体部内湾。口端部外反。	
142	D-24 埋土	須恵器 高台坏	—・(3.4)・8.0	①密 白色粒　②堅緻 ③黄灰色　④1/3	轆轤成形。体部直線的。回転糸切り後、高台貼付、周辺ナデ。	
143	D-24 埋土	須恵器 高台坏	—・(3.35)・6.8	①密 黒色粒　②堅緻 ③灰色　④1/3	轆轤成形。体部直線的。回転糸切り後、高台貼付、周辺ナデ。	
144	D-24 埋土	須恵器 高台坏	[15.1]・6.1・8.1	①密 白色粒　②堅緻 ③黄灰色　④1/2	轆轤成形。逆台形状の器形。体部直線的。回転糸切り後、高台貼付、周辺ナデ。	
145	D-24 埋土	須恵器 小型壺	—・(10.6)・7.8	①密 白色粒　②堅緻 ③黒灰色　④4/5	轆轤成形。球胴。貼付高台。胴部下端に回転ヘラナデ。	円形のハゼ痕多数。
146	D-24 埋土	須恵器 甕	—・—・—	①密 小礫　②堅緻 ③灰色　④1/10	内外面ロクロナデ。外面に波状文、その上下に凹線。	
147	D-24 埋土	須恵器 坏	—・(5.05)・6.3	①密 白色粒　②堅緻 ③赤灰色　④底部完存	轆轤成形。小ぶりな器形。体部直線的。回転糸切り後、高台貼付、周辺ナデ。	
148	D-24 埋土	土師器 坏	13.2・3.8・9.6	①やや粗 石英 小礫　②硬質 ③赤褐色　④ほぼ完形	やや凸底。厚手。箱形。体部ヨコケズリ、底部ケズリ。口縁ヨコナデ。内面ヨコヘラナデ。	
149	D-24 埋土	土師器 坏	12.45・3.95・9.7	①密 小礫　②硬質 ③赤褐色　④ほぼ完形	やや凸底。薄手。体部内湾。口縁ヨコナデ、体部ヨコケズリ、底部ケズリ。内面ナデ後、放射状・ラセン状暗文。	暗文土器。
150	D-24 埋土	土師器 坏	11.5・3.2・9.7	①やや粗 白色粒　②硬質 ③赤褐色　④3/4	やや凸底。体部わずかに内湾。口縁幅広のヨコナデ。体部下端～底部ケズリ。内面ナデ。	
151	D-24 埋土	土師器 坏	11.6・3.4・7.8	①やや粗 白色粒　②硬質 ③赤褐色　④2/3	やや凸底。体部やや内湾。口端部外反。口縁幅広のヨコナデ。体部下端指オサエ。底部ケズリ。内面ナデ。	
152	D-24 埋土	土師器 坏	11.9・3.3・8.6	①やや粗 白色粒　②硬質 ③赤褐色　④4/5	やや凸底。体部内湾。口縁内湾気味に立ち上がる。口縁幅広のヨコナデ。体部下端指オサエ。底部ケズリ、内面ヨコナデ。	
153	D-24 埋土	土師器 台付甕	—・(2.6)・[8.4]	①密 白色粒　②硬質 ③赤褐色　④脚 1/4	ハの字に大きく開く。外面はヨコナデ。内面はナデ。	
154	D-26 埋土	須恵器 坏	12.65・3.8・6.0	①やや 小礫　②硬質 土師質 ③暗茶褐色　④4/5	轆轤成形。轆轤目弱め。凹底。体部内湾。口縁外湾。回転糸切り。	
155	D-26 埋土	須恵器 高台坏	[14.6]・4.8・7.0	①密 石英微量やや多　②硬質 ③灰～黒灰色　④1/2	轆轤成形。轆轤目強め。体部内湾。口縁外湾。高台貼付後、底面全面回転ナデ。	
156	D-26 埋土	須恵器 高台坏	—・(2.1)・7.0	①やや粗　②硬質 ③黄褐色　④高台完存	轆轤成形。高台環状。内面黒色処理後、ミガキ。回転糸切り後、高台貼付、周辺回転ナデ。	
157	D-26 埋土	須恵器 甕	—・(12.2)・—	①やや粗 黒色・白色粒　②堅緻 ③暗青灰色　④上半1/2	轆轤使用。頸部下半直立。上半外湾。肩部は丸く張る。	
158	D-26 埋土	土師器 坏	[11.8]・(3.6)・[6.8]	①粗 小礫 黒色粗粒　②硬質 ③暗茶褐色　④1/3	やや凸底。体部ほぼ直線的。口縁短く直立で、つまみ上がる。底部～体部下半ケズリ。体部上半オサエ。内面ヨコナデ。	
159	D-26 埋土	須恵器 甕	—・(7.2)・13.6	①密 黒色粒　②堅緻 ③暗青灰色　④下半3/4	轆轤使用。外面下端に回転ケズリ。内面ヨコ指ナデ。回転ケズリ後、高台貼付、周辺回転ナデ。	底面に須恵器片融着。
160	W-26 埋土	須恵器 坏	[14.2]・2.9・[7.6]	①密 黒色微細粒多　②堅緻 ③灰色　④破片 口縁1/4	轆轤成形。轆轤目弱め。体部内湾。口縁直線的に外反。回転糸切り。器高低い。	
161	W-26 埋土	土師器 坏	[10.4]・3.1・[3.2]	①やや粗 角閃石　②硬質 ③暗茶褐色　④破片	平底か。体部下半内湾。体部上半～口縁ゆるやかなSの字状。口縁ヨコナデ。体部指ナデ、オサエ。底面ヘラナデか。	
162	A-1 埋土	須恵器 坏	—・(1.0)・[7.6]	①やや粗 石英微細粒　②堅緻 ③淡灰色　④破片	轆轤成形。回転糸切り。	底部内面に墨書。
163	A-1 埋土	須恵器 高台坏	[13.9]・4.5・[7.0]	①密 小礫　②堅緻 ③淡灰色　④1/4	轆轤成形。轆轤目弱い。体部直線的、口縁わずかに外湾。回転糸切り後、高台貼付、周辺回転ナデ。	
164	A-1 埋土	須恵器 高台坏	—・(1.9)・6.2	①密 黒色粒　②堅緻 ③灰色　④高台完存	轆轤成形。回転糸切り後、高台貼付、周辺回転ナデ。	
165	A-1 埋土	須恵器 高台坏	—・(3.0)・9.2	①密 黒色粒　②堅緻 ③淡灰色　④高台略完存	轆轤成形。高台はハの字に開く。回転糸切り後、高台貼付、周辺回転ナデ。	
166	A-1 埋土	須恵器 高台坏	—・(2.7)・7.2	①密　②硬質 土師質　③茶褐色 内面黒茶褐色　④高台 3/4	轆轤成形。体部直線的。回転糸切り後、高台貼付、周辺回転ナデ。高台は粗略なつくり。	
167	A-1 埋土	須恵器 高台坏	—・(2.7)・[8.4]	①やや粗 黒色粒　②堅緻 ③淡灰色　④破片	轆轤成形。糸切り後、高台貼付、周辺回転ナデ。	底部内面に墨書。
168	A-1 埋土	須恵器 甕	[30.0]・(8.0)・—	①密 黒色粒　②堅緻 ③暗灰色　④口縁 1/4	轆轤ナデ。肩部内面に同心円当具痕。	自然釉。
169	A-1 埋土	鉄器 刀子	切先、茎尻欠損。平造で、棟区と刃区をもつ。現長22.7cm、刃部現長14.1cm、刃幅1.5cm。茎現長8.6cm、茎幅1.1cm。茎片面に木質部が残る。			
170	P-1 埋土	古銭	「嘉祐元宝」 初鋳年1056年　径2.37cm　量目3.10g　背文なし。			
171	調査区 一括	古銭	「皇宋通宝」 初鋳年1038年　径2.398cm　量目3.28g　背文なし。			
172	調査区 一括	古銭	「太平通宝」 初鋳年976年　径2.486cm　量目2.52g　背文なし。			
173	P-21 埋土	須恵器 高台坏	—・(1.9)・7.2	①密　黒色粒　②堅緻 ③灰色　④高台完存	轆轤成形。高台リング状。回転糸切り後、高台貼付、周辺回転ナデ。	

８区の遺構

H－１［使用面］



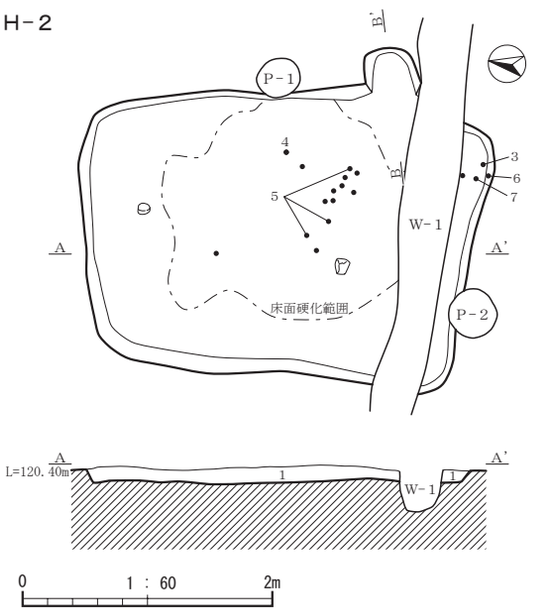
［掘り方］

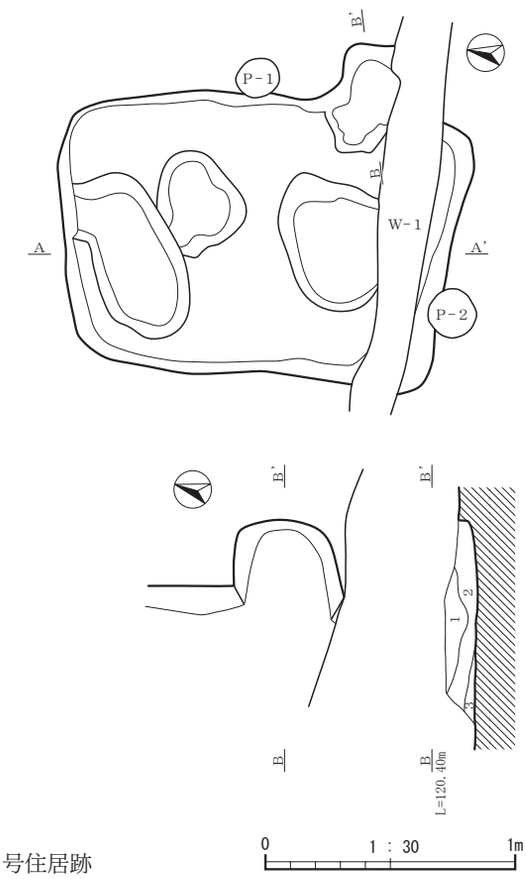


H－１号住居跡　セクション
1　10YR2/3　黒褐色土　△△　C軽多量、黄褐色砂ブロック少量、焼土粒微量、炭化物粒微量
2　10YR3/4　暗褐色土　××　黄褐色砂ベース（周溝埋土）

H-1号住居跡　竈セクション
1　10YR2/3　黒褐色土　△△　C軽少～中量、焼土ブロック・粒少～中量、淡褐色砂ブロック不均質に少～中量（天井崩落土）
2　10YR2/2　黒褐色土　△△　灰層。灰主体。焼土粒微量
3　10YR2/1　黒色土　△△　黒色灰主体。焼土粒微量（掘り方）

H－２



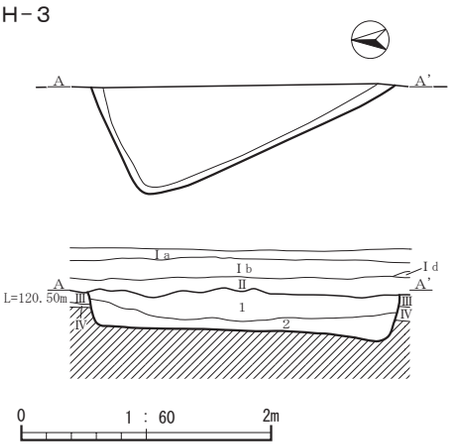


H－２号住居跡　セクション
1　10YR2/3　黒褐色土　△△　C軽多量、黄褐色砂ブロック少量、焼土粒微量、炭化物粒微量

H－２号住居跡　竈セクション
1　10YR2/3　黒褐色土　△△　焼土ブロック・粒中量、暗褐色粘土ブロック少量、C軽少量
2　10YR2/3　黒褐色土　△△　淡褐色砂ブロック少量、C軽微量、焼土粒微量
3　10YR2/2　黒色土　△△　黒色灰若干混じる。黄褐色砂粒微量

Fig. 8　８区H－１・２号住居跡

H－3



H－3 号住居跡　セクション
Ⅰa　表土。砂利層
Ⅰb　10YR2/3　黒褐色土　×◎　As-C中量、白色テフラ中量
Ⅰd　10YR5/6　黄褐色土　△○　黄褐砂質土が薄く盛られている
Ⅱ　基本層序に同じ
Ⅲ　基本層序に同じ
Ⅳ　基本層序に同じ
1　10YR2/3　黒褐色土　△△　As-C中量、黄褐・淡褐色シルト粒微量
2　10YR2/2　黒褐色土　△△　As-C少量、黄褐・淡褐色シルトブロック・粒微～少量

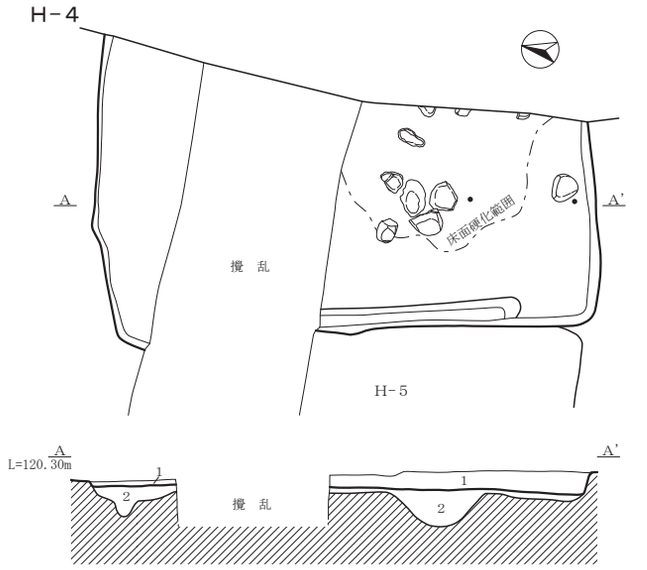
H－4 号住居跡　セクション
1　10YR2/3　黒褐色土　△△　C軽多量、黄褐色ブロック・砂粒少量、焼土粒微量、炭化物粒微量
2　掘り方埋土

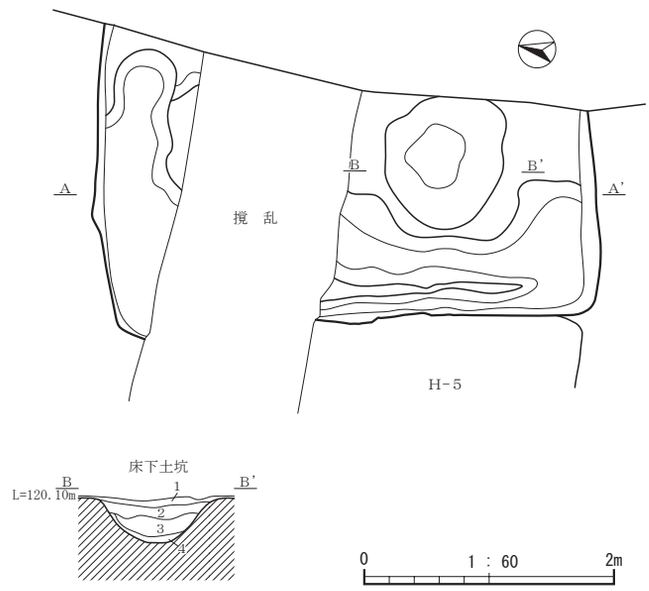
H－4 号住居跡　床下土坑セクション
1　10YR2/3　黒褐色土　△◎　黄褐色シルトブロック・粒中量、白色粒中量
2　10YR2/3　黒褐色土　△△　黄褐色シルトブロック・灰色粘土ブロック少量、黄褐色シルト粒少量、焼土粒微量
3　10YR3/3　暗褐色土　△△　黄褐色シルトブロック・粒中量、灰色粘土ブロック微量
4　10YR4/2　灰黄褐色土　灰色粘土がはってある

H－7 号住居跡　セクション
Ⅰe　10YR2/3　黒褐色土　△△　B混土。ジャリジャリ。As-C少量
Ⅳ　基本層序に同じ
Ⅴ　基本層序に同じ
1　10YR2/3　黒褐色土　△△　Ⅰe層がベース。
2　10YR2/3　黒褐色土　△△　As-C微量（H－7 埋土）
3　10YR2/2　黒褐色土　△△　As-C微量、黄褐色シルト粒微量、焼土粒微量、炭化物粒微量
4　10YR2/2　黒褐色土　△◎　白色テフラ少量
5　10YR3/3　暗褐色土　△△　黒褐色ブロック少量、黄褐色砂土ブロック少量、白色粒微～少量（掘り方）

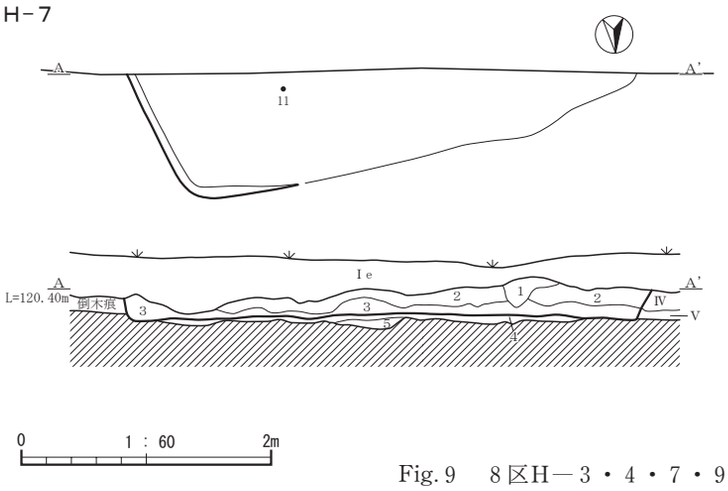
H－9 号住居跡　セクション
Ⅰa　表土。砂利層
Ⅰb　10YR2/3　黒褐色土　×◎　As-C中量、白色テフラ中量
Ⅰc　10YR2/3　黒褐色土　×◎　白色粒微量
Ⅱ　基本層序に同じ
Ⅲ　基本層序に同じ
Ⅳ　基本層序に同じ
Ⅴ　基本層序に同じ
1　10YR2/2　黒褐色土　△△　As-C多量、淡褐色シルトブロック少量、焼土粒・炭化物微量
2　10YR2/3　黒褐色土　△△　As-C少量、淡褐色シルトブロック少量、焼土粒・炭化物微量
3　10YR2/2　黒褐色土　△△　As-C少量、黄褐色シルトブロック粒少量
4　10YR2/3　黒褐色土　△△　黄色強い、黄褐色シルト粒少量

H－4





H－7



H－9

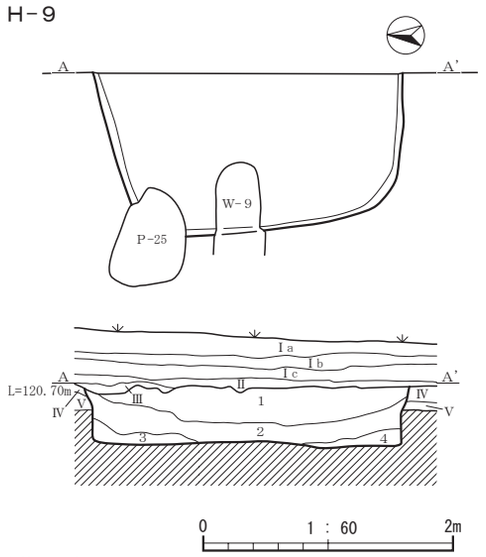
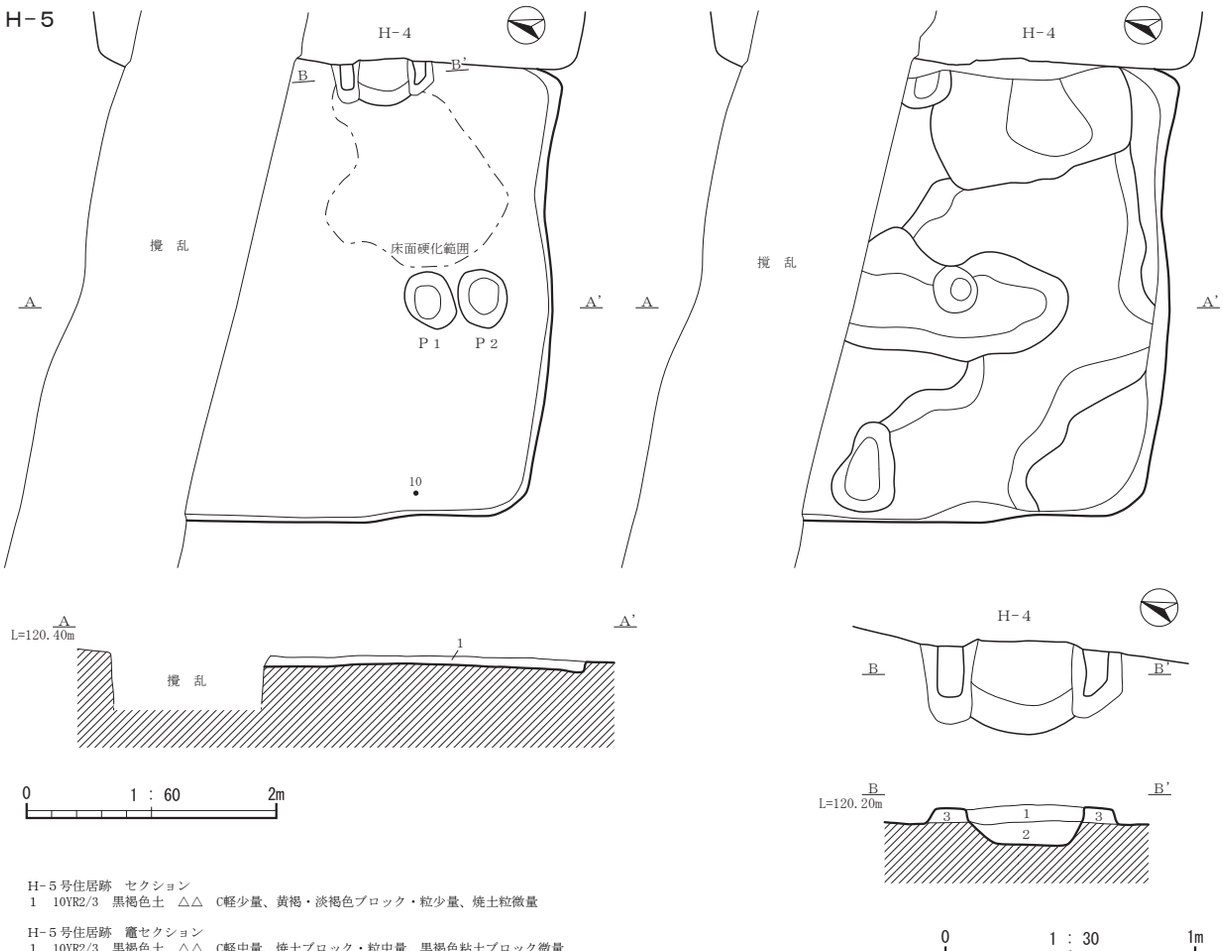
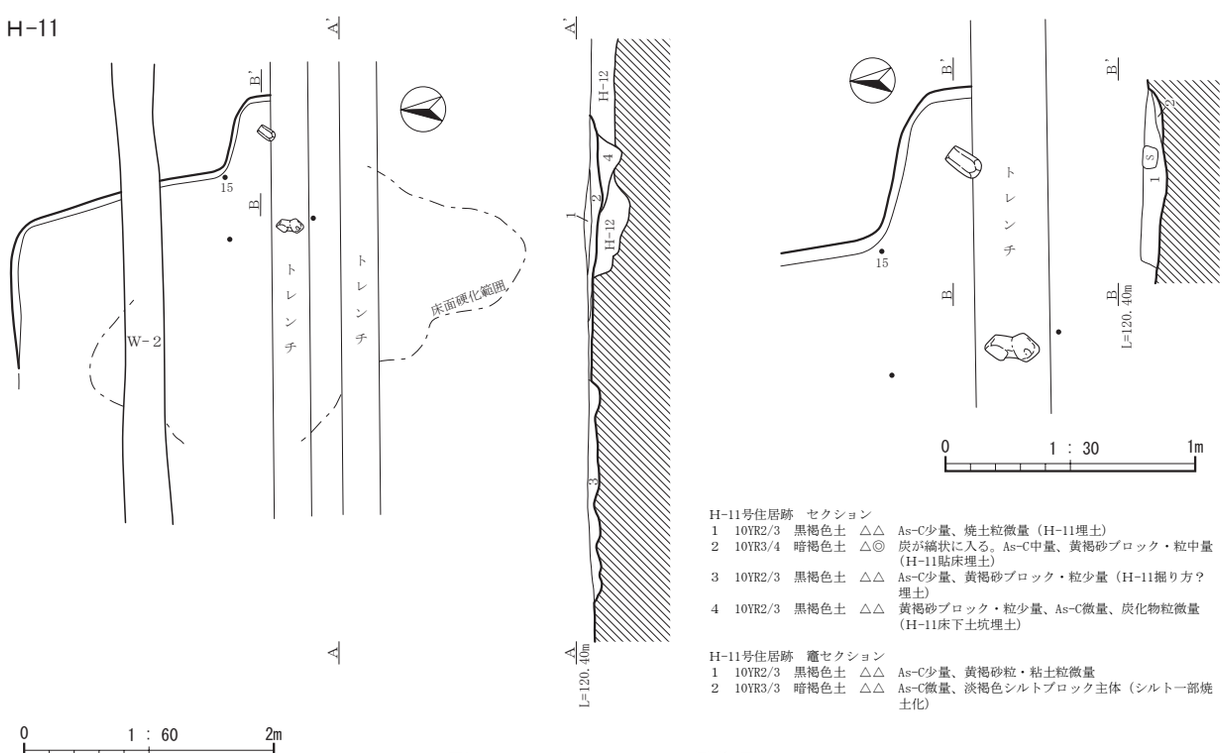


Fig. 9　8 区H―3・4・7・9 号住居跡



H-５号住居跡　セクション
1　10YR2/3　黒褐色土　△△　C軽少量、黄褐・淡褐色ブロック・粒少量、焼土粒微量

H-５号住居跡　竈セクション
1　10YR2/3　黒褐色土　△△　C軽中量、焼土ブロック・粒中量、黒褐色粘土ブロック微量
2　10YR5/3　にぶい黄褐色土　△△　白色灰主体。黒色灰不均質に混ざる。焼土粒微量
3　竈袖

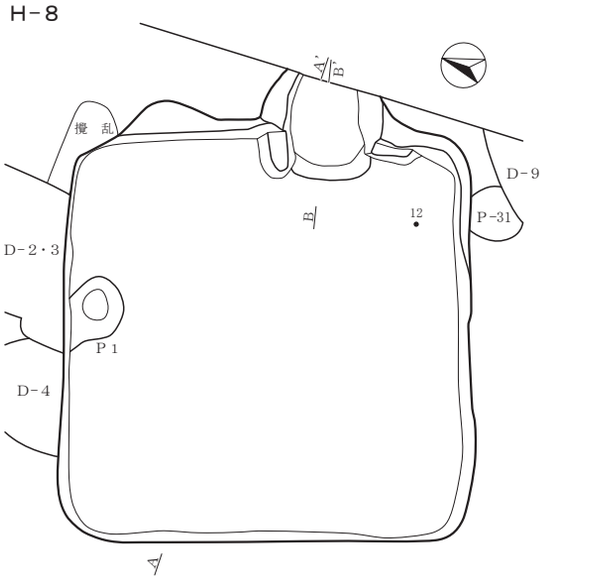


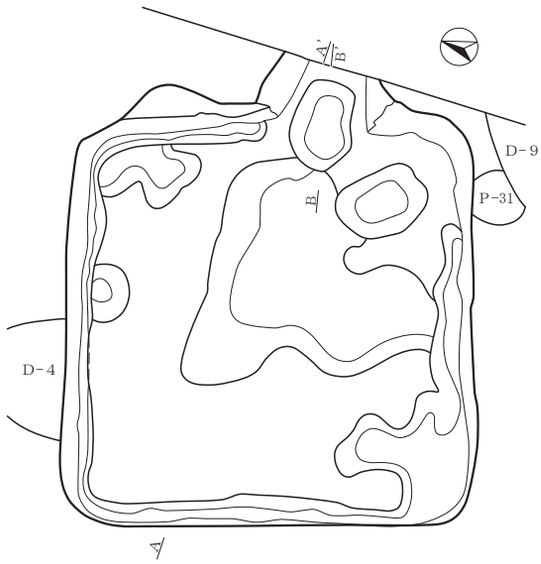
H-11号住居跡　セクション
1　10YR2/3　黒褐色土　△△　As-C少量、焼土粒微量（H-11埋土）
2　10YR3/4　暗褐色土　△◎　炭が縞状に入る。As-C中量、黄褐砂ブロック・粒中量（H-11貼床埋土）
3　10YR2/3　黒褐色土　△△　As-C少量、黄褐砂ブロック・粒少量（H-11掘り方？埋土）
4　10YR2/3　黒褐色土　△△　黄褐砂ブロック・粒少量、As-C微量、炭化物粒微量（H-11床下土坑埋土）

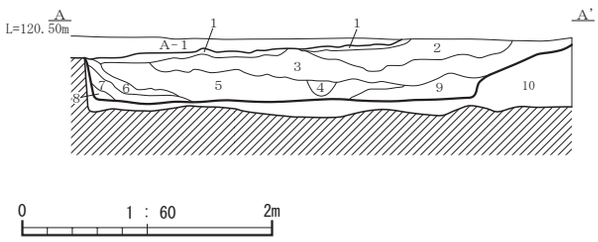
H-11号住居跡　竈セクション
1　10YR2/3　黒褐色土　△△　As-C少量、黄褐砂粒・粘土粒微量
2　10YR3/3　暗褐色土　△△　As-C微量、淡褐色シルトブロック主体（シルト一部焼土化）

Fig.10　8区H－5・11号住居跡

H－8

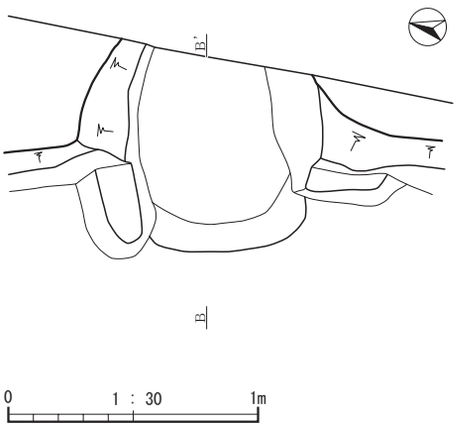


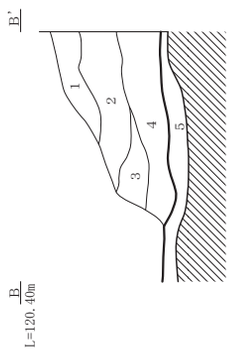




H－８号住居跡　セクション

1	10YR2/3	黒褐色土	△◎	As-C少量、黄褐色シルトブロック少量、焼土粒微量（A－１硬化面と化す）
2	10YR2/3	黒褐色土	△△	As-C中量、黄褐色シルトブロック少量、焼土ブロック・焼土粒微量、Ｃ黒色ブロック微量
3	10YR2/3	黒褐色土	△△	２層ベース、黄褐色シルトブロック・淡褐色シルトブロック小～中量、焼土ブロック・焼土粒小量、Ｃ黒色ブロック微量
4	10YR2/3	黒褐色土	△△	２層ベース、・黄褐色シルト粒少量、焼土粒微量
5	10YR3/4	暗褐色土	△△	As-C多量、、黄褐色シルトブロック・粒中量、ＦＰ微量
6	10YR2/2	黒褐色土	△△	黄褐色シルトブロック微量、黄褐色シルト粒多量
7	10YR2/2	黒褐色土	△△	白色パミス微量、黄褐色シルト粒少量
8	10YR3/4	暗褐色土	△△	黄褐色シルト土粒多量、同ブロック少量
9	10YR3/4	暗褐色土	△△	As-C少量、黄褐色・淡褐色シルトブロック少量、粘土ブロック・粒中量（カマドからの流出土）
10	掘り方埋土			

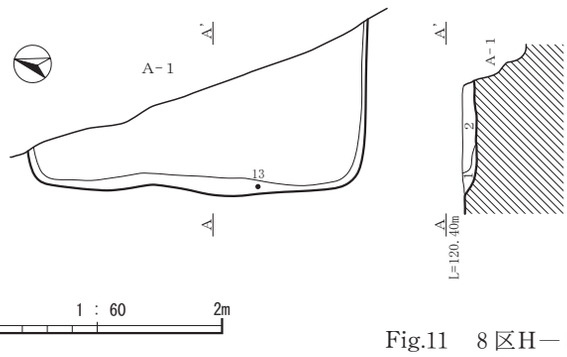




H－８号住居跡　竈セクション

1	10YR2/3	黒褐色土	△○	As-C少量、焼土ブロック少量、黒褐色粘土ブロック少量
2	10YR3/4	暗褐色土	△○	焼土ブロック・粒多量、黄褐色砂ブロック少量、黒褐色粘土ブロック少量、As-C微量
3	10YR2/3	黒褐色土	△△	焼土ブロック・粒少量、黄褐・淡褐色砂ブロック少量、As-C微量
4	10YR3/3	暗褐色土	△△	黄褐・淡褐色砂ブロック少量、As-C微量
5	掘り方埋土			

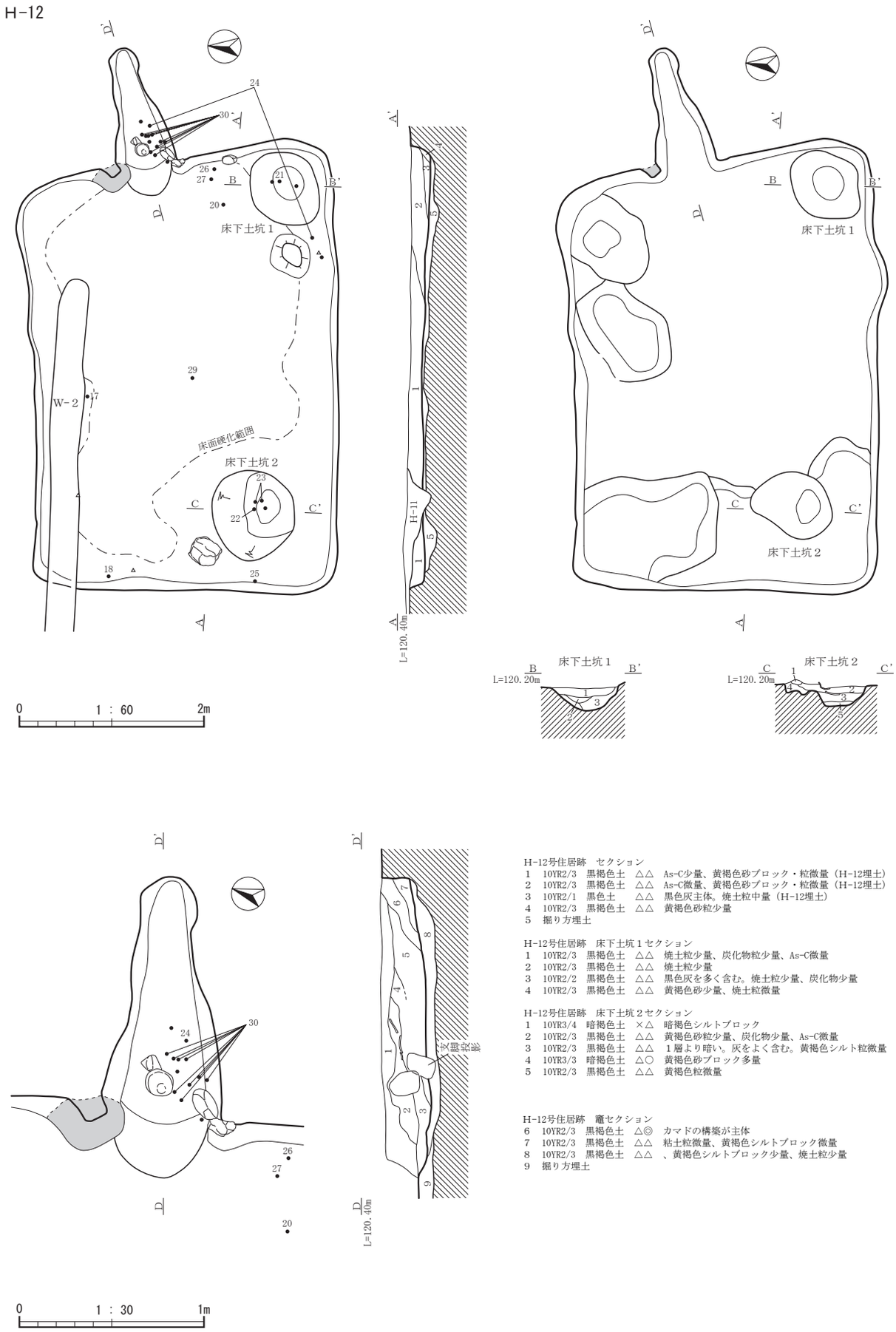
H－10



H－10号住居跡　セクション

1	10YR2/3	黒褐色土	△△	As-C中量、淡褐色シルトブロック・粒少量
2	10YR3/4	暗褐色土	△△	黄褐色シルトブロック少量

Fig.11　８区Ｈ－８・10号住居跡



H-12号住居跡　セクション
1　10YR2/3　黒褐色土　△△　As-C少量、黄褐色砂ブロック・粒微量（H-12埋土）
2　10YR2/3　黒褐色土　△△　As-C微量、黄褐色砂ブロック・粒微量（H-12埋土）
3　10YR2/1　黒色土　△△　黒色灰主体。焼土粒中量（H-12埋土）
4　10YR2/3　黒褐色土　△△　黄褐色砂粒少量
5　掘り方埋土

H-12号住居跡　床下土坑１セクション
1　10YR2/3　黒褐色土　△△　焼土粒少量、炭化物粒少量、As-C微量
2　10YR2/3　黒褐色土　△△　焼土粒少量
3　10YR2/2　黒褐色土　△△　黒色灰を多く含む。焼土粒少量、炭化物少量
4　10YR2/3　黒褐色土　△△　黄褐色砂少量、焼土粒微量

H-12号住居跡　床下土坑２セクション
1　10YR3/4　暗褐色土　×△　暗褐色シルトブロック
2　10YR2/3　黒褐色土　△△　黄褐色砂粒少量、炭化物少量、As-C微量
3　10YR2/3　黒褐色土　△△　１層より暗い。灰をよく含む。黄褐色シルト粒微量
4　10YR3/3　暗褐色土　△○　黄褐色砂ブロック多量
5　10YR2/3　黒褐色土　△△　黄褐色粒微量

H-12号住居跡　竈セクション
6　10YR2/3　黒褐色土　△◎　カマドの構築が主体
7　10YR2/3　黒褐色土　△△　粘土粒微量、黄褐色シルトブロック微量
8　10YR2/3　黒褐色土　△△　、黄褐色シルトブロック少量、焼土粒少量
9　掘り方埋土

Fig.12　8区H―12号住居跡

H-13

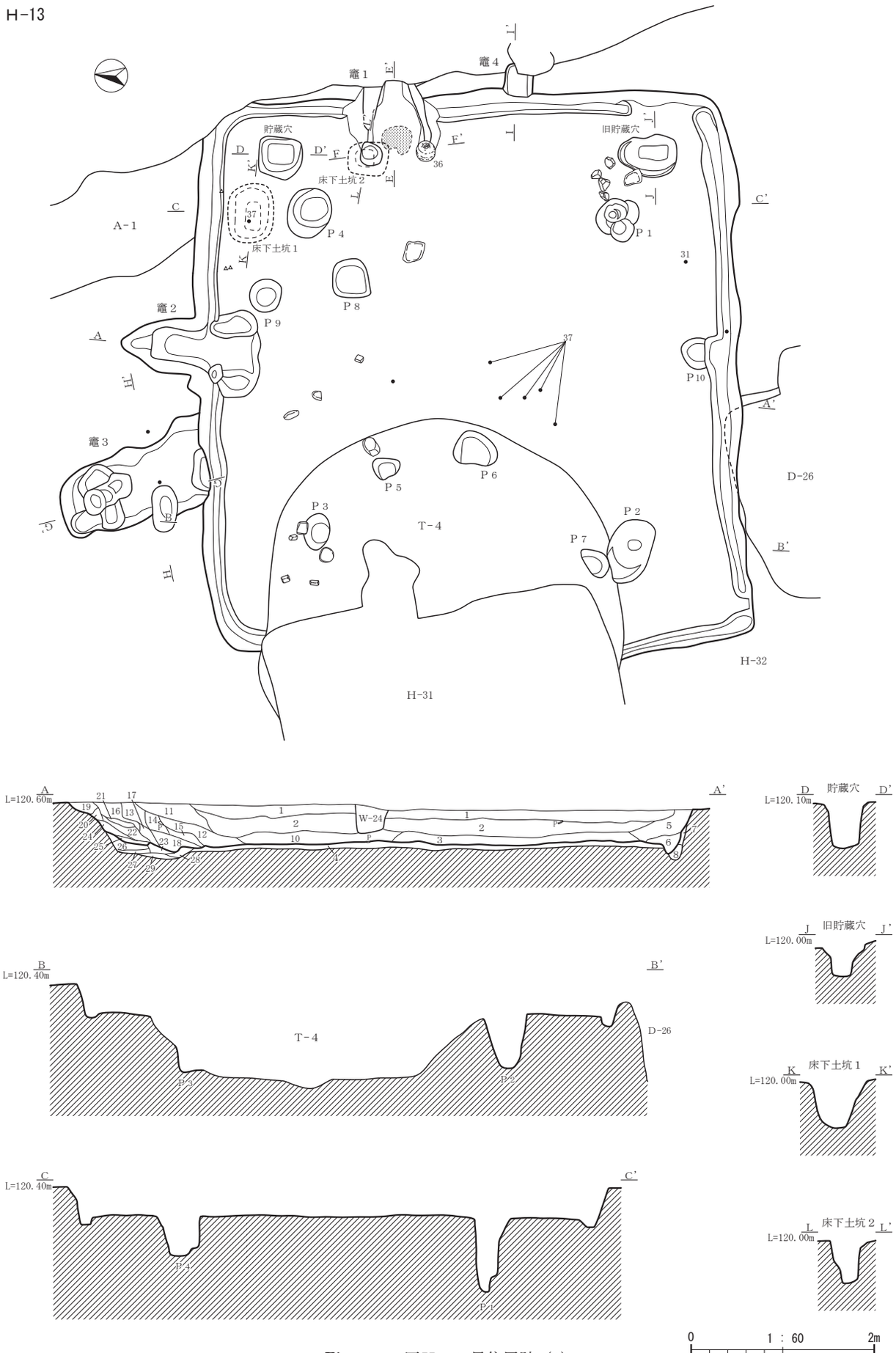


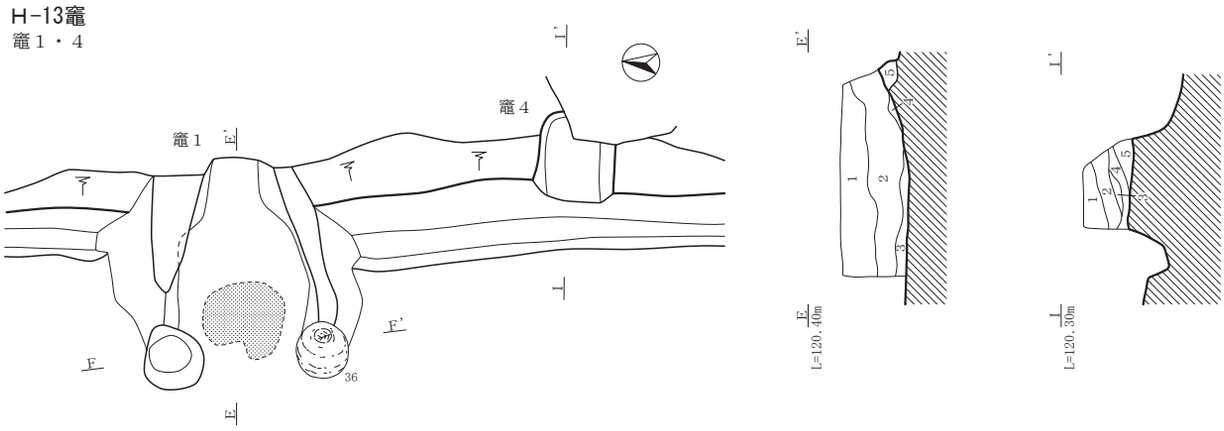
Fig.13　8区H—13号住居跡（1）

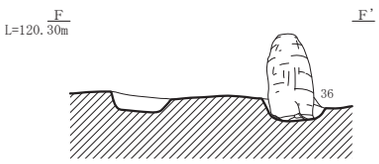
H-13号住居跡　セクション

1　10YR3/3　黒褐色土　×△　As-C5%、Hr-FP1%、黄褐色土ブロック φ5mm微量
2　10YR3/3　黒褐色土　×△　As-C1%、Hr-FP微量、黄褐色土ブロック φ10mm微量
3　10YR2/2　黒褐色土　×○　As-C20%、Hr-FP微量、黄褐色土ブロック φ2mm微量
4　10YR3/4　暗褐色土　×△　黄褐色土粒20%、同ブロック φ5～10mm2%
5　10YR2/3　黒褐色土　×△　As-C2%、Hr-FP微量、黄褐色土ブロック φ3mm微量
6　10YR3/2　黒褐色土　×△　As-C微量、黄褐色土ブロック φ5mm1%
7　10YR3/3　暗褐色土　××　黄褐色土粒20%
8　10YR3/4　暗褐色土　××　黄褐色土粒40%
9　10YR3/4　暗褐色土　×△　As-C2%、黄褐色土ブロック φ1～3mm1%
10　10YR3/2　黒褐色土　×△　As-C1%、黄褐色土ブロック φ5mm１%、同ブロック φ20～30mm微量
11　10YR2/3　黒褐色土　×△　As-C1%、褐色砂質礫 φ5mm微量、焼土ブロック φ1mm微量
12　10YR2/3　黒褐色土　×△　As-C1%、黄褐色土ブロック φ3mm微量、焼土ブロック φ1mm微量
13　10YR2/3　黒褐色土　△△　As-C1%、Hr-FP微量、焼土ブロック φ2mm微量
14　10YR2/3　黒褐色土　△△　As-C1%、焼土ブロック φ1～5mm微量
15　10YR2/3　黒褐色土　△△　As-C2%、褐色砂質礫 φ5mm微量
16　2.5YR3/6　暗赤褐色土　×△　焼土粒10%、焼土ブロック φ5～10mm40%
17　10YR3/3　暗褐色土　△△　As-C微量、焼土粒微量
18　10YR3/3　暗褐色土　△△　As-C1%、焼土粒微量、焼土ブロック φ2mm微量
19　2.5YR2/4　暗赤褐色土　×△　As-C微量、焼土粒10%、焼土ブロック φ2mm5%
20　2.5YR2/2　暗赤褐色土　△△　焼土粒10%
21　10YR2/2　黒褐色土　△×　焼土粒5%、焼土ブロック φ1mm1%
22　2.5YR3/6　暗赤褐色土　×△　焼土粒20%、焼土ブロック φ10～20mm40%
23　10YR3/4　暗褐色土　△△　焼土粒2%、黄褐色土ブロック φ20mm微量
24　10YR3/4　暗褐色土　×○　焼土粒10%、焼土ブロック φ2mm1%
25　10YR4/1　褐灰色土　△○　灰層
26　10YR3/3　暗褐色土　○○　As-C微量、黄褐色土ブロック φ5～10mm5%
27　10YR3/4　暗褐色土　△○　黄褐色土ブロック φ10mm10%
28　10YR3/3　暗褐色土　△△　黄褐色土ブロック φ5mm10%、焼土ブロック φ1mm1%
29　10YR3/4　暗褐色土　△○　黄褐色土ブロック φ2mm10%、焼土粒微量

H-13竈

竈１・４

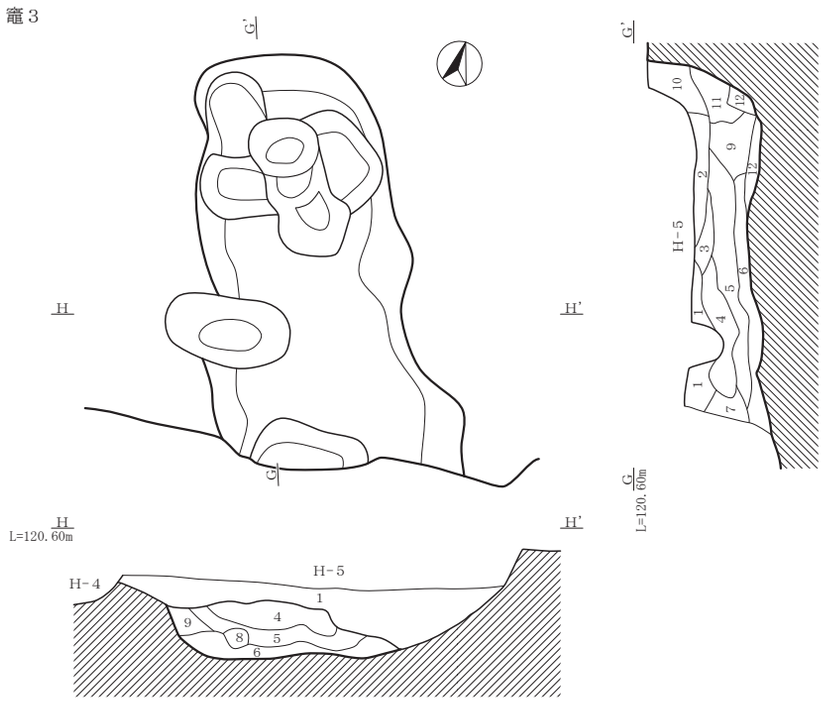




H-13号住居跡　竈１セクション

1　10YR2/3　黒褐色土　△△　黒褐色粘質土ブロック中量、As-C少量、焼土粒少量、焼土ブロック微量、炭化物微量（天井崩落・崩壊土）
2　10YR3/3　暗褐色土　△△　黒褐色粘質土ブロック中量、黄褐色砂ブロック少量、焼土ブロック不均質に少量、As-C少量（天井崩落土）
3　10YR2/2　黒褐色土　△△　灰・木炭灰主体。焼土粒少量
4　10YR2/3　黒褐色土　◎◎　黒褐色粘土（貼ったものか）
5　10YR3/3　暗褐色土　△○　As-C微量、焼土粒微量

竈３



H-13号住居跡　竈４セクション

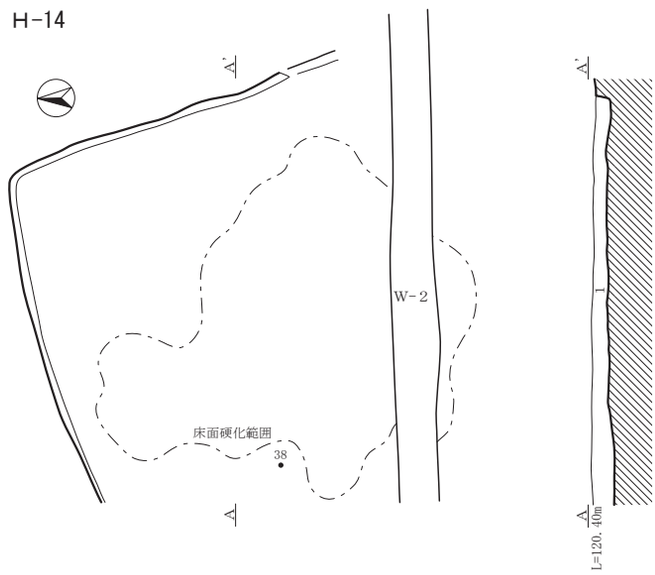
1　10YR3/3　黒褐色土　×△　As-C5%、Hr-FP1%、黄褐色土ブロック φ5焼土化した明黄褐シルトブロック・粒多量、焼土粒微量
2　10YR6/4　明黄褐色土　△○　シルト主体。
3　10YR3/4　暗褐色土　△△　明黄褐色シルトブロック・粒少量
4　10YR4/2　灰黄褐色土　○◎　粘土を貼っている。
5　10YR4/4　暗褐色土　△△　明黄褐色シルトブロック微量、灰黄褐色粘土ブロック微量

H-13号住居跡　竈３セクション

1　10YR3/3　暗褐色土　△△　As-C微量、灰色粘土粒5%、黄褐色土粒・同ブロック φ5～10mm2%
2　10YR3/2　黒褐色土　△△　As-C微量、黄褐色土ブロック φ5mm1%
3　10YR3/2　黒褐色土　△△　As-C微量、灰色粘土粒1%
4　10YR5/1　褐灰色土　○○　灰色粘土ブロック層
5　10YR3/2　黒褐色土　△△　As-C微量、灰色粘土粒1%、同ブロック φ1～5mm1%
6　10YR3/4　暗褐色土　△×　黄褐色土ブロック φ10mm5%
7　10YR4/1　褐灰色土　○○　灰色粘土粒10%、同ブロック φ1～2mm10%
8　10YR5/3　にぶい黄褐色土　同色の黄褐色土ブロック層
9　10YR2/3　黒褐色土　×△　As-C5%
10　10YR2/3　黒褐色土　△△　As-C微量、黄褐色土粒2%
11　10YR2/3　黒褐色土　△△　As-C微量、黄褐色土粒5%
12　10YR3/4　暗褐色土　△△　にぶい黄褐色土ブロック φ10～20mm10%

0　1：30　1m

Fig.14　８区Ｈ―13号住居跡（2）



H-14号住居跡　セクション

1	10YR2/3	黒褐色土	△△ As-C中量、黄褐色シルトブロック微量、焼土粒微量、炭化物微量

H-16号住居跡　セクション

1	10YR2/3	黒褐色土	△△ As-C多量、黄褐・淡褐色砂ブロック微量、焼土粒微量
2	10YR2/3	黒褐色土	△△ As-C微量、黄褐色砂ブロック・粒少量、焼土粒微量（1層より黄味が強い）
3	10YR2/2	黒褐色土	△△ As-C微量、黄褐色砂粒微量
4	10YR3/3	暗褐色土	△△ As-C微量、黄褐色砂粒微量
5	10YR3/3	暗褐色土	△△ As-C微量、黄褐色砂粒微量（4層より黄味が強い）
6	掘り方埋土		

H-16号住居跡　竈セクション

1	10YR2/3	黒褐色土	△△ As-C中量、焼土粒・炭化物微量
2	10YR2/3	黒褐色土	△△ 灰色粘土ブロック・焼土ブロック中量、焼土粒多量、As-C少量
3	10YR2/3	黒褐色土	△△ As-C微量、焼土粒微量
4	10YR2/3	黒褐色土	△△ As-C微量、焼土粒不均に少量
5	10YR2/3	黒褐色土	△△ 焼土ブロック・焼土粒少量、白色砂岩質ブロック不均に少量
6	掘り方埋土		

0　1：60　2m

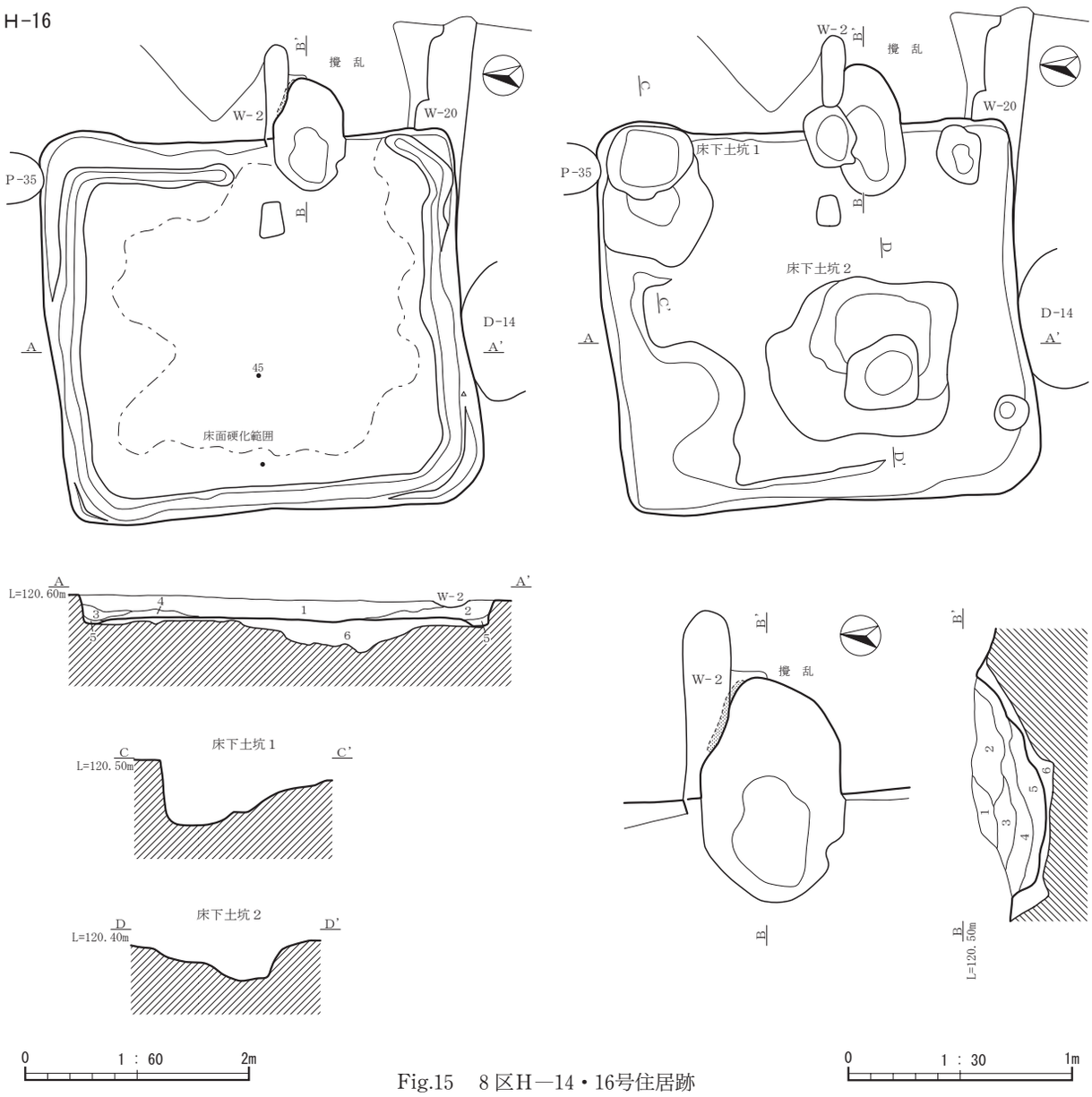
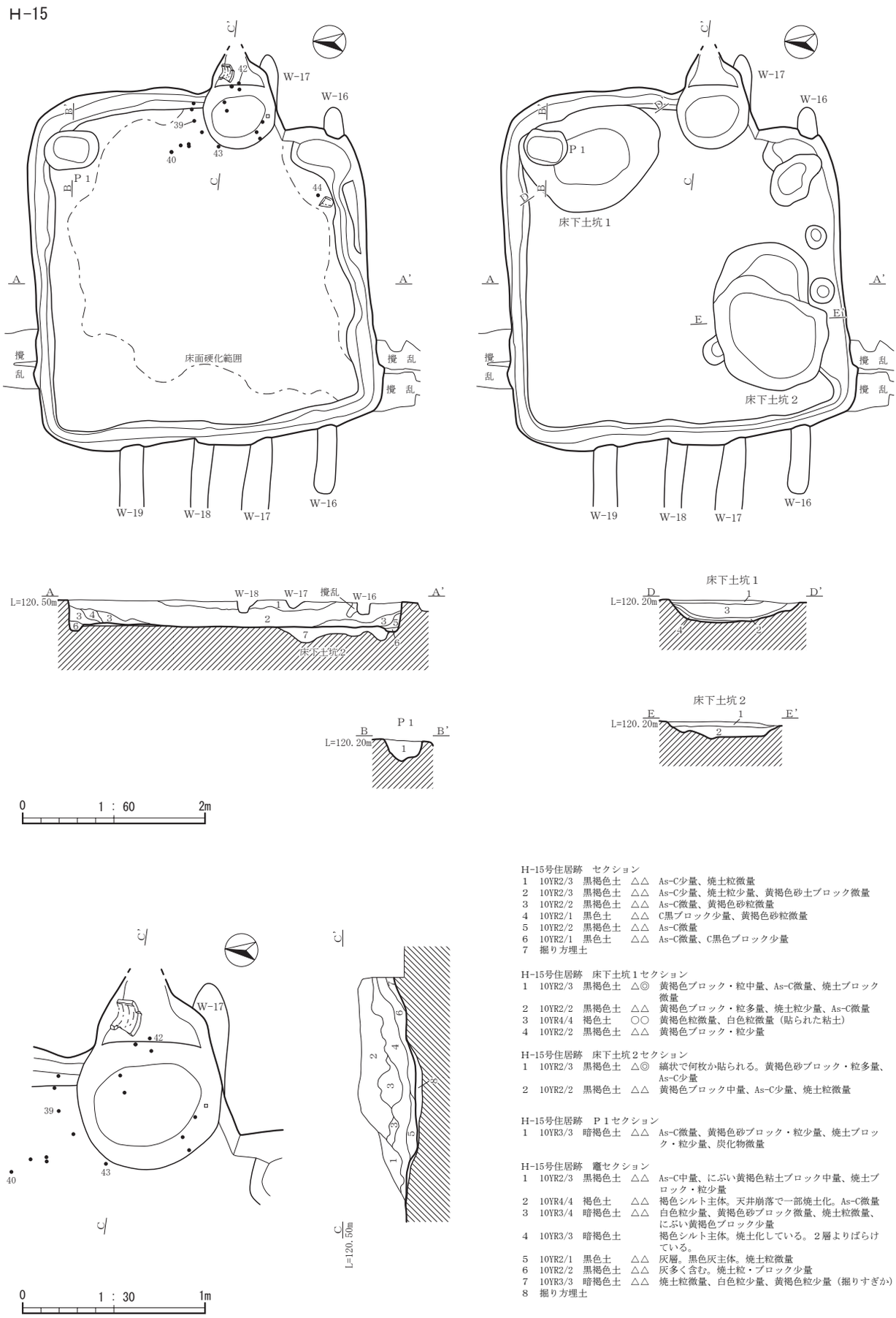


Fig.15　8区H―14・16号住居跡



H-15号住居跡　セクション

1	10YR2/3	黒褐色土	△△	As-C少量、焼土粒微量
2	10YR2/3	黒褐色土	△△	As-C少量、焼土粒少量、黄褐色砂土ブロック微量
3	10YR2/2	黒褐色土	△△	As-C微量、黄褐色砂粒微量
4	10YR2/1	黒色土	△△	C黒ブロック少量、黄褐色砂粒微量
5	10YR2/2	黒褐色土	△△	As-C微量
6	10YR2/1	黒色土	△△	As-C微量、C黒色ブロック少量
7	掘り方埋土			

H-15号住居跡　床下土坑１セクション

1	10YR2/3	黒褐色土	△◎	黄褐色ブロック・粒中量、As-C微量、焼土ブロック微量
2	10YR2/2	黒褐色土	△△	黄褐色ブロック・粒多量、焼土粒少量、As-C微量
3	10YR4/4	褐色土	○○	黄褐色粒微量、白色粒微量（貼られた粘土）
4	10YR2/2	黒褐色土	△△	黄褐色ブロック・粒少量

H-15号住居跡　床下土坑２セクション

1	10YR2/3	黒褐色土	△◎	縞状で何枚か貼られる。黄褐色砂ブロック・粒多量、As-C少量
2	10YR2/2	黒褐色土	△△	黄褐色ブロック中量、As-C少量、焼土粒微量

H-15号住居跡　Ｐ１セクション

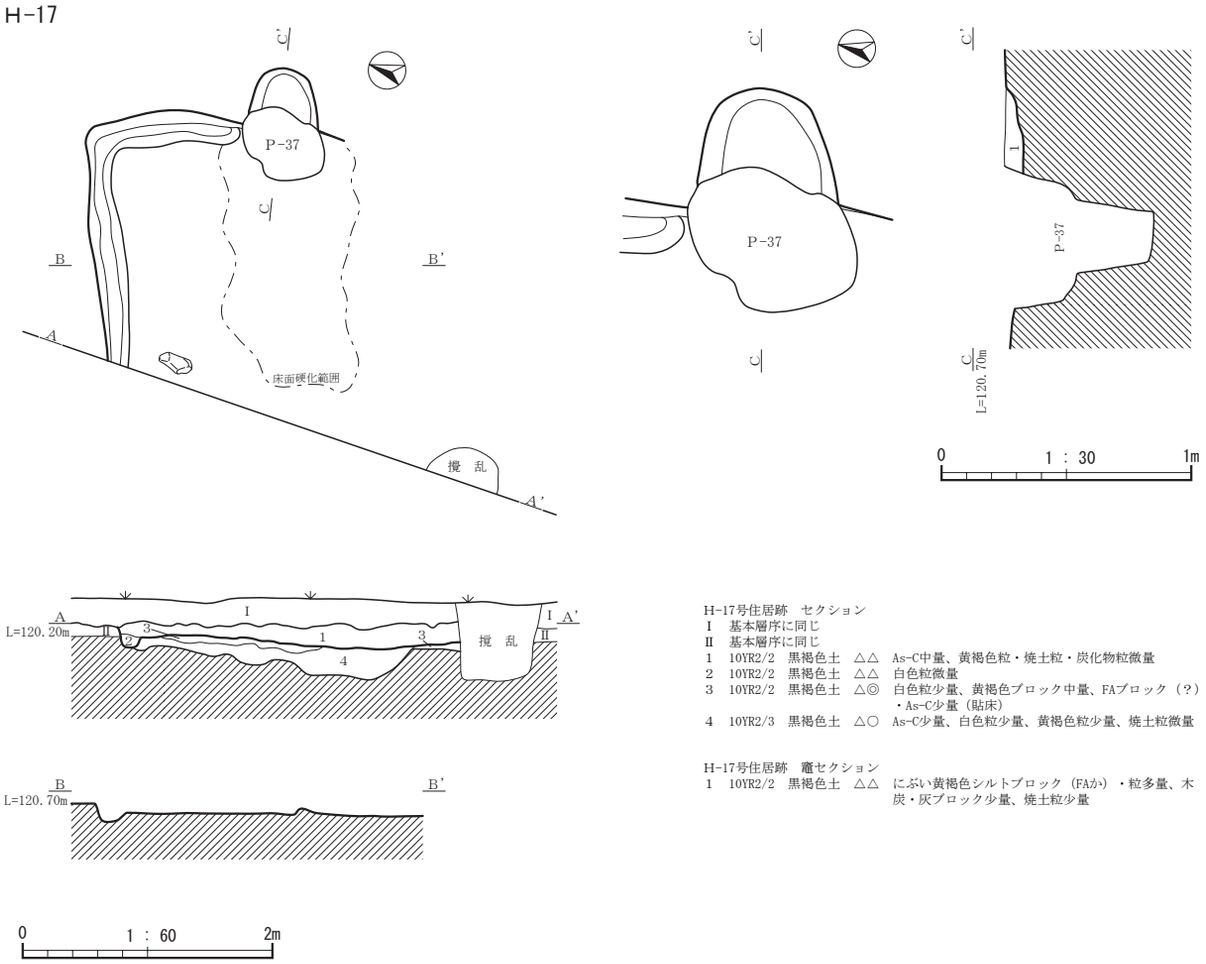
1	10YR3/3	暗褐色土	△△	As-C微量、黄褐色砂ブロック・粒少量、焼土ブロック・粒少量、炭化物微量

H-15号住居跡　竈セクション

1	10YR2/3	黒褐色土	△△	As-C中量、にぶい黄褐色粘土ブロック中量、焼土ブロック・粒少量
2	10YR4/4	褐色土	△△	褐色シルト主体。天井崩落で一部焼土化。As-C微量
3	10YR3/4	暗褐色土	△△	白色粒少量、黄褐色砂ブロック微量、焼土粒微量、にぶい黄褐色ブロック少量
4	10YR3/3	暗褐色土		褐色シルト主体。焼土化している。２層よりばらけている。
5	10YR2/1	黒色土	△△	灰層。黒色灰主体。焼土粒微量
6	10YR2/2	黒褐色土	△△	灰多く含む。焼土粒・ブロック少量
7	10YR3/3	暗褐色土	△△	焼土粒微量、白色粒少量、黄褐色粒少量（掘りすぎか）
8	掘り方埋土			

Fig.16　8 区Ｈ―15号住居跡

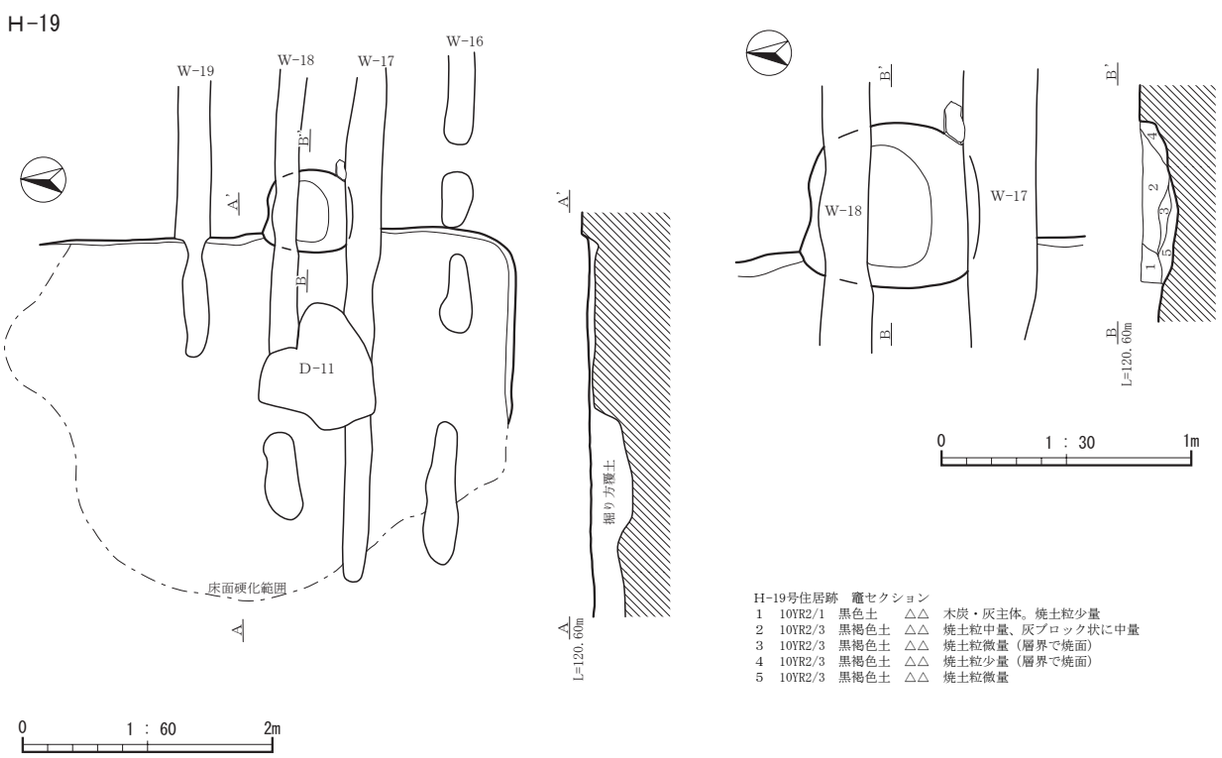
H-17



H-17号住居跡　セクション
Ⅰ　基本層序に同じ
Ⅱ　基本層序に同じ
1　10YR2/2　黒褐色土　△△　As-C中量、黄褐色粒・焼土粒・炭化物粒微量
2　10YR2/2　黒褐色土　△△　白色粒微量
3　10YR2/2　黒褐色土　△◎　白色粒少量、黄褐色ブロック中量、FAブロック（？）・As-C少量（貼床）
4　10YR2/3　黒褐色土　△○　As-C少量、白色粒少量、黄褐色粒少量、焼土粒微量

H-17号住居跡　竈セクション
1　10YR2/2　黒褐色土　△△　にぶい黄褐色シルトブロック（FAか）・粒多量、木炭・灰ブロック少量、焼土粒少量

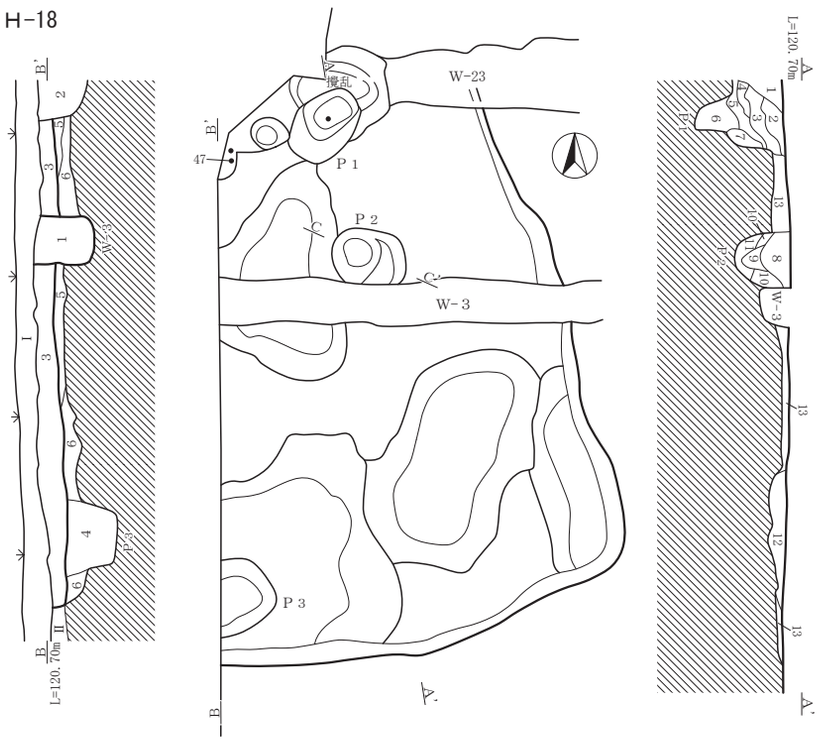
H-19



H-19号住居跡　竈セクション
1　10YR2/1　黒色土　△△　木炭・灰主体。焼土粒少量
2　10YR2/3　黒褐色土　△△　焼土粒中量、灰ブロック状に中量
3　10YR2/3　黒褐色土　△△　焼土粒微量（層界で焼面）
4　10YR2/3　黒褐色土　△△　焼土粒少量（層界で焼面）
5　10YR2/3　黒褐色土　△△　焼土粒微量

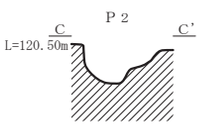
Fig.17　8区H―17・19号住居跡

H-18



H-18号住居跡　Aセクション

1	10YR3/3	暗褐色土	△△	白色粒少量、焼土量少量
2	10YR2/2	黒褐色土	△△	As-C多量、焼土量少量
3	10YR2/3	黒褐色土	△△	焼土ブロック・粒多量、黒褐色粘土ブロック少量、白色粒微量
4	10YR2/3	黒褐色土	△△	灰を含む。焼土ブロック・粒少量
5	10YR2/3	黒褐色土	△△	黄褐色ブロック少量、淡褐色ブロック少量
6	10YR2/3	黒褐色土	△△	黄褐色粒中量
7	10YR3/4	暗褐色土	△△	黄褐色ブロック多量、黄褐色粒少量
8	10YR2/3	黒褐色土	△△	As-C多量、黄褐色粒微量、焼土粒微量
9	10YR2/3	黒褐色土	△△	As-C少量、黄褐色ブロック・粒少量
10	10YR2/3	黒褐色土	△△	８・９層より明るい。As-C中量、黄褐色ブロック少量
11	10YR3/4	暗褐色土	△△	黄褐色粒少量
12	10YR2/2	黒褐色土	△△	黄褐色ブロック・粒中量、白色粒少量
13	10YR3/4	暗褐色土	△△	黄褐色粒少量、淡褐色粒少量



H-18号住居跡　Bセクション

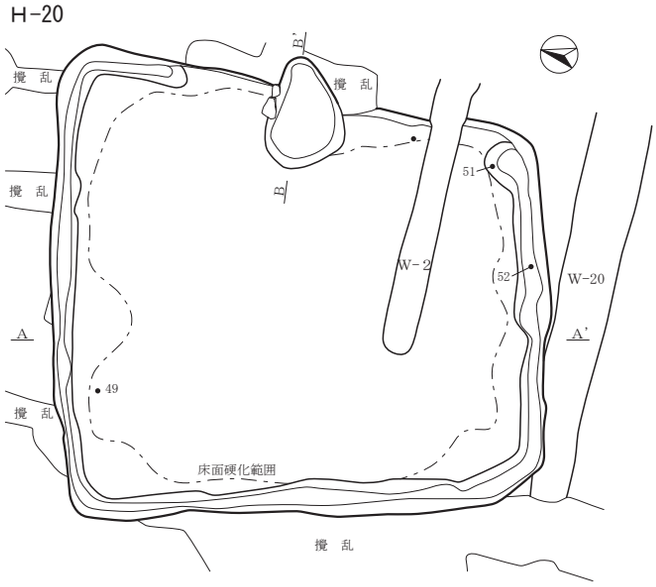
Ⅰ　基本層序に同じ

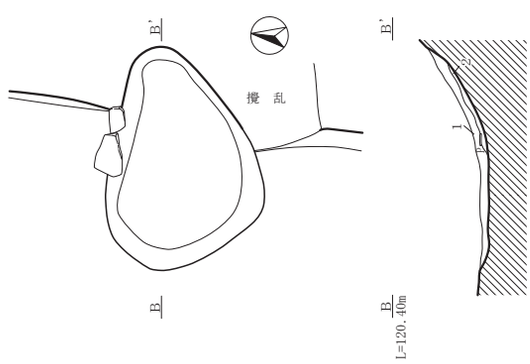
Ⅱ　基本層序に同じ

1	10YR2/3	黒褐色土	××	埋め戻し。黄褐ブロック・粒多量（W-22埋土）
2	10YR2/2	黒褐色土	△△	As-C少量、焼土粒少量、黄褐色粒少量
3	10YR2/2	黒褐色土	△△	As-C中量、黄褐色粒微量、焼土粒微量（H-18埋土）
4	10YR2/1	黒色土	△△	黄褐色砂粒微量、焼土粒微量
5	10YR2/2	黒褐色土	△◎	白色粒少量、黄褐色粒微量、焼土粒微量（貼床）
6	10YR2/3	黒褐色土	△△	黄色強く砂利っぽい。黄色砂粒少量

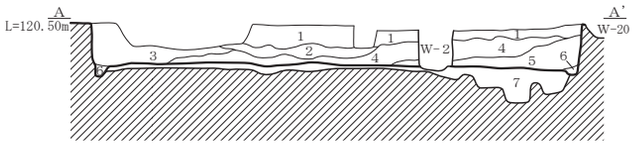
0　1：60　2m

H-20





0　1：30　1m



H-20号住居跡　セクション

1	10YR2/3	黒褐色土	△△	As-C中量、淡～黄褐色砂ブロック少量、焼土粒少量、黒褐色土ブロック少量
2	10YR2/3	黒褐色土	△△	１層より暗い。As-C中量、黄褐～暗褐色ブロック・焼土粒微量
3	10YR2/3	黒褐色土	△△	As-C少量、淡褐色砂ブロック微量、焼土粒微量
4	10YR3/3	暗褐色土	△△	As-C少量、黄～淡褐色土ブロック・粒中量、黒褐色土ブロック少量
5	10YR2/3	黒褐色土	△△	As-C微量、焼土粒微量、黄褐～淡褐色砂粒微量
6	10YR3/4	暗褐色土	△△	黄褐色砂粒少量
7	掘り方埋土			

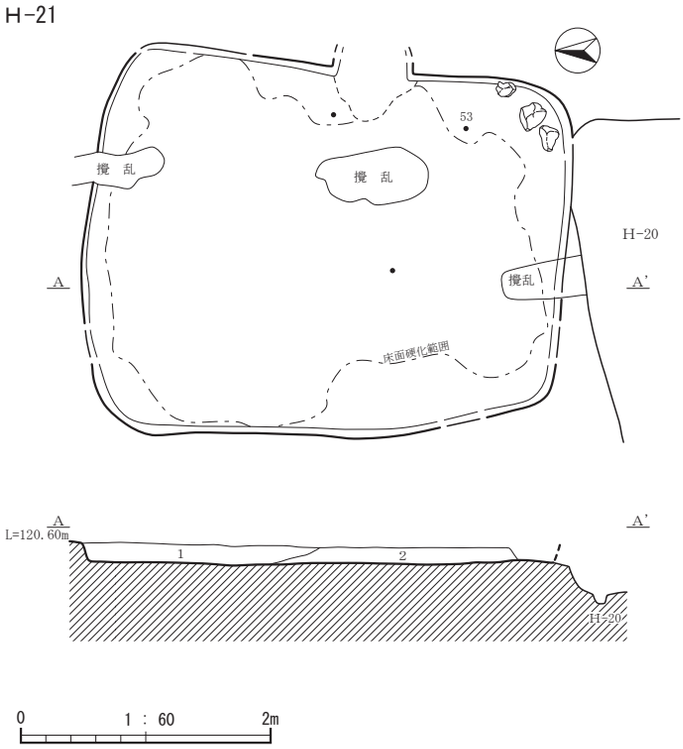
H-20号住居跡　竈セクション

1	10YR3/3	暗褐色土	△△	灰色粘土ブロック・焼土ブロック・焼土粒中量（天井崩落土）
2	10YR2/3	黒褐色土	△△	灰をよく含む。焼土粒微量

0　1：60　2m

Fig.18　８区Ｈ―18・20号住居跡

H-21

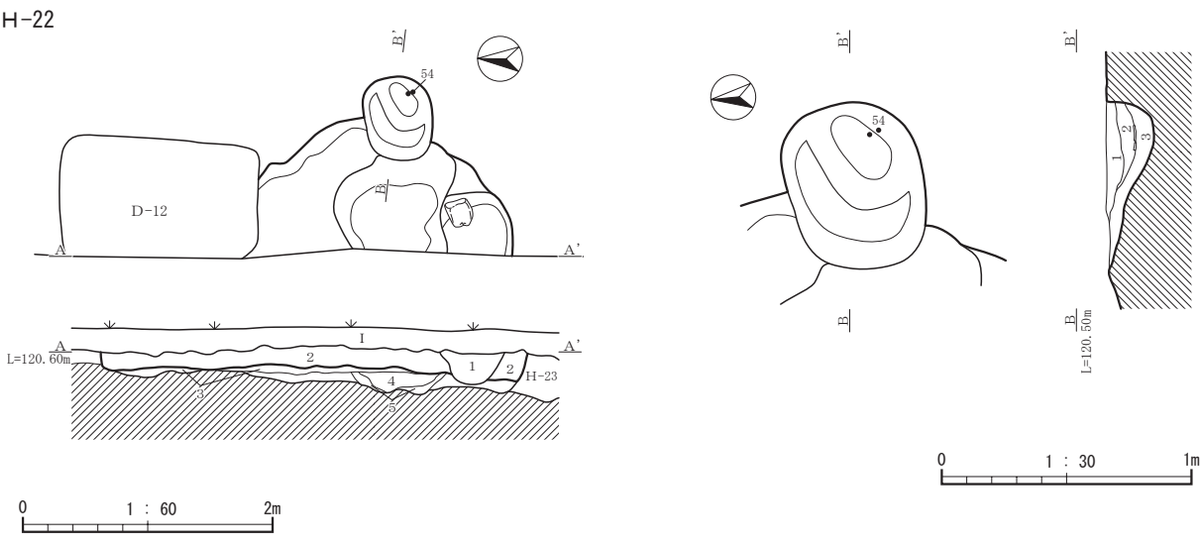


H-21号住居跡　セクション
1　10YR2/3　黒褐色土　△△　As-C中量、焼土粒微量
2　10YR2/3　黒褐色土　△△　１層より黄色味強い。As-C少量、焼土粒微量

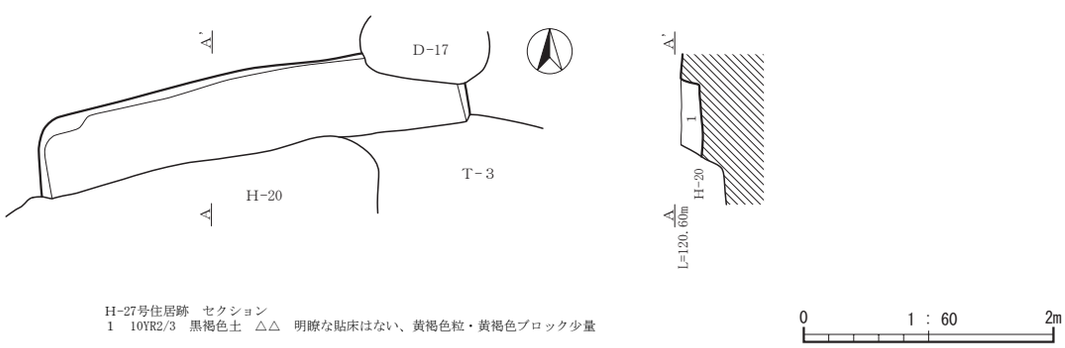
H-22号住居跡　セクション
Ⅰ　基本層序に同じ
1　10YR2/2　黒褐色土　△△　白色粒微量、小礫少量
2　10YR2/3　黒褐色土　△△　As-C少量、黄褐色砂粒・ブロック・焼土粒微量
3　10YR2/2　黒褐色土　△◎　As-C中量、黄褐色砂粒・焼土粒微量
4　10YR2/3　黒褐色土　△△　As-C少量、黄褐色粒少量、黄褐色ブロック微量、炭微量
5　10YR2/3　黒褐色土　○○　灰色粘土主体、貼られた感じ床下土坑か

H-22号住居跡　竈セクション
1　10YR2/3　黒褐色土　△△　灰色粘土ブロック・焼土ブロック不均質に少量、As-C中量、焼土粒少量
2　10YR2/2　黒褐色土　△△　As-C・粘土粒微量
3　10YR2/3　黒褐色土　△△　黄褐色砂ブロック・粒少量

H-22



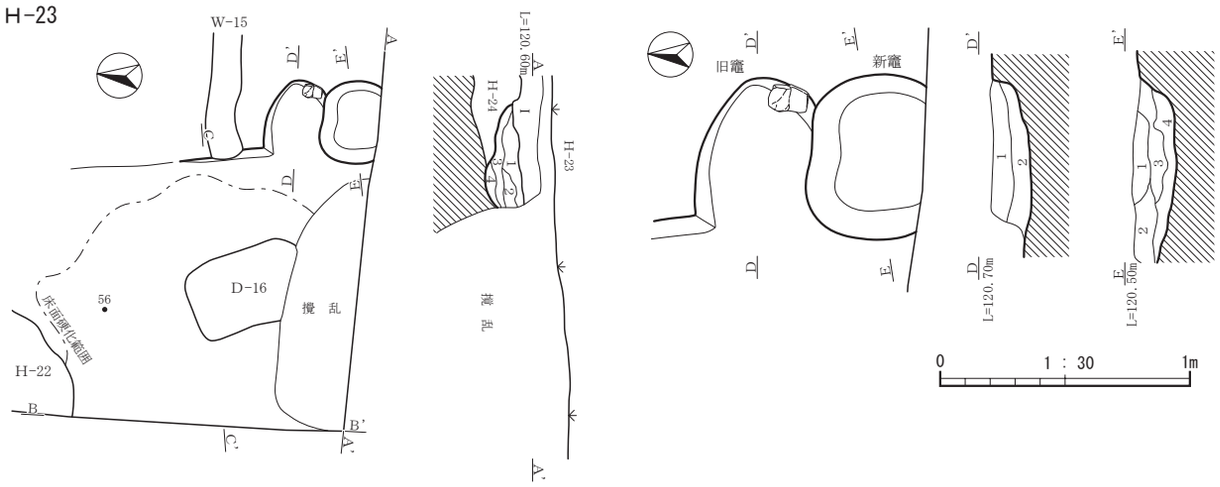
H-27

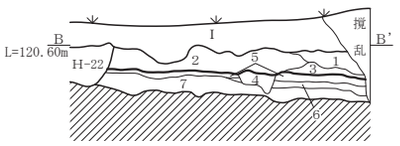


H-27号住居跡　セクション
1　10YR2/3　黒褐色土　△△　明瞭な貼床はない、黄褐色粒・黄褐色ブロック少量

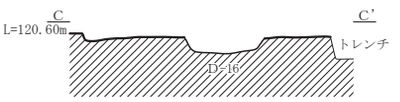
Fig.19　8区H―21・22・27号住居跡

H-23





H-23号住居跡　Aセクション
Ⅰ　基本層序に同じ
1　10YR2/3　黒褐色土　△△　軟質の砂岩質ブロック１片含む。白色粒微量、焼土粒少量、黒褐色粘土ブロック少量
2　10YR1/2　黒色土　△△　木炭灰主体。淡褐色砂ブロック微量、焼土粒微量
3　10YR2/3　黒褐色土　△△　軟質砂岩粒少量、焼土粒微量、炭化物粒微量
4　10YR2/3　黒褐色土　△△　色調気持ち明るい。灰色粘土ブロック少量、焼土粒少量、黄褐色砂ブロック微量



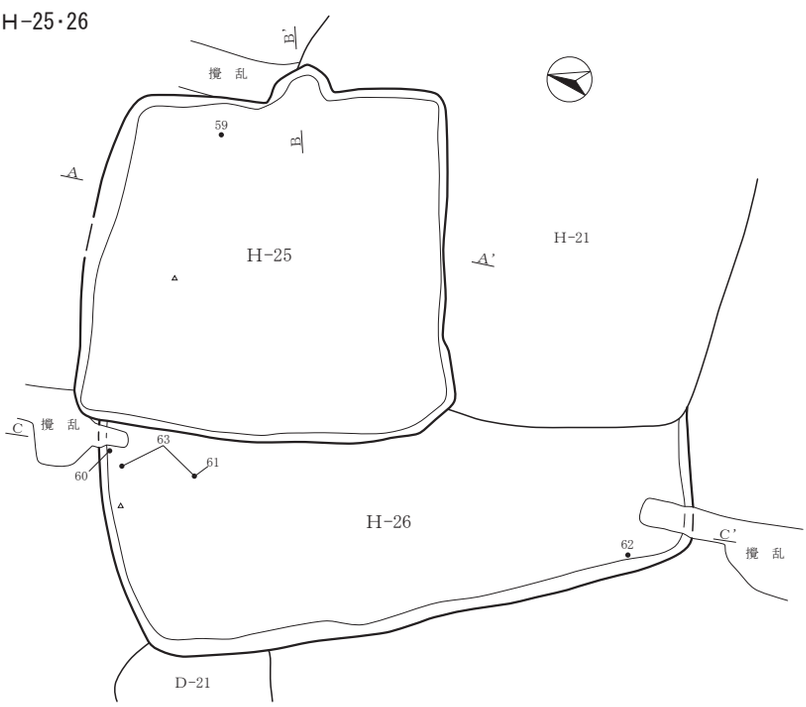
H-23号住居跡　Bセクション
Ⅰ　基本層序に同じ
1　10YR2/2　黒褐色土　△△　白色粒微量
2　10YR2/3　黒褐色土　△△　As-C微量、黄褐色粒微量、焼土粒微量
3　10YR2/2　黒褐色土　△△　As-C少量、黄褐色ブロック微量
4　10YR2/3　黒褐色土　△△　白色粒・黄褐色砂粒微量
5　10YR2/2　黒褐色土　△◎　As-C中量、黄褐色粒微量、焼土粒微量
6　10YR2/2～2/3　黒褐色土　△△　白色粒（As-C）少量、黄褐色砂粒・ブロック少量、焼土粒微量
7　10YR2/3　黒褐色土　△△　黄色味強い。黄色砂粒多量、黄色砂ブロック少量、焼土粒微量

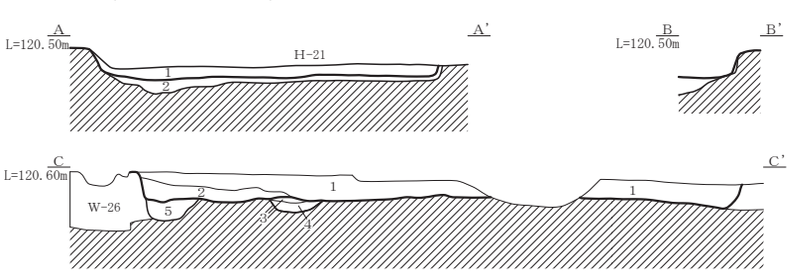
0 1：60 2m

H-23号住居跡　旧竈セクション
1　10YR2/3　黒褐色土　△△　As-C多量、焼土粒少量、炭化物微量
2　10YR2/2　黒褐色土　△△　As-C・焼土粒微量

H-23号住居跡　新竈セクション
1　10YR2/3　黒褐色土　△△　As-C中量、灰白シルトブロック・粒中量、焼土ブロック・粒少量
2　10YR2/1　黒色土　△△　木炭灰主体。As-C微量、焼土粒少量
3　10YR2/3　黒褐色土　△△　灰白シルトブロック不均質に少量、焼土ブロック・粒少量（若干灰っぽい）
4　10YR2/2　黒褐色土　△△　焼土粒微量、淡褐砂（地山）ブロック不均質に微量

H-25・26





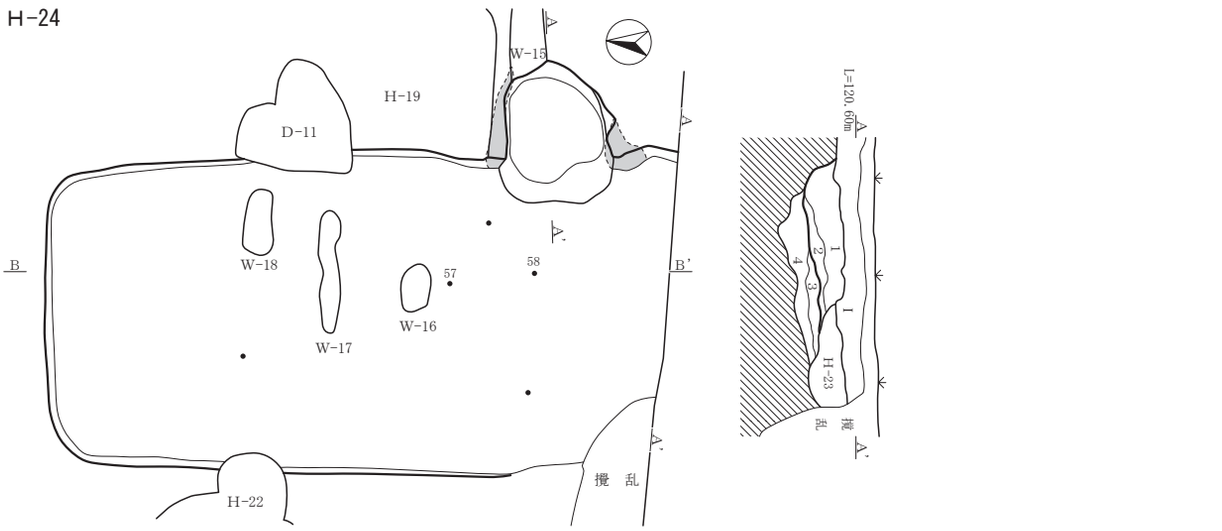
H-25・26号住居跡　Aセクション
1　10YR2/3　黒褐色土　△△　As-C少量、黄褐色粒・ブロック少量、焼土粒微量、H-21貼床下

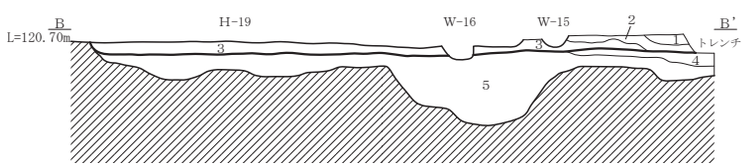
H-25・26号住居跡　Cセクション
1　10YR2/3　黒褐色土　△△　As-C中量、黄褐色砂ブロック・粒・焼土粒微量
2　10YR2/2　黒褐色土　△△　As-C少量、黄褐色砂ブロック・粒少量、焼土粒微量
3　10YR2/2　黒褐色土　△◎　As-C微量、黄褐色砂少量
4　10YR3/3　暗褐色土　△△　白色粒少量、黄褐色ブロック・粒少量
5　10YR3/3　暗褐色土　△△　白色粒少量、黄褐色ブロック・粒少量

0 1：60 2m

Fig.20　8区H―23・25・26号住居跡

H-24





H-24号住居跡　Aセクション

Ⅰ	基本層序に同じ			
1	10YR2/2	黒褐色土	△△	As-C微量、黒褐色粘土ブロック少量、砂岩粒微量、黄褐色粒微量
2	10YR2/2	黒褐色土	△△	As-C微量、黄褐色砂粒・ブロック・焼土粒微量
3	10YR2/3	黒褐色土	△◎	焼土層、炭層、黄褐色砂土の混合土が重層する床面
4	10YR2/3	黒褐色土	△△	黄褐色粒・ブロック中量、焼土粒微量

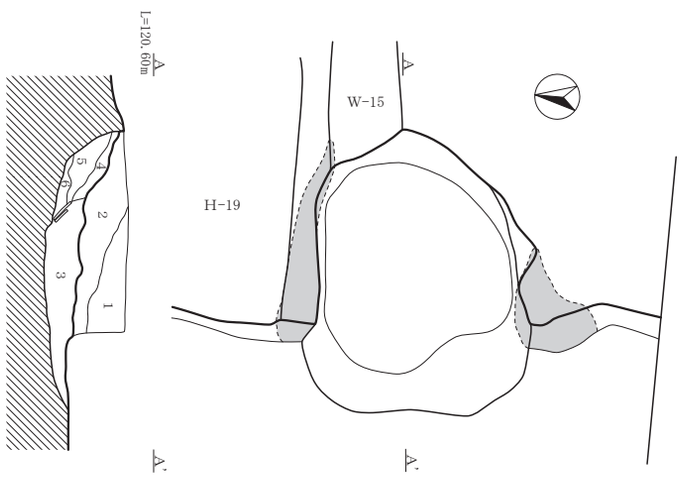
0　1：60　2m

H-24号住居跡　Bセクション

1	10YR2/3	黒褐色土	△△	As-C少量、黄褐色砂ブロック・粒少量、白色シルト粒少量、焼土粒微量
2	10YR3/3	暗褐色土	△△	As-C微量、黄褐色砂ブロック・粒不均質に中量、焼土粒微量
3	10YR2/3	黒褐色土	△△	As-C少量、黄褐色砂ブロック・粒少量、白色シルト粒少量、黒褐色土ブロック少量
4	10YR2/3	黒褐色土	○◎	焼土粒ブロック主体。炭層縞々に所々みとめられる（凝似床）
5	10YR2/3	黒褐色土	△△	As-C微量、黄褐色粒少量、白色シルト粒少量

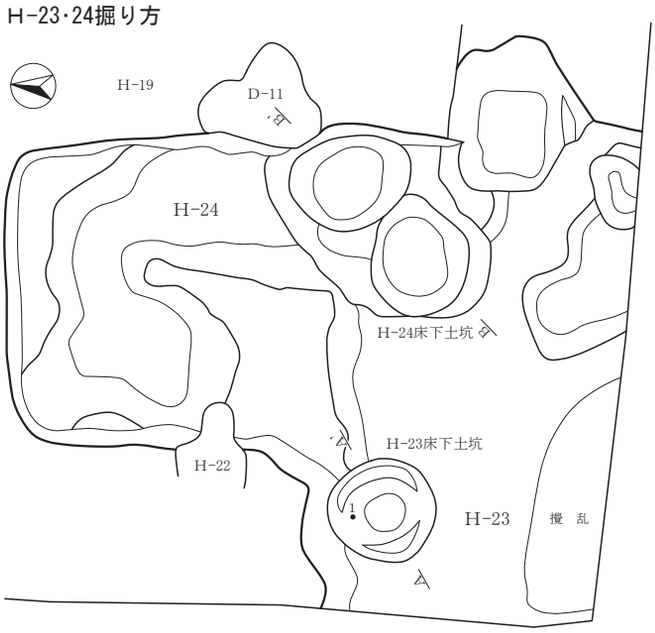
H-24号住居跡　竈セクション

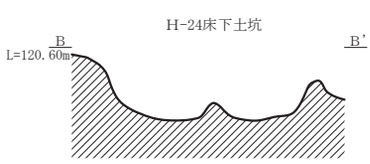
1	10YR2/3	黒褐色土	△△	As-C少量、焼土ブロック・粒不均質に中量、白色～褐色シルトブロック少量
2	10YR3/4	暗褐色土	△△	As-C微量、焼土ブロック・粒不均質に多量、白色～褐色シルトブロック中量（天井崩落土）
3	10YR3/4	暗褐色土	△△	灰層。木炭・灰主体。焼土粒・ブロック中量全体的に不均質
4	10YR2/3	黒褐色土	△△	灰主体。焼土粒・ブロック少量
5	10YR2/3	黒褐色土	△△	灰を多く含む。焼土ブロック・粒不均質に少量
6	10YR2/2	黒褐色土	△△	灰主体。焼土ブロック・粒不均質に少量

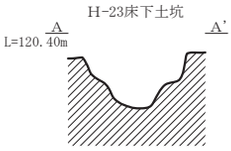


0　1：30　1m

H-23・24掘り方



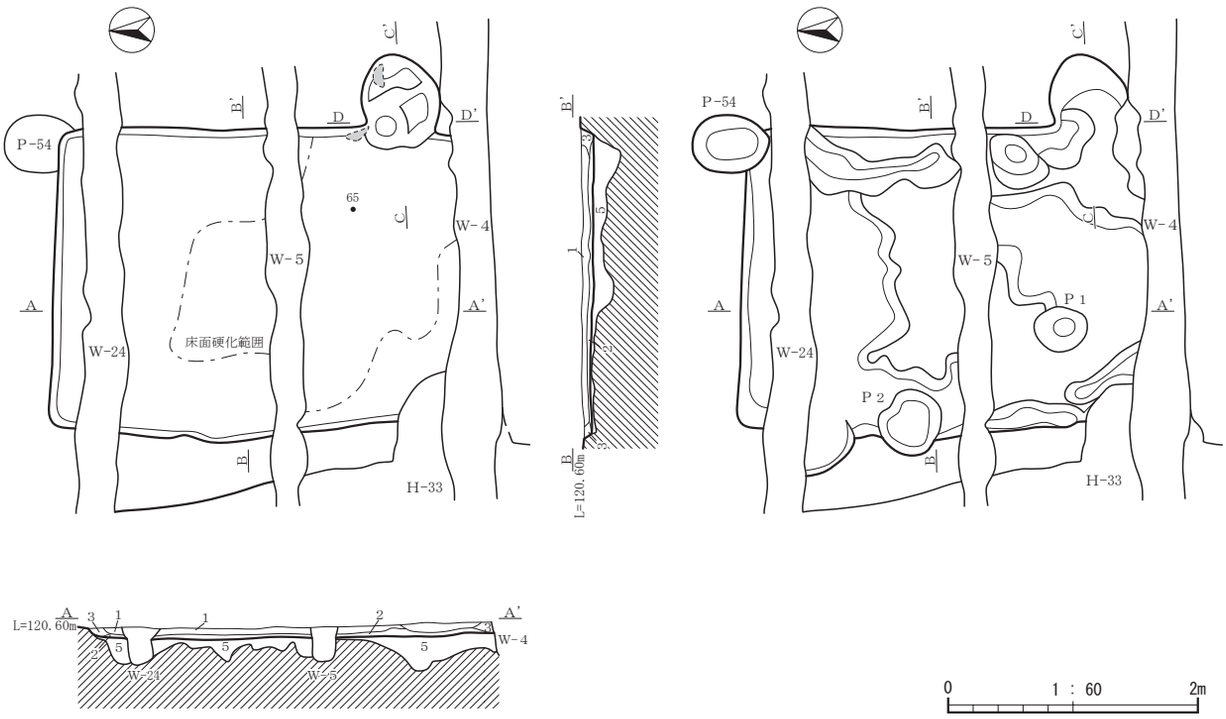


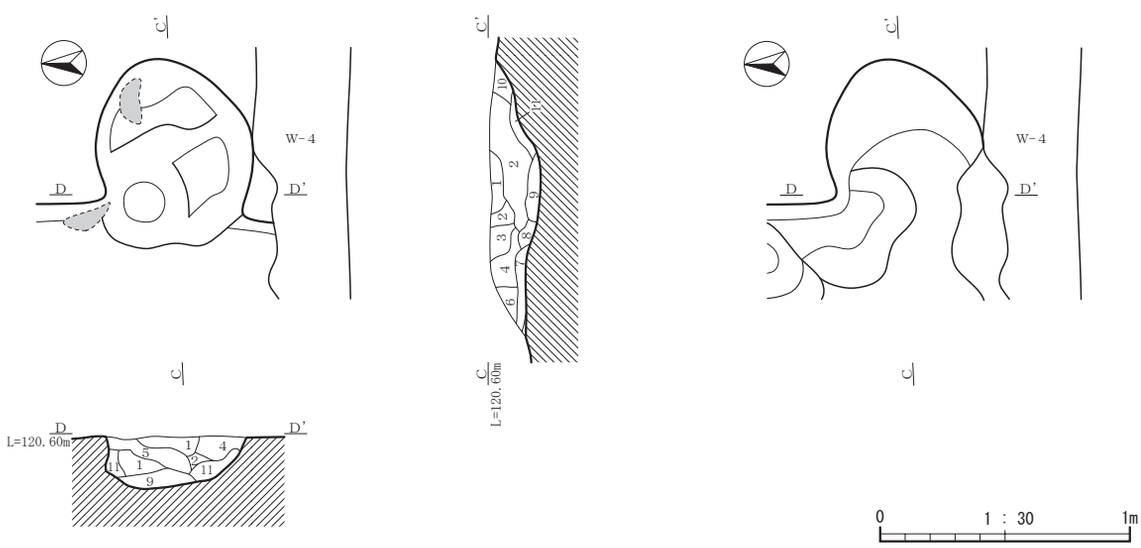


0　1：60　2m

Fig.21　8区H―24号住居跡、H―23・24号住居跡掘り方

H-28



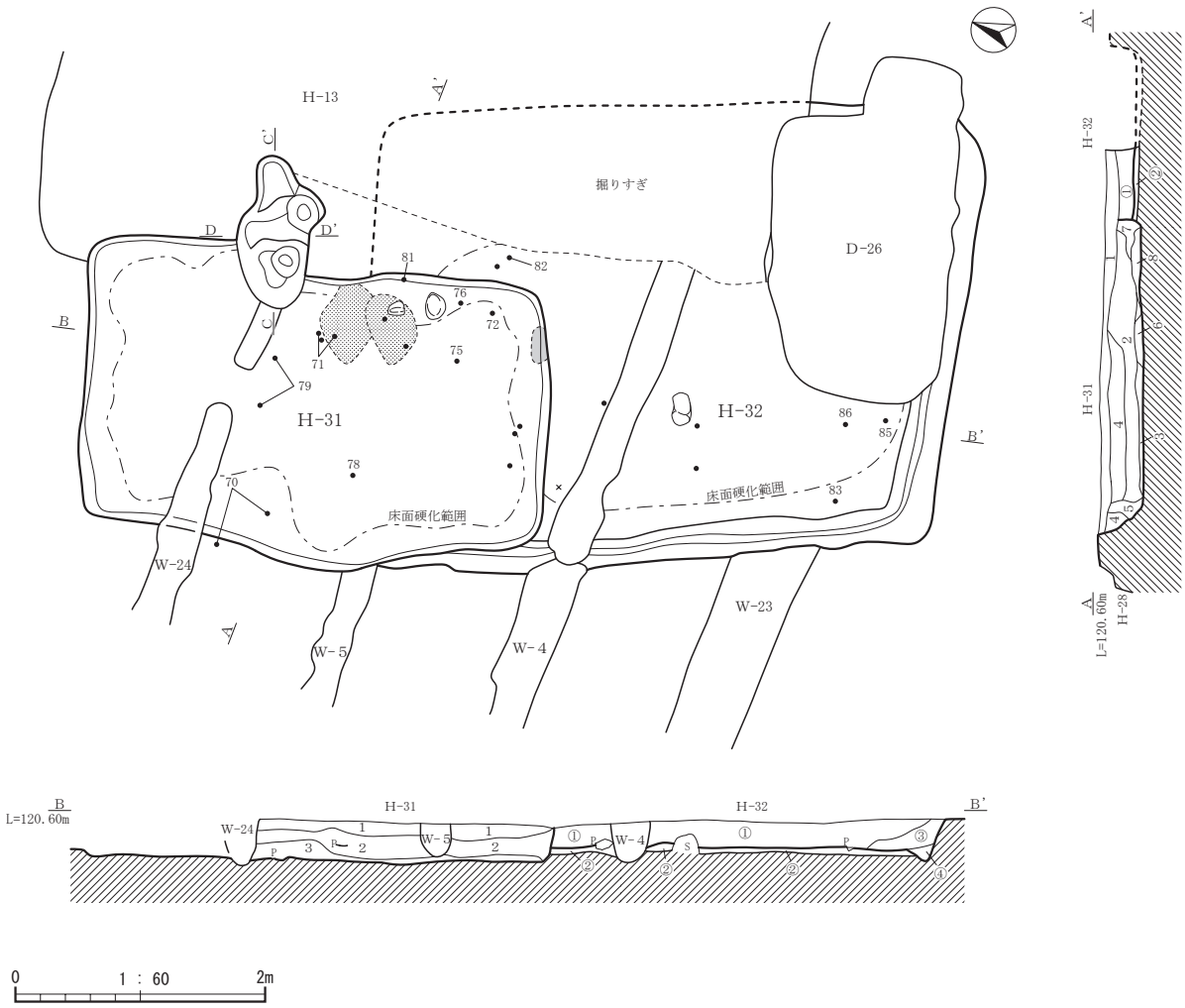


H-28号住居跡　セクション
1　10YR2/3　黒褐色土　×△　As-C2%、灰黄色砂質ブロック5mm１%
2　10YR3/3　暗褐色土　×△　As-C1%、灰黄色砂質ブロック5～10mm2%
3　10YR3/3　暗褐色土　×△　As-C微量、灰黄色砂質粒5%
4　10YR4/2　灰黄褐色土 △△ As-C微量、灰黄色砂質ブロック5mm5%、同粒20%
5　掘り方埋土

H-28号住居跡　竈セクション
1　10YR4/2　灰黄褐色土 △△ 焼土ブロックφ1mm1%、灰色粘土粒5%
2　2.5YR3/6 暗赤褐色土 △△ 焼土粒10%、 焼土ブロックφ5mm10%
3　2.5YR3/4 暗赤褐色土 △△ 焼土粒5%、同ブロックφ5mm1%、灰色粘土粒1%
4　10YR4/1　褐灰色土　△△　灰色粘土粒20%
5　10YR2/3　黒褐色土　△×　焼土粒1%
6　10YR3/2　黒褐色土　△△　As-C1%、灰色粘土粒2%
7　10YR2/3　黒褐色土　△△　As-C1%、焼土粒と灰微量
8　10YR2/3　黒褐色土　△×　灰色粘土粒1%,灰1%
9　10YR2/2　黒褐色土　△×　灰2%、焼土粒1%、灰色粘土粒1%
10　10YR3/3　黒褐色土　××　As-C1%、焼土粒1%、灰色粘土粒1%
11　10YR3/3　黒褐色土　××　As-C1%、灰色粘土粒1%、焼土粒1%、同ブロックφ1mm1%

Fig.22　8区H―28号住居跡

H-31・32



H-31・32号住居跡　セクション

H-31号住居跡

1	10YR3/2	黒褐色土	×△	As-C1%、灰黄色砂質ブロックφ10mm微量
2	10YR3/2	黒褐色土	×△	As-C微量、木炭微量
3	10YR3/3	暗褐色土	×△	黄褐色土ブロックφ10mm1%、灰黄色砂質ブロックφ10mm1%
4	10YR2/2	黒褐色土	×△	As-C1%
5	10YR3/3	暗褐色土	××	黄褐色土粒5%、 As-C1%
6	10YR4/1	褐灰色土	△△	灰色粘土ブロックφ10～20mm30%
7	10YR3/3	暗褐色土	△△	灰10%、As-C1%
8	10YR4/1	褐灰色土	○×	灰層

H-32号住居跡

①	10YR3/2	黒褐色土	×△	As-C1%、灰黄褐色土ブロックφ3～5mm1%
②	10YR3/3	暗褐色土	△△	灰黄褐色砂質ブロックφ5～10mm5%
③	10YR3/3	暗褐色土	×△	As-C1%、灰黄褐色土ブロックφ1～2mm2%
④	10YR3/4	暗褐色土	××	灰黄褐色土ブロックφ5mm1%

H-31号住居跡　竈セクション

1	10YR4/1	褐灰色土	△×	As-C1%、灰色粘土粒5%、同ブロックφ5mm1%
2	10YR5/1	褐灰色土	△×	灰60%
3	10YR3/3	暗褐色土	△×	As-C微量、灰黄色砂質ブロックφ2～3mm微量、灰1%
4	10YR4/1	褐灰色土	△×	As-C1%、灰色粘土粒10%、同ブロックφ2～5mm1%
5	10YR4/1	褐灰色土	△×	As-C1%、灰色粘土粒5%、同ブロックφ1mm1%
6	10YR3/3	暗褐色土	△×	As-C1%、灰色粘土粒1%、同ブロックφ5mm微量
7	10YR3/1	黒褐色土	△×	黒灰層、灰色粘土ブロックφ5mm1%
8	10YR3/4	暗褐色土	××	As-C1%、黄褐色土ブロックφ2～5mm40%
9	10YR4/2	灰黄褐色土	△×	灰20%、黄褐色土粒5%
10	10YR3/3	暗褐色土	△×	灰5%、焼土粒・焼土ブロックφ2mm微量

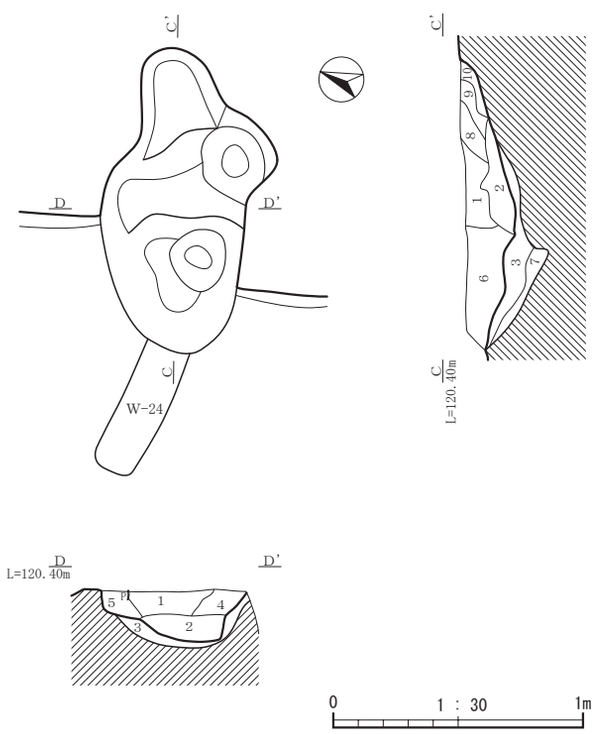
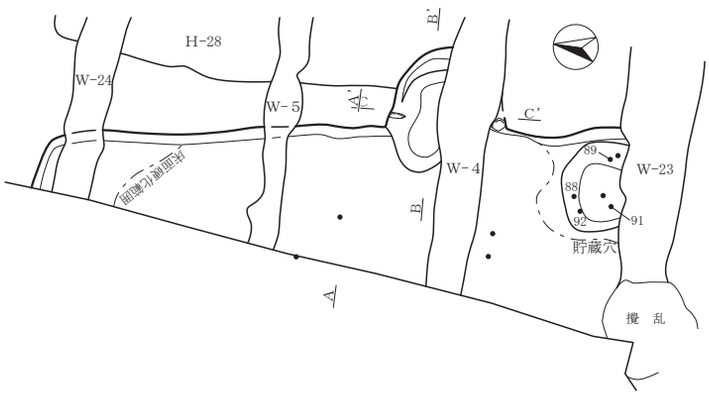
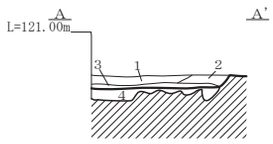


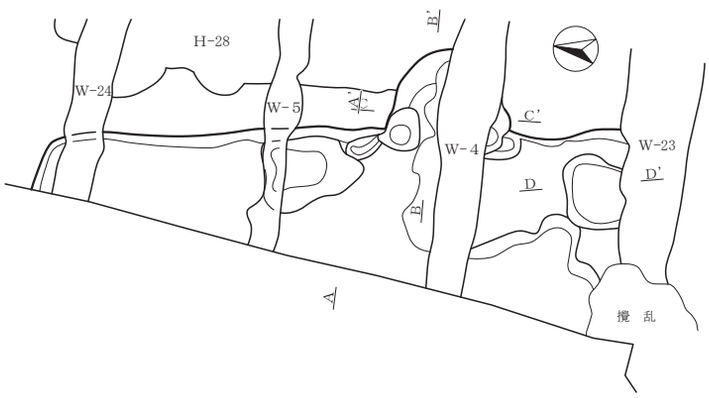
Fig.23　8区H―31・32号住居跡

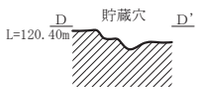
H-33

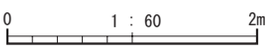


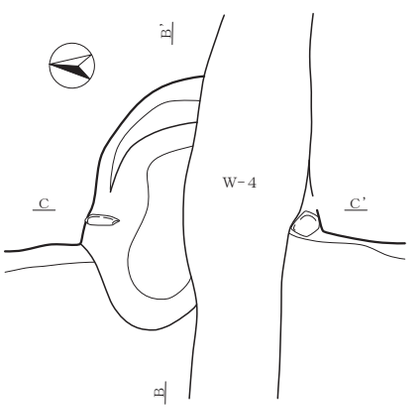


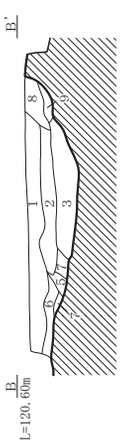
H-33号住居跡　セクション
1　10YR3/4　暗褐色土　△△　As-C2%、焼土ブロックφ2 ～5mm1%、灰黄色土ブロックφ3mm1%
2　10YR2/3　黒褐色土　△△　As-C5%、C黒色含む。焼土ブロックφ1mm1%、灰黄色粘土ブロック1～2mm1%
3　10YR3/4　暗褐色土　△○　As-C1%、焼土ブロックφ1mm1%
4　掘り方埋土

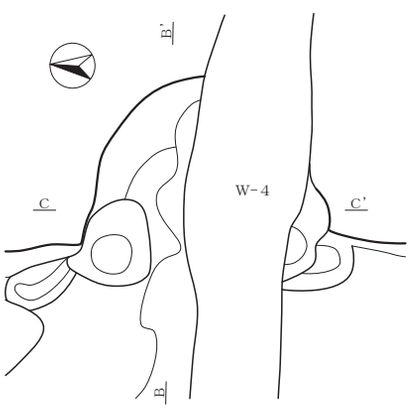


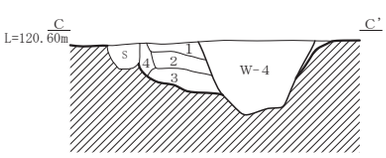


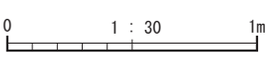






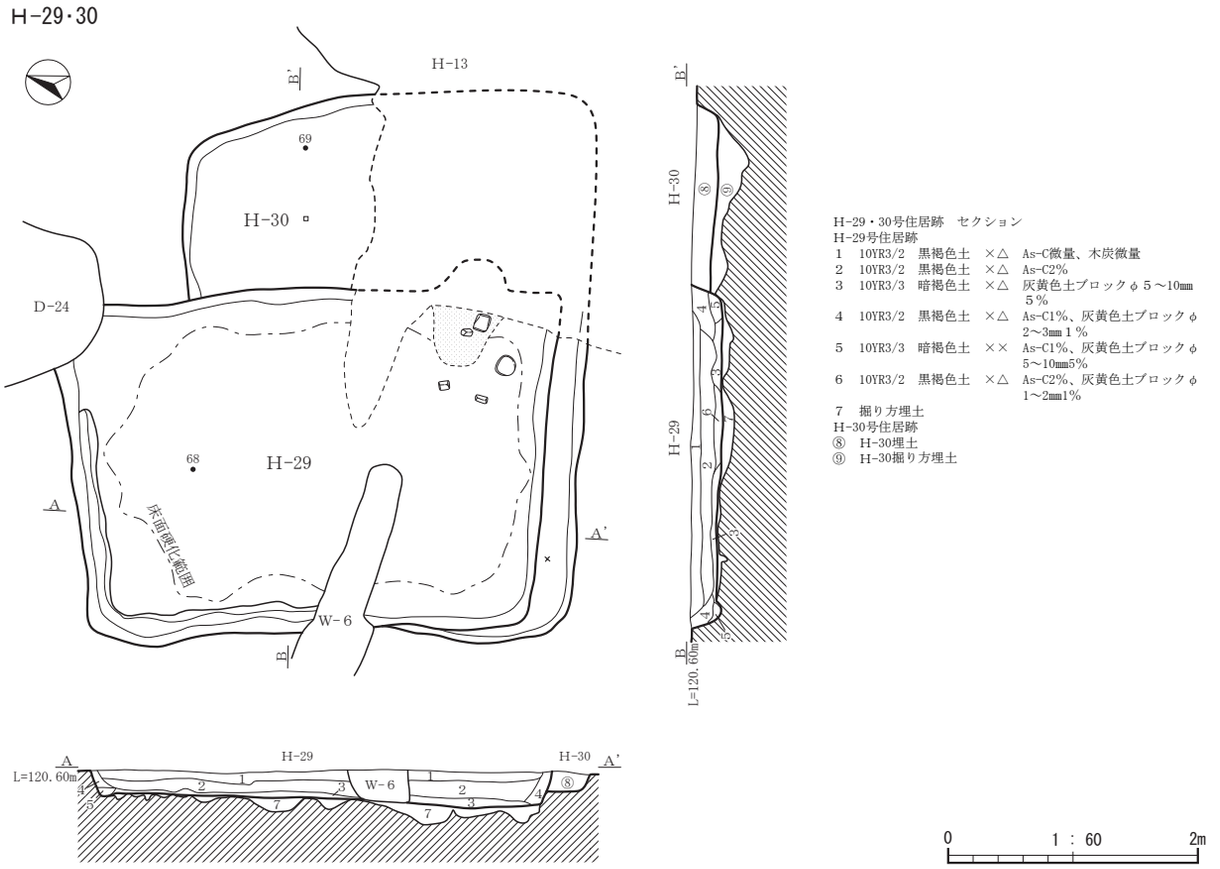






H-33号住居跡　竈セクション
1　10YR2/3　黒褐色土　△△　灰色粘土粒1%
2　10YR4/1　褐灰色土　○△　灰色粘土粒60%、焼土粒1%
3　10YR2/3　黒褐色土　○×　焼土粒・灰2%、灰色粘土粒1%
4　10YR3/2　黒褐色土　△×　焼土粒・灰色粘土粒1%、焼土ブロックφ10mm微量
5　10YR4/1　褐灰色土　○△　灰色粘土ブロック
6　10YR3/1　黒褐色土　△△　灰色粘土粒5%、焼土粒1%、As-C1%
7　10YR3/1　黒褐色土　△△　灰色粘土粒10%　焼土粒・灰1%
8　10YR3/2　黒褐色土　△△　灰色粘土粒1%、焼土ブロックφ2mm1%
9　10YR2/3　黒褐色土　△△　灰色粘土粒1%、焼土粒1%

Fig.24　8区H―33号住居跡



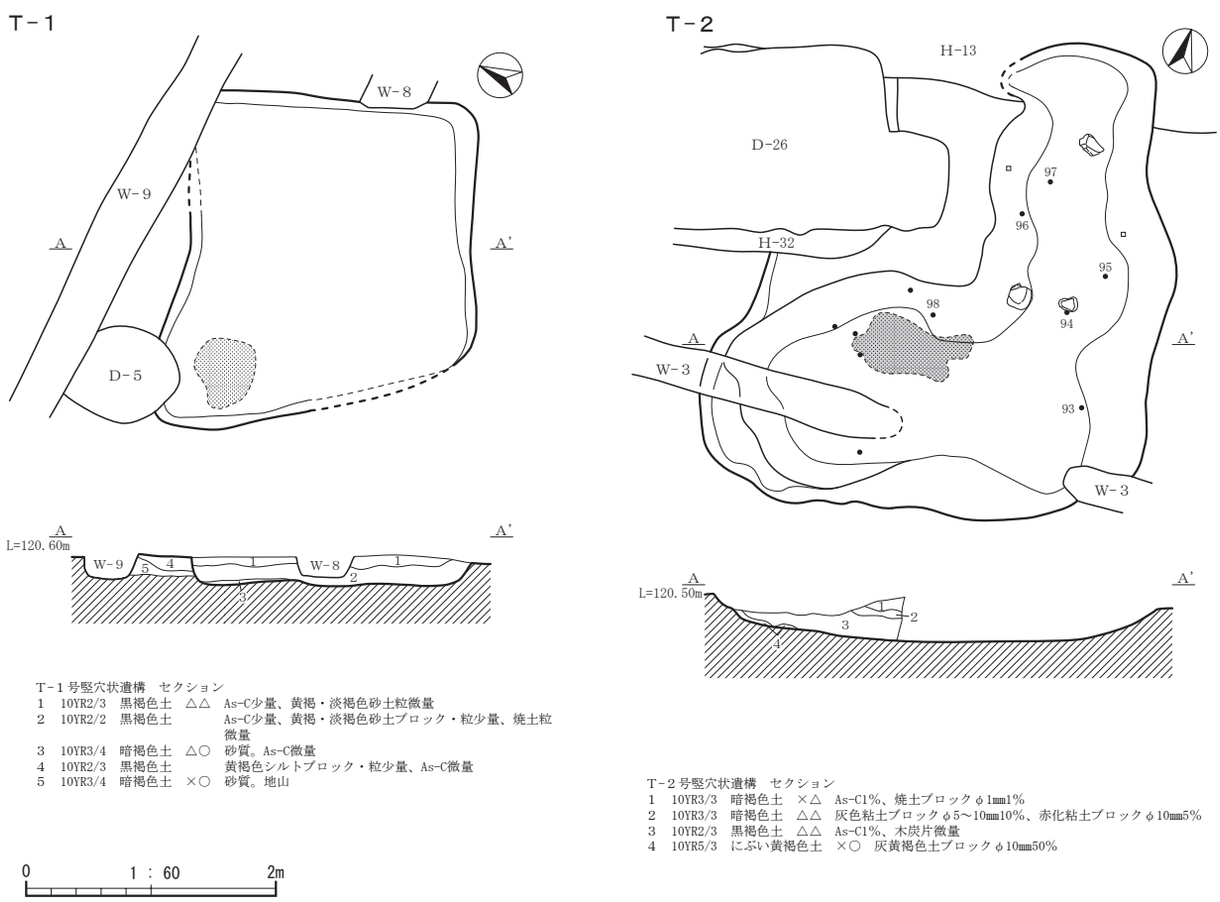
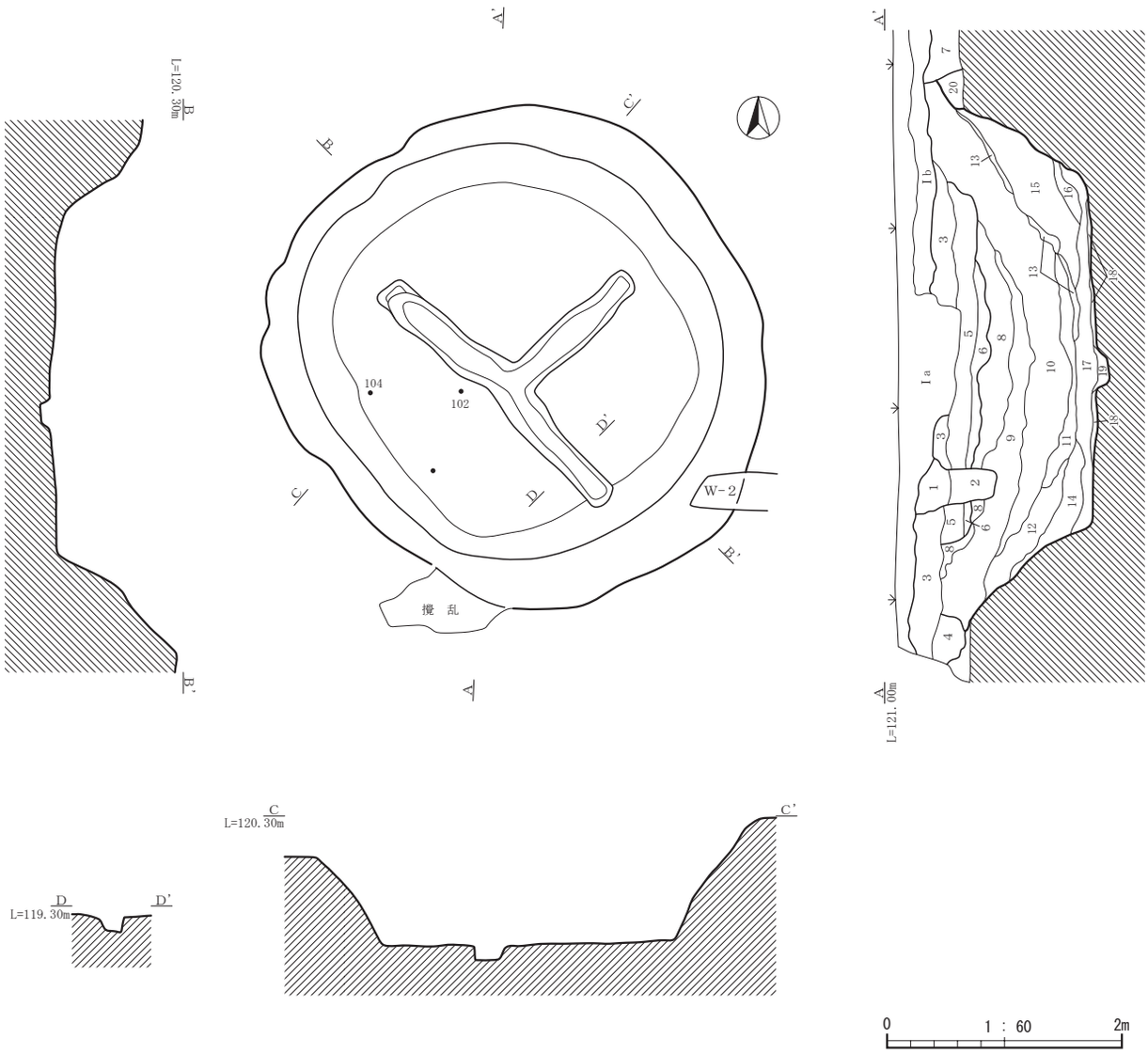


Fig.25　8区H―29・30号住居跡、T―1・2号竪穴状遺構

T－3



T－3号竪穴状遺構　セクション

Ⅰa　H－3に同じ

Ⅰb　H－3に同じ

1　10YR2/3　黒褐色土　△○　B混土か。As-C多量、黄褐色粒微量、焼土粒微量（W－2埋土）

2　10YR3/3　暗褐色土　△○　B混土。As-C少量、黄褐色シルトブロック・粒微量（W－2埋土）

3　10YR2/3　黒褐色土　×△　B混土。As-C中～多量、黄褐色シルトブロック・ 粒微量、焼土粒微量

4　10YR2/3～3/3　黒～暗褐色土　×△　B混土。何らかの落ち込み。As-C少量、黄褐色シルト粒微量

5　10YR2/2　黒褐色土　△△　As-C多量、黄褐・淡褐色シルトブロック微量、焼土粒微量（H-14埋土）

6　10YR2/3　黒褐色土　△△　As-C少量、黄褐色粒微量、焼土粒微量（H-14掘り方埋土）

7　10YR2/3　黒褐色土　△△　焼土化したシルトブロックを不均質に少量含む。As-C少量（H-27埋土）

8　10YR2/3　黒褐色土　△△　As-C中量、黄褐・淡褐色シルトブロック・粒少量、炭化物粒微量、焼土粒微量（T－3埋土）

9　10YR3/3　暗褐色土　△△　As-C微量、黄褐色シルトブロック・粒多量、淡褐色シルトブロック・粒微～少量（T－3埋土）

10　10YR2/3　黒褐色土　△△　As-C少量、黄褐色シルトブロック・粒中量、淡褐色シルトブロック・粒微～少量（T－3埋土）

11　10YR2/3　黒褐色土　△△　黄褐色シルト粒少量、As-C微量、黄褐色シルトブロック微量（T－3埋土）

12　10YR2/3　黒褐色土　△△　As-C少量、黄褐色シルトブロック・粒少量（T－3埋土）

13　10YR2/2　黒褐色土　△△　木炭主体層。As-C微量（T－3埋土）

14　10YR2/3～3/3　黒～暗褐色土　△△　黄褐色シルトブロック・粒中量、As-C微量（T－3埋土）

15　10YR2/3　黒褐色土　△△　As-C少量、黄褐・淡褐色シルトブロック・粒少量（T－3埋土）

16　10YR3/3　暗褐色土　△△　黄褐色シルトブロック・粒不均質に中量、As-C微量（T－3埋土）

17　10YR2/3　黒褐色土　△△　黄褐・淡褐色シルトブロック・粒少量、As-C微量（T－3埋土）

18　10YR2/3　黒褐色土　○○　白粒少量、黄褐色シルト粒少量（T－3埋土）

19　10YR2/3　黒褐色土　△×　黄褐・淡褐色シルト粒少量、小礫微量（T－3埋土）

20　10YR2/3　黒褐色土　△△　As-C少量、黄褐色粒微量、焼土粒微量、炭化物粒微量

T－4号竪穴状遺構　セクション

1　10YR3/2　黒褐色土　×△　灰黄褐色砂質ブロックφ5～10mm5%（H-31掘り方埋土）

2　10YR2/3　黒褐色土　×○　灰黄褐色砂質ブロックφ10mm微量

3　10YR2/3　黒褐色土　×△　灰黄褐色砂質ブロックφ10～20mm1%、同φ50～60mm微量

4　10YR2/3　黒褐色土　△△　As-C1%

5　10YR3/2　黒褐色土　△△　As-C1%、灰黄砂質土ブロックφ10～30mm2%、同φ50mm微量

6　10YR5/3　にぶい黄褐色土　××　砂質土

7　10YR2/3　黒褐色土　△△　As-C微量、黄褐色土粒2%

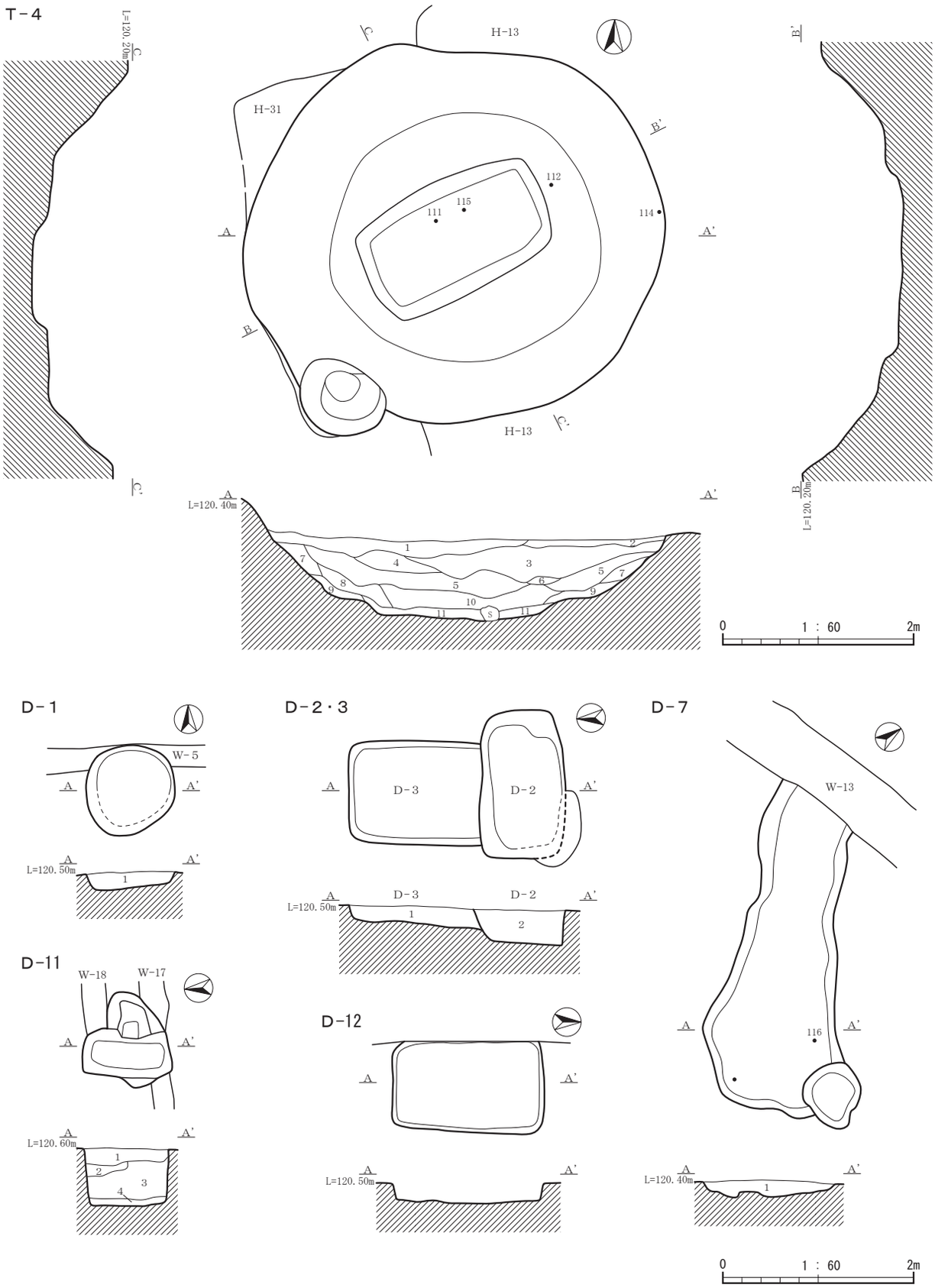
8　10YR2/3　黒褐色土　○△　As-C微量、灰黄砂質土ブロックφ1～5mm1%

9　10YR2/3　黒褐色土　○△　灰黄砂質土粒2%、同ブロックφ3mm1%

10　10YR2/3　黒褐色土　○△　灰黄砂質土ブロックφ2～5mm微量

11　10YR2/3　黒褐色土　◎○　灰黄砂質土ブロックφ1mm1%

Fig.26　8区T－3号竪穴状遺構



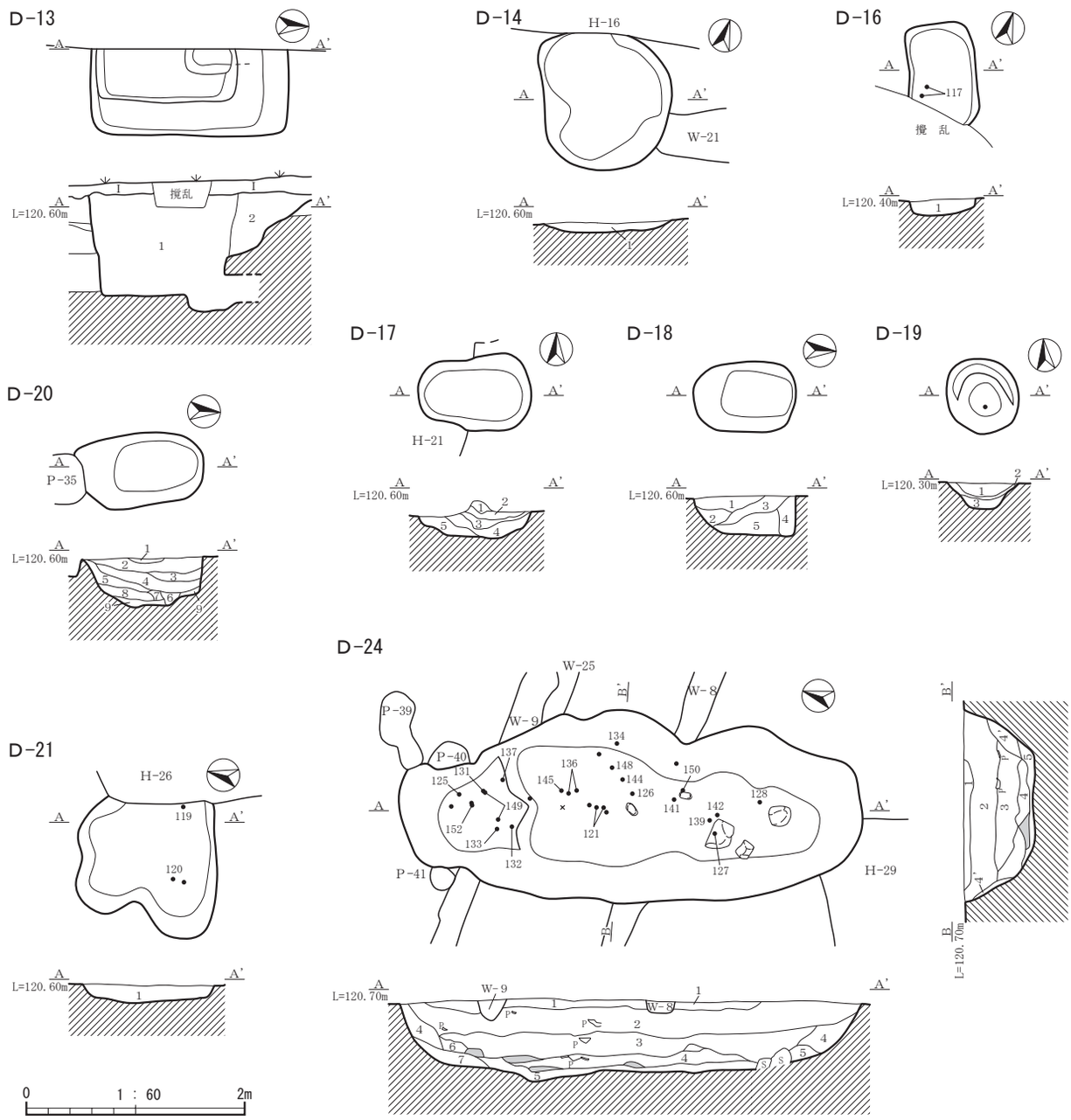
D－1号土坑　セクション
1　10YR2/3　黒褐色土　○○　C軽中量、黄褐色砂ブロック微～少量

D－2・3号土坑跡　セクション
1　10YR3/3　暗褐色土　××　B混土。小礫少量、黄褐色砂ブロック微量
2　1層に近似。色調はやや黄色味強い。近～現代か

D－7号土坑　セクション
1　10YR2/3　黒褐色土　△△　As-C少～中量、黄褐色砂ブロック少量

D-11号土坑　セクション
1　10YR3/3　暗褐色土　××　B混土。黄褐色砂ブロック・粒中量
2　10YR3/3　暗褐色土　××　B混土。黄褐色砂ブロック・粒多量
3　10YR3/3　暗褐色土　××　B混土。黄褐色砂ブロック・粒少量
4　10YR2/3　黒褐色土　△○　B混土。黄褐色砂ブロック・粒少量

Fig.27　8区T－4号竪穴状遺構、土坑（1）



D-13号土坑　セクション
Ⅰ　基本層序に同じ
1　10YR2/3　黒褐色土　△△　粗粒で砂質。黄褐色砂ブロック・粒多量
2　10YR2/2　黒褐色土　△△　白色粒少量、黒色土ブロック少量、橙褐色粒微量

D-14号土坑　セクション
1　10YR2/3　黒褐色土　△△　As-C少量、焼土粒微量、黄褐色砂ブロック微量

D-16号土坑　セクション
1　10YR2/3　黒褐色土　△△　As-C少量、黄褐色砂ブロック・粒少量

D-17号土坑　セクション
1　10YR4/4　褐色土　△△　焼土化した砂岩含む。シルト質少量、焼土ブロック・粒少量
2　10YR2/3　黒褐色土　△△　焼土粒微量
3　10YR2/2　黒褐色土　△△　ブロックを含む黒色粘土主体。白色粒少量、黄褐色ブロック・粒少量
4　10YR2/2　黒褐色土　△△　白色粒少量、黄褐色砂ブロック・粒少量
5　10YR2/3　黒褐色土　△△　黄褐シルトブロック・粒多量、焼土粒微量、炭化物粒微量

D-18号土坑　セクション
1　10YR2/3　黒褐色土　△△　As-C多量、黄褐色ブロック・粒中量、黒色ブロック少量
2　10YR2/3　黒褐色土　△△　黄褐色粒少量、黄褐色ブロック微量
3　10YR2/3　黒褐色土　△△　黄褐色ブロック・粒中量、As-C少量
4　10YR2/3　黒褐色土　△△　黄褐色ブロック・粒微量
5　10YR2/3　黒褐色土　△△　黄褐色粒中量、黄褐色ブロック少量

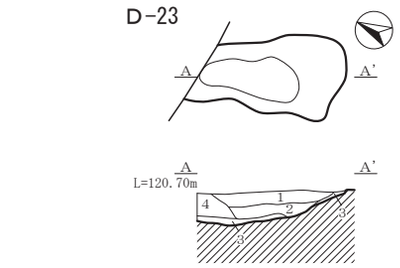
D-19号土坑　セクション
1　10YR2/3　黒褐色土　△△　As-C少量、黄褐色ブロック・粒少量、焼土ブロック・粒少量、灰ブロック微量
2　10YR5/4　にぶい黄褐色土　△△　シルト質（貼られた感じ）
3　10YR3/4　暗褐色土　△△　黄褐色ブロック・粒少量、焼土粒微量

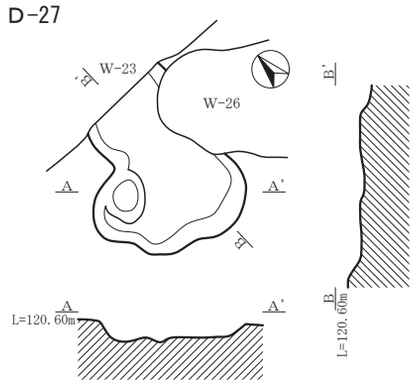
D-20号土坑　セクション
1　10YR2/2　黒褐色土　△△　As-C少量(溝埋土)
2　10YR2/2　黒褐色土　△△　As-C微量、暗褐色ブロック・粒、黒褐色ブロック少量
3　10YR2/3　黒褐色土　△△　暗褐色・黄褐色ブロック少量、黒色土ブロック中～少量
4　10YR2/3　黒褐色土　△△　白色粒微量、暗褐色土ブロック・粒少量
5　10YR4/6　△△　褐色土ブロック、（山吹色）投げ込まれた地山
6　10YR2/2　黒褐色土　△△　暗褐色粒少量
7　10YR2/2　黒褐色土　△◎　黄褐色粒・暗褐色粒少量
8　10YR2/2　黒褐色土　△◎　黄褐色粒・ブロック、黒色土ブロック少量
9　10YR2/3　黒褐色土　△◎　黄褐色粒・ブロック中量

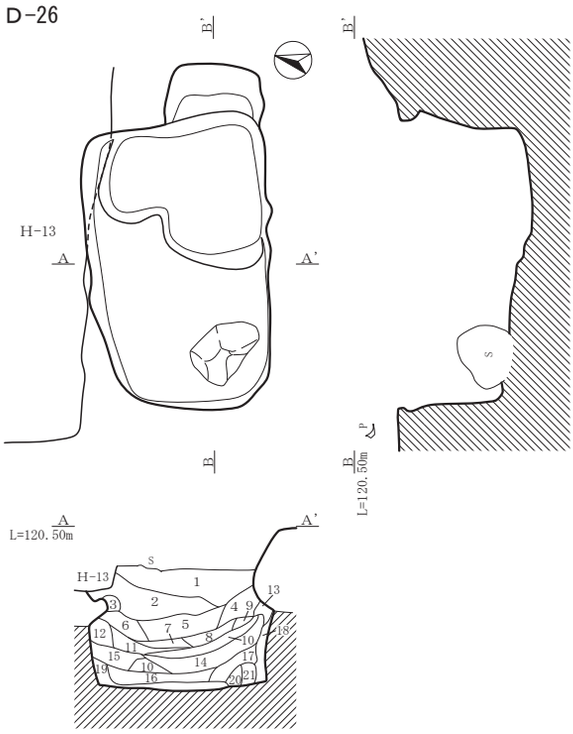
D-21号土坑　セクション
1　10YR2/3　黒褐色土　△△　As-C少量、黄褐色粒・焼土粒微量

D-24号土坑　セクション
1　10YR3/3　暗褐色土　×△　As-C5%、Hr-FPところどころ、黄色土ブロックφ5～10mm1%
2　10YR2/3　黒褐色土　×△　As-C3%、Hr-FPところどころ、木炭ところどころ
3　10YR2/2　黒褐色土　×△　As-C1%、Hr-FP微量、木炭微量
4　10YR2/3　黒褐色土　△△　As-C微量、黄色土ブロックφ5mm微量
5　10YR3/4　暗褐色土　××　黄色土粒20%、同ブロックφ10～20mm10%
6　10YR3/3　暗褐色土　××　As-C1%、黄色土粒5%、同ブロックφ10mm1%
7　10YR3/4　暗褐色土　×△　As-C微量、黄色土粒10%、同ブロックφ5～10mm5%
4'　10YR2/3　黒褐色土　××　As-C1%、黄色土粒1%
灰層　10YR3/3　褐灰色土

Fig.28　8 区土坑（2）





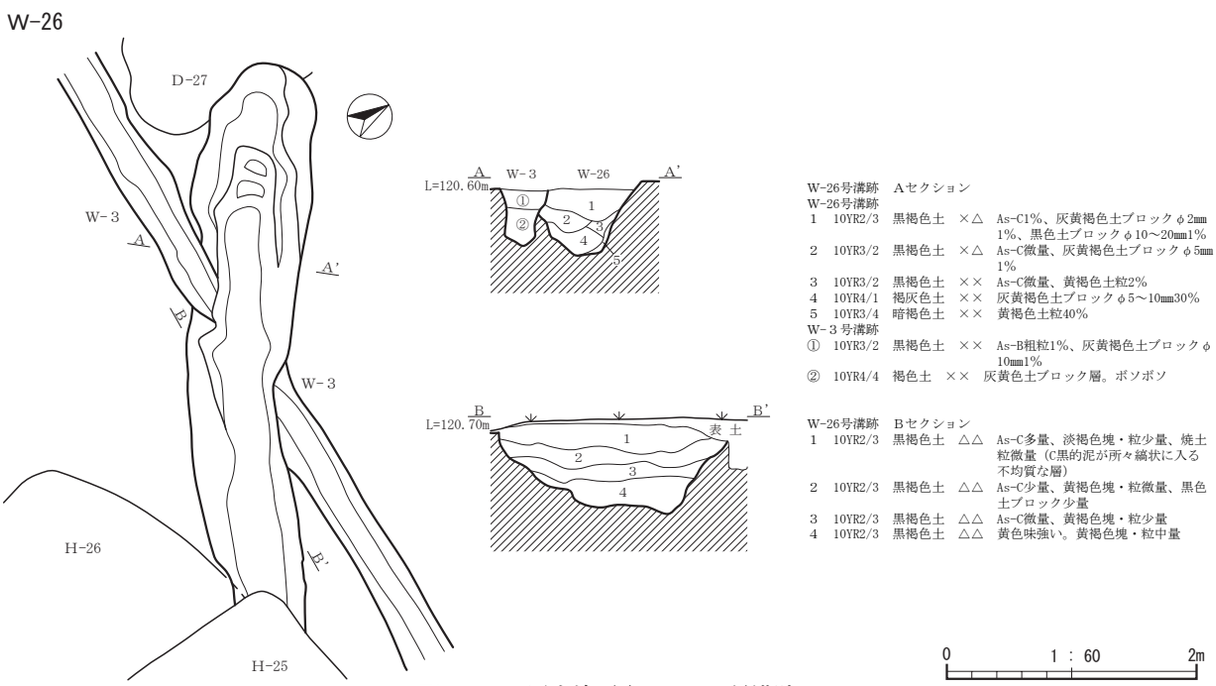


D-23号土坑　セクション

1	10YR2/3	黒褐色土	×△	As-C1%
2	10YR2/3	黒褐色土	×△	As-C1%、Hr-FP微量、黄褐色土ブロックφ2mm1%
3	10YR3/3	暗褐色土	××	As-C微量、黄褐色土粒10%
4	10YR3/3	暗褐色土	××	As-C1%、黄褐色土ブロックφ2～5mm1%

D-26号土坑　セクション

1	10YR3/2	黒褐色土	×△	As-C1%、Hr-FP微量
2	10YR3/2	黒褐色土	×△	As-C1%、黄褐色土ブロックφ10～20mm1%
3	10YR2/1	黒褐色土	△△	黒色土
4	10YR2/2	黒褐色土	△△	As-C１・Hr-FP微量
5	10YR2/2	黒褐色土	△△	As-C１・Hr-FP微量、黄褐色土粒1%
6	10YR2/2	黒褐色土	×△	As-C微量、黄褐色土粒・同ブロックφ1～2mm1%
7	10YR3/3	暗褐色土	△△	黄褐色土ブロックφ10mm10%
8	10YR3/2	黒褐色土	△△	黄褐色土ブロックφ1～2mm1%
9	10YR3/3	暗褐色土	△△	黄褐色土粒30%
10	10YR3/2	黒褐色土	△△	灰10%、黄褐色土ブロックφ5～10mm5%
11	10YR3/2	黒褐色土	△△	灰１%、黄褐色土ブロックφ5mm2%
12	10YR3/4	暗褐色土	△△	黄褐色土粒10%、同ブロックφ10～20mm10%
13	10YR3/2	黒褐色土	△△	黄褐色土粒10%
14	10YR5/1	褐灰色土	○×	灰層
15	10YR3/2	黒褐色土	△△	灰1%、黄褐色土ブロックφ2～3mm2%
16	10YR3/4	暗褐色土	△△	灰1%、灰黄褐色土ブロックφ10～30mm5%
17	10YR3/4	暗褐色土	△△	黄褐色土粒30%、同ブロックφ5～10mm1%
18	10YR4/6	褐色土	△×	黄褐色土粒80%
19	10YR3/4	暗褐色土	△△	黄褐色土粒20%、灰黄色砂質土ブロックφ50mm1%
20	10YR3/4	暗褐色土	△△	灰黄色砂質土ブロックφ20mm1%、黄褐色土粒10%
21	10YR3/4	暗褐色土	△△	黄褐色土粒20%、同ブロックφ5mm5%



W-26号溝跡　Aセクション

W-26号溝跡

1	10YR2/3	黒褐色土	×△	As-C1%、灰黄褐色土ブロックφ2mm 1%、黒色土ブロックφ10～20mm1%
2	10YR3/2	黒褐色土	×△	As-C微量、灰黄褐色土ブロックφ5mm 1%
3	10YR3/2	黒褐色土	××	As-C微量、黄褐色土粒2%
4	10YR4/1	褐灰色土	××	灰黄褐色土ブロックφ5～10mm30%
5	10YR3/4	暗褐色土	××	黄褐色土粒40%

W-３号溝跡

①	10YR3/2	黒褐色土	××	As-B粗粒1%、灰黄褐色土ブロックφ10mm1%
②	10YR4/4	褐色土	××	灰黄色土ブロック層。ボソボソ

W-26号溝跡　Bセクション

1	10YR2/3	黒褐色土	△△	As-C多量、淡褐色塊・粒少量、焼土粒微量（C黒的泥が所々縞状に入る不均質な層）
2	10YR2/3	黒褐色土	△△	As-C少量、黄褐色塊・粒微量、黒色土ブロック少量
3	10YR2/3	黒褐色土	△△	As-C微量、黄褐色塊・粒少量
4	10YR2/3	黒褐色土	△△	黄色味強い。黄褐色塊・粒中量

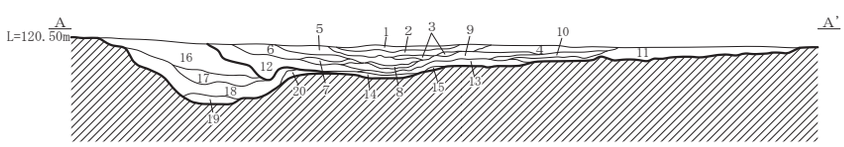
0　1：60　2m

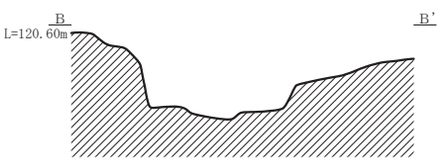
Fig.29　8区土坑（3）、W―26号溝跡

A－1

A－1号道路状遺構　セクション

1	10YR2/3	黒褐色土	×◎	B混入？硬化面。砂層が縞状に入る。As-C（As系白色パミス）少量
2	10YR3/3	暗褐色土	×○	Bの混入は不明。硬化面を含む層。As-C（As系白色パミス）少量、焼土粒微量、黄褐色砂粒微量
3	10YR3/4	暗褐色土	×○	硬化している。As系白色パミス微量
4	10YR2/3	黒褐色土	△△	硬化箇所なし。As系白色パミスごく微量
5	10YR2/2	黒褐色土	△△	硬化面を含む層。As系パミス少量
6	４層と同じ			
7	10YR3/4	暗褐色土	×○	硬化面を含む層。As系パミスごく微量
8	10YR3/4	暗褐色土	×◎	硬化面。As系パミス微量
9	10YR3/4	暗褐色土	×○	硬化面を含む層。As系パミス少量
10	10YR3/4	暗褐色土	×◎	硬化面そのもの。As系パミス少量
11	10YR2/3	黒褐色土	△△	４層と住居埋土の混合土。As系パミス少量、黄褐色シルト粒微量
12	10YR2/3	黒褐色土	△×	４・６層と近似。As系テフラ少量、焼土粒微量
13	10YR2/3	黒褐色土	×◎	硬化面を含む層。As系テフラ微量
14	10YR4/4	褐色土	×◎	硬化面。As系テフラごくごく微量
15	掘りすぎ			
16	10YR2/2	黒褐色土	△△	As-C少量、黄褐、淡褐色シルトブロック・粒少量、焼土粒微量
17	10YR2/2	黒褐色土	△△	As-C中量、黄褐、淡褐色シルトブロック少量、焼土粒微量、炭化物粒微量
18	10YR2/3	黒褐色土	△×	As-C少量、黄褐、淡褐色シルトブロック・粒少量、炭化物微～少量
19	10YR2/3	黒褐色土	△△	黄褐色シルトブロック・粒中量、As-C少量
20	10YR3/4	暗褐色土	△△	地山か。白色パミス少量、黄褐色砂粒少量





0　1 : 60　2m

Fig.30　8区A－1号道路状遺構

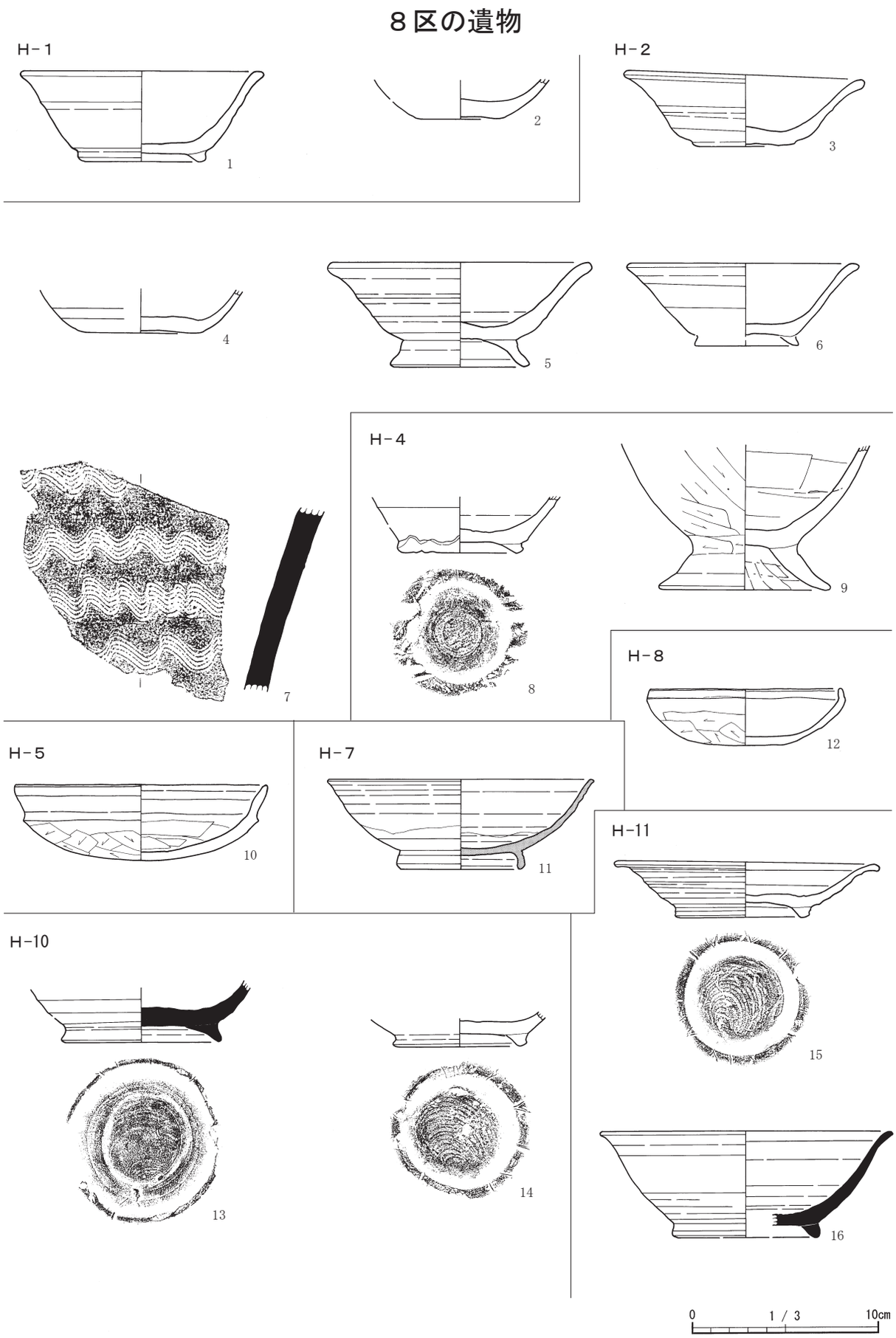


Fig.31　８区Ｈ－１～Ｈ－11出土遺物

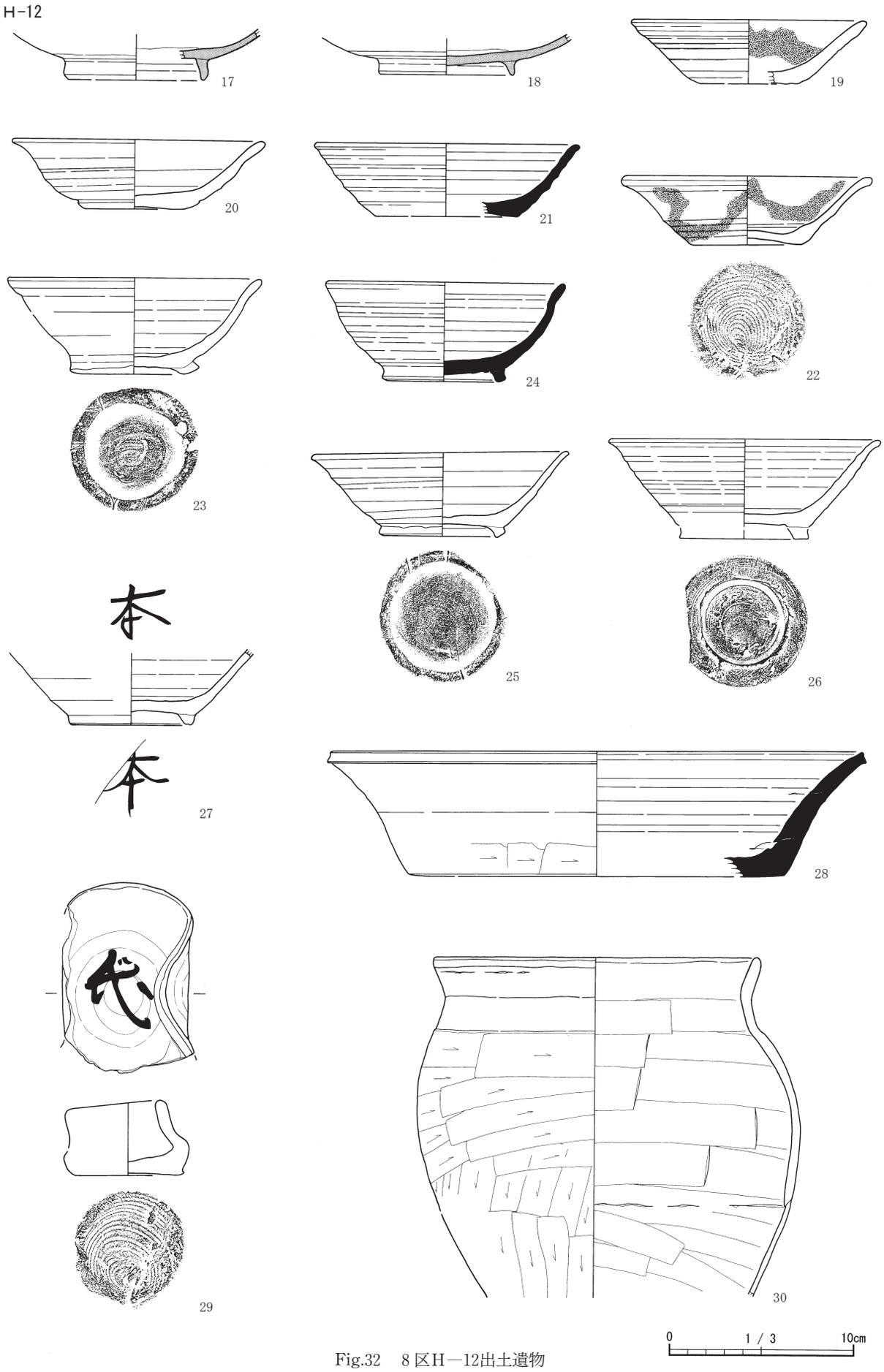


Fig.32　8区H―12出土遺物

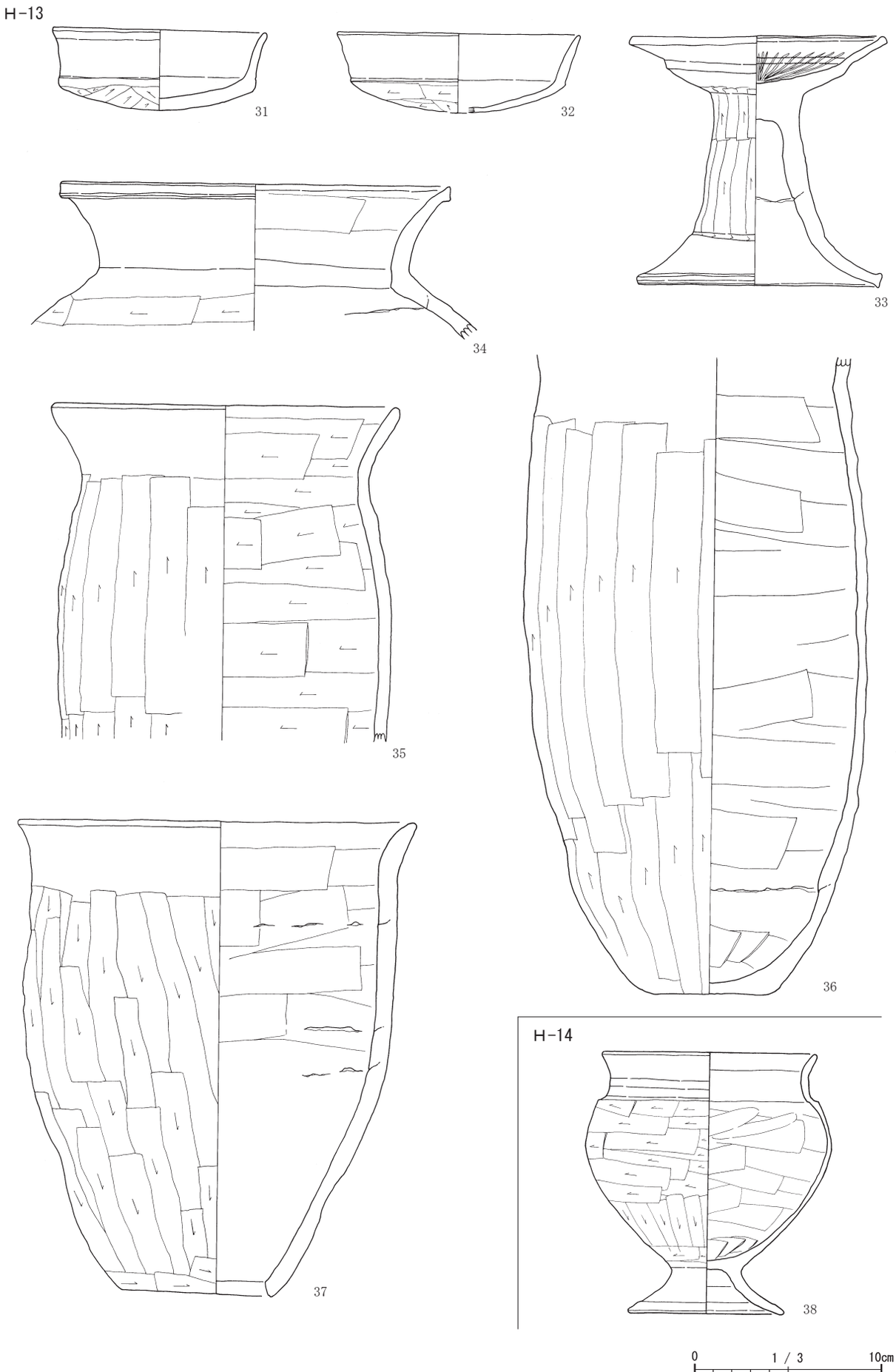


Fig.33　8区H―13・14出土遺物

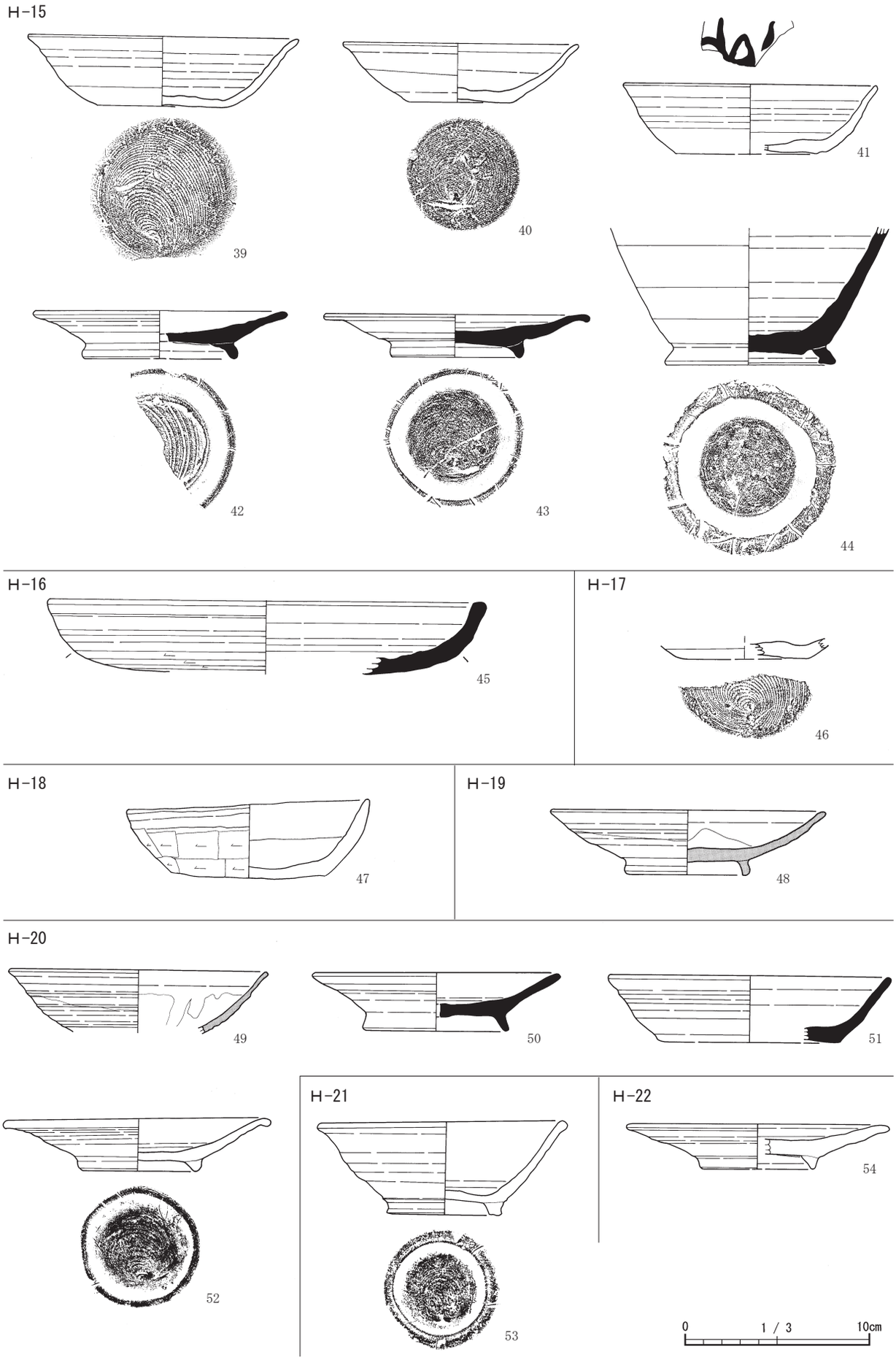


Fig.34　8区H―15～H―22出土遺物

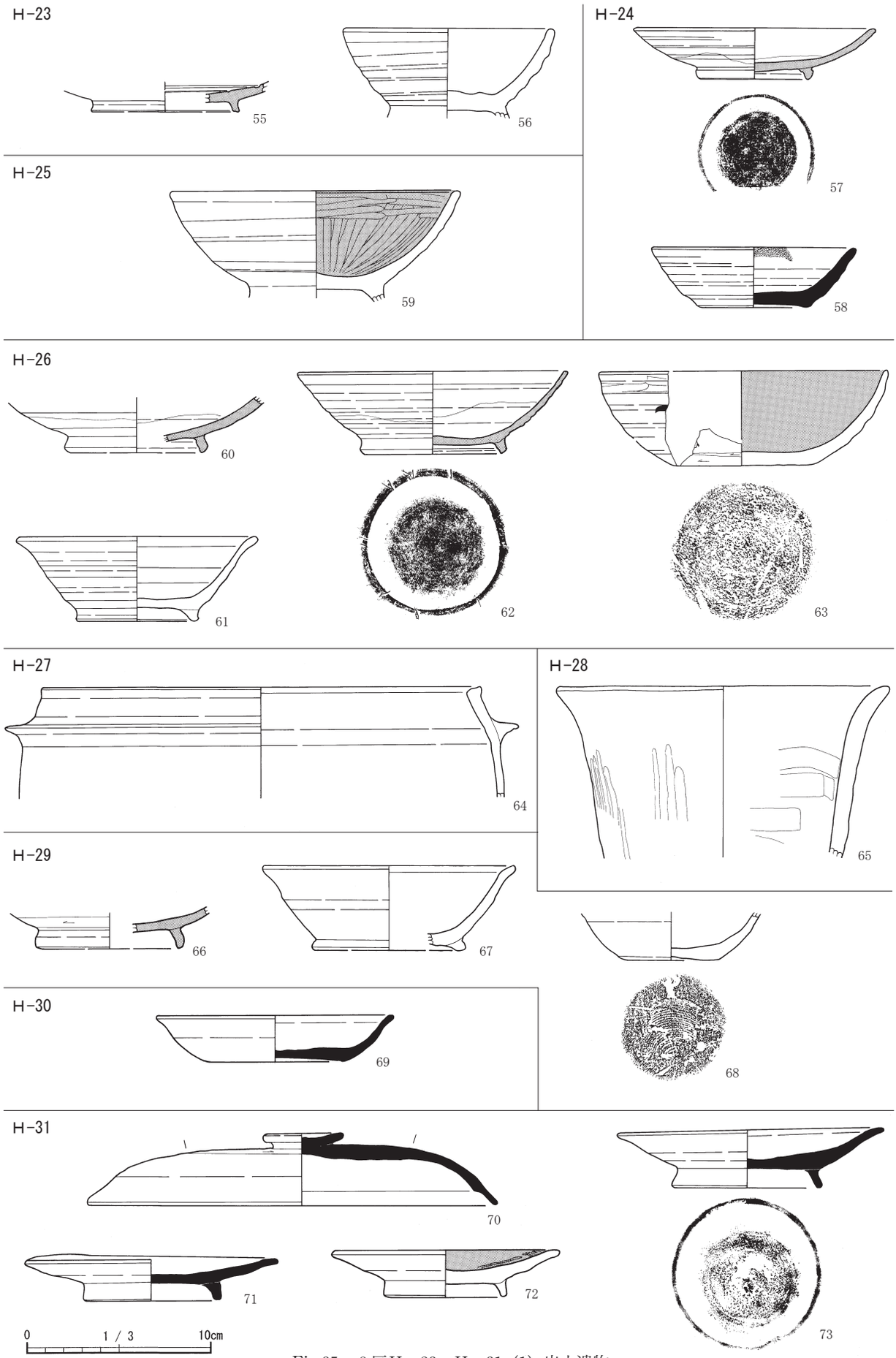
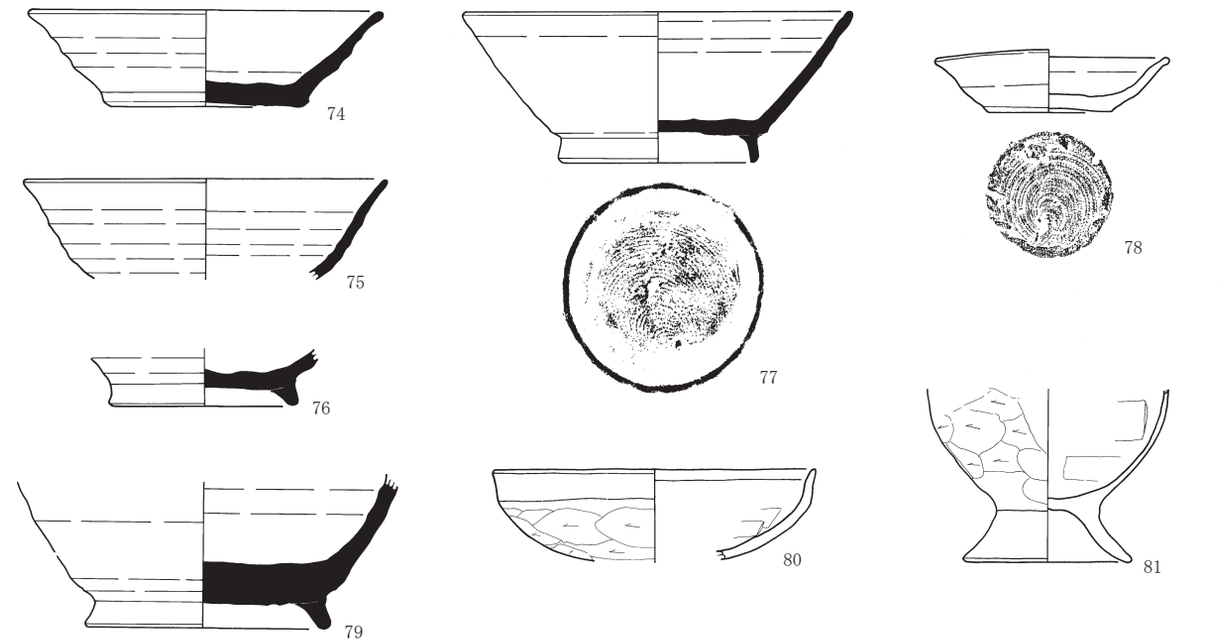
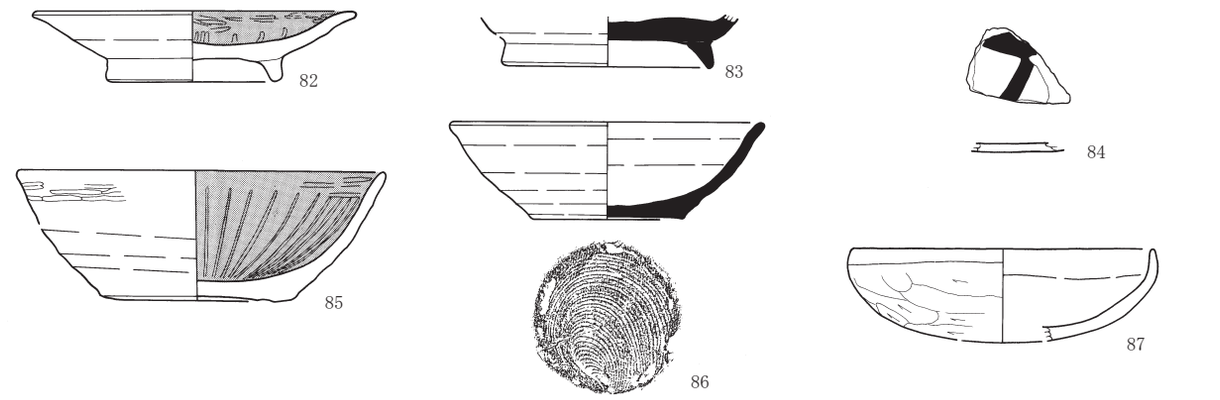


Fig.35　8 区H―23～H―31（1）出土遺物

H-31



H-32



H-33

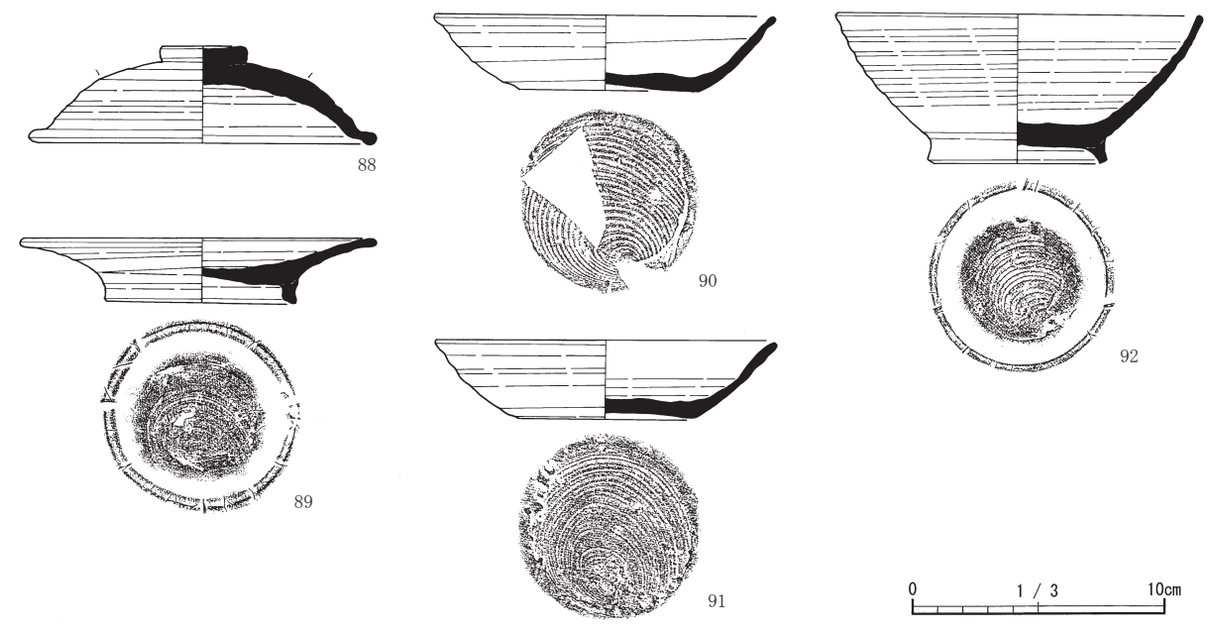
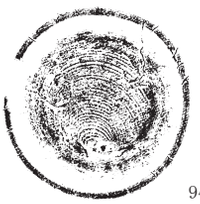


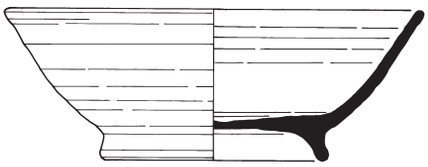
Fig.36　8区H—31（2）～H—33出土遺物

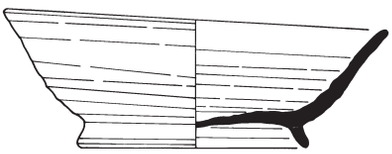
T－2

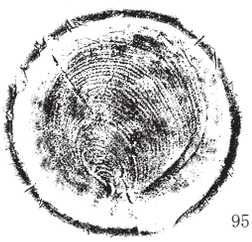
93



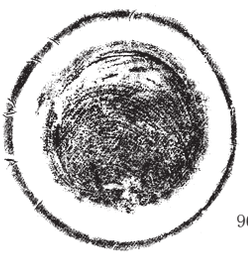
94



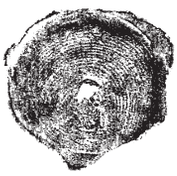




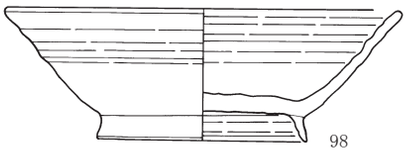
95



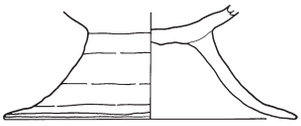
96



97

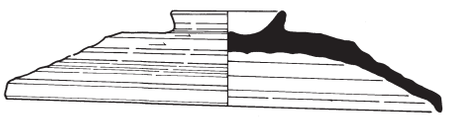


98

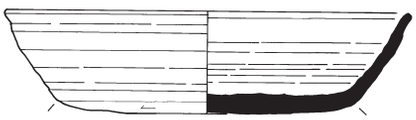


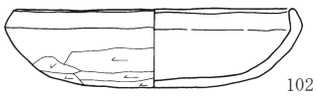
99

T－3



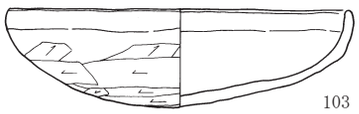
100



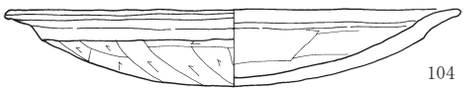


102

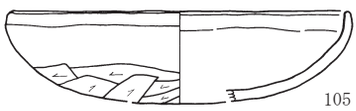
101



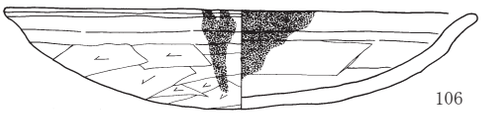
103



104



105



106

0　1／3　10cm

Fig.37　8区T－2・3出土遺物

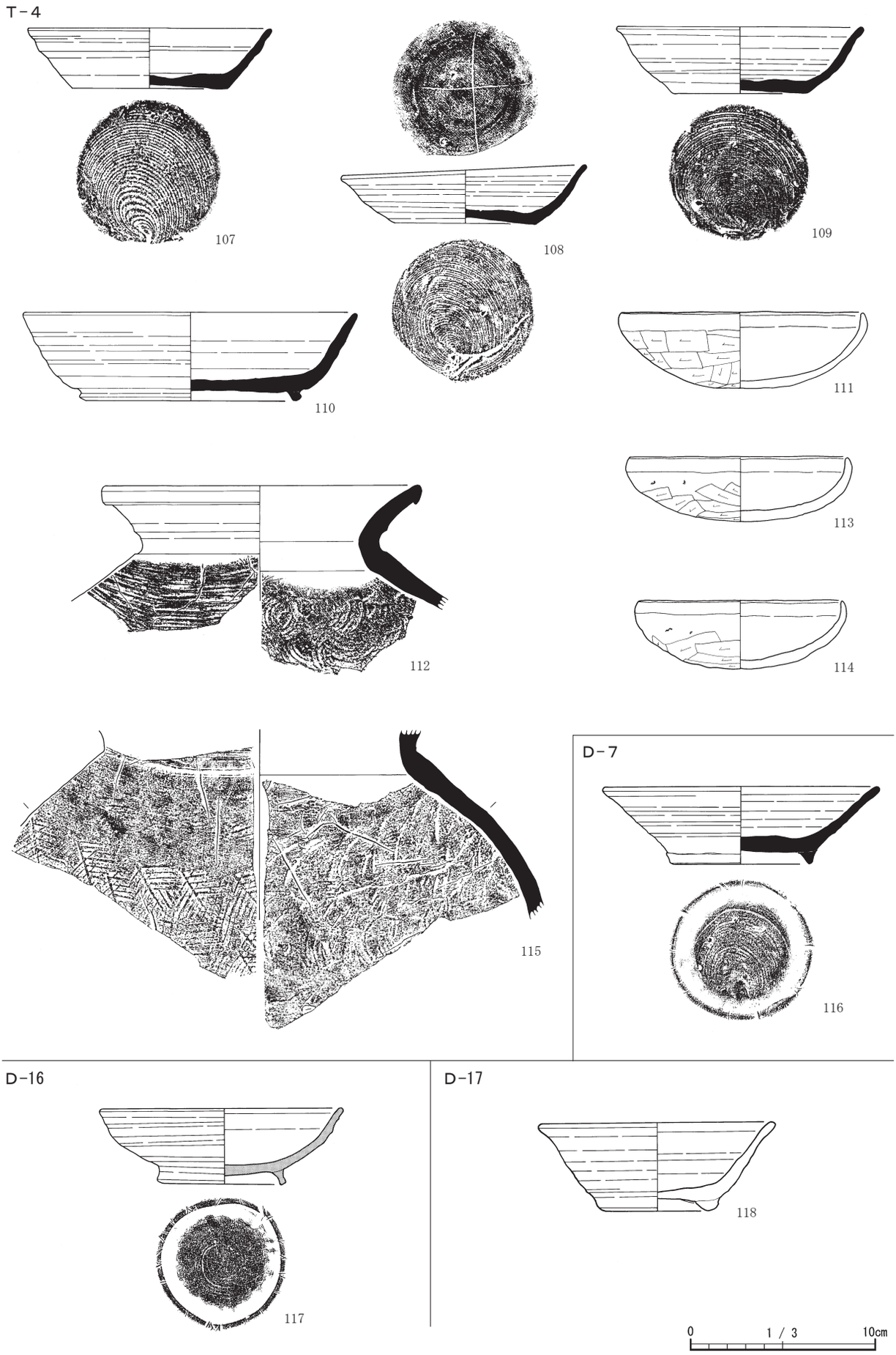


Fig.38　8区T－4、D－7・16・17出土遺物

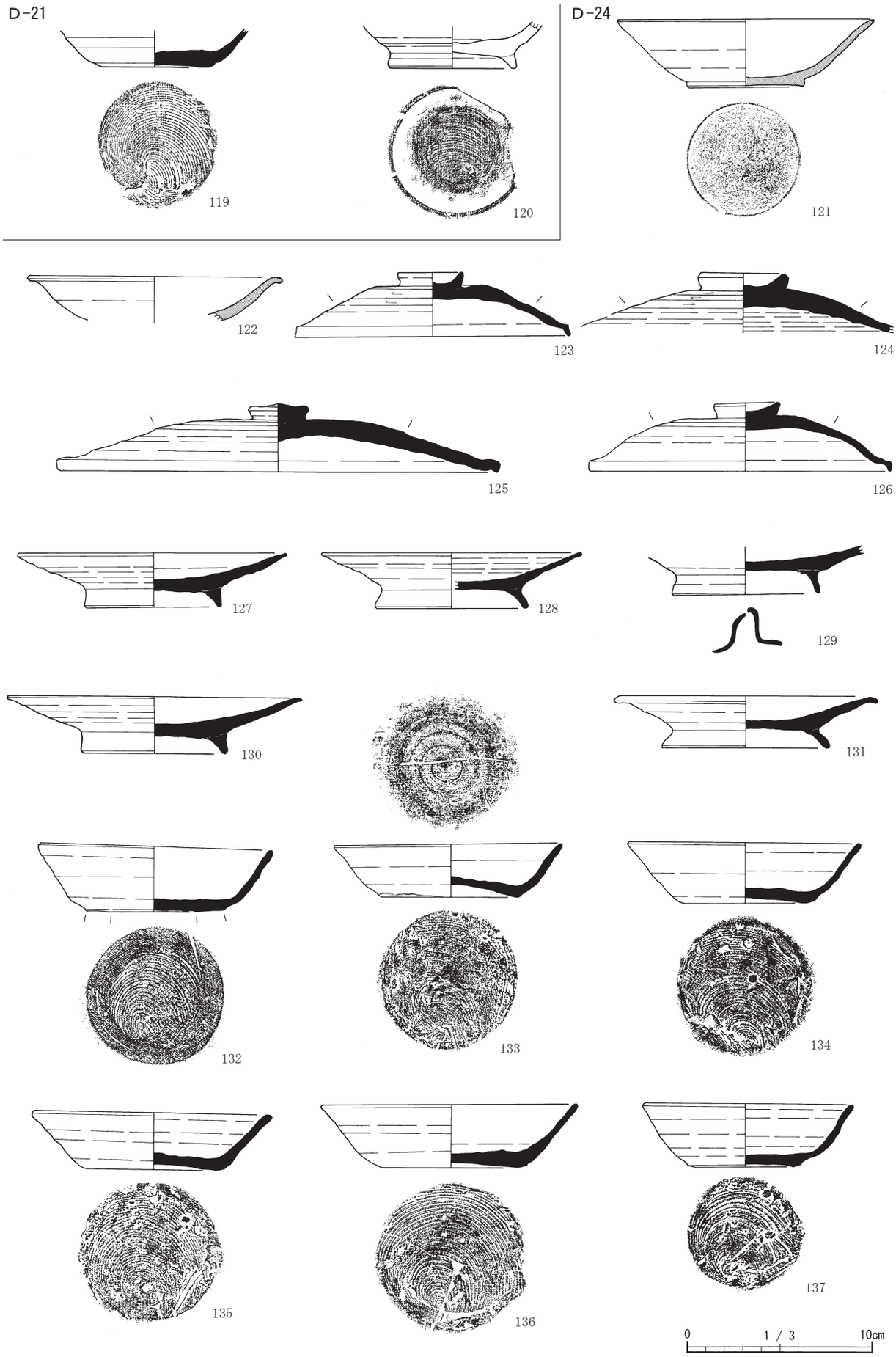
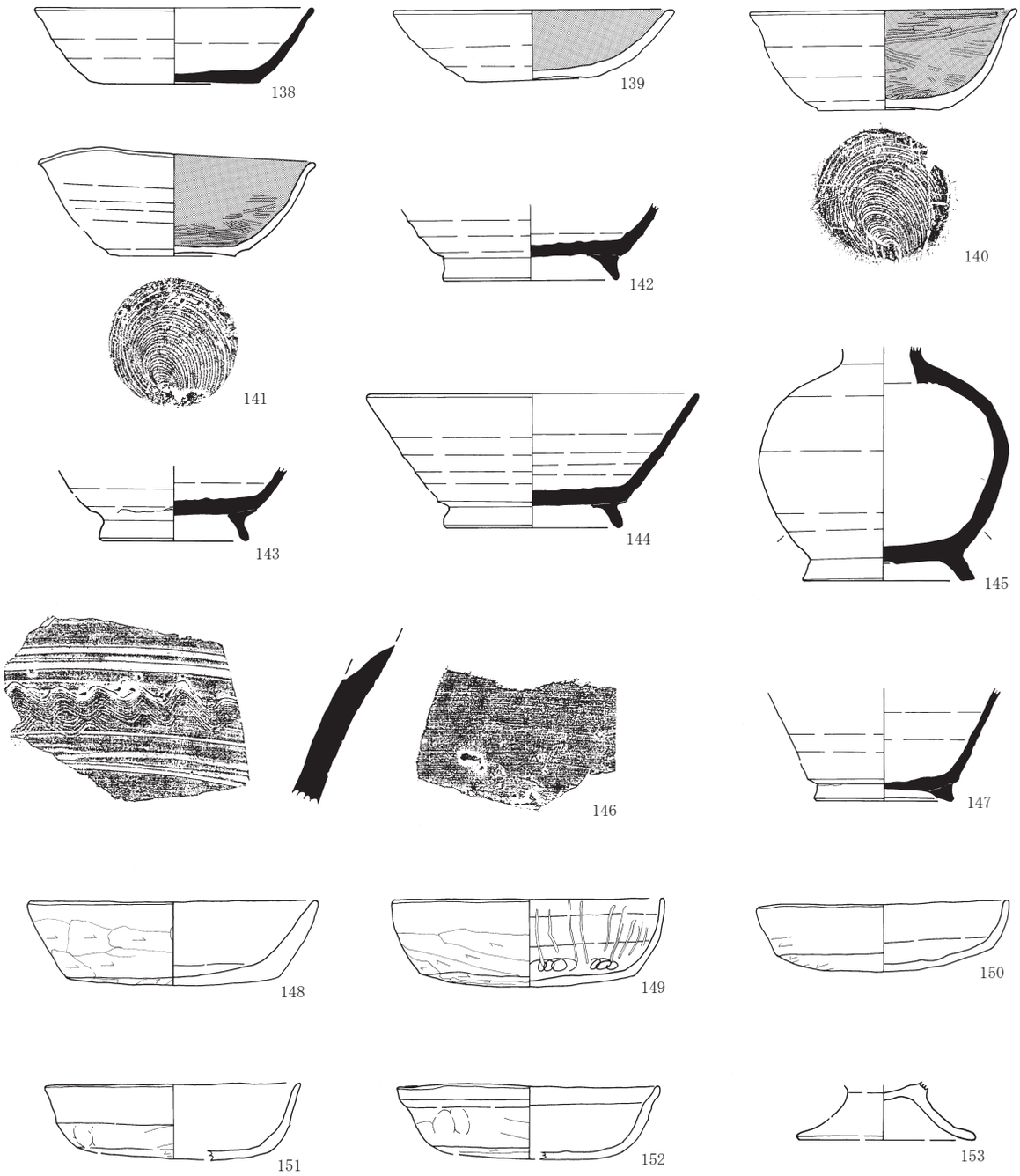
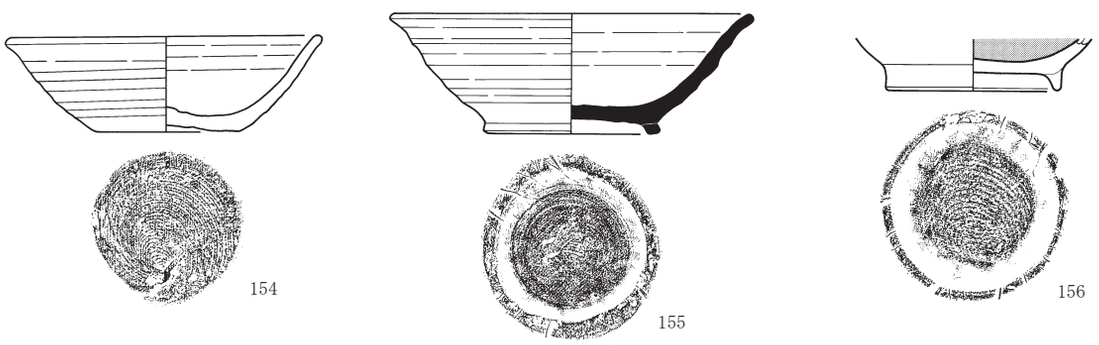


Fig.39　8区D—21・24（1）出土遺物

D-24



D-26



0 1 / 3 10cm

Fig.40　8区D—24（2）・26出土遺物

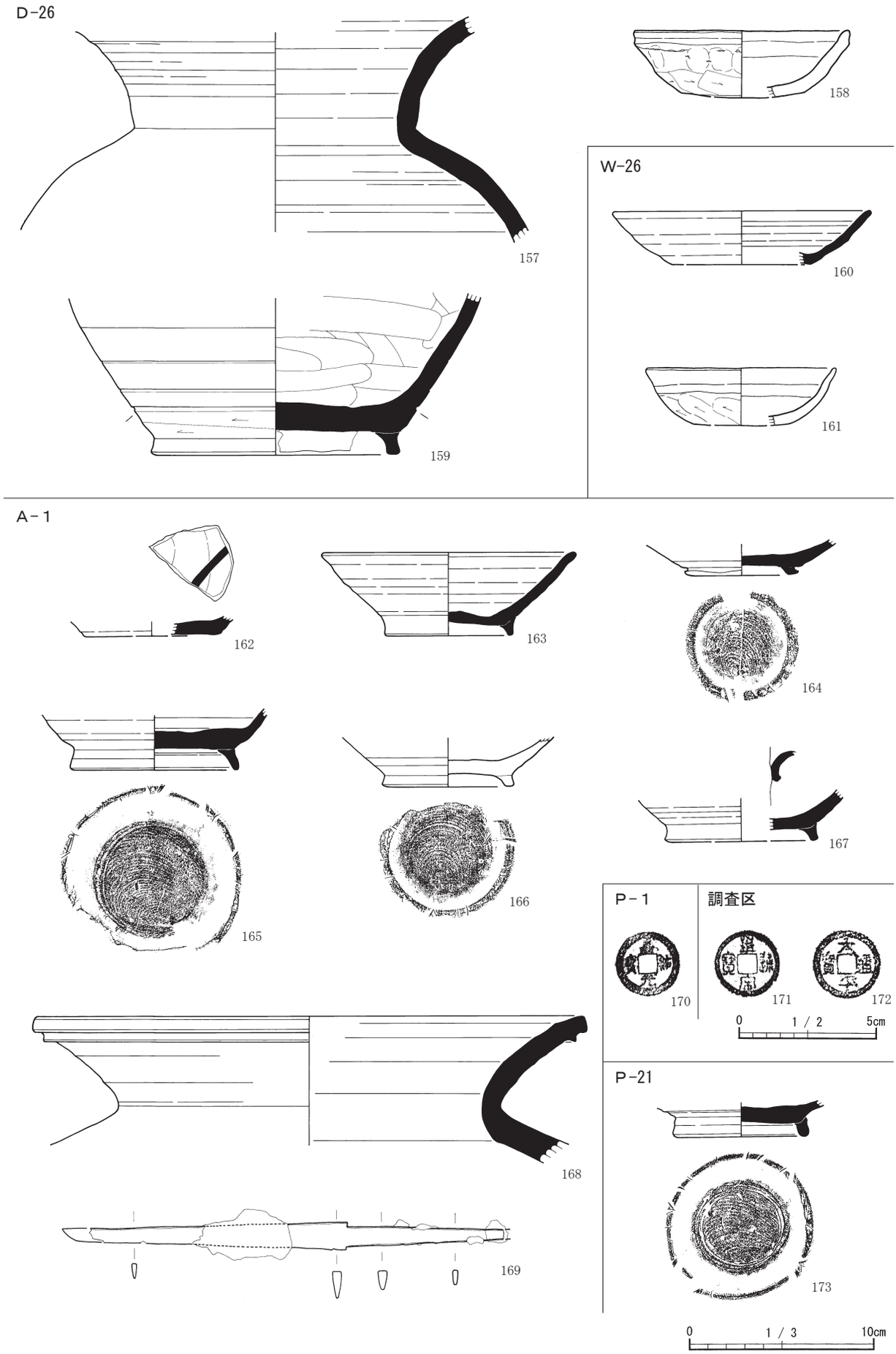


Fig.41　8区D—26、W—26、A—1、P—1・21、調査区出土遺物

Ⅵ　10区の遺構と遺物

竪穴住居跡16軒、竪穴状遺構１基、土坑37基、溝30条、ピット10口が検出されている。古墳時代後期～中近世までの遺構・遺物が主体を占めるが、弥生時代後期の土坑と遺物が検出されており、注目される。

１　竪穴住居跡

Ｈ－１号住居跡（Fig.42・55、Tab.９、PL.９）

位置　X96、Y75・76　**主軸方位**　N－82°－E　**遺存・重複**　H－４と重複、D－14が当住居埋土中に構築される。南東・南西側の過半が調査区外。　**形状・規模**　東竈の方形？東壁現長2.25m、南壁現長1.34m、最大壁高57㎝。　**掘り方・床面**　掘り方深度は浅く、部分的に直床。床面はよく締まるが、とくに硬化面はない。　**施設**　竈は東壁を幅0.55m、奥行き0.34mに掘り込み、径約13㎝、長約83㎝の煙道をくり抜いている。排煙口東側はW－25に断ち切られている。袖部には方形の掘り込み内に砂質凝灰岩切石を据え、燃焼部には自然礫を立てて支脚としている。　**遺物**　床面では№遺物としての取上げはない。埋土一括片234点、須恵器蓋・坏・甕・こね鉢（1）、土師器皿（5）・坏（2・4）・甕・鉢。土師器坏片96点、甕片106点で、この２器種で９割を占める。竈№遺物は１点（3）、一括片10点で、須恵器甕、土師器坏・甕、器種不明鉄片。　**備考**　８ｃ前半～中葉

Ｈ－２号住居跡（Fig.43・55、Tab.９、PL.９）

位置　X97・98、Y75・76　**主軸方位**　N－47°－E　**遺存・重複**　D－25と重複。W－17～20に壁、W－16に竈上面を切られる。南側過半は調査区外。　**形状・規模**　北東竈の方形？北東壁現長2.65m、北西壁長3.68m、最大壁高67㎝。　**掘り方・床面**　竈前面から東壁にかけては掘り方深度は浅く、ほぼ平坦。北東壁側～南西壁側が幅広の溝状に掘り込まれている。貼り床。床面はよく締まるが、特に硬化面はない。　**施設**　竈、周溝。竈は北東壁を幅約0.44m、奥行き0.45mほど掘り込んで燃焼部とし、さらに長約0.60mの登り勾配の煙道部を構築する。その幅員からみて、本来は筒状の煙道であった可能性がある。袖部は芯に砂質凝灰岩切石を並べ、白色粘土を被覆している。燃焼面は２面あり、最終面で使用した支脚は、旧燃焼面を掘り抜いて埋置している。この旧燃焼面に対応する排煙口には土師器甕（11）を逆位で埋め込んでいる。周溝は西コーナーから南西コーナーにかけて巡る。　**遺物**　床面№遺物は８点（７～10）で、若干浮いた状態で出土している。埋土一括片213点、須恵器蓋（6）・坏・高台坏・甕、土師器坏・高坏・鉢・甕、内黒、その他軽石２点、羽口片１点、こも石２点、瓦片13点。竈№遺物は２点（11・12）、一括片104点、須恵器蓋・甕・坏・高台坏、土師器坏・甕、その他瓦片３点、鉄滓１点。須恵器坏・高台坏などは混入遺物と思われる。　**備考**　７ｃ後半

Ｈ－３号住居跡（Fig.44・55・56、Tab.９、PL.９・21）

位置　X100、Y75　**主軸方位**　N－85°－E　**遺存・重複**　D－24が重複。北側過半は調査区外。　**形状・規模**　東竈の台形？西壁現長0.85m、南壁長2.05m、西壁現長1.49m、最大壁高は、調査区壁面土層から50㎝。　**掘り方・床面**　掘り方深度は浅く、中央部に坑状の掘り込みがある。貼り床。部分的に直床。床面はよく締まるが、特に硬化面はない。　**施設**　竈は北側過半が調査区外にかかる。調査区壁面際はサブトレンチのため一部損壊。袖部は白色粘土で構築されるが、芯材は使っていない。袖部のやや奥に平瓦を立てて擁壁材としている。燃焼面は特に赤化・硬化していないが、焼土・灰の分布が著しい。　**遺物**　床面№遺物は36点（13～15・18）で、大半が東壁際から南東コーナー付近に集中する。竈№遺物は15点（16・19・20）、20は平瓦凸面に「吉井」の線刻文字がある。埋土一括片290点、灰釉、須恵器蓋・盤・坏・高台坏・甕、土師器坏（17）・甕・台付甕、羽釜、その他瓦片27点、台石１点。竈一括片48点、須恵器蓋・坏、土師器坏・甕、その他瓦片５点。　**備考**　９ｃ中～後半

Ｈ－４号住居跡（Fig.45・56、Tab.９、PL.９・10・21）

位置　X96・97、Y75・76　**主軸方位**　N－54°－E　**遺存・重複**　H－１に西コーナーを、D－13に北コーナー・

床面を、W―23～26・29に壁を、W―28に竈袖部を切られる。サブトレンチのため北西壁西側を損壊。南側は調査区外。　**形状・規模**　北東竈の方形。北西壁現長1.68m、北東壁復元長約3.55m、最大壁高47㎝。　**掘り方・床面**　直床。全体によく締まる。　**施設**　竈、貯蔵穴、周溝。竈は北東壁のほぼ中央を幅約0.70m、奥行き約0.30mに掘り込んで燃焼部とし、さらに長約0.50mの登り勾配で煙道部を構築する。竈本体は白色粘土を構築材とし、芯材に砂質凝灰岩切石を使っている。燃焼面はやや赤化・硬化している。貯蔵穴は２段掘りで、完形の長胴甕(24)が正立状態で検出されている。周溝は全周すると思われる。　**遺物**　床面№遺物16点（21～23・25・26)。埋土一括片83点、須恵器坏・高台坏、土師器坏・甕・鉢、その他臼玉１点（29)。竈一括片19点、土師器坏・甕、その他臼玉２点（27・28)。　**備考**　７ｃ後半

Ｈ―５号住居跡（Fig.44・57、Tab.９、PL.10）

位置　X97、Y75　**主軸方位**　北東竈としてＮ―63°―Ｅ　**遺存・重複**　大半が調査区外。Ｄ―16に西壁を切られる。　**形状・規模**　南東壁現長2.80m、最大壁高は調査区壁面土層から約75㎝。　**掘り方・床面**　一部貼り床、大半が直床。よく締まる。　**施設**　周溝、ピット。P_1は深さ12㎝。　**遺物**　床面№遺物５点（30)。埋土一括片２点、土師器甕。　**備考**　７ｃ後半

Ｈ―６号住居跡（Fig.46・57、Tab.９、PL.10・21）

位置　X103、Y75　**主軸方位**　Ｅ―２°―Ｓ　**遺存・重複**　撹乱坑が床面を切る。北・南側は調査区外。　**形状・規模**　東竈の方形？南北軸現長2.55m、東西軸長3.18m、最大壁高30㎝。　**掘り方・床面**　掘り方深度は浅く、全体的に掘り下げている。P_1～P_4検出。貼り床。全体的によく締まり、竈前面が硬化。　**施設**　竈は東壁を幅0.74m、奥行き0.57mに掘り込む。左袖部は造り出し。燃焼部は皿状の掘り込みで、やや硬化しているが、焼土・灰の分布はわずかである。竈掘り方内P_6は支脚の、P_5、P_7は袖石の据え付け痕。　**遺物**　床面№遺物は６点（31・32)。埋土一括片304点、須恵器蓋・坏・高台坏・甕、土師器坏・甕、内黒、その他瓦片11点、鉄滓２点。竈一括片42点、須恵器蓋・坏・高台坏（33)・瓶、土師器坏・甕・鉢、その他瓦片５点。掘り方一括片７点、須恵器坏・甕、土師器坏・甕。　**備考**　10ｃ代

Ｈ―７号住居跡（Fig.47・57・58、Tab.９、PL.10・21）

位置　X105・106、Y75　**主軸方位**　Ｅ―２°―Ｓ　**遺存・重複**　西壁が一部撹乱坑に切られる。北・南側は調査区外。　**形状・規模**　東竈の方形？南北軸現長2.70m、東西軸長4.16m、最大壁高21㎝。　**掘り方・床面**　竈前面から中央部にかけて深い掘り込みとなり、床面直下から須恵器甕が出土している。貼り床。部分的に直床で、竈前面が硬化している。　**施設**　竈、貯蔵穴。竈燃焼部は床面を皿状に掘り込み、壁への掘り込みはない。煙道部は幅0.50m、奥行き1.18mのごくゆるやかな登り勾配となる。左袖部は造り出し、右袖部は遺存しないが、平瓦が１枚出土している。貯蔵穴は右袖部直近にあり、完形の平瓦が中に落ち込むように検出され、この上に須恵器鉢（38）が乗っていた。　**遺物**　床面№遺物10点（34～36・39)。埋土一括片360点、須恵器蓋・坏・高台坏・甕・瓶、土師器坏・甕、内黒、土釜（40)、その他鉄釘片１点。竈一括片111点、須恵器坏・高台坏・甕、土師器坏甕、土釜、羽釜、その他瓦片２点。掘り方一括片56点、須恵器蓋・坏・高台坏・甕、土師器坏・甕、その他瓦片２点。　**備考**　９ｃ末～10ｃ

Ｈ―８号住居跡（Fig.44・58、Tab.９、PL.11・22）

位置　X106、Y75　**主軸方位**　不分明　**遺存・重複**　Ｈ―９・Ｔ―１と重複。東側はＨ―11埋土中にあり、この部分は掘り過ぎている。北側大半が調査区外。　**形状・規模**　西壁現長0.96m、壁高不明。　**掘り方・床面**　掘り方の状況で西壁の位置が確認できた。東側に坑状の掘り込みがあり、さらに東側はＨ―11埋土中となり、状況は不明。貼り床。やや軟弱。Ｔ―１底面とほぼ同じレベルにある。　**遺物**　№遺物は鉄製鍵１点(42)。埋土一括で瓦片４点。　**備考**　時期不明。平安時代か

Ｈ－９号住居跡（Fig.48・58、Tab.９、PL.11・22）

位置　X107、Y75　**主軸方位**　N－89°－E　**遺存・重複**　H－８と重複。西側を除く大半がH－11埋土中にある。南側は調査区外。　**形状・規模**　東竈で、東西長軸の長方形？北壁復元長4.70m、東壁現長2.0m、最大壁高は調査区壁面土層から約28㎝。　**掘り方・床面**　西壁から東へ１mほどが地山の直床で、それより東はH－11埋土中構築のため掘り方の状況ははっきりしない。床面は竈前面が滑沢な硬化面。　**施設**　竈は、袖部に扁平な自然礫を立てる。燃焼部は皿状の掘り込みで、調査区壁面土層で見ると、煙道部は一段高く、そこから急勾配で長0.70m程立ち上がって排煙口となる。　**遺物**　床面№遺物５点(43～45)。床面直下に45の須恵器高台坏。埋土一括片47点、須恵器坏・高台坏・甕、土師器坏・甕・羽釜、その他瓦片11点、鉄釘１点（46)。竈内から羽釜片１点。　**備考**　10ｃ代

Ｈ－10号住居跡（Fig.48・58、Tab.９、PL.11・22）

位置　X108・109、Y75　**主軸方位**　N－75°－E　**遺存・重複**　南側過半は調査区外。竈下は地山であるが、床面はH－11埋土中にある。北東コーナーはH－11の石組竈を断ち切って掘り込まれている。住居西半部の床面・壁は未検出で、調査区壁面土層からもこの部分の床面ライン、壁の立ち上がりを確認することができない。　**形状・規模**　東壁現長1.88m、北壁現長2.30m、最大壁高は調査区壁面土層から約47㎝。　**掘り方・床面**　掘り方はH－11埋土中のため判然としない。床面は竈前面が滑沢に硬化している。　**施設**　竈燃焼面は床面と同じレベルにあり、赤化している。袖部は造り出し。煙道部は急勾配で立ち上がっている。　**遺物**　床面№遺物は１点(48)。埋土一括片８点、灰釉、須恵器甕、土師器台付鉢（49)、羽釜（47)。竈内一括片は灰釉１点、竈掘り方から平瓦片１点。　**備考**　10ｃ代

Ｈ－11号住居跡（Fig.49・50・59、Tab.９、PL.11・12）

位置　X107～109、Y75　**主軸方位**　N－76°－E　**遺存・重複**　H－８・９・10は当住居埋土中構築。北・南側は調査区外。　**形状・規模**　北東竈の東西長軸の長方形？東西軸長7.98m、西壁現長2.56m、最大壁高30㎝。　**掘り方・床面**　掘り方深度は西側で深い。中央部～東側、特に竈を中心とした東側では浅く、直床部分も見られる。P_6～P_{17}は掘り方内検出。貼り床。床面は周溝周辺を除きよく締まるが、竈前面～貯蔵穴にかけてと、中央部南寄りに硬化面がある。　**施設**　竈、貯蔵穴、間仕切り溝、柱穴、ピット。竈は、北東壁を幅0.80m、奥行き1.33mの長方形に掘り込んだ掘り方内に砂質凝灰岩切石を置き並べた石組竈である。幅35㎝、高さ53㎝、厚さ10㎝の板状の切石を立てて奥壁とし、同じ高さの、幅20㎝前後、長さ55㎝前後の切石を据えて側壁としている。現状では、側壁はそれぞれ２枚しか遺存しないが、本来は３枚で構成され、南側の端に小ぶりな切石を据えて焚口部としている。右袖部付近に白色粘土が広がることから、白色粘土が石組みの被覆材として使われたことがわかる。天井部の状況はわからない。H－10構築時に側壁上部を16㎝ほど断ち切っており、このとき天井石も除去された可能性がある。この廃材の一部と思われる赤化切石片のかたまりが、東方のH－13埋土上面周辺に数点の遺物（Fig.７、Fig.61－95～98）とともに散在していた。燃焼部は浅い皿状の掘り込みで、焼土・灰がつまり、燃焼面は赤化している。貯蔵穴は、床面より５㎝ほど低い面に掘り込まれており、底面近くから赤化切石片が出土しているが、土器は検出されない。周溝は竈両脇で途切れる以外は全周するようである。間仕切りと思われる溝が４条ある。いずれも住居跡の主軸に沿うように掘り込まれているが、竈左袖に向かって伸びる溝の西側上面は床の硬化面が乗っていて、全て同時に併存していたわけでもなさそうである。P_1は主柱穴、P_2は住居跡主軸からすると主柱穴ではなさそうである。　**遺物**　№遺物はない。埋土一括片は723点あるが、H－８～10等の遺物が相当量含まれているようであり、底面にケズリを施す須恵器坏や土師器坏(模倣坏)、厚手の長胴甕片などが当住居の遺物であろう。接合する遺物はほとんどない。　**備考**　７ｃ後半

Ｈ－12号住居跡（Fig.51・59、Tab.９、PL.12・22）

位置　X110、Y75　**主軸方位**　東竈としてN－83°－E　**遺存・重複**　東壁上部がD－26に切られる。南側の大半

が調査区外。　**形状・規模**　北壁長2.25m、最大壁高は調査区壁面土層から約50㎝。　**掘り方・床面**　掘り方深度は深い。貼り床。よく締まる。　**施設**　未検出　**遺物**　№遺物は６点であるが、いずれも浮いた状態であり、灰釉埦（55）は遺構確認面レベルの壁際検出。埋土一括片は９点。　**備考**　９ｃ後半～

Ｈ―13号住居跡（Fig.51・59、Tab.９、PL.12・22）

位置　X110・111、Y75　**主軸方位**　Ｅ―36°―Ｓ　**遺存・重複**　Ｈ―16を切る。ただ、Ｈ―16の１層がＨ―13埋土に被さる状況もあって、かなり近接した時期かもしれない。北・南コーナーは調査区外。なお、埋土上面の遺構確認面にＨ―11のものと思われる竈廃材が投棄されていた。　**形状・規模**　南西竈の方形。南西―北東軸長2.94m、北西―南東軸長2.97m、最大壁高36㎝。　**掘り方・床面**　掘り方はほぼ均一な深度で掘り込まれているが、竈袖部は造り出しで、掘り残している。貼り床。床面は壁周辺が軟弱、中央部は締まるが、特に硬化面ない。　**施設**　竈は南西壁南寄りにあり、袖下部は造り出し。この土台の上に白色粘土で竈本体を構築している。煙道部は燃焼部奥壁上部を幅0.27m、奥行き0.25m、深さ10㎝に掘り込んで造作されている。燃焼面の赤化はなく、焼土・灰が少量散布していた。　**遺物**　№遺物はない。埋土一括片288点、須恵器蓋・坏・甕、土師器坏（60・61・63・64）・甕（62）・甑、その他こも石１点、羽口片１点、鉄滓１点。竈一括片20点、須恵器坏・甕、土師器坏・甕、その他瓦片１点（65）。　**備考**　７ｃ後半

Ｈ―14号住居跡（Fig.52・60、Tab.９、PL.12）

位置　X113・114、Y75　**主軸方位**　東竈としてＮ―65°―Ｅ　**遺存・重複**　Ｈ―13に切られ、Ｄ―33を切る。北側大半が調査区外。　**形状・規模**　南東壁現長2.62m、南西壁現長1.30m、最大壁高は調査区壁面土層から約70㎝。　**掘り方・床面**　掘り方深度は浅く、ほぼ均一に掘り込んでいる。P_1は掘り方内検出。床面はよく締まるが、特に硬化面はない。　**施設**　未検出　**遺物**　№遺物はこも石６点(60～71)。床面密着のものから浮いた状態のものまでレベル差が大きい。埋土一括片８点、須恵器坏・甕、土師器甕。坏は丸底風でケズリを施す。土師器甕は厚手で長胴甕と思われる。　**備考**　７ｃ代か

Ｈ―15号住居跡（Fig.52・60、Tab.９、PL.12・22）

位置　X114・115、Y75　**主軸方位**　Ｅ―11°―Ｓ　**遺存・重複**　Ｈ―14を切る。南東コーナーでＤ―34と重複。北側過半は調査区外。　**形状・規模**　東竈の方形？　南壁復元長2.65m、最大壁高は調査区壁面土層から約65㎝。**掘り方・床面**　掘り方深度は浅く、竈前面に方形の掘り込みが２カ所ある。また、南東コーナーから貯蔵穴にかけての掘り方面に、白色粘土が敷かれたように散布している。貼り床。床面は壁周辺を除きよく締まる。　**施設**　竈、貯蔵穴。竈北側過半は調査区外。燃焼部の掘り込みは深く、灰が多量に堆積している。煙道部は、調査区壁面土層から、竈奥壁上部を長さ約35㎝ほど横に掘り込んで造作していることが分かる。袖部は遺存しないが、竈前面に散布していた白色粘土から、竈本体はこの粘土で構築されていたと思われる。　**遺物**　床面№遺物は５点（72～75）。73は貯蔵穴内出土。埋土一括片74点、須恵器坏・高台坏・甕、土師器坏・甕、内黒、その他４点。竈一括片９点、須恵器高台坏、土師器甕、その他瓦片１点（76）。貯蔵穴内一括は台付甕片６点。　**備考**　９ｃ後半

Ｈ―16号住居跡（Fig.51・60、Tab.９、PL.12・22）

位置　X111、Y75　**主軸方位**　不分明　**遺存・重複**　Ｈ―13に切られる。北壁のみ検出。大半が調査区外。　**形状・規模**　北壁現長約2.73m、最大壁高は調査区壁面土層から約40㎝。　**掘り方・床面**　貼り床。　**軟弱**　施設未検出　**遺物**　№遺物はない。埋土一括片72点、須恵器蓋（77）・坏・甕、土師器坏・甕。掘り方一括片11点、須恵器蓋、土師器坏・甕。須恵器蓋坏模倣坏、厚手・小底径の土師器甕などがある。　**備考**　７ｃ代か。

２　竪穴状遺構

Ｔ―１号竪穴跡（Fig.44・60・61、Tab.９、PL.11・22）

位置　X106・107、Y75　長軸方位　Ｎ―Ｓ　**遺存・重複**　Ｐ―10に切られる。Ｈ―８と重複するが新旧不明。

北側は調査区外。　**形状・規模**　南北に長軸をもつ長方形？長軸現長1.85m、南壁長1.70m、最大壁高16㎝。　**掘り方・床面**　掘り方深度は浅い。貼り床。床面はよく締まる。　**遺物**　床面№遺物13点（78～81）。図示以外では須恵器瓶、瓦、台石。埋土一括片69点、須恵器坏・高台坏、土師器坏・甕、その他瓦片３点、軽石１点。掘り方一括片31点、須恵器坏・瓶、土師器坏・甕。　**備考**　掘り方をもつことから、住居跡の可能性もある。９ｃ中～後半

3　土坑（Fig.52～54・61、Tab.６、PL.13～15・22）

37基。Ｄ―10～13・16は、Ｈ―16を切る撹乱坑と同じく、近世以降でもごく新しい土坑である。Ｄ―19・26・39はAs-B混土を含む長方形の土坑で中世以降の土坑である。Ｄ―27は埋土、出土遺物から弥生時代後期の土坑であり、以上の７基を除く30基は、As-C混土をもつ古代の土坑と思われる。一部、ピット状の小規模な土坑がある。古代の土坑の分布をみると、Ｈ―15、Ｈ―６、Ｈ―２・３の周辺など、住居跡周辺に分布することが多い。遺物はいずれも混入と思われ、小細片のみである。

4　溝跡（Fig.７、Tab.７、PL.15）

30条。Ｗ―１～28はAs-B混土の溝群で、Ｗ―24には半月状の工具痕が著しい。断面箱形で、畠跡の畝間の溝と思われる。調査区東半部のＨ―９～Ｈ―16間の調査区壁面にも、この種の溝の断面が確認できるが、時間的な制約から面的な調査は行っていない。Ｗ―29はＷ―23の、Ｗ―30はＷ―１・２の下に検出された溝で、古代の溝と思われる。

5　ピット（Fig.７、Tab.８）

10口。いずれもAs-C混土をもつピットと思われるが、調査区内に散在し、まとまった分布は見られない。

6　落ち込み（Fig.54）

調査区東端部のＸ117、Ｙ76に検出された溝状の遺構で、２段掘りである。As-B混のⅢ層が埋土を被覆しており、比較的古い段階の遺構と思われるが、埋土は、灰黄砂質土ブロックを含む黒褐色土であり、As-Cの混入は確認できない。

7　調査区出土遺物（Fig.61、Tab.９、PL.23）

調査区一括遺物として、縄文土器・石器、弥生土器、灰釉、須恵器、土師器、瓦、土製品、鉄製品、陶磁器などを採取した。器種では、灰釉には埦、須恵器には蓋・皿・坏・高台坏・甕・瓶、土師器には坏・甕などがある。瓦は文字瓦が１点採取されている（99）。土製品は紡錘車（100）。鉄製品では、鉄釘片、鉄滓。陶磁器では、肥前系の磁器、瀬戸・美濃系の陶器（天目茶碗、灰釉陶器など）の他、万古系の破片、内耳土器片などがある。縄文土器は前期後半～中期の小片、石器は打製石斧片、剝片など。弥生土器は後期の小片である。なお、95～98は、Ｈ―13の埋土上面に投棄された、Ｈ―11の竈廃材の周辺から検出された土器群である。

10区のまとめ

弥生時代の土坑が１基検出されている（Ｄ―27号土坑）。出土した土器から後期の遺構と思われるが、口唇部に刻みを持つ中期後半の土器片も混じっている。この期の遺物は、調査区内での広がりはなく、ほぼ土坑周辺に限られている。

古墳時代の住居跡は、竈を通る住居跡主軸線が概ね北東―南西位を採っており、H―14号住居跡のように土器のない住居跡でも、主軸方位から時期を推定することが可能になっている。H―13号住居跡は西竈ながら、やはり同じ主軸方位である。H―11号住居跡は、８区H―13号住居跡とともに規模の大きな住居跡であり、砂質凝灰岩切石の石組み竈が北東壁に構築されている。平安期のH―10号住居跡に側壁がカットされ、同時に天井部も抜き取られたらしいが、その竈の残骸の一部がH―13号住居跡の埋土上面に投棄されていた。床面には溝が数条掘り込まれるが、間仕切り溝とも、あるいは暖房用の施設とも、明確にしがたい。

H－８号住居跡は、T－１号竪穴跡やH－９号住居跡と重複して、その新旧は判然としない。壁もほとんど遺存しないため、掘り方調査で確定した住居跡である。鉄製の鍵は、住居南側で検出されたもので、あるいはH－９号住居跡に属する遺物の可能性もある。解錠部先端の鍵爪が欠損するが、捩りのある柄部をもつもので、奈良県・長屋王邸宅跡や東京・落川遺跡出土のものがすでに知られている。この２点と比較しても本遺跡の鍵は比較的大ぶりなもので、大型の錠前との組み合わせが想定されるようである。

引用・参考文献

坂詰秀一・福田健司　『日野市落川遺跡調査概報』日野市落川遺跡調査会　1981

奈良国立文化財研究所　『平城京　長屋王邸宅跡と木簡』1991

合田芳正　「古代の錠前・鍵」『考古学雑誌』第78巻　第２号　1992

Tab. 6　10区土坑一覧表

番号	位置		平面形	規模（m）			埋土	出土遺物・備考
	X	Y		上径	底径	深さ		
1	102	75	円形？	(0.35)×(0.12)	(0.15)×(0.10)	0.45	C混か	D-２を切る。ピット状。古代
2	102	75	円形？	(0.64)×(0.37)	(0.30)×(0.11)	0.43	C混か	ピット状。古代
3	102	75	楕円形	0.76×0.55	0.60×0.41	0.10	C混か	須恵器坏　土師器坏
4	102・103	75	長方形	0.86×0.40	[0.60]×[0.25]	0.18	C混か	須恵器盤、土師器甕
5	102	75	隅丸方形	0.65×0.58	0.46×0.41	0.32	C混か	
6	101	75	楕円形	1.47×0.82	1.14×0.54	0.18	C混か	D-７を切る。須恵器坏、土師器坏・甕
7	101	75	楕円形	[0.70]×0.68	0.47×0.31	0.18	C混か	
8	99	75	円形	0.67×0.54	0.55×0.44	0.17	C混か	土師器坏・甕
9	99	75	不整形	0.54×0.45	0.39×0.30	0.15	C混か	土師器坏・甕、瓦
10	99	75	隅丸長方形	1.24×0.90	1.07×0.62	0.55	黄褐色ブロック	須恵器甕、土師器坏・甕、磨石。近世以降
11	97	75	楕円形	0.73×0.55	0.55×0.32	0.22	C混か	須恵器坏、土師器坏、瓦
12	97	76	楕円形	[0.94]×[0.65]	0.61×0.29	0.15	C混か	ピット状の凹部（木根か）有り。土師器坏
13	96	75・76	長方形	1.68×1.0	1.39×0.87	0.61	黄褐色ブロック	須恵器皿・坏・甕、土師器坏・甕、陶器。近世以降
14	97	75	楕円形	0.54×0.47	0.42×0.33	0.09	C混か	土師器甕。H-１と重複
15	欠　番							
16	97	75	長方形？	(0.63)×1.19	(0.46)×1.10	0.82	黄褐色ブロック	須恵器甕、土師器坏・甕、瓦。近世以降か
17	102	75	円形	0.29×(0.15)	0.12×0.07	0.08	C混か	ピット状。
18	102	75	楕円形	(0.26)×0.23	0.15×0.07	0.08	C混か	ピット状。
19	102	75	楕円形？	(0.71)×[0.93]	(0.64)×[0.71]	0.23	B混か	
20	97	75	楕円形	0.72×0.60	0.35×0.30	0.30	C混か	
21	98	75	円形	0.49×0.47	0.34×0.30	0.16	C混か	
22	欠　番							
23	98	75	円形	0.42×0.33	0.30×0.23	0.03	C混か	
24	100	75	楕円形	0.57×0.41	0.35×0.22	0.34	C混か	H-３に切られる
25	98	75・76	円形	0.81×0.70	0.55×0.41	0.28	C混か	H-２の床下土坑か
26	110	75	長方形	(1.36)×0.83	(1.26)×0.66	0.53	B混土	
27	112	75	円形	2.14×1.74	1.10×0.97	0.53	黒色土	弥生後期。Fig.61-82～94
28	113	75	楕円形	1.18×0.93	0.90×0.68	0.22	C混土	D-29を切る
29	113	75	楕円形？	(0.72)×0.90	(0.55)×0.73	0.17	C混土	須恵器甕、土師器坏・甕
30	113	75	円形	1.14×1.01	0.25×0.22	0.68	C混土	
31	115	75	楕円形	0.79×0.60	0.64×0.35	0.20	C混土	
32	115	75	楕円形	0.67×0.50	0.48×0.32	0.12	C混土	
33	113	75	方形？	(1.0)×(0.70)	(0.80)×(0.62)	0.33	C混土	
34	115	75	楕円形	0.88×0.64	0.69×0.40	0.16	C混土	
35	114	75	円形	0.54×0.53	0.30×0.27	0.17	C混土	須恵器坏、土師器坏・甕
36	114	75	円形	0.80×0.73	0.63×0.57	0.19	C混土	
37	104	75	円形	0.92×0.80	0.62×0.50	0.35	C混土	木根が入る
38	104	75	円形	0.78×0.66	0.38×0.37	0.67	C混土	
39	104	75	長方形	(1.31)×1.38	(1.21)×1.22	0.43	B混土	

Tab. 7　10区溝跡一覧表

番号	位置		規模（m）				断面形	走向方位	底面標高	埋土	備考
	X	Y	長さ	上幅	下幅	深さ(cm)					
1	102	75	(1.47)	0.64～0.60	0.40～0.34	7.3	箱型	N－2°－W	124.00	B混か	
2	102	75	(1.64)	0.57～0.53	0.42～0.34	15.0	箱型	N－8°－W	123.86	B混か	工具痕。
3	101	75	(1.92)	0.44～0.37	0.27～0.21	9.6	箱型	N－11°－W	123.98	B混か	
4	101	75	(1.92)	0.48～0.44	0.26～0.23	26.1	箱型	N－9°－W	123.92	B混か	
5	100	75	(1.78)	0.27～0.25	0.14～0.12	9.2	箱型	N－9°－W	124.12	B混か	
6	100	75	(1.92)	0.48～0.46	0.31～0.25	26.1	箱型	N－9°－W	123.98	B混か	
7	100	75	(2.06)	0.32～0.23	0.17～0.11	5.7	箱型	N－9°－W	124.21	B混か	
8	100	75・76	(2.07)	0.47～0.45	0.31～0.28	23.9	箱型	N－9°－W	124.03	B混か	
9	100	75・76	(2.13)	0.32～0.30	0.17～0.11	3.0	箱型	N－9°－W	124.25	B混か	
10	99・100	75・76	(2.34)	0.47～0.41	0.30～0.25	22.2	箱型	N－9°－W	124.06	B混か	
11	99	75・76	(1.54)	0.32～0.20	0.17～0.07	2.4	箱型	N－9°－W	124.29	B混か	
12	99	75・76	(2.02)	0.47～0.43	0.25～0.23	28.0	箱型	N－10°－W	124.02	B混か	工具痕。
13	99	75・76	(2.02)	0.42～0.35	0.22～0.12	12.9	箱型	N－9°－W	124.18	B混か	
14	99	75・76	(1.21)	0.40～0.31	0.17～0.12	12.0	箱型	N－10°－W	124.18	B混か	
15	99	75・76	(1.20)	0.21～0.17	0.07～0.06	4.0	箱型	N－1°－W	124.27	B混か	
16	98	75・76	(2.03)	0.28～0.24	0.13～0.11	1.0	箱型	N－9°－W	124.33	B混か	
17	98	75・76	(2.05)	0.44～0.40	0.27～0.25	8.2	箱型	N－8°－W	124.24	B混か	
18	98	75・76	(2.01)	0.35～0.33	0.21～0.18	2.4	箱型	N－8°－W	124.30	B混か	
19	97・98	75・76	(2.16)	0.50～0.44	0.27～0.20		箱型	N－5°－W		B混か	
20	97	75・76	(2.07)	0.35～0.26	0.21～0.15		箱型	N－8°－W		B混か	
21	97	75・76	(1.83)	0.27～0.17	0.12～0.05		箱型	N－10°－W		B混か	
22	97	75・76	(2.00)	0.32～0.25	0.21～0.13		箱型	N－8°－W		B混か	
23	97	75・76	(2.20)	0.31～0.29	0.14～0.12	13.0	箱型	N－7°－W	124.27	B混か	D－16に切られる。
24	96	76	(1.42)	0.39～0.32	0.18～0.10	10.0	箱型	N－11°－W	124.34	B混か	
25	96	76	(2.36)	0.53～0.40	0.25～0.21	27.0	箱型	N－10°－W	124.22	B混か	
26	96	76	(2.10)	0.42～0.35	0.27～0.21	24.0	箱型	N－10°－W	124.28	B混か	
27	96	76	(0.30)	0.35	0.20		箱型	不分明		B混か	
28	96・97	76	(2.10)	0.44～0.33	0.28～0.14	20.0	箱型	N－7°－W	124.25	B混か	
29	97	75・76	(2.84)	0.57～0.43	0.36～0.32		U字状	N－8°－E		C混か	須恵器皿・坏・瓶、土師器坏・甕。
30	101・102	75	(3.36)	0.70～0.51	0.36～0.32		U字状	N－30°－W		C混か	須恵器坏・甕、土師器坏・甕。

Tab. 8　10区ピット一覧表

番号	位置		平面形	深さ(cm)	底面標高	埋土	備考	番号	位置		平面形	深さ(cm)	底面標高	埋土	備考
	X	Y							X	Y					
1	101	75	円形	19	123.94			6	98	75	円形	8	124.15		
2	101	75	円形	18	123.96			7	96	76	円形	24	123.70		
3	97	76	円形	10	124.13			8	96	76	円形	10	123.87		
4	97	75	円形	32	123.91			9	112	75	円形	28	123.47	C混	
5	97	75	円形	24	123.96			10	106	75	円形	67	123.06	C混	

Tab. 9　10区遺物観察表

遺物番号	出土層位	器種	口径・器高・底径(cm)	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備考
1	H－1 埋土	須恵器 こね鉢	—・(7.5)・[9.1]	①やや粗 白色粗粒　②堅緻 ③灰色　④下半 1/3	内外轆轤ナデ。胴部が直線的に立ち上がる。台状の底部。	
2	H－1 埋土	土師器 坏	[13.3]・[3.8]・—	①やや粗 長石　②硬質 ③橙褐色　④1/3	丸底。底部内湾。口縁略直立。口端部内傾。口縁ヨコナデ。底部上半指ナデ。下半ケズリ。内面ナデ。	
3	H－1 竈	土師器 坏	[15.8]・(3.0)・—	①やや粗 黒色粗粒　②硬質 ③茶褐色　④1/4	丸底。底部より屈曲して口縁。口縁わずかにSの字状に外反。口縁内外ヨコナデ。底部外面ケズリ、内面ヨコナデ。	
4	H－1 埋土	土師器 坏	[11.7]・[3.7]・—	①やや粗 黒色粒　②硬質 ③明赤褐色　④1/3	丸底。底部～口縁内湾。口端部内傾。口縁ヨコナデ。底部外面ケズリ、内面上半ヨコナデ。下半ヘラナデ。	
5	H－1 埋土	土師器 皿	[16.4]・3.9 ・—	①やや粗 赤色粒　②硬質 ③橙褐色　④1/5	扁平な丸底。底部より屈曲気味に口縁に続き、口縁外湾。口縁ヨコナデ。底部ケズリ。内面上半ヨコナデ、下半ナデ。	
6	H－2 埋土	須恵器 蓋	[11.0]・3.8・—	①密 白色・黒色粒　②堅緻 ③灰～橙色　④天井部完存	轆轤成形。轆轤目弱い。天井部回転ケズリ。	
7	H－2 床面	土師器 坏	11.7・4.4・—	①密 赤色粒　②やや軟質 ③橙褐色　④略完存	模倣坏。丸底。有稜。口縁わずかに外湾。口端部外反。口縁ヨコナデ。底部外面ケズリ。内面ヘラナデ。	器面磨滅。被熱痕。
8	H－2 床面	土師器 坏	11.5・4.3・—	①密 精選　②やや軟質 ③にぶい黄橙色　④2/3	模倣坏。丸底。有稜。口縁直立し。口端部わずかに外反。口縁ヨコナデ。底部外面ケズリ。内面ヘラナデ。	
9	H－2 床面	土師器 坏	11.9・3.3・—	①密 赤色粒　②硬質 黒斑 ③灰～赤橙色　④一部欠損	模倣坏。底部扁平。有稜。口縁直線的に立ち上がる。口縁ヨコナデ。底部外面ケズリ。内面ナデ。	

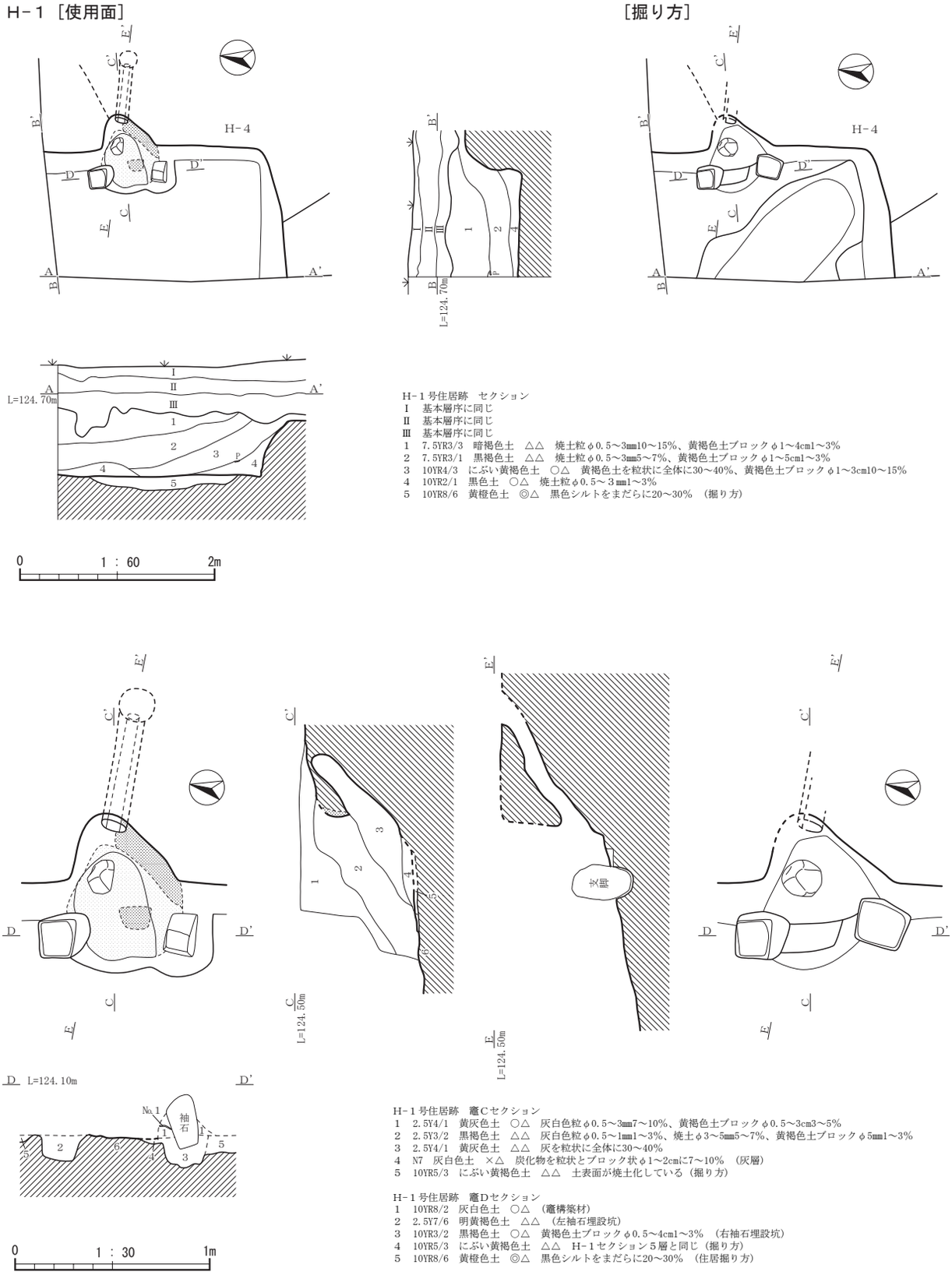
遺物番号	出土層位	器種	口径・器高・底径(cm)	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備考
10	H-2 床面	土師器 坏	11.0・4.2・—	①密 精選　②やや軟質 黒斑 ③橙色　④1/2	模倣坏。丸底。有稜。口縁外湾、口端部外反。口縁ヨコナデ、内面ヘラナデ。底部外面ケズリ、内面ヘラナデ。	
11	H-2 竈	土師器 甕	18.1・(9.9)・—	①粗 小礫 白色・赤色粒　②硬質 ③茶褐色　④上半 7/8	長胴。頸～口縁ゆるやかに外湾。口端部わずかにつまみ上げ。口縁ヨコナデ。胴部外面ケズリ。内面ヘラナデ。	
12	H-2 竈	土師器 甕	16.8・(19.7)・—	①やや粗 小礫 赤色粒　②硬質 ③にぶい黄橙　④底部欠損	砲弾状。頸部直立。口縁わずかに外反。口縁内外ヨコハケ。胴部外面ケズリ後、上、下端にミガキ状ヘラナデ。内面ヘラナデ。	下半部被熱で変色。
13	H-3 床面	須恵器 坏	13.9・3.6・7.2	①密 小礫 黒色・白色粒　②堅緻 ③灰白～灰色　④3/4	轆轤成形。轆轤目強め。凹底。体部内湾。口縁わずかに外反。回転糸切り。	外面煤付着。
14	H-3 床面	須恵器 高台坏	15.1・5.4・6.8	①密 石英微細粒　②硬質 ③褐灰色　④完形	轆轤成形。轆轤目弱い。凹底。体部内湾。口縁外反。回転糸切り後、高台貼付、周辺回転ナデ。全面漆刷毛塗り。	
15	H-3 床面	須恵器 高台坏	14.5・5.2・6.3	①密 石英微細粒　②硬質 ③暗灰黄～暗灰色　④一部欠損	轆轤成形。轆轤目外面に強め。体部直線的。口縁わずかに外反。回転糸切り後、高台貼付、周辺回転ナデ。	墨書。高台端面に棒状圧痕。
16	H-3 床面	須恵器 高台坏	13.5・5.4・6.8	①やや粗 長石　②硬質 ③暗灰色　④2/3	轆轤成形。轆轤目外面に強め。高台ハの字に開く。体部～口縁わずかに内湾。回転糸切り後、高台貼付、周辺回転ナデ。	
17	H-3 埋土	土師器 坏	12.1・3.5・8.0	①やや粗 石英微細粒　②硬質 ③茶褐色　④1/2	やや凸底。体部～口縁ほぼ直線的に外反。口縁ヨコナデ。体部外面指頭圧痕。外底面周辺ケズリ。内面ヨコナデ。	
18	H-3 床面	土師器 台付甕	—・(2.6)・8.7	①密　②硬質 ③赤橙褐色　④脚 1/2	裾広がり。　内外面ヨコナデ。内面上端は指ナデ。回転台使用か。	
19	H-3 床面	土師器 甕	[19.6]・(14.3)・—	①密 赤色粒　②やや軟質 ③茶褐色　④上半 1/3	コの字口縁。肩部やや張る。口端部つまみ上げ。口縁ヨコナデ。外面肩部ヨコケズリ。胴部タテケズリ。内面ヨコヘラナデ。	内面煤付着。
20	H-3 床面	瓦 平瓦	—・—・2.5	①密 白色粒微　②堅緻 ③灰～茶褐色　④約 1/4	凹面：布目。面取りは凹面の１面のみ。凸面：ナデ。「吉井」線刻文字。	
21	H-4 床面	土師器 坏	12.3・4.2・—	①密 赤色粒　②やや軟質 ③橙褐色　④完形	模倣坏。丸底。有稜。口縁わずかに外反。口縁ヨコナデ。外面ケズリ。内面ナデ(ヘラか)。	器面磨滅。
22	H-4 床面	土師器 坏	12.5・4.7・—	①密 赤色細片　②やや軟質 ③橙褐色　④1/2	模倣坏。丸底。有稜。口縁ほぼ直線的に外反。口縁ヨコナデ。底部外面ケズリ。内面ヘラナデ後、放射状ミガキ。	
23	H-4 床面	土師器 鉢	(21.4)・(7.4)・—	①やや粗 小礫　②硬質 ③にぶい橙褐色　④1/5	丸底。有稜。口縁内湾。口縁ヨコヘラナデ。底部外面ケズリ。内面ヘラナデ後、放射状ミガキ。内外面漆塗膜痕。	小円形の器面剝落痕。
24	H-4 貯蔵穴	土師器 甕	21.1・35.6・5.1	①粗 小礫 赤色粒　②硬質 黒斑 ③橙色　④底部のみ一部欠損	長胴。胴部最大径は中位。口縁大きく外湾。口縁ヨコナデ。胴部外面ケズリ。内面ヘラナデ。外底面木葉痕。	粘土付着。下半煤付着。被熱痕。
25	H-4 床面	石製品 臼玉	遺存2/3　径1.3cm	厚0.6cm　重さ(1.0)g　滑石	粗略なつくり	
26	H-4 床面	石製品 臼玉	遺存1/2　径[1.2]cm	厚0.6cm　重さ(0.8)g　滑石	粗略なつくり	
27	H-4 竈	石製品 臼玉	略完存　径1.2cm	厚0.7cm　重さ1.7g　滑石	粗略なつくり	
28	H-4 竈	石製品 臼玉	一部欠損　径1.3cm	厚1.1cm　重さ(3.1)g　滑石	粗略なつくり	
29	H-4 埋土	石製品 臼玉	完存　径1.3cm	厚0.9cm　重さ2.3g　滑石	粗略なつくり	
30	H-5 床面	土師器 甕	[22.7]・(11.6)・—	①やや粗 小礫　②硬質 黒斑 ③にぶい黄褐色　④破片	長胴。口縁外湾。全体に厚手。口縁ヨコナデ。胴部外面タテケズリ。内面ヨコヘラナデ。	内面煤付着。
31	H-6 床面	須恵器 坏	12.7・4.4・5.7	①密 黒色粒　②堅緻 ③灰オリーブ色　④完形	轆轤成形。凹底。体部内湾。口縁外湾。回転糸切り。轆轤目外面に強め。	
32	H-6 床面	須恵器 高台坏	—・(2.6)・5.4	①密 黒色粒 長石　②堅緻 ③暗灰黄色　④口縁欠損	轆轤成形。高台環状。体部内湾。回転糸切り後、高台貼付、周辺回転ナデ。	
33	H-6 竈	須恵器 高台坏	[17.4]・(5.3)・—	①やや粗 小礫 黒色粒　②堅緻 ③灰色　④破片	轆轤成形。埦形。轆轤目弱い。体部内湾。口縁外湾。	体部外面に墨書。「有」?
34	H-7 床面	須恵器 坏	[12.4]・3.35・[7.6]	①密 黒色粒　②堅緻 ③灰白色　④1/3	轆轤成形。轆轤目強め。凹底。体部内湾気味。口縁略直線的に外反。回転糸切り。	
35	H-7 床面	須恵器 羽釜	[20.4]・(8.9)・—	①やや粗 石英微細粒多　②堅緻 ③黒青灰色　④大片	轆轤使用。口縁内傾。	内外面に煤付着。
36	H-7 床面	須恵器 坏	[12.6]・3.25・6.6	①やや粗 小礫 黒色粒　②堅緻 ③灰黄色　④2/3	轆轤成形。轆轤目弱い。凹底。体部わずかに内湾。口縁ゆるやかに外湾。回転糸切り。	
37	H-7 竈	須恵器 高台坏	—・(3.1)・6.9	①やや粗　②硬質 ③淡灰色　④口縁欠損	轆轤成形。轆轤目弱い。高台粗略な作り。厚手。回転糸切り後、高台貼付。周辺回転ナデ。	
38	H-7 床面	須恵器 鉢	[30.4]・(13.8)・—	①やや粗 小礫 赤色粒　②硬質 ③灰黄～暗灰色　④大片	轆轤使用。体部～口縁内湾。外面上半ロクロナデ、中～下半回転ヘラナデ。内面ロクロナデ。高台貼付後、周辺回転ナデ。	口縁外面にハゼ痕。
39	H-7 床面	土師器 坏	[12.8]・4.3・5.8	①やや粗　②硬質 ③茶褐色　④1/3	口縁ヨコナデ。体部は指頭押圧、ヘラナデ、ヨコケズリ。内面ヘラナデ。内底面指ナデ。外底面ケズリ。中央無調整で砂付着。	
40	H-7 床面	須恵器 甕	[21.6]・(11.6)・—	①やや粗　②硬質 ③灰黄～暗灰色　④上半 1/3	轆轤使用。口縁外湾。胴部上半轆轤目。中位指頭押圧顕著。一部指ナデ。内面ロクロナデ。	内面煤付着。

遺物番号	出土層位	器種	口径・器高・底径(cm)	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備考
41	H-7 床面	瓦 平瓦	43.4・29.6,23.1・2.2	①密 小礫　②硬質　須恵質 ③灰茶褐～灰黄色　④完存	凹面：布目。凸面：ヘラナデ後、斜行タタキ。面取りは無し。	赤化粘土付着。
42	H-8 床面	鉄器 鍵	鍵爪欠損。羽子板状。柄部に捩りがあり、紐通し孔が付く。現長18.0cm、解錠部現長7.2cm、幅1.05cm、厚0.4cm。柄部長10.8cm、一辺0.5cmの角柱状。			
43	H-9 床面	須恵器 高台坏	—・(5.3)・6.7	①やや粗 黒色粒　②堅緻 ③灰色　④口縁欠損	轆轤成形。轆轤目弱い。体部直線的。高台貼付後、底面全面回転ナデ。	
44	H-9 床面	須恵器 坏	—・(2.0)・6.2	①密 小礫 白色粒　②堅緻 ③青灰色　④口縁欠損	轆轤成形。轆轤目弱い。凹底。体部内湾。	
45	H-9 掘り方	須恵器 高台坏	[14.4]・5.2・[8.4]	①粗 小礫 黒色粒　②堅緻 ③灰色　④1/4	轆轤成形。轆轤目外面にやや強め。体部わずかに内湾。口縁外反。高台貼付後、周辺幅広の回転ナデ。	
46	H-9 埋土	鉄器 釘	頭部一部欠損。長8.4cm、径0.7×0.65cmの角柱状。			
47	H-10 埋土	須恵器 羽釜	[16.0]・(5.4)・—	①粗 小礫　②堅緻 ③灰色　④大片	轆轤成形。口縁内傾。	
48	H-10 床面	土師器 台付鉢	[16.0]・7.4・[7.7]	①密 赤色粒 金雲母　②やや軟質 ③赤茶褐色　④大片	厚手。脚ハの字に開く。体部～口縁直線的に外反。口縁～内面ヨコナデ。体部外面上半ナナメ、ヨコ、下半タテのケズリ。	
49	H-10 埋土	土師器 台付鉢	[16.8]・7.25・8.0	①やや粗　②硬質 ③漆塗膜で黒色　④1/2	脚ハの字に開く。体部～口縁直線的に外反。口端部つまみ上げ。口縁～内面ヨコナデ。体部上半指アテ。下半ナナメケズリ。	
50	H-11 埋土	須恵器 坏	—・(3.2)・—	①密 黒色粒　②堅緻 ③暗青灰～淡灰色　④底部1/4	轆轤成形。丸底。有稜。口縁外湾。底部回転ケズリ。	蓋か。
51	H-11 埋土	須恵器 坏	[12.0]・(3.0)・—	①密 黒色・白色粒　②堅緻 ③青灰色　④破片	轆轤成形。丸底。口縁直線的に外反。底部回転ケズリ。	蓋か。
52	H-11 埋土	須恵器 坏	[14.0]・(3.7)・—	①やや粗 黒色・白色粒　②堅緻 ③淡灰色　④破片	轆轤成形。丸底？　口縁直線的に外反。底部カキ目？　あるいは回転の弱いケズリ。	蓋か。
53	H-11 埋土	土師器 坏	[11.8]・[3.9]・—	①密 赤色細粒　②やや軟質 ③黄橙褐色　④1/6	扁平な丸底。有稜。口縁弱い「S」の字状に外反。口縁～内面ヨコナデ。外面ケズリ。	全体に磨滅。
54	H-11 埋土	土師器 甕	—・[3.0]・3.0	①やや粗 小礫　②硬質 ③茶褐色　④底部完存	底径小さい。厚手。外面ヨコケズリ、内面指ナデ。外底面無調整？	被熱痕。
55	H-12 床面	灰釉陶器 埦	11.2・3.5・5.5	①密 黒色粒　②堅緻 ③淡灰色　④1/2	轆轤成形。高台環状。体部～口縁内湾。口端部水平に引き伸ばす。高台貼付後、底面全面回転ナデ。施釉は内面のみ。	
56	H-12 床面	須恵器 高台坏	[13.7]・5.5・6.3	①密 黒色・白色粒　②硬質 ③灰色　④高台完存　口縁 1/4	轆轤成形。轆轤目弱め。体部内湾。口縁ゆるやかに外反。回転糸切り後、高台貼付。周辺回転ナデ。	重ね焼き痕。
57	H-12 床面	須恵器 皿	[13.1]・2.8・7.0	①やや粗 白色粒　②硬質 ③黒茶褐色　④2/3	轆轤成形。高台ハの字に開く。体部直線的、口端部水平に引き伸ばす。回転糸切り後、高台貼付。周辺回転ナデ。	
58	H-12 床面	土師器 坏	12.1・3.5・8.7	①やや粗　②硬質 ③茶褐色　④2/3	凸底。体・口縁「S」字状。口縁～内面ヨコナデ。体部指オサエ。外底面ケズリ。	
59	H-12 床面	瓦 丸瓦	—・—・2.0	①密 小礫　②堅緻 須恵質 ③灰色　④1/3	凹面：布目。凸面：ナデ。面取りは側縁が2面、端面が2面。	赤化粘土付着。
60	H-13 埋土	土師器 坏	[12.0]・(2.6)・—	①密　②やや軟質 ③橙褐色　④破片	丸底。有稜。口縁直線的に外反。口縁～内面ヨコナデ。底部外面ケズリ。	全体に磨耗。
61	H-13 埋土	土師器 坏	[10.2]・(2.7)・—	①やや粗 角閃石　②硬質 黒斑 ③暗茶褐色　④破片	丸底。小型。底部より屈曲して口縁。口縁直立。口縁～内面ヨコナデ。外面ケズリ。	
62	H-13 埋土	土師器 甕	[22.4]・(9.8)・—	①やや粗 角閃石 小礫　②硬質 ③暗茶褐色　④破片	長胴。頸～口縁外湾。口縁外面ヨコナデ。胴部外面タテケズリ。内面ヨコヘラナデ。	粘土付着。
63	H-13 埋土	土師器 坏	[12.0]・(2.5)・—	①密　②やや軟質 ③茶褐色　④破片	丸底。底部より屈曲して口縁。口縁直線的に外反。口縁～内面ヨコナデ。底部外面ケズリ。	
64	H-13 埋土	土師器 坏	[10.8]・(2.8)・—	①やや粗 白色粒　②やや軟質 ③橙褐色　④破片	丸底。底部～口縁内湾。口端部内傾。口縁～内面ヨコナデ。底部外面ケズリ。	
65	H-13 埋土	瓦 平瓦	—・—・1.2	①やや粗 小礫　②堅緻 須恵質 ③暗青灰色　④破片	凹面：布目。押印。凸面：ナデ。	
66	H-14 床面	石器 こも石	完存。長15.4cm、幅8.0cm、厚5.4cm、重908.5g　断面三角　安山岩			
67	H-14 床面	石器 こも石	完存。長15.3cm、幅6.3cm、厚6.1cm、重918.3g　断面三角　安山岩			
68	H-14 床面	石器 こも石	完存。長16.8cm、幅7.1cm、厚5.7cm、重1164.7g　断面楕円　安山岩			
69	H-14 床面	石器 こも石	完存。長13.6cm、幅7.7cm、厚5.6cm、重928.7g　断面楕円　安山岩			
70	H-14 床面	石器 こも石	完存。長12.9cm、幅8.0cm、厚5.3cm、重919.0g　断面楕円　安山岩			
71	H-14 床面	石器 こも石	完存。長14.6cm、幅8.9cm、厚4.3cm、重880.2g　断面楕円　安山岩			
72	H-15 床面	須恵器 坏	13.0・3.7・6.9	①やや粗 小礫　②硬質 ③黒茶色～灰茶褐色　④2/3	轆轤成形。轆轤目弱め。体部～口縁は、ほぼ直線的に外反。回転糸切り。	
73	H-15 床面	須恵器 高台坏	14.0・5.1・6.4	①密 黒色粒　②堅緻 ③灰色　④完存	轆轤成形。轆轤目弱め。体部～口縁は、内湾気味。回転糸切り後、高台貼付。周辺回転ナデ。	

遺物番号	出土層位	器種	口径・器高・底径(cm)	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備考
74	H-15 床面	須恵器 高台坏	14.7・5.8・7.5	①密 赤色粒　②硬質 ③灰茶褐色　④3/4	轆轤成形。轆轤目弱め。体部内湾。口縁外反。回転糸切り後、高台貼付。周辺回転ナデ。	
75	H-15 床面	土師器 坏	12.4・4.3・7.7	①密 赤色粒　②硬質　黒斑 ③淡茶～橙褐色　④略完存	平底。体部内湾気味。口縁「S」字状に屈曲。口縁～内面ヨコナデ。体部外面部分的にケズリ。指頭押圧。外底面周辺ケズリ。	外底面中央無調整部に砂付
76	H-15 竈	瓦 平瓦	—・—・—	①小礫多　②硬質 土師質 ③黒茶～茶褐色　④約1/6	凹面：布目。凸面：ナデ。線刻。面取りは、側縁に2面、端面に2面。	
77	H-16 埋土	須恵器 蓋	19.0・2.2・—	①密　黒色細粒多　②堅緻 ③灰色　④1/2	轆轤成形。「かえし」有り。つまみはボタン状。天井部回転ケズリ。	
78	T-1 埋土	須恵器 坏	13.8・3.5・6.6	①やや粗 黒色粒　②堅緻 ③灰黄色　④底部完存 口縁1/2	轆轤成形。轆轤目外面に強め。凹底。体部～口縁ゆるやかに内湾。回転糸切り。	
79	T-1 埋土	須恵器 高台坏	14.2・5.0・7.1	①やや粗 黒色粒　②硬質 ③黒灰色　④1/2 高台完存	轆轤成形。轆轤目弱い。体部わずかに内湾。口端部わずかに外反。回転糸切り後、高台貼付。周辺回転ナデ。	
80	T-1 埋土	須恵器 高台坏	13.2・5.4・8.4	①密 黒色粒　②堅緻 ③灰色　④1/2	轆轤成形。轆轤目弱い。厚手。体部～口縁直線的に外反。高台ハの字に開く。回転糸切り後、高台貼付。周辺回転ナデ。	
81	T-1 埋土	土師器 甕	20.8・(6.1)・—	①やや粗 角閃石　②硬質 ③茶褐色　④上半1/4	コの字口縁。薄手。口縁上半ヨコナデ、下半ナデ。無調整部分有り。工具のあたり痕。肩部ヨコケズリ。内面ヨコヘラナデ。	内外面煤付着。
82	D-27 埋土	弥生土器 甕	—・—・—	①密 小礫 金雲母　②硬質 ③茶褐色　④口縁 破片	ヘラ状工具による刻み。内外ナデ。	
83	D-27 埋土	弥生土器 甕	—・—・—	①粗 赤色粒 小礫 石英　②硬質 ③暗黄褐色　④口縁 破片	簾状文。内外ヨコナデ。	
84	D-27 埋土	弥生土器 甕	—・—・—	①やや粗 黒色・赤色細粒　②硬質 ③橙～淡黄色　④頸～肩部 破片	波状文。	
85	D-27 埋土	弥生土器 甕	—・—・—	①粗 小礫　②硬質 ③灰茶褐色　④頸～肩部 破片	三連止めの簾状文。地はLR縄文。	
86	D-27 埋土	弥生土器 甕	—・—・—	①粗 赤色・白色粒　②硬質 ③灰茶褐色　④頸～肩部 破片	三連止めの簾状文。	
87	D-27 埋土	弥生土器 甕	—・—・—	①やや粗 小礫 赤色粒　②硬質 ③淡橙褐色　④胴部 破片	波状文。	煤付着。
88	D-27 埋土	弥生土器 甕	—・—・—	①やや粗 小礫 赤色粒　②硬質 ③黄褐色　④胴部 破片	波状文。3段。	
89	D-27 埋土	弥生土器 甕	—・—・—	①やや粗 橙色粒　②硬質 ③黄褐色　④胴部 破片	波状文。地は撚糸L。	
90	D-27 埋土	弥生土器 甕	—・—・—	①密 橙色粒　②硬質 ③黄褐色　④胴部 破片	撚糸L。内面ヘラナデ。	
91	D-27 埋土	弥生土器 甕	—・—・—	①密 白色粒　②硬質 ③暗灰茶褐色　④胴部 破片	撚糸L。ヨコケズリ。内面ヨコケズリ。	
92	D-27 埋土	弥生土器 甕	—・—・—	①やや粗 長石 小礫　②硬質 ③暗黄褐色　④胴部 破片	地は無節L。	
93	D-27 埋土	弥生土器 甕	—・(8.5)・[9.9]	①粗 礫 白色粒　②硬質 ③淡茶褐色　④底部 破片	外面はハケメとナデ。内面はナデ。	
94	D-27 埋土	弥生土器 甕	—・(4.4)・7.4	①やや粗 白色粒　②硬質 ③暗黄～黒茶褐色　④底部 破片	平底。胴部外面上半タテケズリ。下端ヨコケズリ。内面ナデ。外底面ヘラナデ。	
95	調査区 一括	須恵器 坏	11.5・3.4・8.1	①密 白色粒　②堅緻 ③黒灰色　④ほぼ完形	外内面はロクロナデ。底面はヘラケズリ。	
96	調査区 一括	須恵器 瓶	[5.9]・3.3・5.2	①密 黒色・白色粒　②堅緻 ③灰色　④1/2	外内面はロクロナデ。底面はヘラケズリ。	
97	調査区 一括	土師器 坏	[12.4]・3.2・[9.2]	①やや粗 小礫　②硬質 ③茶褐色　④1/3	外面はヨコナデとヘラケズリ。内面はヨコナデ。底面はヘラケズリ。	
98	調査区 一括	土師器 高坏	—・(4.8)・9.1	①やや粗 黒色・白色粒　②硬質 ③茶褐色　④1/3　台部のみ	外面はヨコナデとヘラケズリ。内面はナデ。	
99	調査区 一括	瓦 平瓦	—・—・2.4	①密 礫多 白色粒　②堅緻 ③青灰色　④破片	凹面：布目。凸面：ナデ。線刻文字。	
100	調査区 一括	石製 紡錘車	遺存1/2弱　上径[3.6]cm　高2.2cm　底径[3.9]cm　重[27.3]g　凝灰岩　表面研磨			

10区の遺構

H－１［使用面］　　［掘り方］

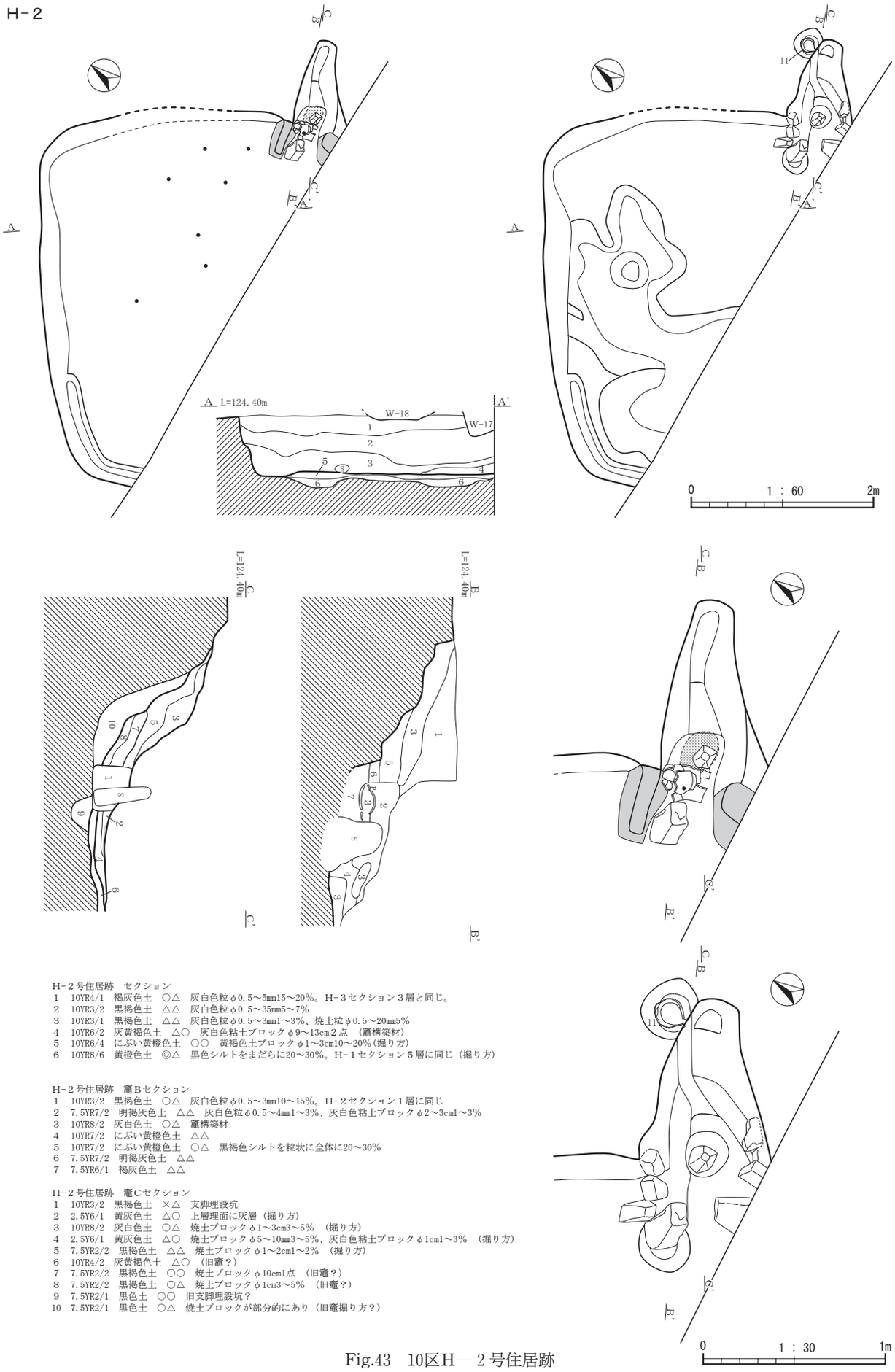


H－１号住居跡　セクション
Ⅰ　基本層序に同じ
Ⅱ　基本層序に同じ
Ⅲ　基本層序に同じ
1　7.5YR3/3　暗褐色土　△△　焼土粒φ0.5～3mm10～15%、黄褐色土ブロックφ1～4cm1～3%
2　7.5YR3/1　黒褐色土　△△　焼土粒φ0.5～3mm5～7%、黄褐色土ブロックφ1～5cm1～3%
3　10YR4/3　にぶい黄褐色土　○△　黄褐色土を粒状に全体に30～40%、黄褐色土ブロックφ1～3cm10～15%
4　10YR2/1　黒色土　○△　焼土粒φ0.5～３mm1～3%
5　10YR8/6　黄橙色土　◎△　黒色シルトをまだらに20～30%　（掘り方）

H－１号住居跡　竈Ｃセクション
1　2.5Y4/1　黄灰色土　○△　灰白色粒φ0.5～3mm7～10%、黄褐色土ブロックφ0.5～3cm3～5%
2　2.5Y3/2　黒褐色土　△△　灰白色粒φ0.5～1mm1～3%、焼土φ3～5mm5～7%、黄褐色土ブロックφ5mm1～3%
3　2.5Y4/1　黄灰色土　△△　灰を粒状に全体に30～40%
4　N7　灰白色土　×△　炭化物を粒状とブロック状φ1～2cmに7～10%　（灰層）
5　10YR5/3　にぶい黄褐色土　△△　土表面が焼土化している（掘り方）

H－１号住居跡　竈Ｄセクション
1　10YR8/2　灰白色土　○△　（竈構築材）
2　2.5Y7/6　明黄褐色土　△△　（左袖石埋設坑）
3　10YR3/2　黒褐色土　○△　黄褐色土ブロックφ0.5～4cm1～3%　（右袖石埋設坑）
4　10YR5/3　にぶい黄褐色土　△△　H－１セクション５層と同じ（掘り方）
5　10YR8/6　黄橙色土　◎△　黒色シルトをまだらに20～30%　（住居掘り方）

Fig.42　10区Ｈ－１号住居跡



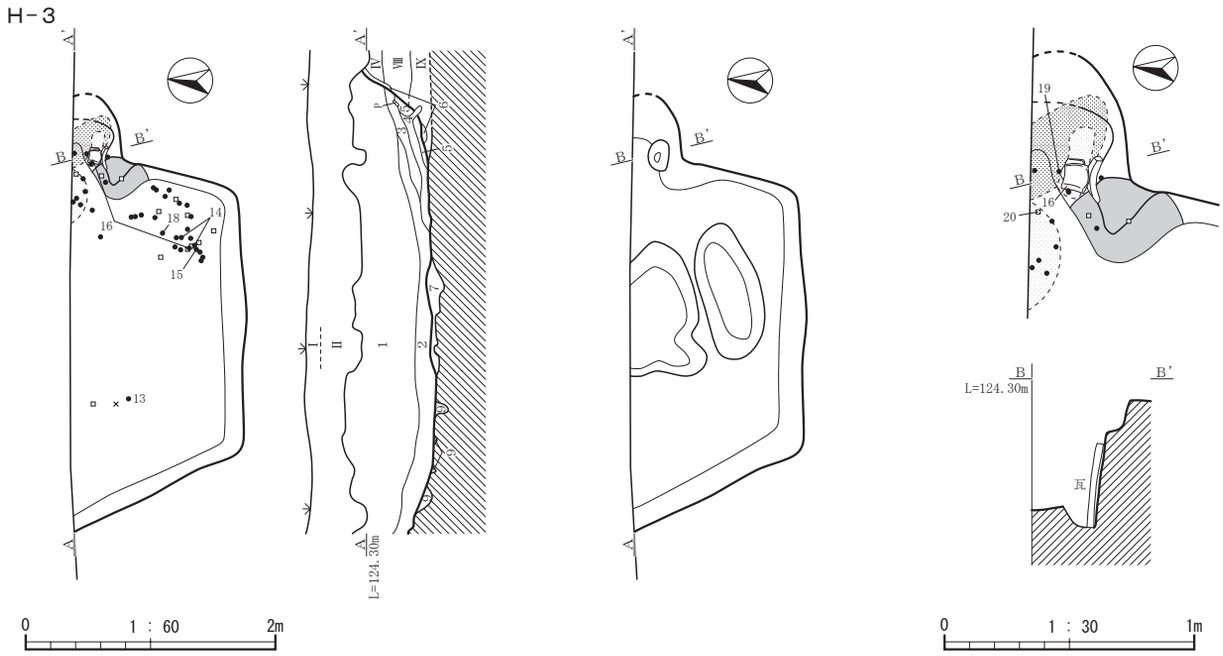
H-２号住居跡　セクション
1　10YR4/1　褐灰色土　○△　灰白色粒φ0.5～5mm15～20%。H-３セクション３層と同じ。
2　10YR3/2　黒褐色土　△△　灰白色粒φ0.5～35mm5～7%
3　10YR3/1　黒褐色土　△△　灰白色粒φ0.5～3mm1～3%、焼土粒φ0.5～20mm5%
4　10YR6/2　灰黄褐色土　△○　灰白色粘土ブロックφ9～13cm２点　(竈構築材)
5　10YR6/4　にぶい黄橙色土　○○　黄褐色土ブロックφ1～3cm10～20%(掘り方)
6　10YR8/6　黄橙色土　◎△　黒色シルトをまだらに20～30%。H-１セクション５層に同じ（掘り方）

H-２号住居跡　竈Bセクション
1　10YR3/2　黒褐色土　○△　灰白色粒φ0.5～3mm10～15%。H-２セクション１層に同じ
2　7.5YR7/2　明褐灰色土　△△　灰白色粒φ0.5～4mm1～3%、灰白色粘土ブロックφ2～3cm1～3%
3　10YR8/2　灰白色土　○△　竈構築材
4　10YR7/2　にぶい黄橙色土　△△
5　10YR7/2　にぶい黄橙色土　○△　黒褐色シルトを粒状に全体に20～30%
6　7.5YR7/2　明褐灰色土　△△
7　7.5YR6/1　褐灰色土　△△

H-２号住居跡　竈Cセクション
1　10YR3/2　黒褐色土　×△　支脚埋設坑
2　2.5Y6/1　黄灰色土　△○　上層理面に灰層（掘り方）
3　10YR8/2　灰白色土　○△　焼土ブロックφ1～3cm3～5%　（掘り方）
4　2.5Y6/1　黄灰色土　△○　焼土ブロックφ5～10mm3～5%、灰白色粘土ブロックφ1cm1～3%　（掘り方）
5　7.5YR2/2　黒褐色土　△△　焼土ブロックφ1～2cm1～2%　（掘り方）
6　10YR4/2　灰黄褐色土　△○　（旧竈？）
7　7.5YR2/2　黒褐色土　○○　焼土ブロックφ10cm1点　（旧竈？）
8　7.5YR2/2　黒褐色土　○△　焼土ブロックφ1cm3～5%　（旧竈？）
9　7.5YR2/1　黒色土　○○　旧支脚埋設坑？
10　7.5YR2/1　黒色土　○△　焼土ブロックが部分的にあり（旧竈掘り方？）

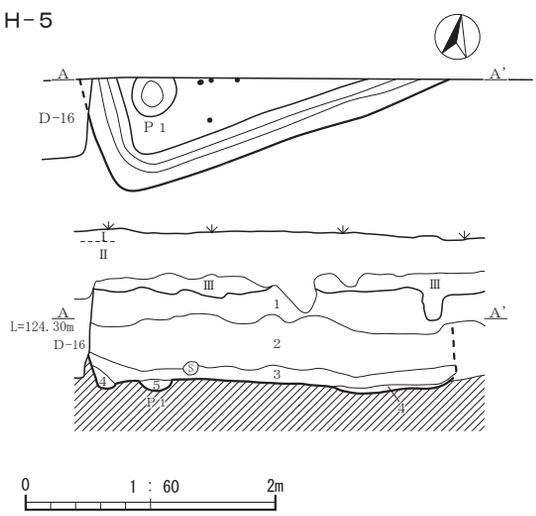
Fig.43　10区H－２号住居跡

H－3



H－３号住居跡　セクション
Ⅰ　基本層序に同じ
Ⅱ　基本層序に同じ
Ⅳ　基本層序に同じ
Ⅷ　基本層序に同じ
Ⅸ　基本層序に同じ
1　10YR4/1　褐灰色土　○△　灰白色粒φ0.5～5mm15～20%
2　10YR3/1　黒褐色土　△△　灰白色粒φ0.5～2mm1～2%
3　10YR3/1　黒褐色土　△△　灰白色粘土ブロックφ2～6cm20～30%　（竈）
4　10YR2/1　黒色土　△△　灰を粒状に全体に30～40%　（竈）
5　10YR3/3　暗褐色土　△△　焼土を粒状に全体に20～30%　（竈）
6　10YR3/2　黒褐色土　△△　部分的に焼土化している
7　10YR3/1　黒褐色土　◎△　黄褐色土を混ぜ合わせた粘土40～50%　（掘り方）

H－5



H－５号住居跡　セクション
Ⅰ　基本層序に同じ
Ⅱ　基本層序に同じ
Ⅲ　基本層序に同じ
1　10YR4/1　褐灰色土　○△　灰白色粒φ0.5～5mm15～20%。H－３セクション１層に同じ。
2　10YR6/2　灰黄褐色土　△△　灰白色粒φ0.5～5mm3～5%
3　10YR4/1　褐灰色土　△△　黄褐色土ブロックφ5～20mm1～2%、炭化物ブロックφ5～15mm1～3%
4　10YR6/3　にぶい黄橙色土　△△　黄褐色土を粒状に全体に20～30%、灰白色粘土ブロックφ1cm を東半に3点　（周溝）
5　10YR7/4　にぶい黄橙色土　△△　黄褐色土ブロックφ1～2.5cm10～20%　（柱穴？）

H－８号住居跡・D-40号土坑・P-10号ピット　セクション
P-10号ピット
1　10YR2/3　黒褐色土　△△　As-C1%、黄褐色土ブロックφ1mm1%
2　10YR3/3　暗褐色土　△△　As-C微量、黄褐色土粒5%
3　10YR4/3　にぶい黄褐色土　×△　黄褐色土ブロックφ10～20mm20%
4　10YR3/2　黒褐色土　△△　As-C1%、黄褐色土ブロックφ1～2mm1%
5　10YR3/3　暗褐色土　△×　黄褐色土粒10%、黄褐色土ブロックφ2～3mm10%
D-40号土坑
6　10YR2/3　黒褐色土　△△　As-C2%
7　10YR3/3　暗褐色土　△△　As-C微量、黄褐色土ブロックφ5mm1%
8　掘り方埋土
H-８号住居跡
9　掘り方埋土

H－8・T－1・P－10

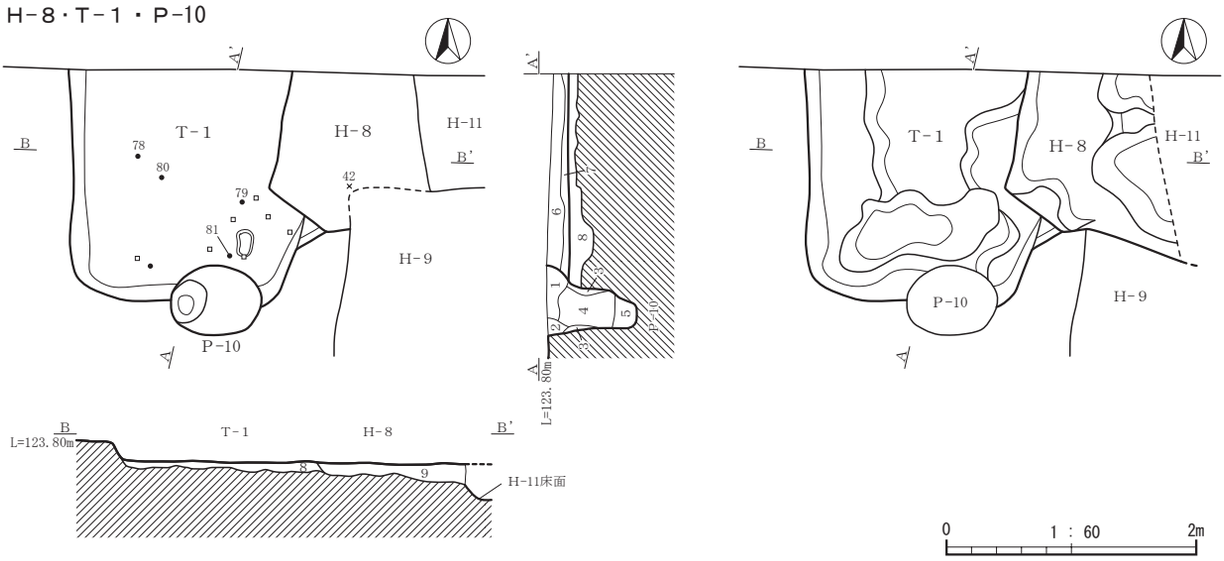
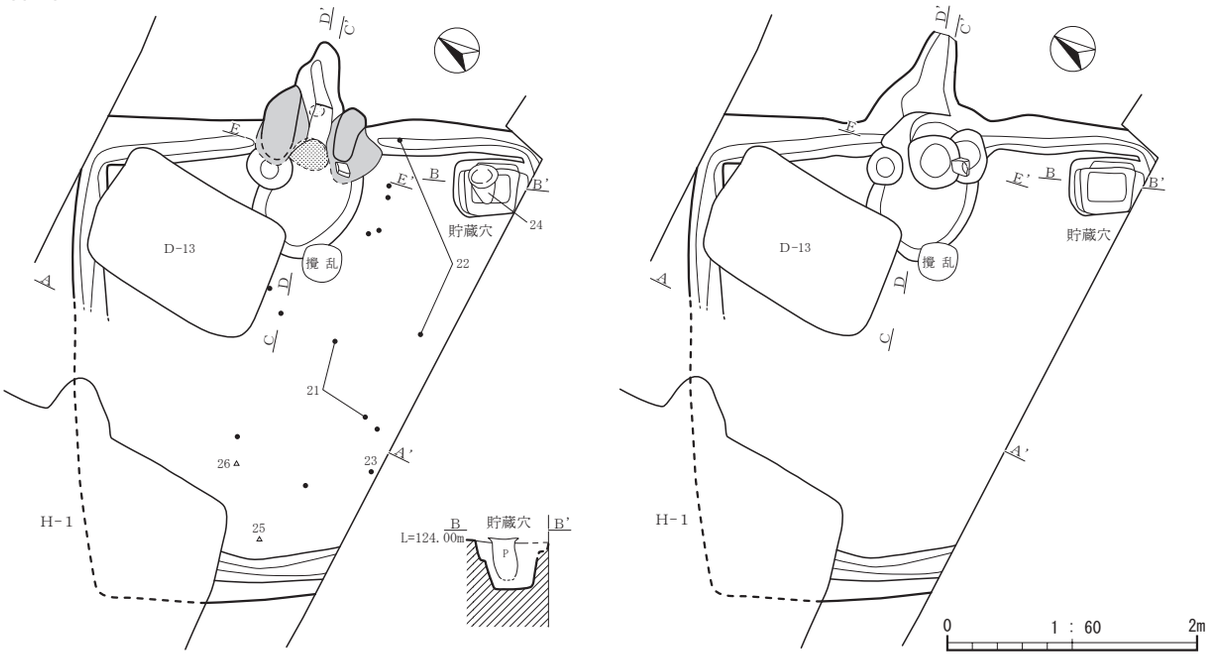
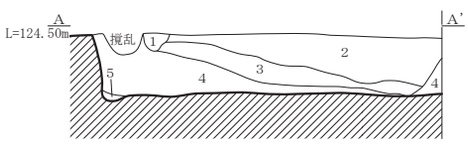


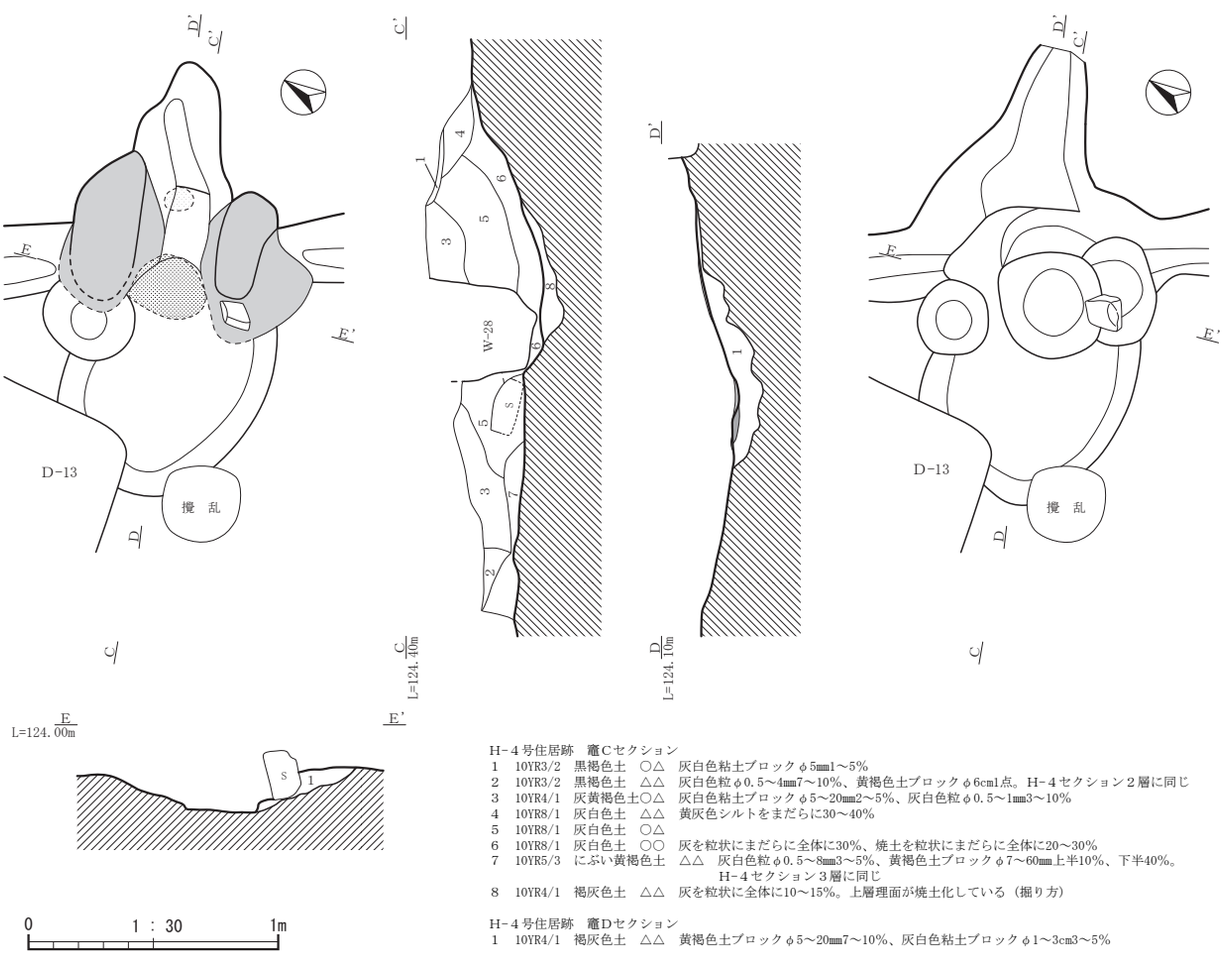
Fig.44　10区Ｈ－３・５・８号住居跡、Ｔ－１号竪穴状遺構、Ｐ－10号ピット

H－4





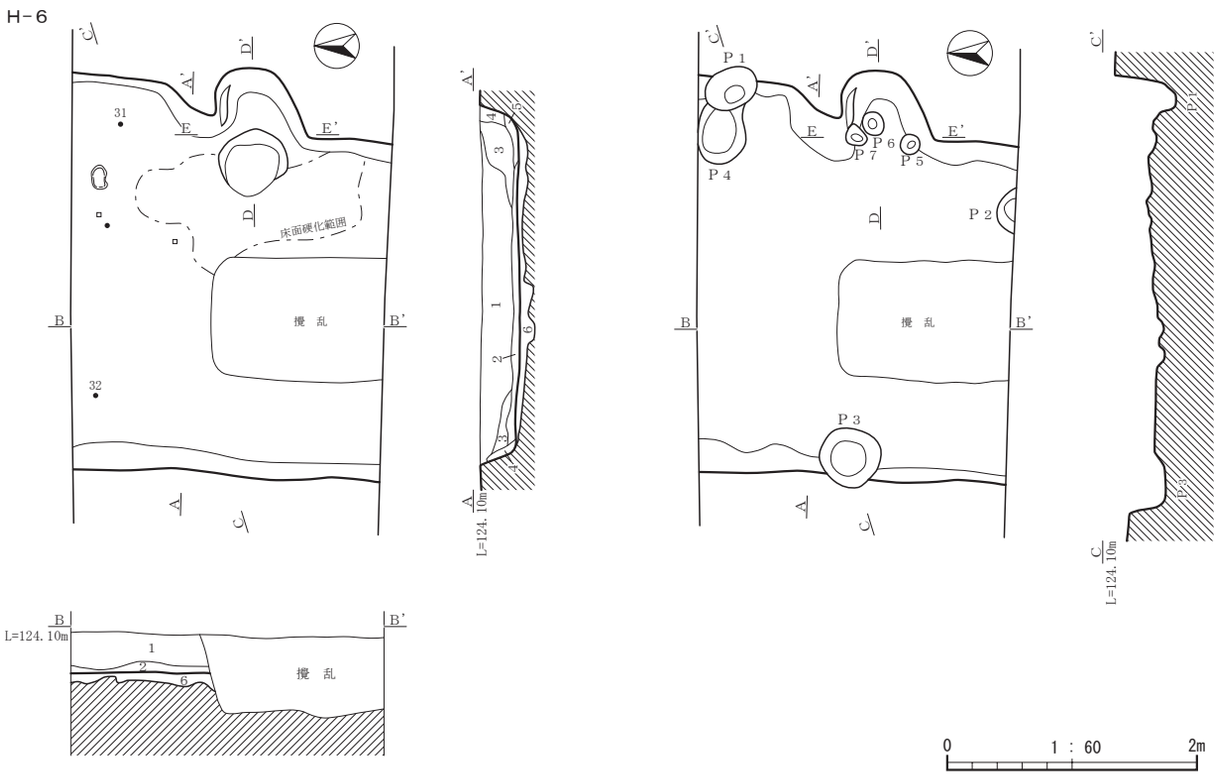
H－4号住居跡　セクション
1　10YR3/2　黒褐色土　△△　灰白色粒φ0.5～2mm3～5%、焼土ブロックφ8～20mm25～30%　（H－1竈煙道部）
2　10YR3/2　黒褐色土　△△　灰白色粒φ0.5～4mm7～10%、黄褐色土ブロックφ6cm1点
3　10YR5/3　にぶい黄褐色土　△△灰白色粒φ0.5～8mm3～5%、黄褐色土ブロックφ7～60mm上半10%、下半40%
4　10YR3/1　黒褐色土　△△　灰白色粒φ0.5～8mm10～15%、黄褐色土ブロックφ1～1.5cm1～3%、黒色シルトブロックφ3～5cm3点
5　10YR6/4　にぶい黄橙色土　△△　黄褐色土を粒状に全体に30～40%　（周溝）



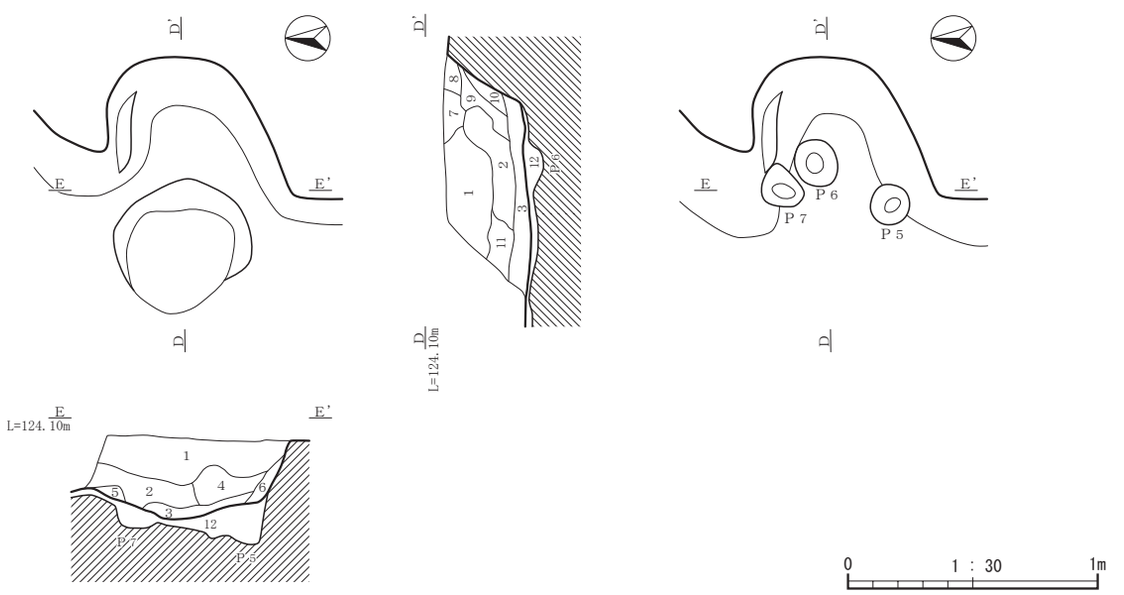
H－4号住居跡　竈Cセクション
1　10YR3/2　黒褐色土　○△　灰白色粘土ブロックφ5mm1～5%
2　10YR3/2　黒褐色土　△△　灰白色粒φ0.5～4mm7～10%、黄褐色土ブロックφ6cm1点。H－4セクション2層に同じ
3　10YR4/1　灰黄褐色土○△　灰白色粘土ブロックφ5～20mm2～5%、灰白色粒φ0.5～1mm3～10%
4　10YR8/1　灰白色土　△△　黄灰色シルトをまだらに30～40%
5　10YR8/1　灰白色土　○△
6　10YR8/1　灰白色土　○○　灰を粒状にまだらに全体に30%、焼土を粒状にまだらに全体に20～30%
7　10YR5/3　にぶい黄褐色土　△△　灰白色粒φ0.5～8mm3～5%、黄褐色土ブロックφ7～60mm上半10%、下半40%。H－4セクション3層に同じ
8　10YR4/1　褐灰色土　△△　灰を粒状に全体に10～15%。上層理面が焼土化している（掘り方）

H－4号住居跡　竈Dセクション
1　10YR4/1　褐灰色土　△△　黄褐色土ブロックφ5～20mm7～10%、灰白色粘土ブロックφ1～3cm3～5%

Fig.45　10区H－4号住居跡

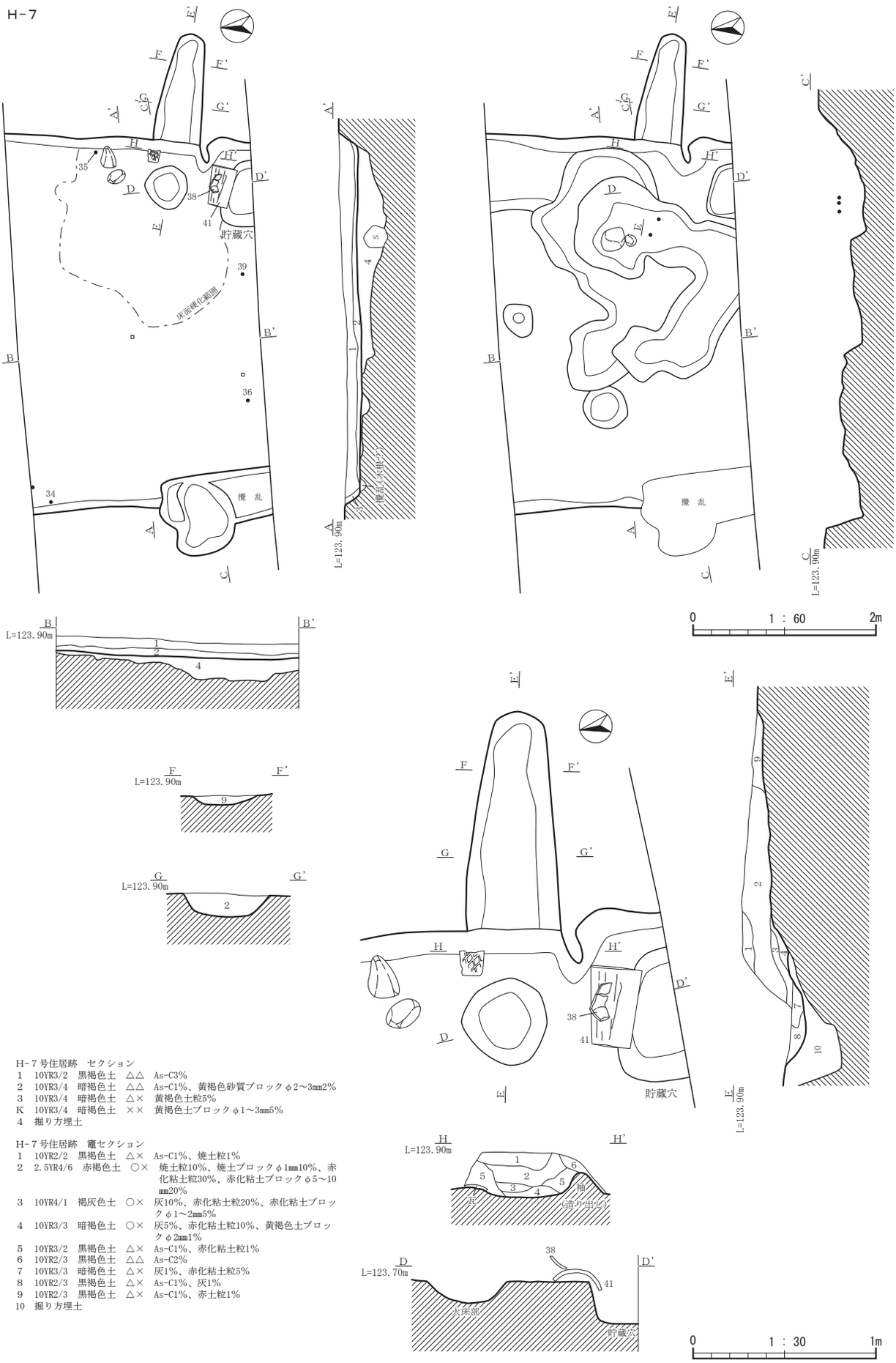


H－6号住居跡　セクション
1　10YR3/2　黒褐色土　△△　As-C3%
2　10YR3/4　暗褐色土　△△　黄褐色土ブロックφ2～5mm3%、As-C1%
3　10YR3/3　暗褐色土　△△　As-C1%、黄褐色土粒1%、黄褐色土ブロックφ2mm1%
4　10YR3/4　暗褐色土　△×　黄褐色土粒10%
5　10YR3/4　暗褐色土　△×　黄褐色土粒30%
K　10YR3/4　暗褐色土　××　黄褐色土粒20%、黄褐色土ブロックφ10～50mm20%
6　掘り方埋土



H－6号住居跡　竈セクション
1　10YR3/2　黒褐色土　×△　As-C1%、灰色粘土ブロックφ3mm微量、黄褐色土ブロックφ1～2mm1%
2　10YR3/4　暗褐色土　△×　As-C1%、焼土粒10%、焼土ブロックφ2～3mm５%
3　10YR2/1　黒色土　△×　灰80%、黄褐色土粒10%、黄褐色土ブロックφ1mm1%
4　10YR2/3　黒褐色土　△×　As-C1%、焼土粒1%、焼土ブロックφ1mm1%
5　10YR2/3　黒褐色土　△△　As-C微量、焼土粒1%
6　10YR2/3　黒褐色土　△×　As-C微量、焼土粒微量、黄褐色土ブロックφ1～2mm1%
7　10YR2/3　黒褐色土　△△　As-C1%、焼土ブロックφ2～3mm2%
8　10YR3/2　黒褐色土　△△　As-C1%、焼土ブロックφ5mm1%
9　10YR3/3　暗褐色土　○△　As-C1%、焼土粒1%、焼土ブロックφ5～10mm2%、赤化粘土ブロックφ5mm10%
10　10YR3/2　黒褐色土　△△　As-C微量、黄褐色土粒1%、焼土粒2%
11　10YR3/1　黒褐色土　△×　As-C2%、粘土粒1%
12　竈掘り方埋土

Fig.46　10区Ｈ－６号住居跡



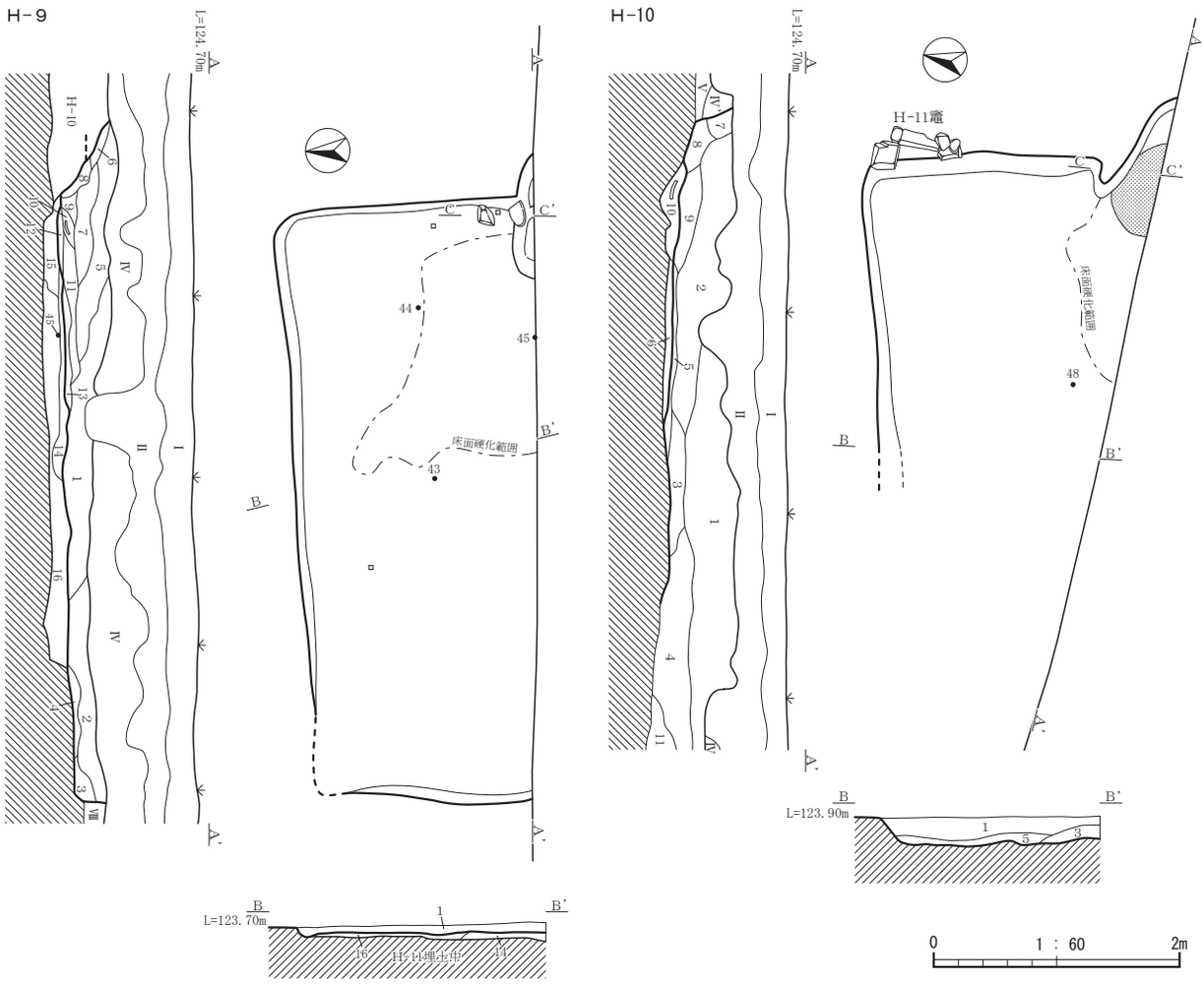
H-７号住居跡　セクション

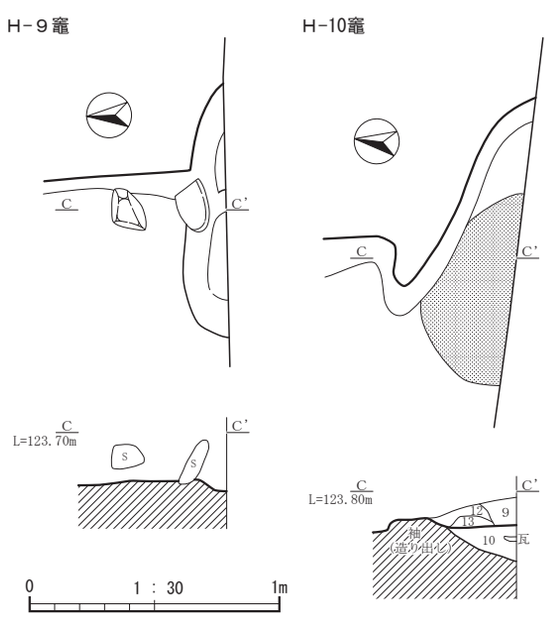
1　10YR3/2　黒褐色土　△△　As-C3%
2　10YR3/4　暗褐色土　△△　As-C1%、黄褐色砂質ブロックφ2～3mm2%
3　10YR3/4　暗褐色土　△×　黄褐色土粒5%
K　10YR3/4　暗褐色土　××　黄褐色土ブロックφ1～3mm5%
4　掘り方埋土

H-７号住居跡　竈セクション

1　10YR2/2　黒褐色土　△×　As-C1%、焼土粒1%
2　2.5YR4/6　赤褐色土　○×　焼土粒10%、焼土ブロックφ1mm10%、赤化粘土粒30%、赤化粘土ブロックφ5～10mm20%
3　10YR4/1　褐灰色土　○×　灰10%、赤化粘土粒20%、赤化粘土ブロックφ1～2mm5%
4　10YR3/3　暗褐色土　○×　灰5%、赤化粘土粒10%、黄褐色土ブロックφ2mm1%
5　10YR3/2　黒褐色土　△×　As-C1%、赤化粘土粒1%
6　10YR2/3　黒褐色土　△△　As-C2%
7　10YR3/3　暗褐色土　△×　灰1%、赤化粘土粒5%
8　10YR2/3　黒褐色土　△×　As-C1%、灰1%
9　10YR2/3　黒褐色土　△×　As-C1%、赤土粒1%
10　掘り方埋土

Fig.47　10区Ｈ－７号住居跡





H-9・10号住居跡　Aセクション
Ⅰ　基本層序に同じ
Ⅱ　基本層序に同じ
Ⅳ　基本層序に同じ
Ⅳ'　10YR2/3　黒褐色土　△△　As-C1%、焼土粒微量（Ⅳ層に焼土粒含む層）
Ⅴ　基本層序に同じ
Ⅷ　基本層序に同じ
H-9号住居跡
1　10YR3/2　黒褐色土　△△　As-C2%、黄褐色土ブロックφ1mm1%微量
2　10YR3/2　黒褐色土　△△　As-C1%、黄褐色土粒1%
3　10YR3/3　暗褐色土　××　黄褐色土粒10%
4　10YR3/3　暗褐色土　△△　黄褐色土ブロックφ5mm1%
5　10YR3/2　黒褐色土　△△　As-C1%、黄褐色土ブロックφ1～2mm1%
6　2.5YR3/6 暗赤褐色土　△×　焼土粒10%、同ブロックφ1mm1%（竈煙道部）
7　10YR2/3　黒褐色土　△△　As-C微量、焼土粒微量
8　2.5YR2/4 極暗赤褐色土　△×　焼土粒5%、同ブロックφ5mm微量（竈煙道部）
9　2.5YR2/2 極暗赤褐色土　△×　焼土粒微量
10　2.5YR3/3 暗赤褐色土　△×　焼土粒10%、同ブロックφ1～5mm10%、灰1%（竈埋土）
11　10YR3/2　黒褐色土　△△　As-C微量、焼土粒微量
12　10YR4/1　褐灰色土　○×　灰層
13　10YR3/2　黒褐色土　△△　As-C微量、木炭微量
14　10YR3/2　黒褐色土　△◎　床面
15　10YR3/3　暗褐色土　△×　黄褐色土ブロックφ2mm1%、焼土粒微量（竈掘り方埋土）
16　10YR3/2　黒褐色土　△○　黄褐色土ブロックφ1～5mm2%
H-10号住居跡（竈セクション共通）
1　10YR2/2　黒褐色土　△△　As-C1%、黄褐色土ブロックφ1～2mm微量（Ⅳ層に黄褐色土ブロック含む層）
2　10YR2/2　黒褐色土　△△　As-C1%、黄褐色土ブロックφ10mm微量（Ⅳ層に黄褐色土ブロックを含む層）
3　10YR3/2　黒褐色土　△△　As-C1%、灰黄褐色砂質ブロックφ2～5mm1%
4　10YR3/2　黒褐色土　△△　As-C1%、黄褐色土ブロックφ5mm微量、木炭片微量（H-10埋土か？）
5　10YR3/2　黒褐色土　△△　As-C微量、木炭片微量
6　10YR3/2　黒褐色土　△◎　As-C1%、灰黄褐色砂質ブロックφ1～2mm5%（床面）
7　10YR3/4　暗褐色土　△×　As-C微量、焼土粒1%（竈埋土）
8　10YR3/3　暗褐色土　△×　As-C微量、焼土粒10%、焼土ブロックφ1～2mm1%（竈埋土）
9　10YR3/2　黒褐色土　△×　As-C微量、焼土粒1%、焼土ブロックφ1mm微量（竈埋土）
10　10YR3/2　黒褐色土　○×　焼土粒20%、焼土ブロックφ5～10mm20%、灰5%。火床部はこの上面（竈掘り方埋土）
11　10YR3/2　黒褐色土　△△　As-C微量、黄褐色土ブロックφ1～2mm1%（H-11埋土か？）
12　2.5YR3/4　暗赤褐色土　△×　焼土粒30%、灰1%
13　2.5YR5/8　明赤褐色土　△×　焼土粒60%、焼土ブロックφ1～2mm10%

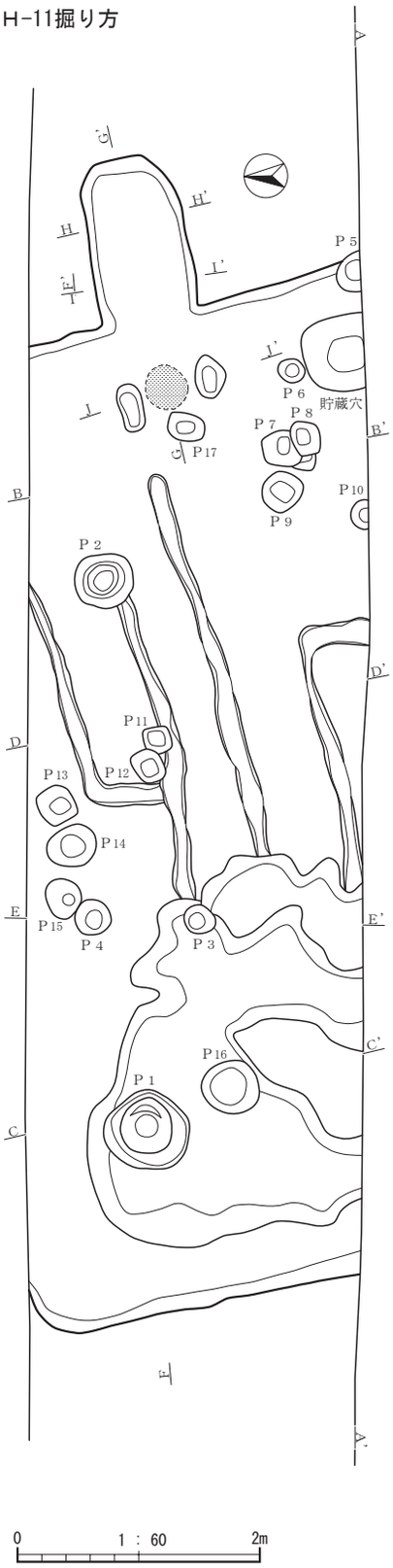
H-9号住居跡　Bセクション
1　10YR2/3　黒褐色土　△×　As-C1%、木炭片微量
14　10YR3/2　黒褐色土　△△　As-C微量、木炭片2%
16　10YR3/2　黒褐色土　△×　As-C微量、木炭片微量

H-10号住居跡　Bセクション
1　10YR2/3　黒褐色土　△△　As-C1%、赤化軟砂岩ブロックφ1mm微量、木炭片微量
2　10YR3/1　黒褐色土　○△　As-C1%、赤化軟砂岩ブロックφ5mm微量、焼土粒微量
3　10YR2/3　黒褐色土　△△　赤化軟砂岩ブロックφ1mm微量、灰色粘土粒微量

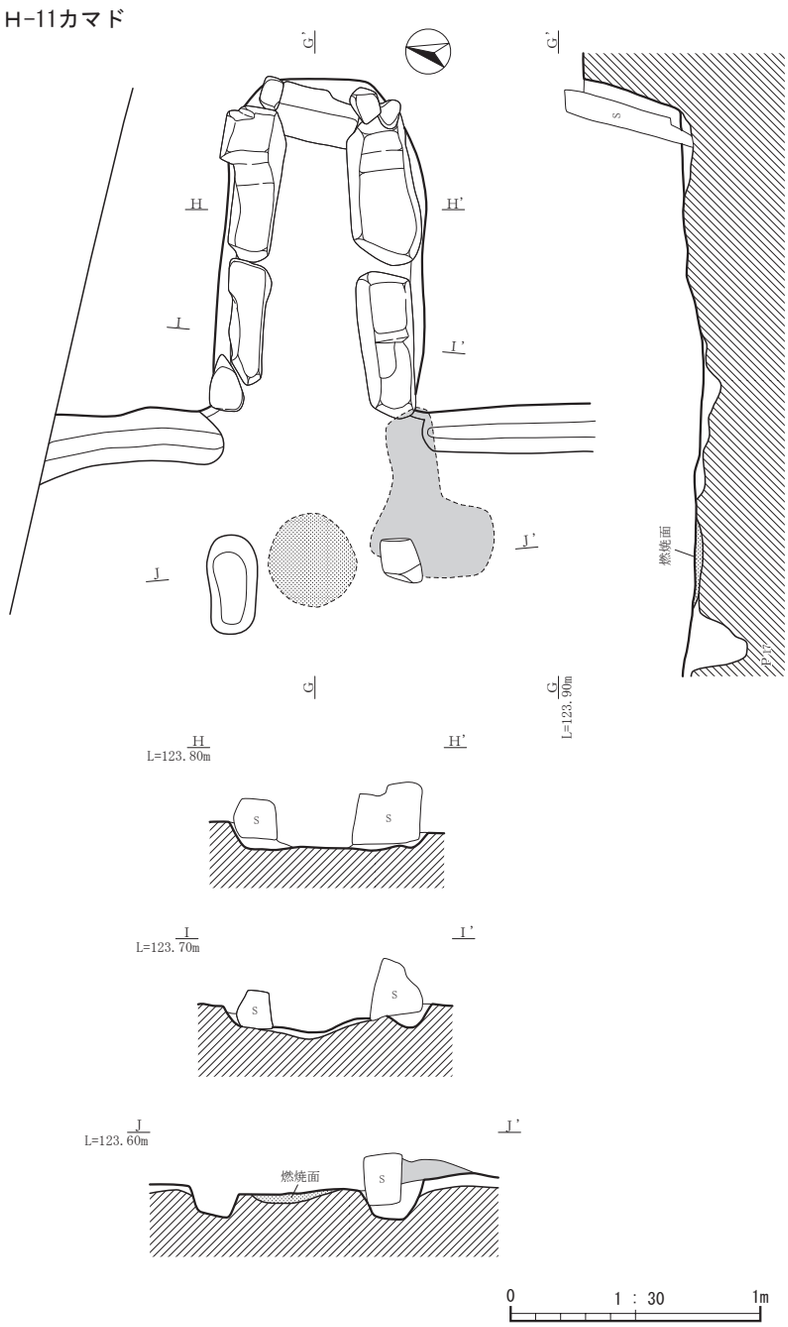
Fig.48　10区H－9・10号住居跡

Fig.49　10区H―11号住居跡（1）

H-11掘り方



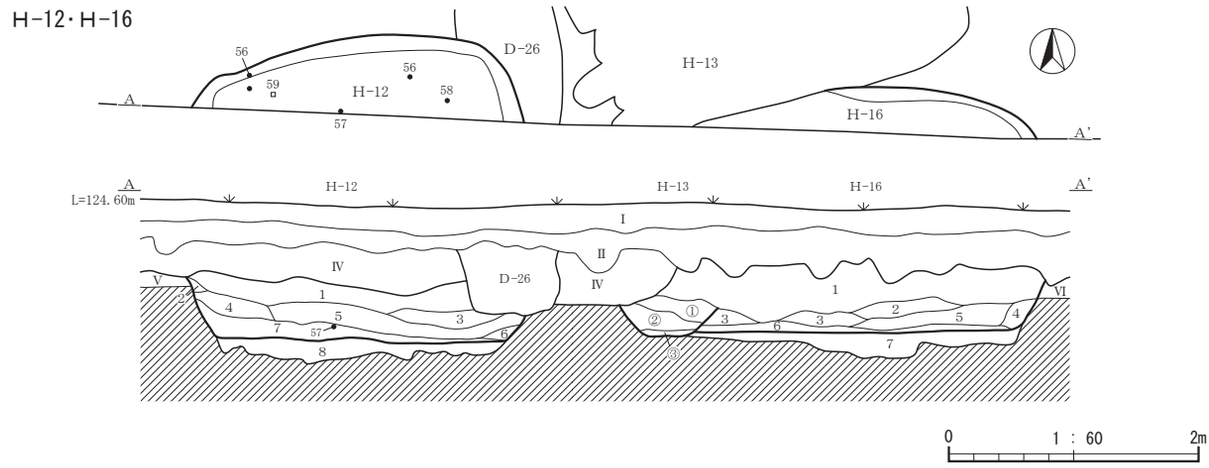
H-11カマド

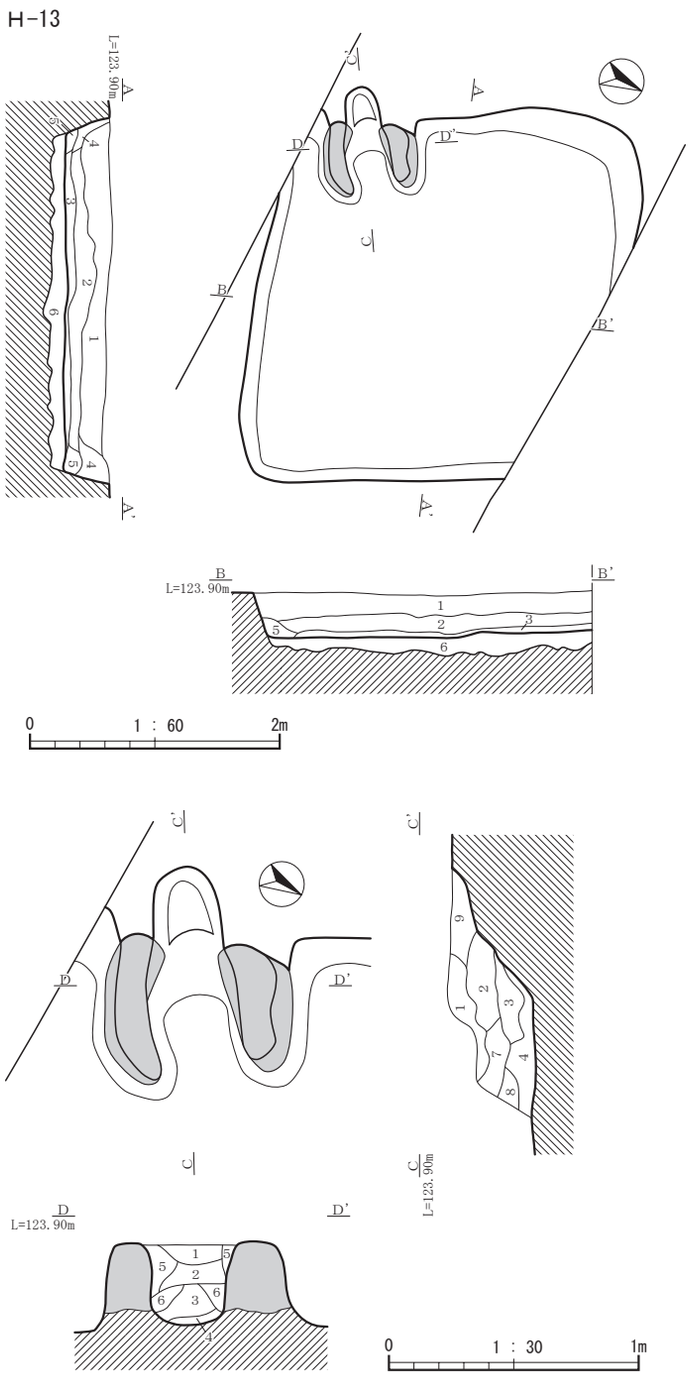


H-11号住居跡　セクション
Ⅰ　基本層序に同じ
Ⅱ　基本層序に同じ
Ⅳ　基本層序に同じ
Ⅳ'　10YR2/3　黒褐色土　△△　As-C1%、焼土粒微量（Ⅳ層に焼土粒含む層）
Ⅴ　基本層序に同じ
Ⅷ　基本層序に同じ
1　10YR3/2　黒褐色土　△△　As-C1%、赤化軟砂岩ブロックφ10mmところどころ、灰色粘土粒1%
2　10YR3/3　暗褐色土　△△　As-C微量、赤化軟砂岩ブロックφ3～10mm10%
3　10YR3/2　黒褐色土　△△　As-C1%、赤化軟砂岩ブロックφ5mm微量、灰色粘土粒2%
4　10YR3/2　黒褐色土　△△　As-C微量、灰色粘土粒1%
5　10YR3/4　暗褐色土　　黄褐色土粒1%、黄褐色土ブロックφ2mm1%（周溝埋土）
6　10YR3/4　暗褐色土　××　黄褐色土粒10%、黄褐色土ブロックφ5mm1%（周溝埋土）
7　10YR3/3　暗褐色土　△×　黄褐色土粒10%、黄褐色土ブロックφ2mm2%（Ｐ５埋土）
8　10YR2/2　黒褐色土　△×　黄褐色土粒1%（Ｐ５埋土）
9　10YR3/2　黒褐色土　△×　As-C1%、灰色粘土粒１%
10　10YR3/3　暗褐色土　△×　As-C微量、灰色粘土粒５%
11　10YR2/3　黒褐色土　△×　As-C1%、灰色粘土ブロックφ1mm1%、黄褐色土ブロックφ2mm1%
12　10YR3/3　暗褐色土　△×　灰黄褐色砂質土ブロックφ10mm2%
13　10YR3/2　黒褐色土　△△　黄褐色土ブロックφ2mm1%。あまり硬くない（床面）
14　10YR4/3　にぶい黄褐色土　△△　黄褐色土粒10%、黄褐色土ブロックφ5～20mm30%（掘り方埋土）
15　10YR4/2　灰黄褐色土　△△　As-C微量、黄褐色土ブロックφ5～10mm1%、木炭微量

H-11号住居跡　Ｐ１セクション
1　10YR2/3　黒褐色土　△△　As-C1%
2　10YR3/2　黒褐色土　△△　As-C微量、砂質土ブロックφ2～5mm5%
3　10YR3/2　黒褐色土　△×　As-C微量、黄褐色土ブロックφ1%
4　10YR3/2　黒褐色土　××　As-C微量、黄褐色土粒1%
5　10YR3/2　黒褐色土　××　As-C微量、黄褐色土粒2%
6　10YR3/2　黒褐色土　△○　黄褐色土ブロックφ5mm2%、黄褐色土粒1%

Fig.50　10区Ｈ―11号住居跡（2）





H-12・16号住居跡　セクション
Ⅰ　基本層序に同じ
Ⅱ　基本層序に同じ（D-26埋土を構成する土）
Ⅲ　基本層序に同じ
Ⅳ　基本層序に同じ
Ⅴ　基本層序に同じ

H-12号住居跡

1	10YR2/3	黒褐色土	△△　As-C2%、黄褐色土ブロックφ2mm微量
2	10YR2/3	黒褐色土	△×　C混黒色土含む。
3	10YR2/3	黒褐色土	△△　As-C微量
4	10YR2/3	黒褐色土	△△　As-C微量
5	10YR2/3	黒褐色土	△△　As-C1%
6	10YR3/3	暗褐色土	△△　As-C微量、黄褐色土粒微量
7	10YR3/2	黒褐色土	△○　As-C微量、木炭微量
8	10YR3/3	暗褐色土	△○　灰黄砂質ブロックφ10～20mm30%（掘り方埋土）

H-16号住居跡

1	10YR2/3	黒褐色土	△△　As-C1%、黄褐色土ブロックφ1～2mm1%
2	10YR2/3	黒褐色土	△△　As-C微量
3	10YR3/2	黒褐色土	△△　As-C微量、黄褐色土ブロックφ1～2mm微量
4	10YR3/3	暗褐色土	△△　As-C微量、黄褐色土粒1%
5	10YR2/2	黒褐色土	△△　As-C１%、黄褐色土ブロックφ2～3mm1%
6	10YR2/3	黒褐色土	△○　As-C微量、黄褐色土ブロックφ5～10mm1%
7	10YR4/2	灰黄褐色土	△△　As-C微量、黄褐色土ブロックφ5～10mm1%、木炭微量

H-13号住居跡
①　H-13セクション１層に同じ
②　H-13セクション２層に同じ
③　H-13セクション３層に同じ

H-13号住居跡　セクション

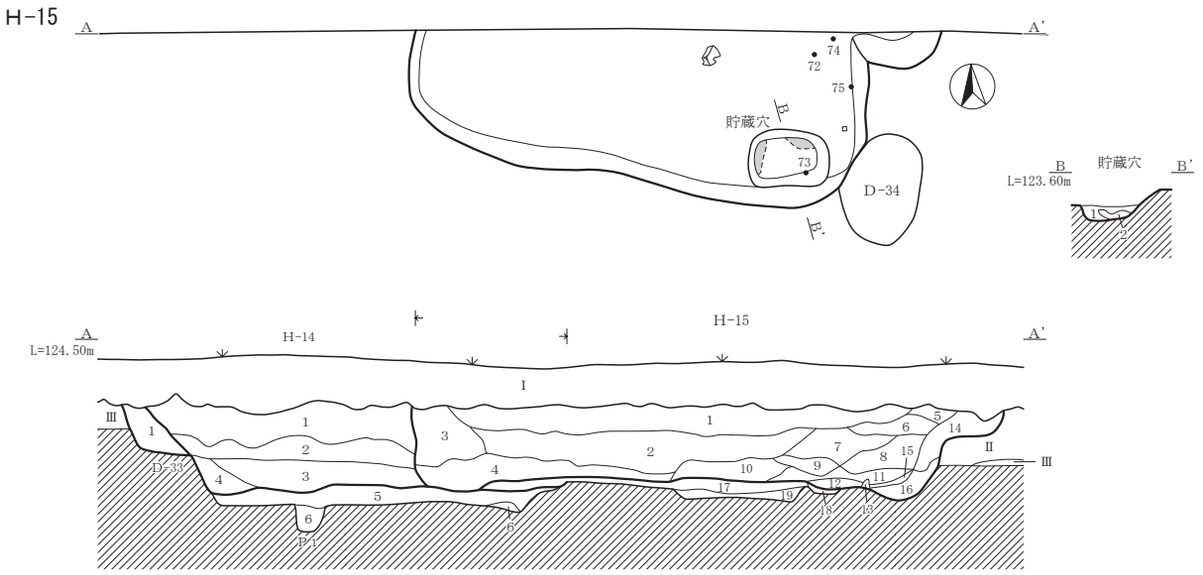
1	10YR3/2	黒褐色土	△△　As-C3%
2	10YR3/1	黒褐色土	△△　As-C1%、黄褐色土ブロックφ2～3mm1%
3	10YR3/3	暗褐色土	△△　As-C微量、黄褐色土ブロックφ2～5mm2%
4	10YR3/4	暗褐色土	△×　As-C微量、黄褐色土粒10%
5	10YR2/3	黒褐色土	△△　As-C1%、黄褐色土粒1%、黄褐色土ブロックφ1～2mm10%
6	10YR		△○　黄褐色砂質ブロックφ10～30mm30%、黄褐色土粒20%(掘り方埋土)

H-13号住居跡　竈セクション

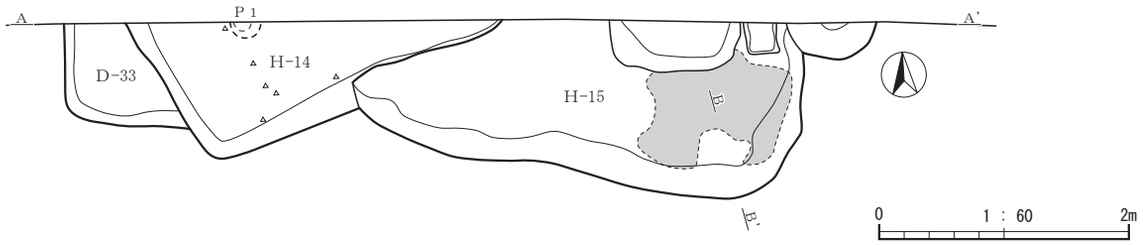
1	10YR4/3	にぶい黄褐色土	△×　As-C1%、灰色粘土粒10%
2	10YR4/2	灰黄褐色土	○×　橙色の焼けた粘土ブロックφ10～15mm30%、灰色粘土粒20%
3	10YR3/2	黒褐色土	○△　As-C１%、焼土粒1%
4	10YR3/3	暗褐色土	○△　As-C１%、焼土粒1%、黄褐色土ブロック（砂質）φ1～2mm1%
5	10YR4/1	褐灰色土	△△　灰色粘土粒40%、焼土粒1%
6	10YR3/3	暗褐色土	△△　As-C1%、灰色粘土粒10%、焼土粒1%
7	10YR2/3	黒褐色土	△△　As-C1%、灰色粘土ブロックφ2～3mm1%
8	10YR2/2	黒褐色土	△△　As-C1%、焼土粒1%、灰色粘土粒1%、灰微量
9	10YR2/2	黒褐色土	△×　As-C微量、焼土粒1%、焼土ブロックφ1～2mm1%

Fig.51　10区Ｈ―12・13・16号住居跡

H-15



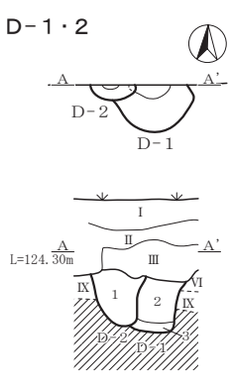
H-14・H-15掘り方・D-33



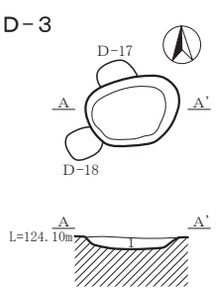
H-14・15号住居跡、D-33号土坑　セクション
Ⅰ　基本層序に同じ
Ⅱ　基本層序に同じ
Ⅲ　基本層序に同じ
D-33号土坑
1　10YR3/4　暗褐色土　△△　As-C微量、黄褐色土粒20%
H-14号住居跡
1　10YR3/2　黒褐色土　△△　As-C2%、黄褐砂質ブロックφ5mm1%
2　10YR3/2　黒褐色土　△△　As-C1%、黄褐砂質ブロックφ5～20mm1%
3　10YR3/2　黒褐色土　△△　As-C1%、黄褐砂質ブロックφ10～15mm2%
4　10YR3/2　黒褐色土　△×　As-C微量、黄褐砂質ブロックφ50mm1%
5　10YR3/3　暗褐色土　△○　As-C微量、黄褐砂質ブロックφ5～20mm10%（掘り方埋土）
6　10YR3/4　暗褐色土　△×　黄褐砂質ブロックφ5mm10%、黄褐砂質ローム粒30%
H-15号住居跡
1　10YR3/2　黒褐色土　△△　As-C1%
2　10YR3/2　黒褐色土　△△　As-C1%、黄褐砂質ロームブロックφ5～10mm1%
3　10YR3/2　黒褐色土　△△　As-C微量、黄褐砂質ロームブロックφ2mm1%
4　10YR3/3　暗褐色土　△△　As-C微量、黄褐砂質ロームブロックφ10～50mm5%
5　10YR3/2　黒褐色土　△△　As-C1%、灰色粘土粒微量
6　10YR3/2　黒褐色土　△△　２層に灰色粘土粒1%
7　10YR3/2　黒褐色土　△△　２層に灰色粘土粒2%
8　10YR3/2　黒褐色土　△△　As-C1%、灰色粘土ブロックφ1mm1%、灰色粘土粒1%
9　10YR4/1　褐灰色土　○△　As-C微量、灰色粘土粒30%
10　10YR3/2　黒褐色土　△△　As-C微量、灰色粘土粒2%、黄褐砂質ブロックφ10mm微量
11　10YR3/3　暗褐色土　△△　As-C微量、灰色粘土粒1%、灰微量
12　10YR4/1　褐灰色土　　灰層
13　10YR3/3　暗褐色土　△×　灰5%、黄褐色土粒10%
14　10YR5/1　褐灰色土　○△　灰色粘土粒30%、灰色粘土ブロックφ10～20mm20%
15　10YR4/1　褐灰色土　○△　灰色粘土粒10%、灰1%
16　10YR3/2　黒褐色土　△△　灰色粘土粒1%、灰1%、黄褐色土ブロックφ10mm微量
17　10YR3/3　暗褐色土　△△　黄褐色土ブロックφ10～15mm30%（掘り方埋土）
18　10YR2/3　黒褐色土　△△　黄褐色土ブロックφ10mm2%、灰微量（竈掘り方埋土）
19　10YR3/4　暗褐色土　△△　黄褐色土ブロックφ5mm10%、黄褐色土粒40%（掘り方埋土）

H-15号住居　竈セクション
1　10YR2/3　黒褐色土　×△　As-C1%、灰色粘土粒1%、灰色粘土ブロックφ1mm1%
2　10YR3/2　黒褐色土　△△　As-C1%、灰色粘土粒10%、灰色粘土ブロックφ1mm1%
3　10YR3/1　黒褐色土　△×　灰80%、黄褐色土粒1%、　黄褐色土ブロックφ1mm1%
4　10YR3/4　暗褐色土　×△　灰1%、黄褐色土粒5%、　黄褐色土ブロックφ1～2mm1%
5　10YR6/1　褐灰色土　○△　粘土ブロック80%

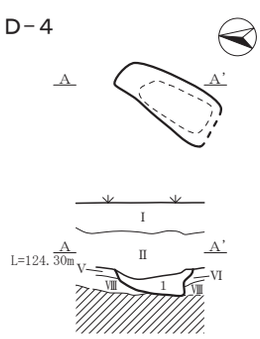
D-1・2



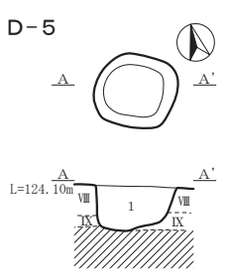
D-3



D-4



D-5



0　1 : 60　2m

Fig.52　10区H―14・15号住居跡、土坑（1）

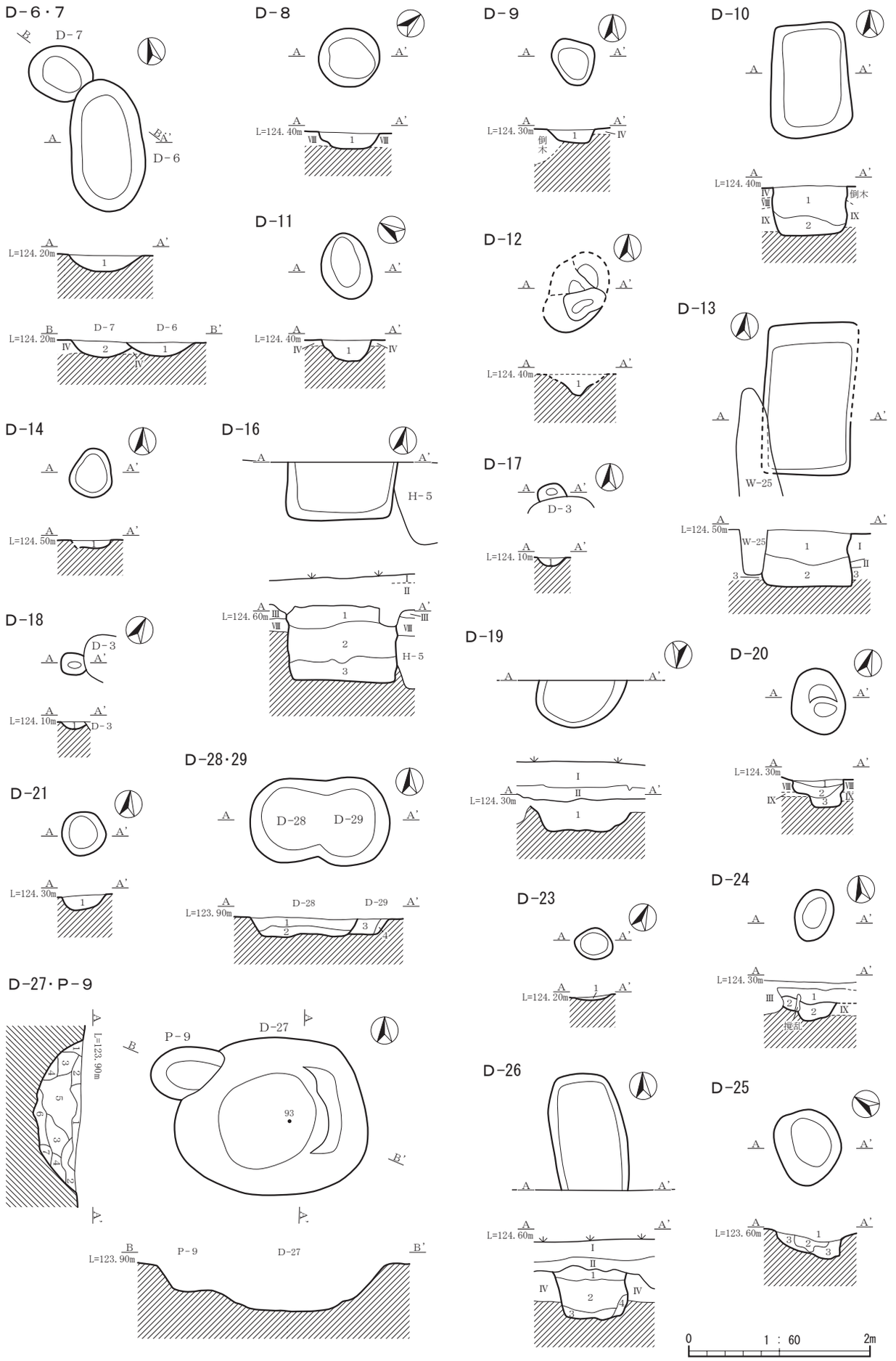
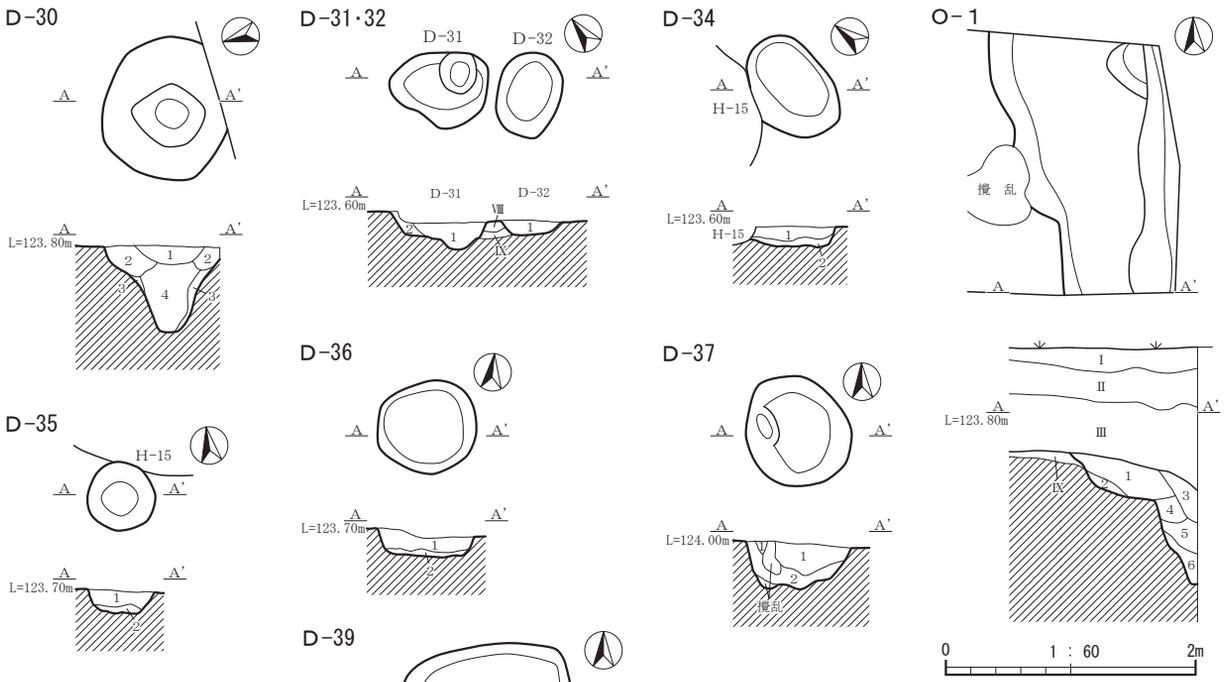
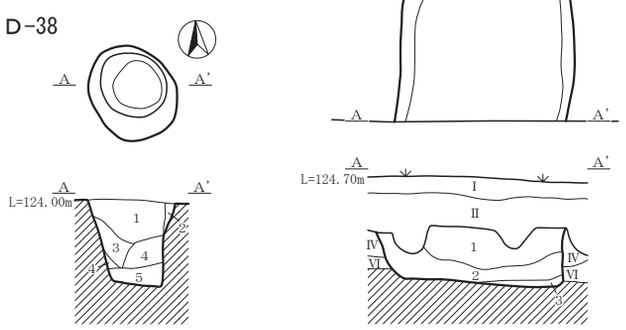


Fig.53　10区土坑（2）





O－１号落ち込み　セクション
Ⅰ　基本層序に同じ
Ⅱ　基本層序に同じ
Ⅲ　基本層序に同じ
Ⅳ　基本層序に同じ
1　10YR2/3　黒褐色土　△△　As-C微量、灰黄砂質土ブロックφ5～8mm1%
2　10YR3/2　黒褐色土　△△　黄褐色土ブロックφ10～20mm1%、黄褐色土粒20%
3　10YR3/2　黒褐色土　△△　As-C微量、灰黄砂質土ブロックφ10～15mm2%
4　10YR3/2　黒褐色土　△△　灰黄砂質土ブロックφ5～10mm微量、灰黄砂質土粒5%
5　10YR2/2　黒褐色土　△△　灰黄砂質土粒1%
6　10YR4/2　灰黄褐色土　△○　灰黄砂質土ブロックφ20～30mm30%、灰黄砂質土粒40%

D-１・２号土坑　セクション
1　10YR4/2　灰黄褐色土　○△　灰白色粒φ0.5～5mm7～10%、黄褐色土ブロックφ1cm1～3%
2　10YR4/2　灰黄褐色土　△△　灰白色粒φ0.5～5mm7～10%、黄褐色土ブロックφ5～20mm3～5%
3　10YR3/2　黒褐色土　△△　灰白色粒φ0.5～3mm1～3%、黄褐色土ブロックφ5～20mm3～5%
D-３号土坑　セクション
1　10YR6/2　灰黄褐色土　△△　灰白色粒φ0.5～3mm7～10%。D-６セクション１層に同じ。
D-４号土坑　セクション
1　10YR3/1　黒褐色土　○△　灰白色粒φ0.5～10mm20～25%
D-５号土坑　セクション
1　10YR3/2　黒褐色土　△△　灰白色粒φ0.5～1mm1～3%、黒色土ブロックφ2～3cm5～7%。D-11セクション１層に同じ。
D-６・７号土坑　セクション
1　10YR6/2　灰黄褐色土　△△　灰白色粒φ0.5～3mm7～10%
2　10YR6/2　灰黄褐色土　△△　灰白色粒φ0.5～3mm5～7%
D-８号土坑　セクション
1　2.5Y3/2　黒褐色土　○△　灰白色粒φ0.5～5mm15～20%
D-９号土坑　セクション
1　10YR4/1　褐灰色土　○△　灰白色粒φ0.5～3mm7～10%、黄褐色土ブロックφ1～2cm1～3%。D-14セクション１層に同じ
D-10号土坑　セクション
1　7.5YR4/3　褐色土　△△　黄褐色土ブロックφ1～5cm10～15%、灰白色粒子φ0.5～5mm15～20%
2　10YR4/1　褐灰色土　△△　黄褐色土ブロックφ1cm3～5%。１層よりも堅い
D-11号土坑　セクション
1　10YR3/2　黒褐色土　△△　灰白色粒φ0.5～1mm1～3%、黒色土ブロックφ2～3cm5～7%
D-12号土坑　セクション
1　10YR2/1　黒色土　○△　灰白色粒φ0.5～1mm10～15%
D-13号土坑　セクション
1　10YR4/3　にぶい黄褐色土　△△　黄褐色土粒φ2～5mm10～15%、黄褐色土ブロックφ10～15mm3～5%、砂礫φ2～8mm20～25%
2　10YR3/2　黒褐色土　△△　黄褐色土粒φ2～5mm3～5%、黄褐色土ブロックφ1～1.5cm1～3%、灰白色粒φ0.5～3mm3～5%
3　H-４セクション１層に同じ（H-１竈煙道部）
D-14号土坑　セクション
1　10YR4/1　褐灰色土　○△　灰白色粒φ0.5～3mm7～10%、黄褐色土ブロックφ1～2cm1～3%
D-16号土坑　セクション
1　10YR6/3　にぶい黄橙色土　○△　黄褐色土を粒子状に全体に40～50%、黄褐色土ブロックφ10～30mm7～10%
2　10YR5/2　灰黄褐色土　△△　黄褐色土を粒子状に全体に10～15%、黄褐色土ブロックφ5～40mm3～5%
3　10YR4/2　灰黄褐色土　△△　黄褐色土ブロックφ5～40mm1～2%
D-17号土坑　セクション
1　10YR3/1　黒褐色土　△×　灰白色粒φ0.5～5mm15～20%
D-18号土坑　セクション
1　10YR3/1　黒褐色土　△×　灰白色粒φ0.5～5mm15～20%
D-19号土坑　セクション
1　10YR3/1　黒褐色土　○△　灰白色粒φ0.5～10mm20～25%
D-20号土坑　セクション
1　10YR5/3　にぶい黄褐色土　△△　灰白色粒φ0.5～3mm7～10%
2　10YR4/2　灰黄褐色土　△△　灰白色粒φ2～4mm1～2%、黄褐色土ブロックφ6mm1～2%
3　10YR3/2　黒褐色土　△△　黄褐色土粒～ブロックφ1～6mm10～15%
D-21号土坑　セクション
1　10YR3/2　黒褐色土　○△　灰白色粒φ0.5～5mm3～5%

D-23号土坑　セクション
1　2.5Y2/1　黒色土　△△　灰白色粒φ0.5～3mm5～7%
D-24号土坑　セクション
1　10YR3/1　黒褐色土　△△　灰白色粒φ0.5～1mm1～3%
2　10YR8/6　黄橙色土　×　根痕か？
D-25号土坑　セクション
1　10YR6/4　にぶい黄橙色　○○　黄褐色土ブロックφ1～3cm10～20。H-２セクションＡ５層(掘り方)に同じ
2　7.5YR4/1　褐灰色土　△△
3　7.5YR3/3　暗褐色土　○○　灰白色粘土ブロックφ3cm2点
D-26号土坑　セクション
1　10YR4/2　灰黄褐色土　××　As-B粗粒1%、As-C微量、砂質
2　10YR3/3　暗褐色土　××　As-B粗粒微量、As-C微量、砂質
3　10YR2/3　黒褐色土　×△　As-C微量
4　10YR3/2　黒褐色土　×△　As-B粗粒微量、
D-27号土坑　セクション
1　10YR3/4　暗褐色土　×△　As－C5%
2　10YR3/2　黒褐色土　△△　砂質土粒1%
3　10YR3/3　暗褐色土　△△　As－C1%、木炭粒1%
4　10YR3/4　暗褐色土　△×　砂質土粒60%
5　10YR2/1　黒色土　△△　砂質土ブロックφ1～3mm1%
6　10YR2/3　黒褐色土　△×　黄褐色土粒10%、砂質土ブロックφ2mm5%
7　10YR5/8　黄褐色土　△×　黄褐の砂質土ブロックφ20～30mm80%
D-28・29号土坑　セクション
1　10YR2/1　黒色土　△△　As－C1%
2　10YR2/3　黒褐色土　△△　As－C1%、黄褐色土粒2%
3　10YR3/1　黒褐色土　△△　As－C1%
4　10YR3/2　黒褐色土　△×　As－C1%、黄褐色土粒1%
※ 細い木根が密集する
D-30号土坑　セクション
1　10YR3/2　黒褐色土　×△　As－C3%
2　10YR3/3　暗褐色土　△△　As－C1%、黄褐色土粒1%
3　10YR3/4　暗褐色土　×△　黄褐色土粒40%、砂質土ブロックφ1～2mm1%
4　10YR2/2　黒褐色土　△△　As－C1%、砂質土ブロックφ1～2mm1%
※ 覆土上位に木根多い
D-31・32号土坑　セクション
1　10YR3/3　暗褐色土　△△　As-C2%、黄褐色土ブロックφ2～5mm5%
2　10YR3/4　暗褐色土　△×　黄褐色土粒30%、黄褐色土ブロックφ2～3mm5%
D-34号土坑　セクション
1　10YR3/2　黒褐色土　×△　As－C1%、黄褐色土粒2%
2　10YR3/3　暗褐色土　△×　黄褐色土粒10%、黄褐色土ブロックφ5～10mm5%
D-35号土坑　セクション
1　10YR3/2　黒褐色土　××　As－C1%、黄褐色土粒1%
2　10YR3/2　黒褐色土　×△　As－C微量、黄褐色土粒5%
※ D-34号土坑と同じ埋土
D-36号土坑　セクション
1　10YR2/1　黒色土　○○　黄褐色土粒微量
2　10YR3/2　黒褐色土　△△　灰黄砂質土粒10%、灰黄砂質土ブロックφ1～2mm10%
D-37号土坑　セクション
1　10YER2/2　黒褐色土　×△　As－B粗粒1%、砂質
2　10YR3/2　黒褐色土　××　As－B粗粒1%、黄褐色土粒5%、砂質
D-38号土坑　セクション
1　10YR3/2　黒褐色土　△×　As-C1%、黄褐色土ブロックφ1mm1%、As-B2%
2　10YR3/3　暗褐色土　△△　As-C1%、黄褐色土ブロックφ1～2mm1%、黄褐色土粒5%
3　10YR3/4　暗褐色土　××　As-C1%、黄褐色土ブロックφ2～3mm40%、黄褐色土粒10%
4　10YR2/1　黒色土　△△　黄褐色土粒1%
5　10YR3/3　暗褐色土　××　黄褐色土ブロックφ1～3mm20%、黄褐色土粒20%
D-39号土坑　セクション
1　10YR3/2　黒褐色土　××　As-C1%、Ⅳ層ブロックφ10～20mm1%
2　10YR3/3　暗褐色土　×△　As-C微量、Ⅳ層ブロックφ10mm1%（C混の暗褐色土）
3　10YR3/4　暗褐色土　△△　Ⅵ層土粒30%

Fig.54　10区土坑（3）、O－１号落ち込み

10区の遺物

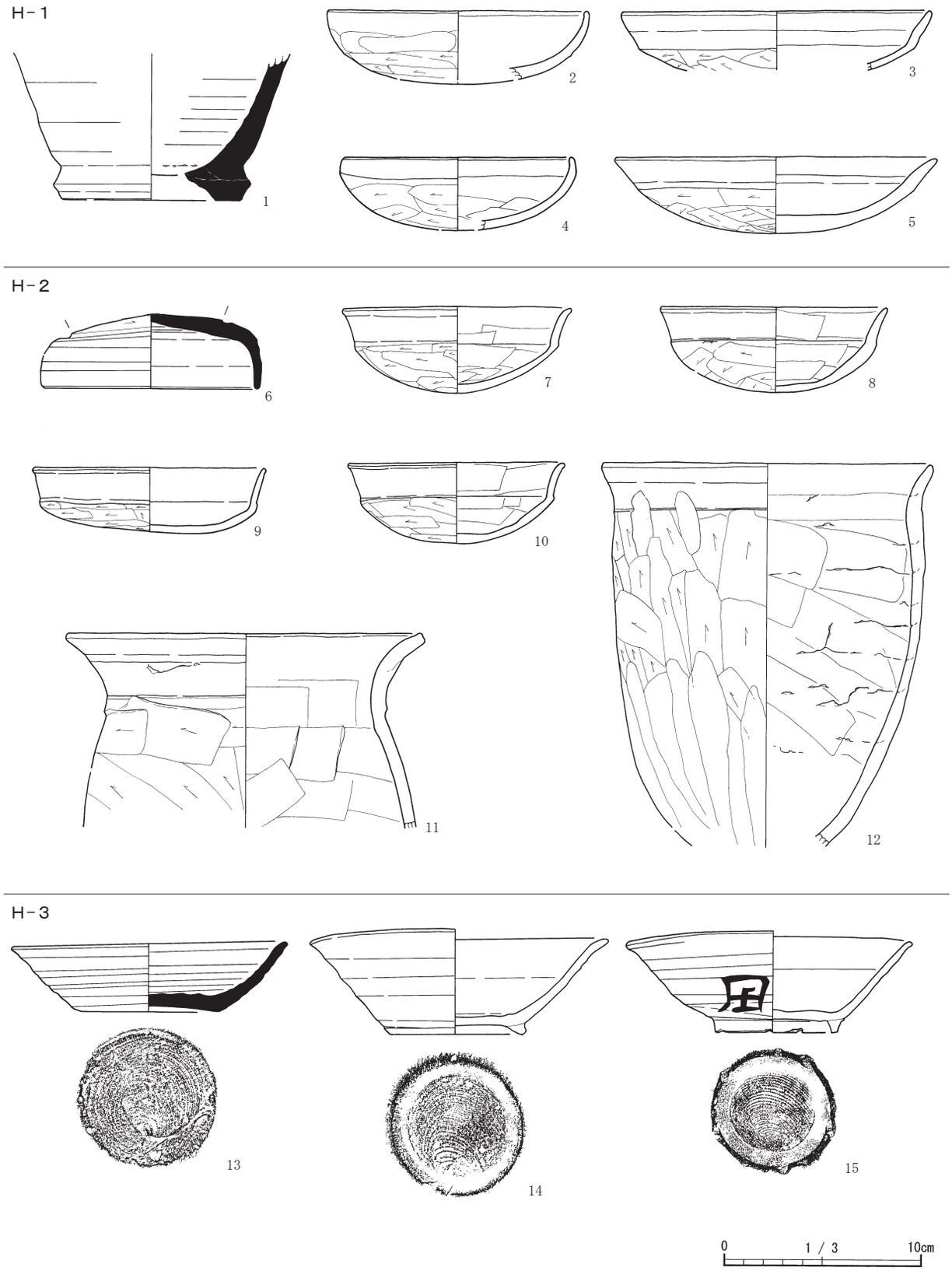


Fig.55　10区H－1～H－3 (1) 出土遺物

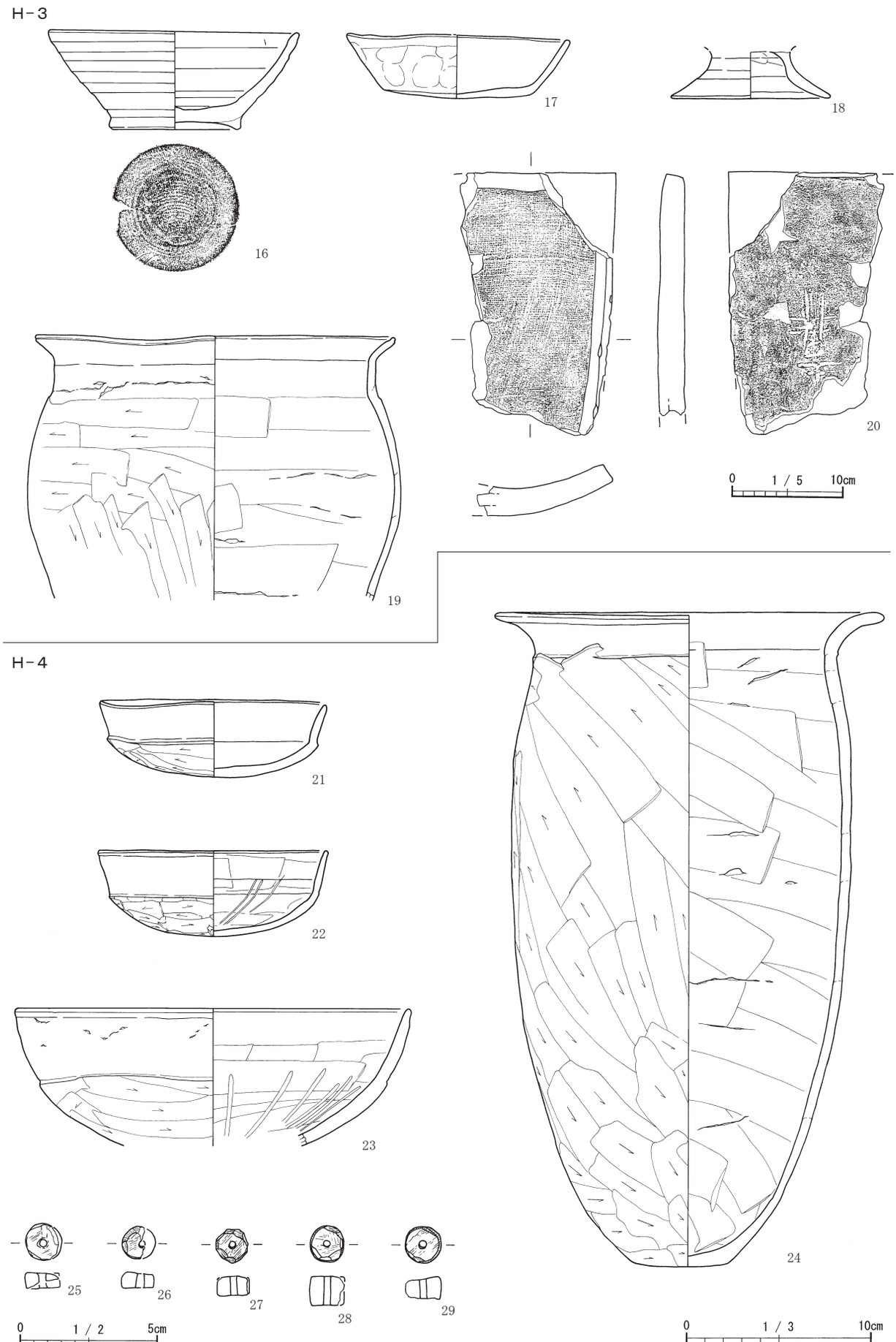


Fig.56　10区H－3 (2)・4出土遺物

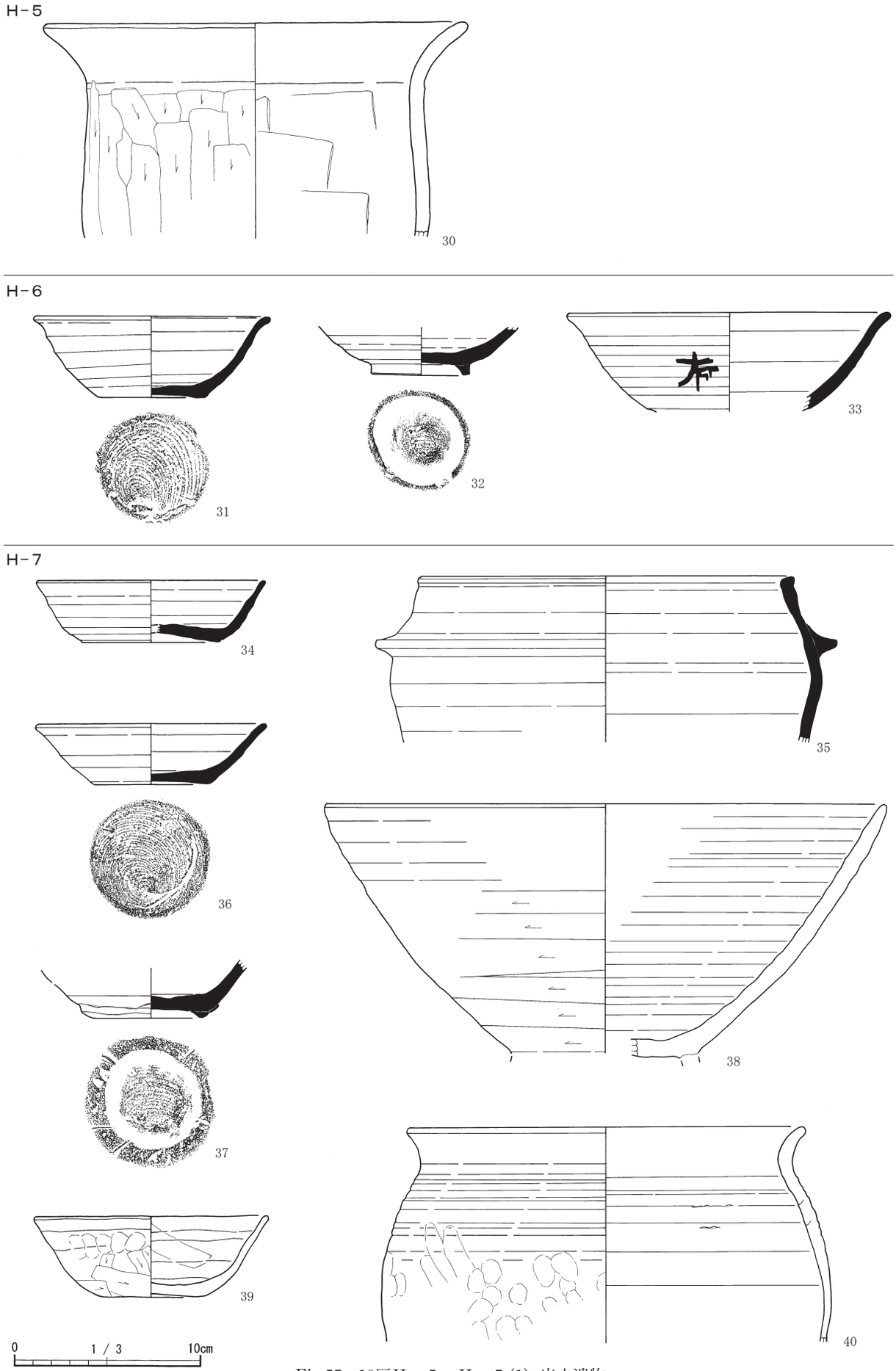


Fig.57　10区H－5～H－7 (1) 出土遺物

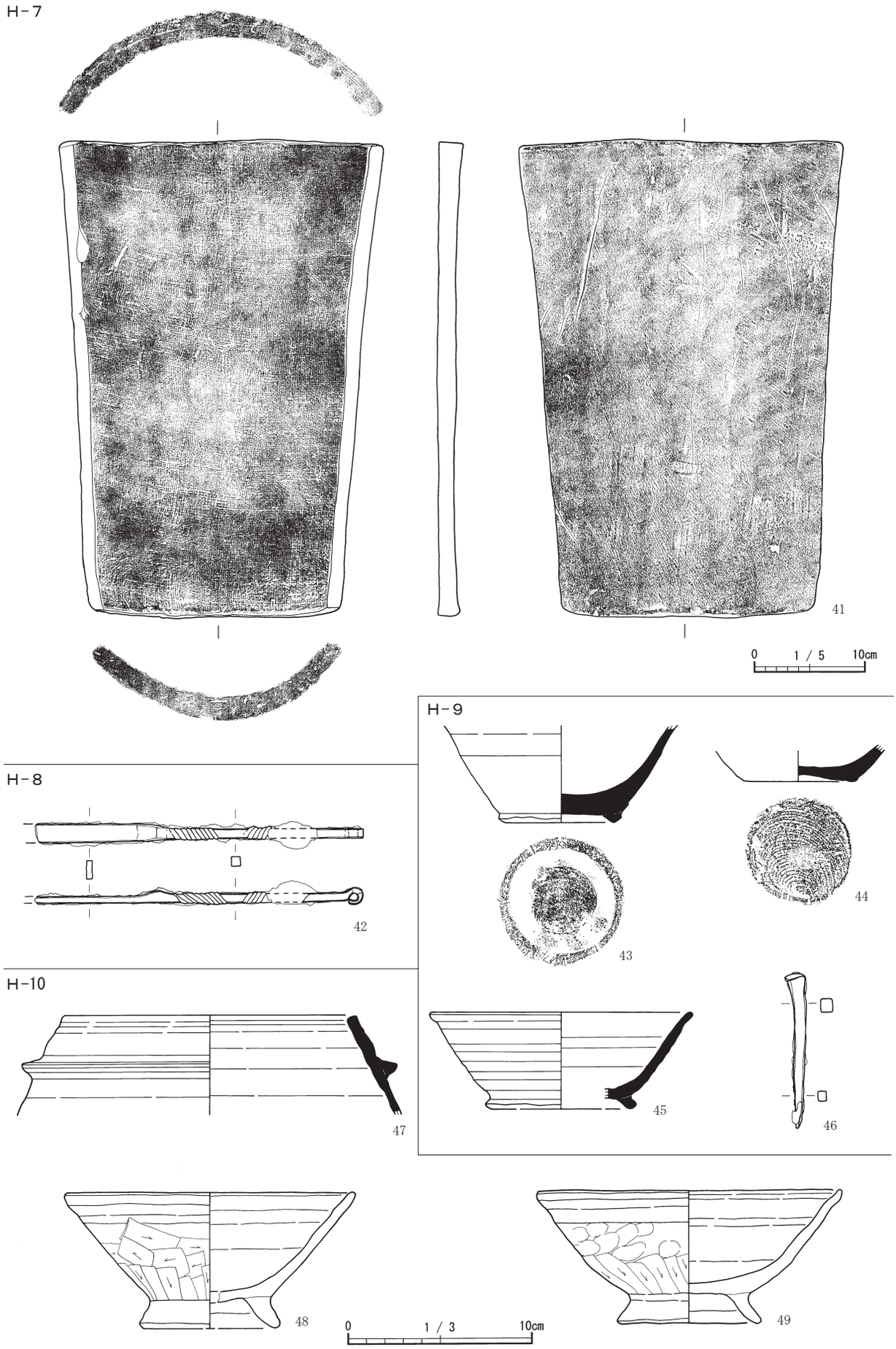


Fig.58　10区H－7 (2) ～H－10出土遺物

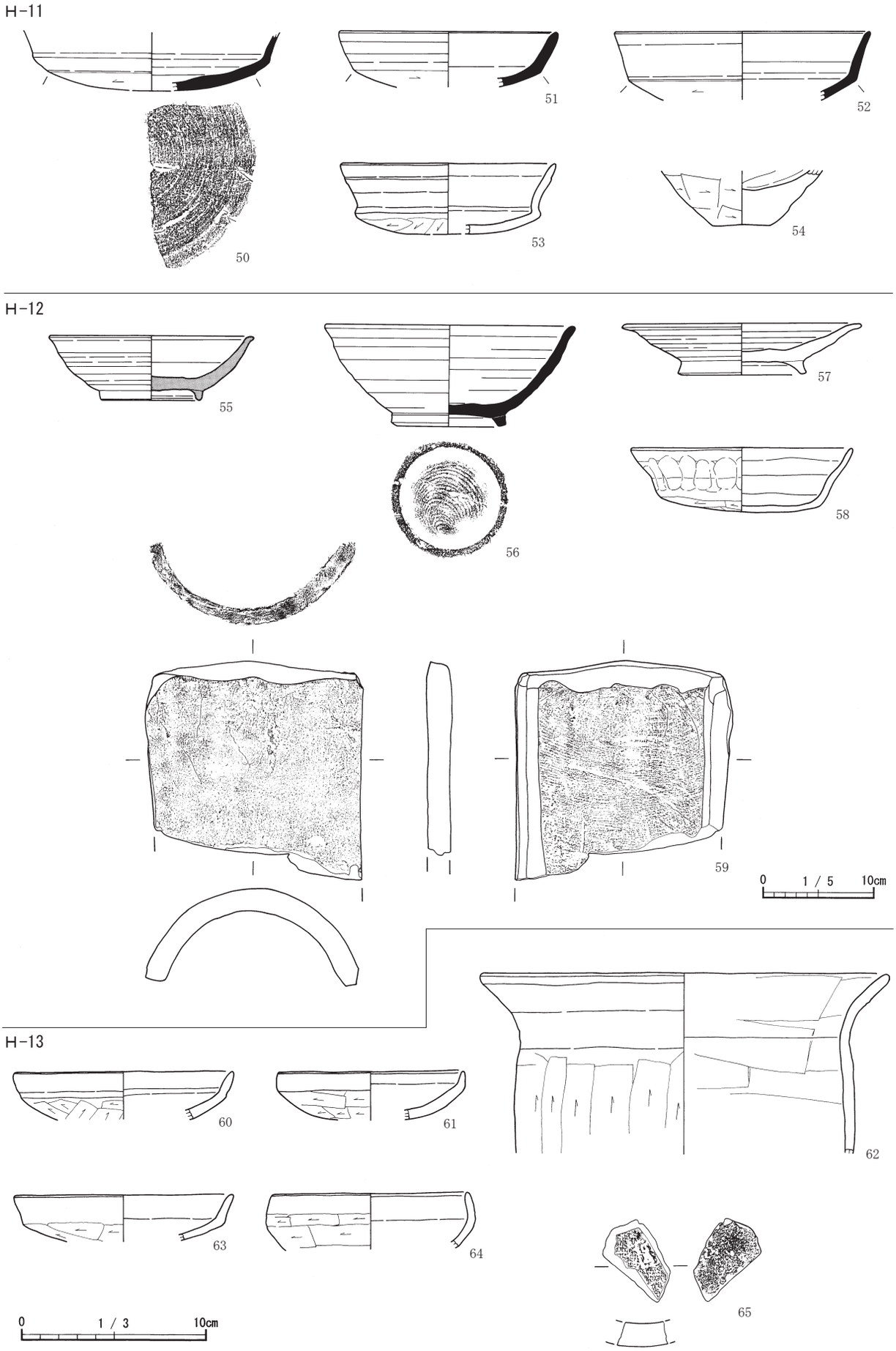


Fig.59　10区H―11～H―13出土遺物

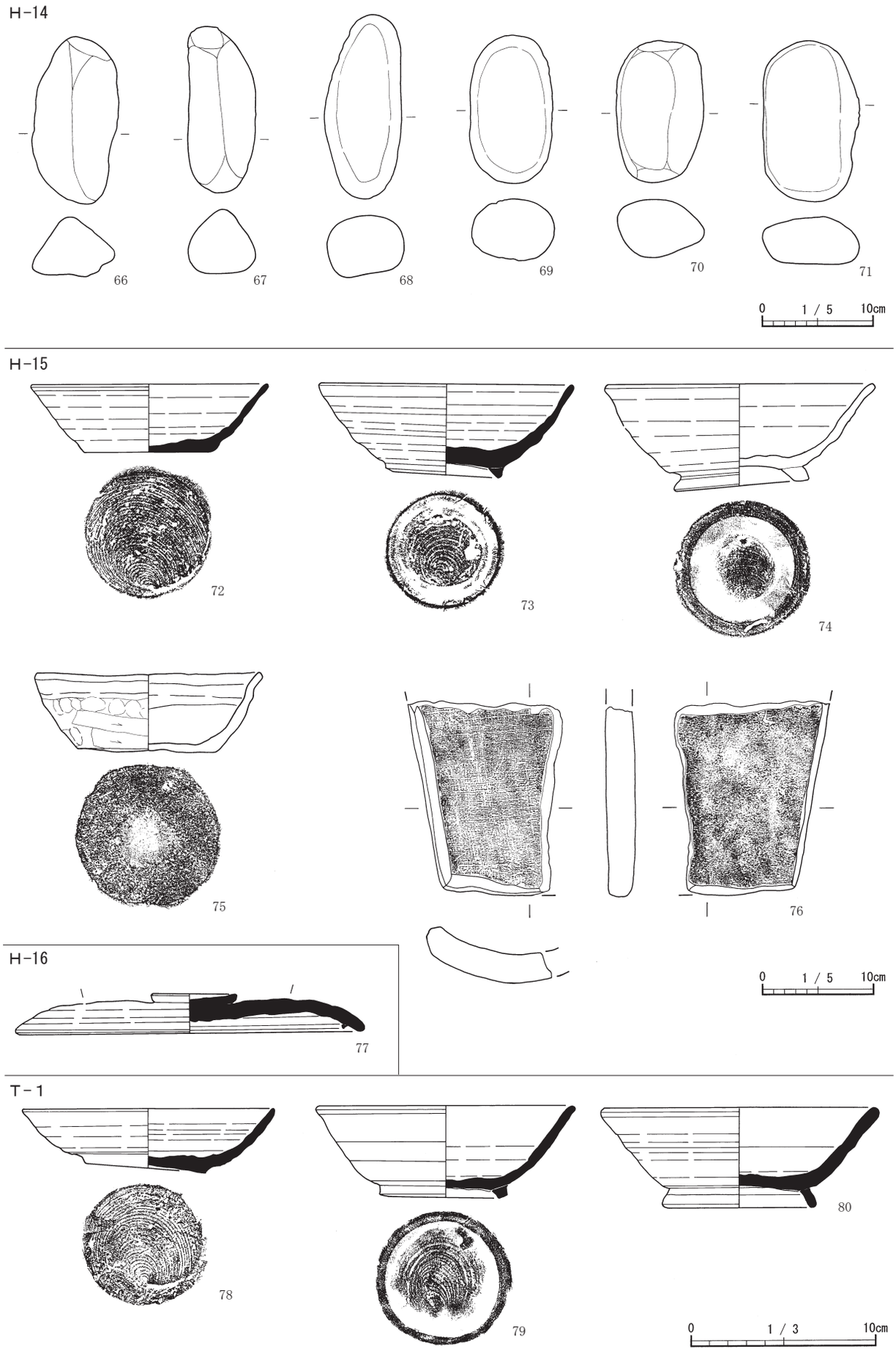


Fig.60　10区H―14～H―16、T―1 (1) 出土遺物

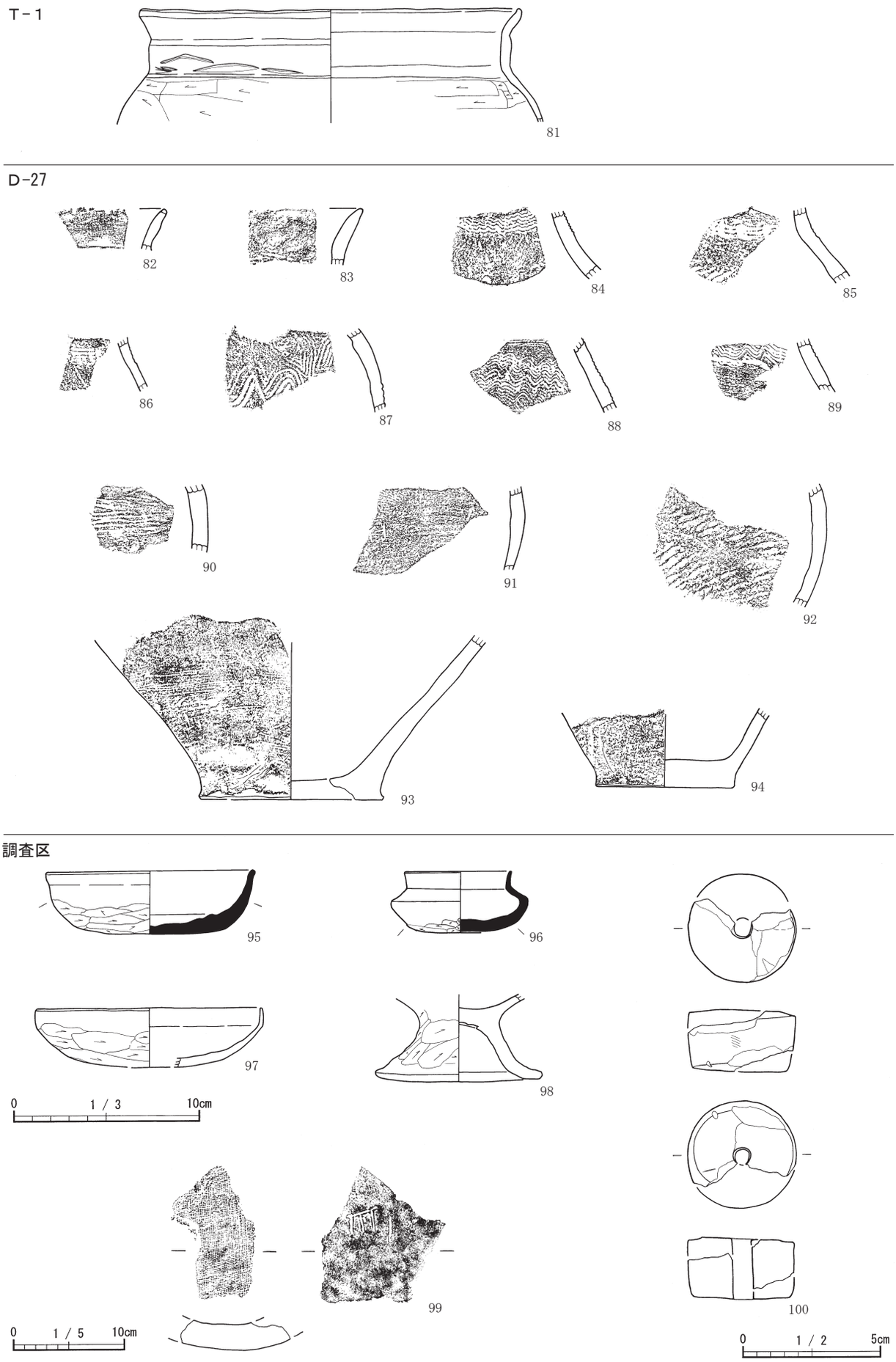


Fig.61　10区T－1(2)、D－27、調査区出土遺物

Ⅶ　33区の遺構と遺物

竪穴住居跡８軒、土坑２基、ピット40口が検出されている。竪穴住居跡は古墳時代後期～平安時代で、ピットの一部が中世以降の遺構である。

１　竪穴住居跡

Ｈ－１号住居跡（Fig.62・69・73、Tab.12、PL.16・23・24）

位置　Ｘ142、Ｙ83　**主軸方位**　Ｎ－84°－Ｅ　**遺存・重複**　Ｈ－６に切られ、Ｈ－７を切る。北側過半は調査区外。**形状・規模**　東竈の方形？南壁長2.77m、西壁現長1.95m、最大壁高は調査区壁面土層から約58㎝。　**掘り方・床面**　掘り方深度は浅めで、幅広の溝状、あるいは坑状に掘り込む。貼り床、一部直床。床面はよく締まる。　**施設**　竈は新旧の２基。旧竈は過半が調査区外。新竈は、東壁を幅0.70m、奥行き0.62mの方形に掘り込んで構築される。袖部は遺存しない。燃焼部の掘り込みはほとんどない。ピット状の凹部は支脚の据え置き痕であろう。**遺物**　床面№遺物10点（2・3・51・52）。埋土一括片187点、須恵器蓋・坏・高台坏・甕、土師器坏甕、その他瓦片４点。旧竈№遺物１点（50）。新竈№遺物は瓦片２点。竈一括片12点、須恵器坏、土師器甕、その他瓦片２点。掘り方一括片17点、須恵器蓋・坏（1）・瓶、土師器坏（4）・甕。　**備考**　９ｃ後半～

Ｈ－２号住居跡（Fig.63・69、Tab.12、PL.16）

位置　Ｘ146、Ｙ83　**主軸方位**　不分明　**遺存・重複**　ピットが重複するが、新旧不明。西壁のみ検出。　**形状・規模**　西壁現長2.82m、最大壁高は調査区壁面土層から約90㎝。　**掘り方・床面**　直床　**施設**　未検出　**遺物**　床面遺物はない。埋土一括片50点、灰釉、須恵器蓋・坏（5）・高台坏・甕・瓶、土師器坏・甕。須恵器坏底部はケズリ調整。　**備考**　９ｃ代か。貼り床、床面遺物もないことから住居跡ではない可能性もある。

Ｈ－３号住居跡（Fig.64・69・73・74、Tab.12、PL.16・23・24）

位置　Ｘ143・144、Ｙ83　**主軸方位**　Ｎ－84°－Ｅ　**遺存・重複**　Ｈ－５を切る。Ｄ－１は埋土中構築。北側過半は調査区外。　**形状・規模**　東竈の方形？東西軸長3.82m、南北軸現長1.45m、最大壁高は調査区壁面土層から約61㎝。　**掘り方・床面**　掘り方深度は比較的深く、坑状に掘り込む。張り床。床面はよく締まる。　**施設**　竈は過半が調査区外。東壁を奥行き約0.55mほど掘り込んで煙道部とする。調査区壁面土層でみると、煙道の立ち上がりは65㎝ほどある。燃焼部は床面を20㎝ほど円形に掘り込んでいる。竈内には砂質凝灰岩切石が散在することから、竈の芯材として使われたものであろう。　**遺物**　床面№遺物17点（10～12・54～56）。埋土一括片328点、灰釉、須恵器蓋・盤・皿・坏・高台坏（11）・甕、土師器坏・甕・台付甕、その他瓦片13点、こも石１点。竈一括片10点、須恵器坏・高台坏、土師器甕。掘り方一括片11点、須恵器坏、土師器坏・甕。　**備考**　９ｃ中～後半

Ｈ－４号住居跡（Fig.65・69、Tab.12、PL.16）

位置　Ｘ141、Ｙ84　**主軸方位**　不分明　**遺存・重複**　北東コーナーのみ検出。　**形状・規模**　東西軸現長1.10m、南北軸現長0.80m、最大壁高は調査区壁面土層から約57㎝。　**掘り方・床面**　坑状の掘り込み。貼り床。やや軟弱。　**施設**　周溝、北壁下で途切れる。　**遺物**　床面№遺物１点(13)。埋土一括片16点、灰釉、須恵器甕、土師器坏・甕。　**備考**　９ｃ代か。

Ｈ－５号住居跡（Fig.65・69、Tab.12、PL.17・23）

位置　Ｘ144、Ｙ83　**主軸方位**　Ｎ－74°－Ｅ　**遺存・重複**　Ｈ－３に切られる。北壁は調査区外。　**形状・規模**　東竈で、南北に長軸を持つ長方形。南北軸現長3.92m、東西軸長2.63m、最大壁高44㎝。　**掘り方・床面**　掘り方深度は比較的深く、部分的に坑状に掘り込む。貼り床。床面はよく締まる。　**施設**　竈は東壁を幅0.70m、奥行き0.42m、床面を約20㎝掘り込んで燃焼部とし、さらに奥壁上部を長さ約0.45mほど横掘りして煙道部としている。右袖部には砂質凝灰岩切石、左袖部には扁平な安山岩を立てて焚口とし、燃焼部中央に砂質凝灰岩切石を据

えて支脚としている。竈掘り方には、検出時とは位置を異にする支脚、袖石据え付け痕（P_1～P_3）があり、竈の造り替えが行われたようである。　**遺物**　床面No.遺物21点（17・18・20・21・23～26・28・29・33・34・36・39～41）。埋土一括片514点、須恵器蓋（14～16）・盤・坏・甕（19）、土師器坏（22・27・30・31）・皿・鉢（32・35）・甕、内黒、その他軽石１点。竈No.遺物２点（37・38）。竈一括片20点、須恵器蓋・坏・甕、土師器坏・甕。掘り方一括片６点、須恵器坏、土師器坏・甕。　**備考**　７ｃ後半

Ｈ－６号住居跡（Fig.67・72・74、Tab.12、PL.17・23・24）

位置　X141、Y83　**主軸方位**　N－78°－E　**遺存・重複**　H－１を切る。北・西側の大半が調査区外。　**形状・規模**　東竈の方形？南北軸現長2.32m、東西軸現長1.16m、最大壁高は調査区壁面土層から約60㎝。　**掘り方・床面**　掘り方深度の比較的深い坑状の掘り込みで、北側に床下土坑。貼り床。床面はよく締まる。　**施設**　竈は東壁を幅約0.70m、奥行き約0.60m掘り込んで構築されている。袖部には砂質凝灰岩切石を立て、左袖部ではさらにその奥に安山岩の自然礫をつめている。煙道部には、同じく砂質凝灰岩切石を立てて、煙道口としている。竈掘り方には袖石や支脚の据え付け痕（P_1～P_3）がみられ、焚口前面にはしっかりした掘り込みのP_4が検出されたが、機能は不明。　**遺物**　床面No.遺物は１点（43）。埋土一括片121点、須恵器坏（44）・甕（46）、土師器坏・甕・台付甕、その他瓦片１点。竈No.遺物５点（45・48）。竈一括片31点、須恵器坏、土師器坏（47）・甕、その他瓦片７点（58）。　**備考**　９ｃ後半～

Ｈ－７号住居跡（Fig.63、PL.17）

位置　X142、Y83・84　**主軸方位**　東竈としてE－２°－S　**遺存・重複**　H－８を切り、H－１に切られる。南側過半は調査区外。サブトレンチのため東壁から南側床面～床面下を損壊。　**形状・規模**　東西軸長3.56m、南北軸現長1.95m、最大壁高は調査区壁面土層から約55㎝。　**掘り方・床面**　掘り方深度は浅く、坑状の掘り込み。貼り床。床面は軟弱。　**施設**　周溝　**遺物**　No.遺物は１点で羽釜の胴部片。埋土一括片61点、須恵器坏・甕、土師器坏・甕、内黒、その他瓦片３点。　**備考**　10ｃ代か。

Ｈ－８号住居跡（Fig.68・72、Tab.12、PL.17）

位置　X142・143、Y83・84　**主軸方位**　N－72°－E　**遺存・重複**　H－７に切られる。南側過半は調査区外。　**形状・規模**　東竈の方形？東西軸長4.46m、南北軸現長2.20m、最大壁高は調査区壁面土層から約58㎝。　**掘り方・床面**　掘り方深度は浅く、直床部分が多い。　**施設**　竈、柱穴。竈は大半が調査区外で、袖部のみ検出。P_1・P_2は主柱穴。　**遺物**　竈内より長胴甕（49）。住居内No.遺物の高台坏や埋土一括片は混入遺物と思われる。　**備考**　７ｃ代

2　土坑（Fig.66、Tab.10）

２基。いずれも As-C混の土坑と思われる。

3　ピット（Fig.７、Tab.11）

40口。P－１～P－５はH－７埋土中検出で、As-B混土を埋土とするようである。B混土のピットは西側に、As-C混土のピットは東側に多い。B混のP－６～P－９は柵列か。その他では有意義な配列は抽出できない。

4　調査区出土遺物

調査区一括遺物として、弥生土器、灰釉、須恵器　土師器、瓦、近世の陶器・土師質土器などを採取した。器種では、灰釉には椀、須恵器には蓋・坏・高台坏・甕・瓶・羽釜、土師器には坏・甕などがある。弥生土器は中期後半～後期、須恵器・土師器は古墳時代後期～平安時代までのもの、近世の遺物には、瀬戸・美濃系の灰釉陶器のほか、内耳土器などがある。

33区のまとめ

狭い調査区ながら、８軒の竪穴住居跡が検出されている。Ｈ―５号住居跡は、須恵器蓋･瓶･甕、土師器坏･鉢･長胴甕など、多くの遺物が出土している。須恵器蓋は小型で、擬宝珠の摘みとかえりをもつ瓶蓋であろう。土師器坏は、丸底で内傾する短口縁をもつ銅鋺模倣といわれる坏で、数量も多くバラエテイーに富んだ器形を呈している。大型の土師器鉢は、祖型は鉄鉢と思われる。長胴甕は、タテケズリの外面調整が主体であるが、一部の個体の胴部上半にはナナメケズリが見られる。土師器甕には、長胴の他に球胴の甕があり、この器形の外面調整はナナメケズリとなっている。これらの土器の特徴から、概ね７世紀中葉以降から後半にかけての土器群と思われる。なお、39の甕の底部近くには焼成後の円孔がある。破損にともなって偶然についた損傷ではなさそうである。

Ｈ―３号住居跡の須恵器皿、器高の低い須恵器坏、あるいはコの字状口縁などは、９世紀中葉前後の土器群の様相をもっている。Ｈ―２号住居跡の須恵器坏も、底径が比較的大きく、器高の低い坏であり、Ｈ―３号住居跡と同様の時期が想定されるが、共伴遺物が少ない。Ｈ―１・６号住居跡の、平底で薄手、箱形の土師器坏の体部には、すでにケズリがなく、軽い指頭圧痕を残すのみで調整の省略化が顕著である。Ｈ―１号住居跡の須恵器坏は、底径が比較的大きく、おそらく器高も低いＨ―３号住居跡類似の須恵器坏であろう。一方、Ｈ―６号住居跡の小型甕は、口縁部がやや肥厚し、コの字形もゆるんでいることから、コの字状口縁としては後出的な様相がみてとれる上、須恵器坏や高台坏なども概して新様であり、９世紀後半代を遡るものではないようである。

Tab.10　33区土坑一覧表

番号	位置		平面形	規模（m）			埋土	出土遺物・備考
	X	Y		上径	底径	深さ		
1	143	83	円形	0.85×0.81	0.58×0.47	0.15	C混か	H-３埋土中構築。須恵器坏
2	142・143	83	楕円形？	0.43×(0.16)	0.28×(0.10)	0.37	C混か	

Tab.11　33区ピット一覧表

番号	位置		平面形	深さ(cm)	底面標高	埋土	備考	番号	位置		平面形	深さ(cm)	底面標高	埋土	備考
	X	Y							X	Y					
1	142	84	円形	27	122.19	B混か		21	145	83	円形	14	121.82	C混	
2	142	84	円形	39	122.07	B混か	土師器坏	22	145	83	円形	20	121.70	C混	
3	142	84	円形	12	122.34	B混か		23	145	82	円形	7	121.93	B混	
4	142	83	円形	29	122.18	B混か	土師器甕	24	145	83	円形	24	121.73	C混	
5	142	83	円形	44	122.03	B混か	須恵器坏、土師器坏	25	145	83	円形	30	121.68	C混	
6	143	83	円形	19	121.99	B混		26	145	83	円形	18	121.80	C混	
7	143	83	円形	19	122.05	B混		27	145	83	円形	36	121.59	B混	
8	143	83	円形	39	121.07	B混		28	145	83	円形	25	121.70	C混	
9	143	83	円形	16	122.05	B混		29	145	83	円形	33	121.57	C混	須恵器蓋、土師器甕
10	143	84	円形	48	121.73	C混		30	145	83	円形	16	121.72	C混	
11	143	84	円形	10	122.14	C混		31	146	83	円形	36	121.55	C混	
12	143	83	円形	13	122.09	C混		32	146	83	円形	35	121.53	C混	須恵器坏
13	143	83	円形	12	122.06	B混		33	146	83	円形	14	121.73	C混	
14	143	83	円形	8	122.08	C混		34	146	83	円形	39	121.51	C混	
15	143	84	円形	35	121.86	C混		35	145	83	円形	25	121.64	C混	
16	143	83	円形	22	121.96	B混		36	146	83	円形	29	121.60	C混	
17	143	84	円形	46	121.72	C混		37	141	83	円形	12	122.12	B混	
18	143	83	円形	24	121.91	B混		38	142	83	円形	36	121.87	B混	
19	144	84	円形	16	121.92	B混		39	145	83	円形	21	121.75	B混	
20	144	84	円形	32	121.70	C混		40	145	83	円形	11	121.84	B混	

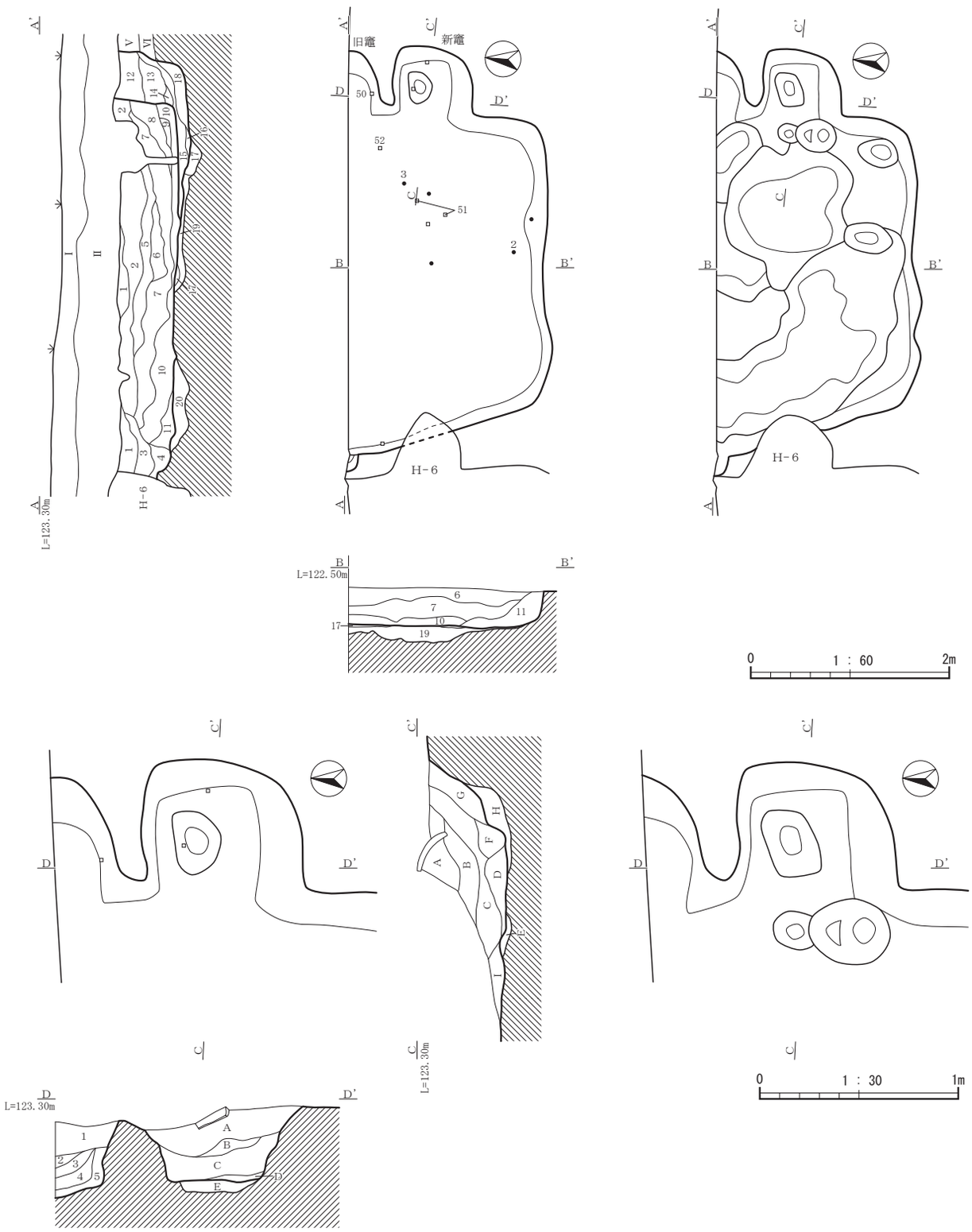
Tab.12　33区遺物観察表

遺物番号	出土層位	器種	口径・器高・底径(cm)	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備考
1	H-1 掘り方	須恵器 坏	—・(1.5)・8.0	①密 黒色粒　②堅緻 ③青灰色　④体～底部2/3	轆轤成形。轆轤目弱め。凹底。回転糸切り。	
2	H-1 床面	須恵器 高台坏	[15.0]・6.4・[8.6]	①密 黒色粒　②硬質 ③黒～灰黄色　④口縁～高台1/3	轆轤成形。轆轤目強め。回転糸切り後、高台貼付。周辺回転ナデ。高台ハの字に開く。体部～口縁直線的に外反。	
3	H-1 床面	須恵器 高台坏	[14.0]・6.7・7.0	①密 小礫 黒色粒　②堅緻 ③青灰色　④高台2/3 口縁1/3	轆轤成形。轆轤目弱め。回転糸切り後、高台貼付。周辺回転ナデ。体部内湾気味。口縁屈曲して外反。	
4	H-1 掘り方	土師器 坏	[11.0]・[3.5]・[4.6]	①密 角閃石　②硬質 ③暗茶褐色　④1/4	やや凸底。体～口縁はS字状。口端部は丸頭状。口縁ヨコナデ。体部外面指頭押圧。外底面ケズリ。内面指ナデ。	
5	H-2 埋土	須恵器 坏	15.0・6.2・9.2	①密 白色粒　②硬質 ③暗褐～茶褐色　④1/2	轆轤成形。轆轤目弱め。凹底。回転糸切り。体部～口縁ほぼ直線的に外反。	
6	H-3 床面	須恵器 皿	[14.0]・2.6・6.2	①密 白色・赤色粒　②硬質 ③茶褐色　④高台完存 口縁1/6	轆轤成形。轆轤目弱め。口縁部水平。回転糸切り後、高台貼付、周辺回転ナデ。高台リング状。	
7	H-3 床面	須恵器 皿	[14.4]・3.3・7.8	①密 小礫　②硬質 ③暗灰～灰黄色　④1/2	轆轤成形。轆轤目弱め。回転糸切り後、高台貼付、周辺回転ナデ。底部内湾気味。口縁部水平。	
8	H-3 床面	須恵器 坏	[11.6]・2.6・[7.0]	①密 小礫 黒色粒　②堅緻 ③青灰色　④1/3	轆轤成形。轆轤目強め。凹底。回転糸切り。体部内湾気味。口縁直線的。	
9	H-3 床面	須恵器 坏	14.6・3.4・8.5	①密 小礫 黒色粒　②堅緻 ③灰白色　④底部完存 口縁1/2	轆轤成形。轆轤目やや強め。凹底。回転糸切り。体部～口縁ほぼ直線的に外反。	
10	H-3 床面	須恵器 高台坏	14.6・5.4・8.4	①密 小礫 白色粒　②堅緻 ③青灰色　④高台完存 口縁1/2	轆轤成形。轆轤目弱め。回転糸切り後、高台貼付、周辺回転ナデ。	
11	H-3 埋土	須恵器 高台坏	[15.0]・6.2・8.2	①密 小礫　②硬質　③暗茶褐色漆塗り　④高台完存 口縁1/8	轆轤成形。轆轤目強め。回転糸切り後、高台貼付、周辺回転ナデ。体部内湾。口縁外湾。全面漆塗膜。	
12	H-3 床面	土師器 甕	[19.0]・(9.8)・—	①やや粗 角閃石　②硬質 ③赤茶褐色　④上半1/6	コの字状口縁。口縁～頸部ヨコナデ。肩部外面ヨコケズリ、内面はヨコヘラナデと指ナデ。	外面に煤付着。
13	H-4 床面	須恵器 坏	[17.8]・(4.5)・—	①白色細粒 石英　②硬質 ③暗灰～淡灰色　④破片	轆轤成形。体部～口縁直線的に外反。	埦形の高台坏か。
14	H-5 埋土	須恵器 蓋	—・2.3・[9.3]	①密 白色粒　②堅緻 ③黒灰色　④1/6	轆轤成形。小ぶり。擬宝珠つまみ。かえり付き。	瓶の蓋。
15	H-5 埋土	須恵器 蓋	—・(1.7)・[10.8]	①密 白色粒　②堅緻 ③濃灰色　④1/4 つまみ欠損	轆轤成形。小ぶり。天井部回転ケズリ。かえり付き。	瓶の蓋。
16	H-5 埋土	須恵器 蓋	—・(1.9)・[10.8]	①密 白色粒　②堅緻 ③灰色　④1/5 つまみ欠損	轆轤成形。小ぶり。かえり付き。	自然釉。
17	H-5 床面	須恵器 長頸瓶	[8.6]・(9.1)・—	①密 小礫　②堅緻 ③灰色　④頸部完存 口縁1/2	轆轤成形。	
18	H-5 床面	須恵器 大甕	—・—・—	①密 白色粒　②堅緻 ③褐色　④破片	外面はタタキ。内面は同心円当具痕。	
19	H-5 埋土	須恵器 甕	—・(12.0)・—	①密 小礫　②堅緻 ③灰色　④下半3/4	丸底。内面は同心円当具痕。	外面に自然釉。
20	H-5 床面	土師器 坏	[10.0]・(3.3)・—	①密 白色粒　②硬質 ③茶褐色　④1/2	小ぶり。丸底。短口縁で内傾。口縁ヨコナデ。底部ケズリ。内面ナデ。	
21	H-5 床面	土師器 坏	[9.8]・2.9・—	①密 小礫　②硬質 黒斑 ③薄茶褐色　④1/2	小ぶり。丸底。短口縁で内傾。口縁ヨコナデ。底部ケズリ。内面ナデ。	
22	H-5 埋土	土師器 坏	[10.4]・3.0・—	①やや粗 白色粒 小礫　②硬質 ③茶褐色　④1/4	小ぶり。丸底。短口縁で、外湾気味に内傾。底部ケズリ。内面ナデ。	
23	H-5 床面	土師器 坏	12.5・4.1・—	①やや粗 小礫　②硬質 黒斑 ③茶褐色　④略完形	丸底。厚手で重量感あり。短口縁で直立。口縁ヨコナデ。底部ケズリ。内面ナデ。	
24	H-5 床面	土師器 坏	11.0・3.5・—	①やや粗 小礫　②硬質 ③茶褐色　④完存	小ぶり。丸底。短口縁で内傾。口縁ヨコナデ。底部ケズリ。内面ナデ。	内面に粘土付着。
25	H-5 床面	土師器 坏	10.4・3.3・—	①やや粗 小礫　②硬質 ③茶褐色　④完形	小ぶり。丸底。短口縁で内傾。口縁ヨコナデ。底部ケズリ。内面ナデ。	
26	H-5 床面	土師器 坏	12.8・4.5・—	①やや粗 小礫　②硬質 ③茶褐色　④完形	丸底。短口縁で直立。底部ケズリ。内面ヘラナデ、ヨコナデ。	
27	H-5 埋土	土師器 坏	[11.2]・(3.1)・—	①密 小礫 石英　②硬質 ③茶褐色　④1/2	小ぶり。丸底。短口縁で内傾。口縁ヨコナデ。底部ケズリ。内面ヨコナデ。	
28	H-5 床面	土師器 坏	[10.4]・3.0・—	①密 白色粒 小礫　②硬質 ③茶褐色　④1/2	小ぶり。丸底。短口縁で内傾。口縁ヨコナデ。底部ケズリ。内面ヨコナデ。	
29	H-5 床面	土師器 埦	12.4・5.9・—	①やや粗 小礫　②硬質 黒斑 ③赤褐色　④略完形	丸底で器高がある。体部～口縁内湾。口縁ヨコナデ。外面ケズリ。内面ヘラナデ、ヨコナデ。	内面に漆痕。
30	H-5 埋土	土師器 坏	[13.0]・(3.9)・—	①密 黒色粒　②硬質 ③茶褐色　④1/3	丸底。口縁屈曲して内傾。口縁ヨコナデ。底部ケズリ。内面ナデ。	
31	H-5 埋土	土師器 坏	[11.4]・(3.5)・—	①やや粗 白色粒 小礫　②硬質 ③茶褐色　④口縁1/2	丸底。口縁屈曲して内傾。口縁ヨコナデ。底部ケズリ。内面ナデ。	粘土付着。
32	H-5 埋土	土師器 鉢	[15.1]・(7.45)・—	①やや粗 小礫　②硬質 ③茶褐色　④1/5	丸底。体部～口縁内湾。短口縁で内傾。口縁～内面ヨコナデ。外面ケズリ。	
33	H-5 床面	土師器 鉢	[19.7]・6.1・—	①やや粗 小礫　②硬質 ③茶褐色　④1/2	底部中央やや扁平。口縁屈曲してほぼ直立。口縁～内面ヨコナデ。外面ケズリ。	

遺物番号	出土層位	器種	口径・器高・底径(cm)	①胎土　②焼成 ③色調　④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備考
34	H-5 床面	土師器 鉢	21.2・(8.3)・—	①密 白色粒 小礫　②硬質 ③茶褐色　④1/2	丸底。体部～口縁内湾。短口縁で屈曲して内傾。口縁ヨコナデ。内面ヘラナデ。	
35	H-5 埋土	土師器 小鉢	7.8・(4.6)・—	①密 白色粒　②硬質 ③茶褐色　④上半2/3	球胴。短口縁でほぼ直立。口縁ヨコナデ。外面粗略なナデで無調整部あり。内面指ナデ。	
36	H-5 床面	土師器 甕	21.5・(31.0)・—	①赤色粒 角閃石　②硬質 黒斑 ③橙褐色　④口縁2/3 底部欠損	長胴。口縁外湾。口縁ヨコナデ。胴部外面上半ナナメ、中位タテ、下半ナナメケズリ。内面ヨコヘラナデ。	外面に粘土付着。
37	H-5 竈	土師器 甕	20.8・(32.5)・—	①やや粗 小礫 赤色粒　②硬質 ③橙褐色　④底部欠損	長胴。頸部外湾。口縁屈曲気味に外反。口縁ヨコナデ、胴部外面ケズリ、内面ヨコヘラナデ。	外面に多量の粘土付着。
38	H-5 竈	土師器 甕	17.6・(26.8)・—	①やや粗 小礫 赤色粒　②硬質 ③暗茶褐色　④胴部下半欠損	長胴。頸部わずかに外反。口端部外側に引き伸ばす。口縁ヨコナデ、胴部外面ケズリ、内面ヨコ、ナナメヘラナデ。	外面に多量の粘土付着。
39	H-5 床面	土師器 甕	19.1・26.4・—	①粗 小礫 金雲母　②硬質 黒斑 ③明赤橙色　④虫食い的に欠損	球胴。丸底。最大径胴中位。頸部略直立。口縁屈曲して外反。口縁ヨコナデ。胴部外面ナナメケズリ、内面ヨコヘラナデ。	焼成後の小円孔。
40	H-5 床面	土師器 甕	21.2・(10.0)・—	①やや粗 石英 小礫　②硬質 ③茶褐色　④上半1/2	長胴で厚手。外面はヨコナデとヘラケズリ。内面はナデ。	
41	H-5 床面	土師器 甕	17.2・(9.3)・—	①やや粗 白色粒 小礫　②硬質 ③茶褐色　④上半3/4	長胴で厚手。肩がやや張る。外面はヨコナデとヘラケズリ。内面はナデ。	
42	H-5 床面	土師器 甕	—・(3.2)・7.4	①小礫 角閃石 砂粒多　②硬質 ③暗茶～橙褐色　④底部完存	球胴甕の底部か。凸底。厚手。外面ヨコケズリ。内面ヨコヘラナデ。内底面ナデ（指？）。外底面一方向ケズリ。	
43	H-6 床面	須恵器 高台坏	14.8・(4.7)・(8.0)	①やや粗 白・黒・橙色粒　②硬質 ③灰～暗灰色　④1/3	轆轤成形。轆轤目内面に強め。体部わずかに内湾。口縁わずかに外反。回転糸切り。	外面に煤付着。
44	H-6 竈	須恵器 坏	13.5・4.0・6.3	①やや粗 白色粒　②硬質 ③にぶい黄橙褐色　④1/2	轆轤成形。轆轤目弱め。体部直線的。口縁外湾。回転糸切り。	
45	H-6 床面	須恵器 高台坏	—・(2.9)・6.8	①密 赤色粒 石英　②軟質 黒斑 ③にぶい黄橙色　④口縁欠損	轆轤成形。轆轤目弱い。体部内湾。回転糸切り後、高台貼付。周辺回転ナデ。	
46	H-6 埋土	須恵器 大甕	—・—・—	①密 白・黒・赤色粒　②堅緻 ③暗灰色　④破片	轆轤使用。沈線１条。２段の波状文。	
47	H-6 竈	土師器 坏	11.7・3.7・7.2	①密 角閃石　②硬質 ③茶褐色　④1/2	凸底。体部～口縁直線的に外反。口縁ヨコナデ。体部外面指頭押圧。内面ヨコヘラナデ。外底面周辺ケズリ、中央無調整。	
48	H-6 床面	土師器 小型甕	(12.0)・(12.3)・—	①やや粗 橙色粒　②硬質 黒斑 ③赤褐色　④上半1/3	コの字状口縁。口縁ヨコナデ。外面胴部上半ヨコ、下半タテのケズリ。内面はヨコヘラナデ。	台付か。
49	H-8 竈	土師器 甕	[21.4]・(11.1)・—	①小礫 角閃石 黒色粒　②硬質 ③暗赤茶褐色　④上半1/6	長胴。厚手。口縁ゆるやかに外湾。口縁ヨコナデ。胴部外面タテケズリ。内面ヨコヘラナデ後、上半にヨコ指ナデ。	
50	H-1 床面	瓦 平瓦	—・—・2.0	①白色粒 小礫　②須恵質 ③橙褐色　④破片	凹面：ナデ？　凸面：ナデ。格子タタキ。側端縁、凹面側に面取りあり。	
51	H-1 床面	瓦 平瓦	—・—・2.8	①小礫多　②須恵質 ③暗青灰色　④1/4	凹面：布目　凸面：ナデ。線刻文字。上端縁両面ともに面取りあり。側端縁両面ともに面取りあり。	
52	H-1 床面	瓦 平瓦	—・—・2.5	①白色粒　②須恵質 ③青灰色　④1/10	凹面：布目。切り離し痕。凸面：縄転がし。側端縁凸面に面取りあり。	
53	H-3 埋土	瓦 平瓦	—・—・2.7	①やや粗 赤色粒　②堅緻 ③暗灰～橙褐色　④破片	凹面：布目。凸面：縄転がし。下端縁は横位。側端縁凹面側に面取りあり。	
54	H-6 埋土	瓦 平瓦	—・—・—	①やや粗 小礫　②堅緻 須恵質 ③暗灰～赤茶色　④1/2	凹面：布目。凸面：縄転がし。上端縁凹面側、両側縁凹面側の各一面。	
55	H-3 床面	瓦 平瓦	—・—・3.0	①白色粒 角閃石　②堅緻 ③暗灰色　④1/6	凹面：布目。ナデ(指)。凸面：ナデ。格子タタキ。側端縁凹面側に面取りあり。	
56	H-3 床面	瓦 平瓦	—・—・1.9	①白色粒 小礫　②須恵質？ ③暗褐色　④1/6	凹面：布目。切り離し痕。押印有り。凸面：ナデ。側端縁凹面側に、わずかに面取り？有り。	
57	H-3 床面	瓦 平瓦	—・—・2.1	①やや粗 赤色粗粒　②硬質 ③灰茶～黒灰色　④1/4	凹面：布目。切り離し痕。凸面：縄転がし後、ヘラナデ。側端縁凹面に面取りあり。	
58	H-6 竈	瓦 平瓦	—・—・1.7	①粗 小礫多　②堅緻 須恵質 ③灰茶～明茶色　④1/4	凹面：布目。凸面：ナデ。線刻有り。両側縁面に面取り、１面あり。	

33区の遺構

H－1 ［使用面］　　［掘り方］



H－1号住居跡　竈セクション

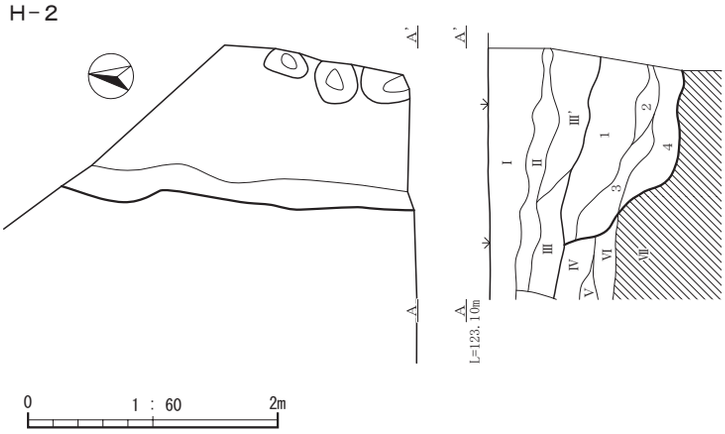
1	10YR2/3	黒褐色土	△△	φ2㎜スコリア2%、φ5～15㎜凝灰岩質粒1%
2	10YR3/3	暗褐色土	○○	φ5～20㎜凝灰岩質粒20%
3	10YR3/3	暗褐色土	△△	φ2㎜スコリア1%、焼土粒1%、炭化物粒1%
4	10YR3/3	暗褐色土	○△	焼土粒20%、灰10%、φ2㎜スコリア1%
5	10YR3/4	暗褐色土	△△	焼土粒10%、凝灰岩質粒5%
A	10YR3/3	暗褐色土	△△	φ2㎜スコリア5%、凝灰岩質粒3%、焼土粒1%
B	10YR3/3	暗褐色土	△△	φ2㎜スコリア1%、焼土粒1%
C	10YR3/4	暗褐色土	○△	焼土粒5%、凝灰岩質粒2%、φ2㎜スコリア1%
D	10YR4/3	にぶい黄褐色土	○△	灰層
E	10YR3/3	暗褐色土	○○	凝灰岩質粒10%（掘り方）
F	10YR3/4	暗褐色土	○△	焼土粒10%、灰50%
G	5YR3/4	暗赤褐色土	○△	焼土粒及び赤変した凝灰岩質粒30%
H	10YR2/3	黒褐色土	△△	φ2㎜スコリア1%（掘り方）
I	10YR3/3	暗褐色土	△△	φ2㎜スコリア2%、焼土粒1%以下

Fig.62　33区H－1号住居跡

H－１号住居跡　Aセクション
Ⅰ　基本層序に同じ
Ⅱ　基本層序に同じ
Ⅴ　基本層序に同じ
Ⅵ　基本層序に同じ
1　10YR3/3　暗褐色土　△△　φ2～5㎜スコリア5%、凝灰岩質粒2%
2　10YR3/3　暗褐色土　△○　φ2～5㎜スコリア5%、凝灰岩質粒5%
3　10YR2/3　黒褐色土　○○　焼土粒2%、粘土2%
4　10YR3/3　暗褐色土　△△　焼土粒1%、凝灰岩質粒1%
5　10YR3/4　暗褐色土　○○　φ2～6㎜スコリア5%、凝灰岩質粒1%
6　10YR3/4　暗褐色土　△△　φ2～8㎜スコリア5%、地山ブロック1%
7　10YR2/3　黒褐色土　△△　φ2～5㎜スコリア8%、地山ブロック3%
8　10YR3/4　暗褐色土　△△　φ2～5㎜スコリア3%、地山ブロック1%
9　10YR2/3　黒褐色土　○○　φ2～4㎜スコリア3%
10　10YR3/3　暗褐色土　△△　φ2～5㎜スコリア5%、地山ブロック2%
11　10YR3/3　暗褐色土　○△　φ2～5㎜スコリア5%
12　10YR3/3　暗褐色土　△△　φ2～5㎜スコリア5%
13　竈１層
14　竈２層
15　竈３層
16　灰層
17　10YR4/6　褐色土　◎◎　地山ブロック10%、凝灰岩質粒3%
18　竈４層・５層
19　10YR2/3　黒褐色土　◎◎　地山ブロック30%
20　10YR2/2　黒褐色土　△○　地山ブロック40%

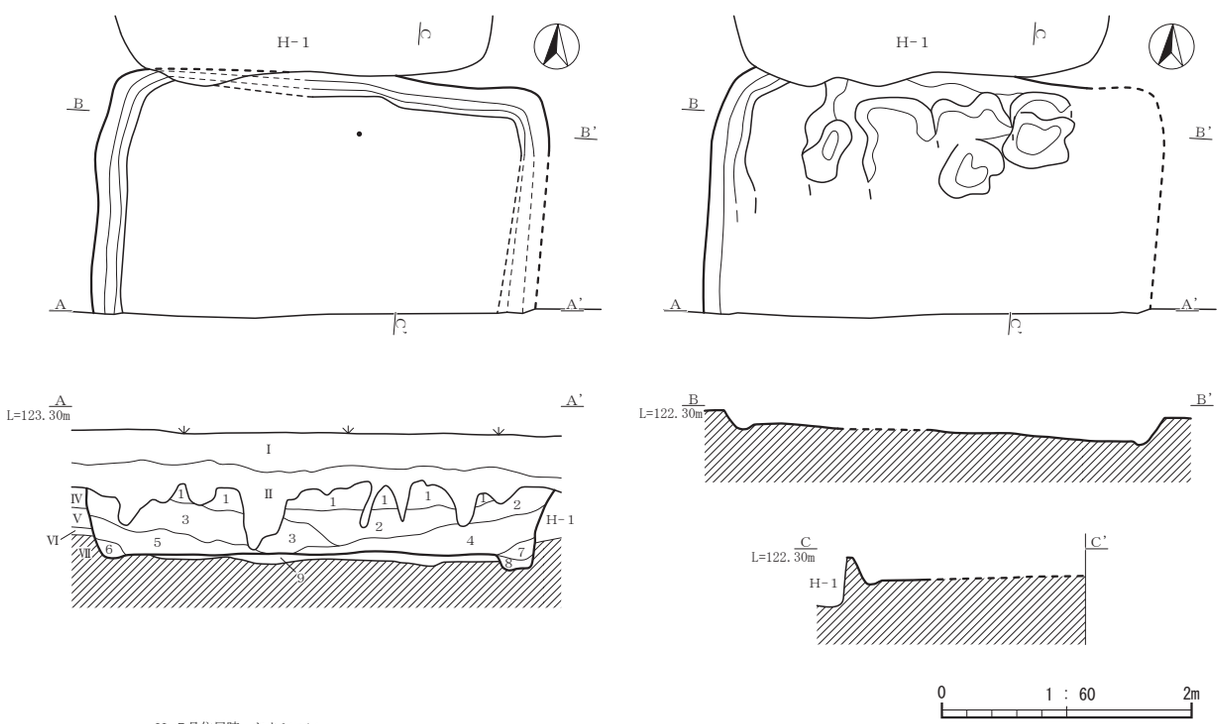
H－１号住居跡　Bセクション
1　10YR3/2　黒褐色土　φ2～8㎜スコリア5%、地山ブロック1%
2　10YR3/3　暗褐色土　φ2～8㎜スコリア8%、地山ブロック3%
3　10YR3/3　暗褐色土　黒褐色土をブロック状に含む。ごく少量の炭化物粒混入。φ2～8㎜スコリア2%、地山ブロック1%
4　10YR3/3　暗褐色土　φ2～8㎜スコリア5%、地山ブロック2%
5　10YR4/6　褐色土　◎◎　（貼床）
6　10YR2/2　黒褐色土　○◎　褐色土（地山）ブロック20～25%混入。φ2～5㎜スコリア5%（掘り方）

H－2



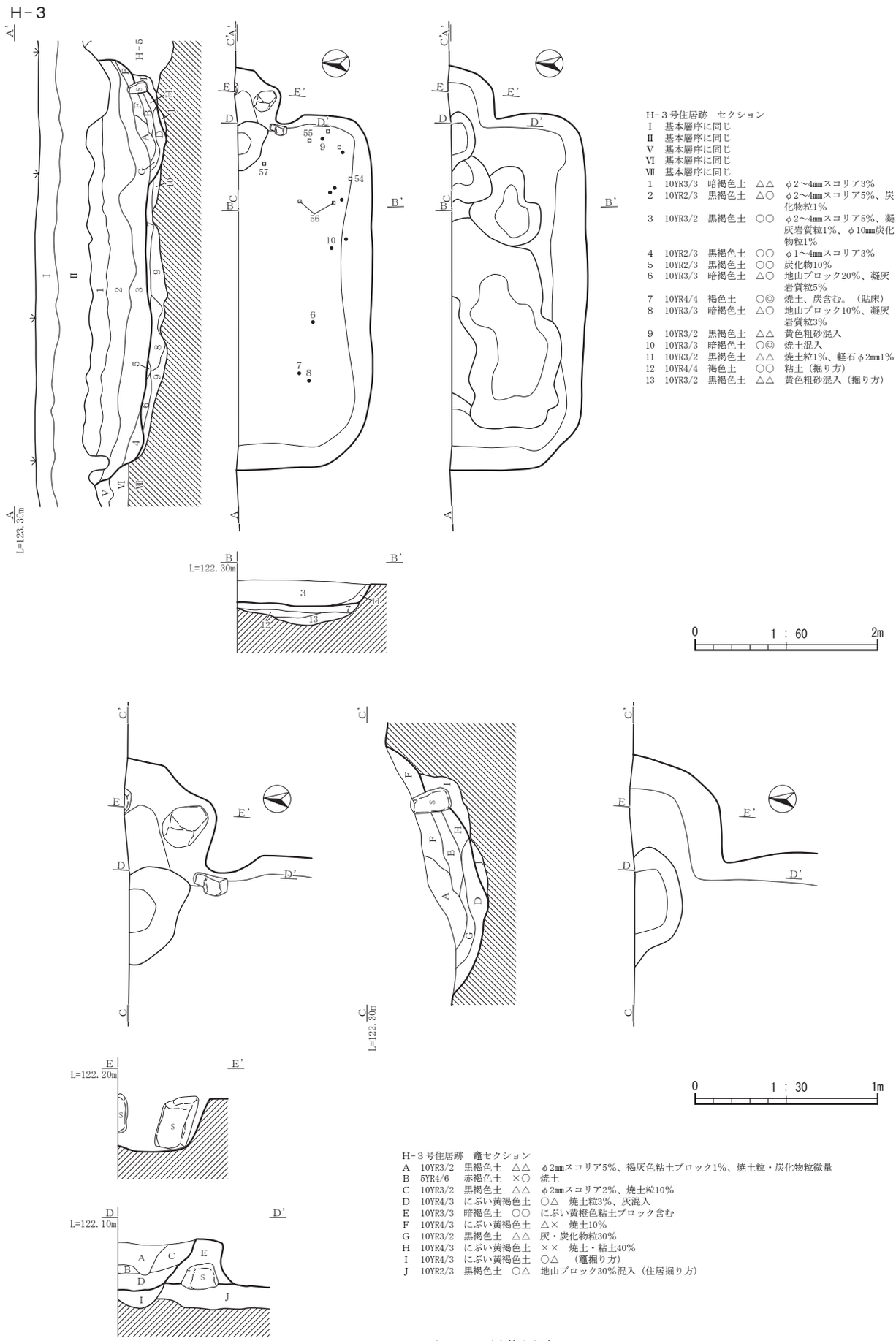
H－２号住居跡　セクション
Ⅰ　基本層序に同じ
Ⅱ　基本層序に同じ
Ⅲ　基本層序に同じ
Ⅲ'　10YR2/2　黒褐色土　△△　φ2～5㎜スコリア5%
Ⅳ　基本層序に同じ
Ⅴ　基本層序に同じ
Ⅵ　基本層序に同じ
Ⅶ　基本層序に同じ
1　10YR3/2　黒褐色土　△△　微量の炭化物粒含む。φ2～4㎜スコリア10%（As-C、Hr-FP混在）
2　10YR4/4　褐色土　○○　φ2～5㎜スコリア2%（As-C）
3　10YR2/3　黒褐色土　△△　φ2㎜スコリア5%（As-C）
4　10YR2/2　黒褐色土　△△　φ2～5㎜スコリア7%（As-C）

H－7



H－７号住居跡　セクション
Ⅰ　基本層序に同じ
Ⅱ　基本層序に同じ
Ⅳ　基本層序に同じ
Ⅴ　基本層序に同じ
Ⅵ　基本層序に同じ
Ⅶ　基本層序に同じ
1　10YR2/3　黒褐色土　△△　φ2～5㎜スコリア3%
2　10YR2/3　黒褐色土　△△　φ2～5㎜スコリア1%、炭化物粒1%
3　10YR3/3　暗褐色土　△○　凝灰岩ブロック30%混入。
4　10YR2/3　黒褐色土　○○　φ2㎜スコリア2%
5　10YR2/3　黒褐色土　△△　炭化物粒1%、凝灰岩質粒1%
6　10YR2/3　黒褐色土　△○　φ2㎜スコリア3%
7　10YR2/3　黒褐色土　△△　炭化物粒1%
8　10YR2/3　黒褐色土　△○　φ2㎜スコリア2%
9　10YR2/3　黒褐色土　△◎　φ2㎜スコリア3%、凝灰岩質粒5%（貼床）

Fig.63　33区Ｈ－２・７号住居跡



H－3号住居跡　セクション

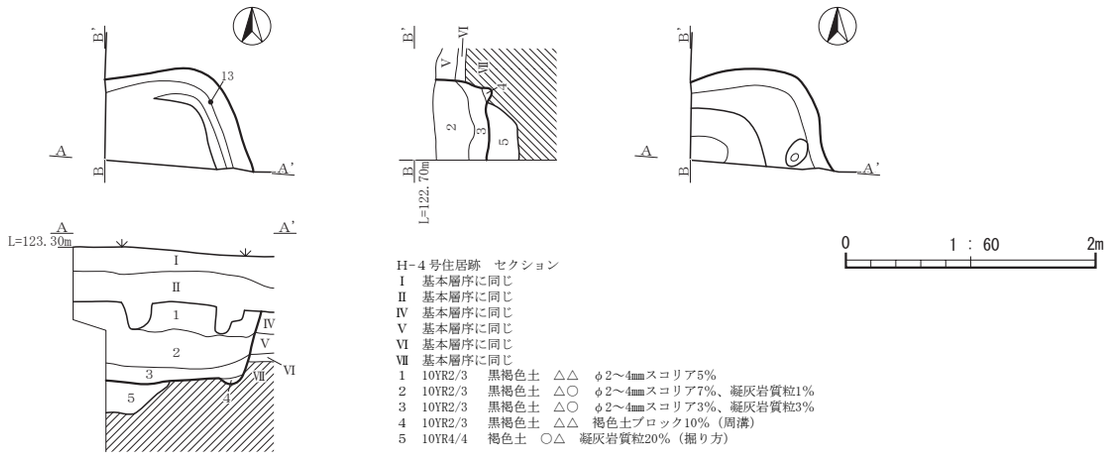
Ⅰ	基本層序に同じ			
Ⅱ	基本層序に同じ			
Ⅴ	基本層序に同じ			
Ⅵ	基本層序に同じ			
Ⅶ	基本層序に同じ			
1	10YR3/3	暗褐色土	△△	φ2～4mmスコリア3%
2	10YR2/3	黒褐色土	△○	φ2～4mmスコリア5%、炭化物粒1%
3	10YR3/2	黒褐色土	○○	φ2～4mmスコリア5%、凝灰岩質粒1%、φ10mm炭化物粒1%
4	10YR2/3	黒褐色土	○○	φ1～4mmスコリア3%
5	10YR2/3	黒褐色土	○○	炭化物10%
6	10YR3/3	暗褐色土	△○	地山ブロック20%、凝灰岩質粒5%
7	10YR4/4	褐色土	○◎	焼土、炭含む。（貼床）
8	10YR3/3	暗褐色土	△○	地山ブロック10%、凝灰岩質粒3%
9	10YR3/2	黒褐色土	△△	黄色粗砂混入
10	10YR3/3	暗褐色土	○◎	焼土混入
11	10YR3/2	黒褐色土	△△	焼土粒1%、軽石φ2mm1%
12	10YR4/4	褐色土	○○	粘土（掘り方）
13	10YR3/2	黒褐色土	△△	黄色粗砂混入（掘り方）

H－3号住居跡　竈セクション

A	10YR3/2	黒褐色土	△△	φ2mmスコリア5%、褐灰色粘土ブロック1%、焼土粒・炭化物粒微量
B	5YR4/6	赤褐色土	×○	焼土
C	10YR3/2	黒褐色土	△△	φ2mmスコリア2%、焼土粒10%
D	10YR4/3	にぶい黄褐色土	○△	焼土粒3%、灰混入
E	10YR3/3	暗褐色土	○○	にぶい黄橙色粘土ブロック含む
F	10YR4/3	にぶい黄褐色土	△×	焼土10%
G	10YR3/2	黒褐色土	△△	灰・炭化物粒30%
H	10YR4/3	にぶい黄褐色土	××	焼土・粘土40%
I	10YR4/3	にぶい黄褐色土	○△	（竈掘り方）
J	10YR2/3	黒褐色土	○△	地山ブロック30%混入（住居掘り方）

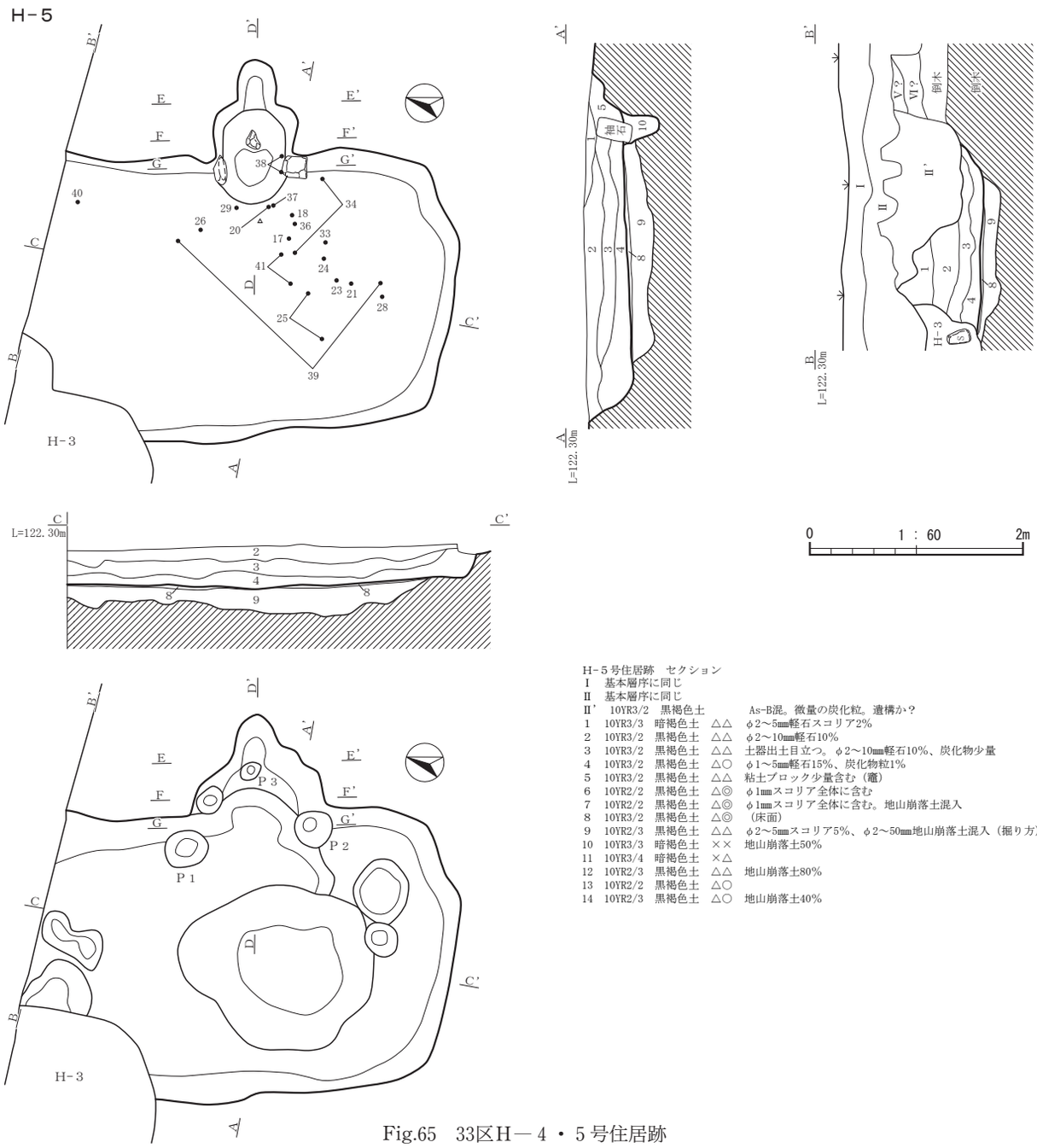
Fig.64　33区H－3号住居跡

H－4



H－4号住居跡　セクション
Ⅰ　基本層序に同じ
Ⅱ　基本層序に同じ
Ⅳ　基本層序に同じ
Ⅴ　基本層序に同じ
Ⅵ　基本層序に同じ
Ⅶ　基本層序に同じ
1　10YR2/3　黒褐色土　△△　φ2～4mmスコリア5%
2　10YR2/3　黒褐色土　△○　φ2～4mmスコリア7%、凝灰岩質粒1%
3　10YR2/3　黒褐色土　△○　φ2～4mmスコリア3%、凝灰岩質粒3%
4　10YR2/3　黒褐色土　△△　褐色土ブロック10%（周溝）
5　10YR4/4　褐色土　○△　凝灰岩質粒20%（掘り方）

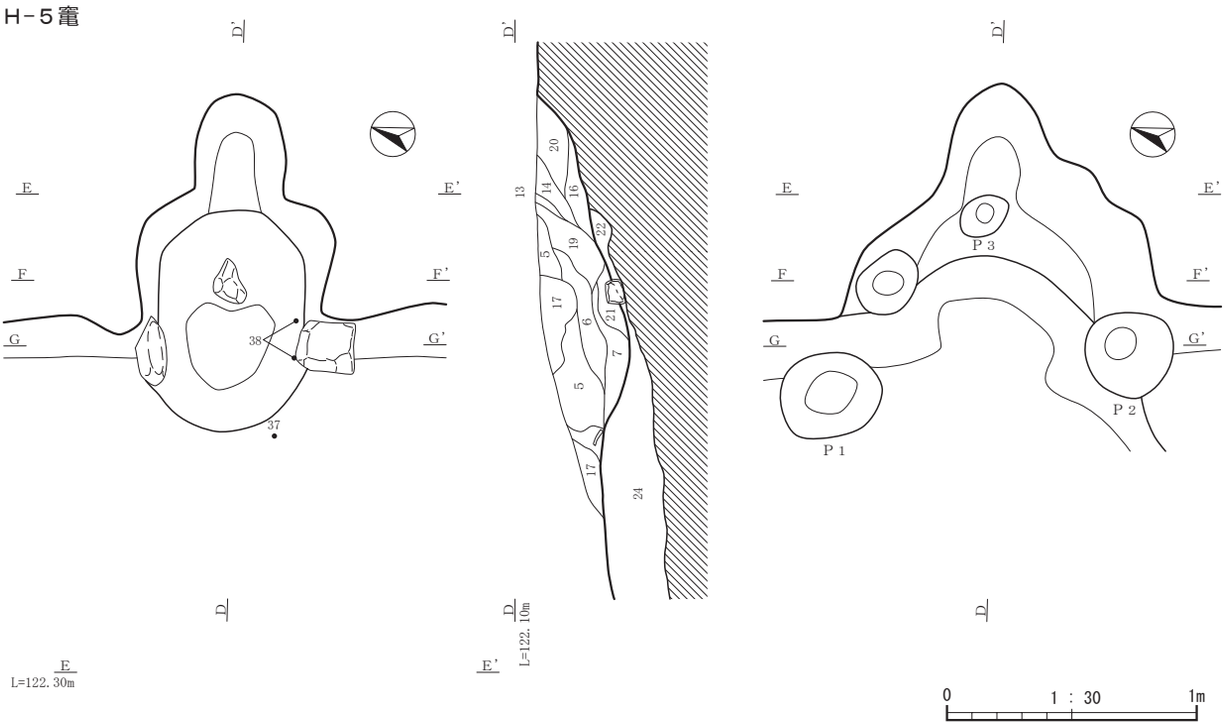
H－5

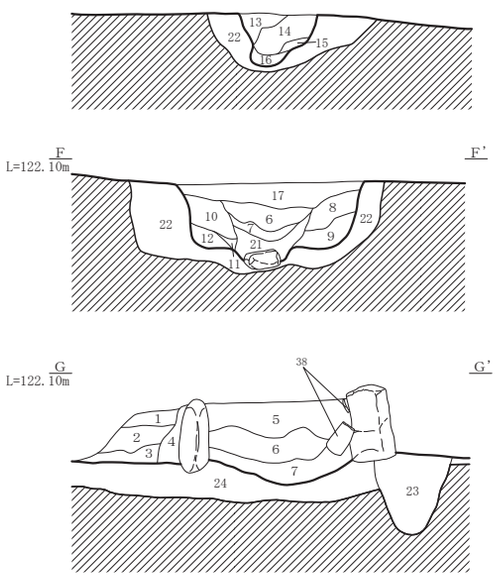


H－5号住居跡　セクション
Ⅰ　基本層序に同じ
Ⅱ　基本層序に同じ
Ⅱ'　10YR3/2　黒褐色土　As-B混。微量の炭化粒。遺構か？
1　10YR3/3　暗褐色土　△△　φ2～5mm軽石スコリア2%
2　10YR3/2　黒褐色土　△△　φ2～10mm軽石10%
3　10YR3/2　黒褐色土　△△　土器出土目立つ。φ2～10mm軽石10%、炭化物少量
4　10YR3/2　黒褐色土　△○　φ1～5mm軽石15%、炭化物粒1%
5　10YR3/2　黒褐色土　△△　粘土ブロック少量含む（竈）
6　10YR2/2　黒褐色土　△◎　φ1mmスコリア全体に含む
7　10YR2/2　黒褐色土　△◎　φ1mmスコリア全体に含む。地山崩落土混入
8　10YR3/2　黒褐色土　△◎　（床面）
9　10YR2/3　黒褐色土　△△　φ2～5mmスコリア5%、φ2～50mm地山崩落土混入（掘り方）
10　10YR3/3　暗褐色土　××　地山崩落土50%
11　10YR3/4　暗褐色土　×△
12　10YR2/3　黒褐色土　△△　地山崩落土80%
13　10YR2/2　黒褐色土　△○
14　10YR2/3　黒褐色土　△○　地山崩落土40%

Fig.65　33区H－4・5号住居跡

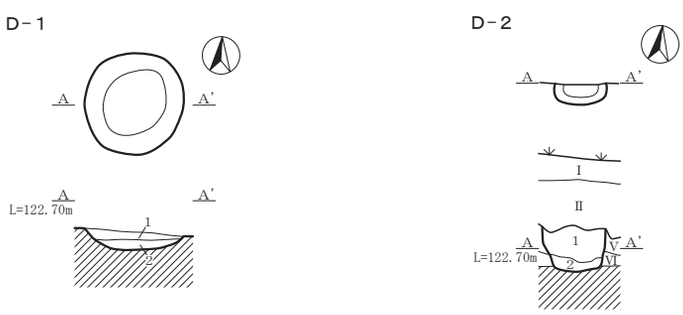
H－５竈





H－５号住居跡　竈セクション

1	10YR3/3	暗褐色土	△△	φ2㎜スコリア1%、炭化物粒1%、焼土粒1%
2	10YR2/3	黒褐色土	△△	10YR4/4褐色粗粒砂混入70%
3	10YR2/2	黒褐色土	○○	φ2㎜スコリア2%、褐色粗粒砂20%
4	10YR4/3	にぶい黄褐色土	○○	キメの細かい粘土。
5	10YR2/3	黒褐色土	△○	φ2～4㎜スコリア5%、φ2㎜程の凝灰岩質粒1%
6	10YR4/3	にぶい黄褐色土	○△	焼土2%、灰5%
7	10YR2/2	黒褐色土	△△	焼土5%
8	10YR3/2	黒褐色土	△△	φ2～3㎜スコリア2%、焼土粒2%、φ10㎜粘土粒1%
9	10YR3/2	黒褐色土	△△	φ20㎜粘土粒5%、φ2～3㎜スコリア2%
10	5YR4/6	赤褐色土	△◎	灰10%混入。焼土層
11	10YR2/1	黒色土	△○	粘土粒2%
12	10YR4/3	にぶい黄褐色土	◎○	粘土層
13	10YR3/2	黒褐色土	△×	焼土粒1%混入
14	5YR4/6	赤褐色土	△○	焼土主体。黄褐色粘土5%、黒褐色土10%混入
15	10YR2/3	黒褐色土	△△	
16	10YR4/3	にぶい黄褐色土	◎○	粘土層
17	10YR3/3	暗褐色土	△△	粘土ブロック5%、φ2～3㎜スコリア2%
18	10YR3/3	暗褐色土	△△	粘土ブロック40%
19	10YR3/3	暗褐色土	△△	粘土ブロック10%、焼土粒3%、炭化物粒1%
20	10YR3/3	暗褐色土	△△	凝灰岩質細粒5%、粘土粒1%
21	10YR2/2	黒褐色土	△△	
22	10YR2/3	黒褐色土	△△	凝灰岩質粒5%
23	10YR4/6	褐色土	△×	
24	10YR2/3	黒褐色土	△△	φ2～5㎜スコリア5%、φ5～50㎜地山崩落土混入（H－５９層）



D－１号土坑　セクション

1	10YR4/2	灰黄褐色土	◎△	灰白色粘土ブロックφ3～13cm40～50%、灰白色土粒φ5～1mm3～5%
2	10YR3/2	黒褐色土	×△	にぶい黄橙色砂ブロックφ10～50mm1～3%、灰白色土粒φ0.5～1mm5～7%

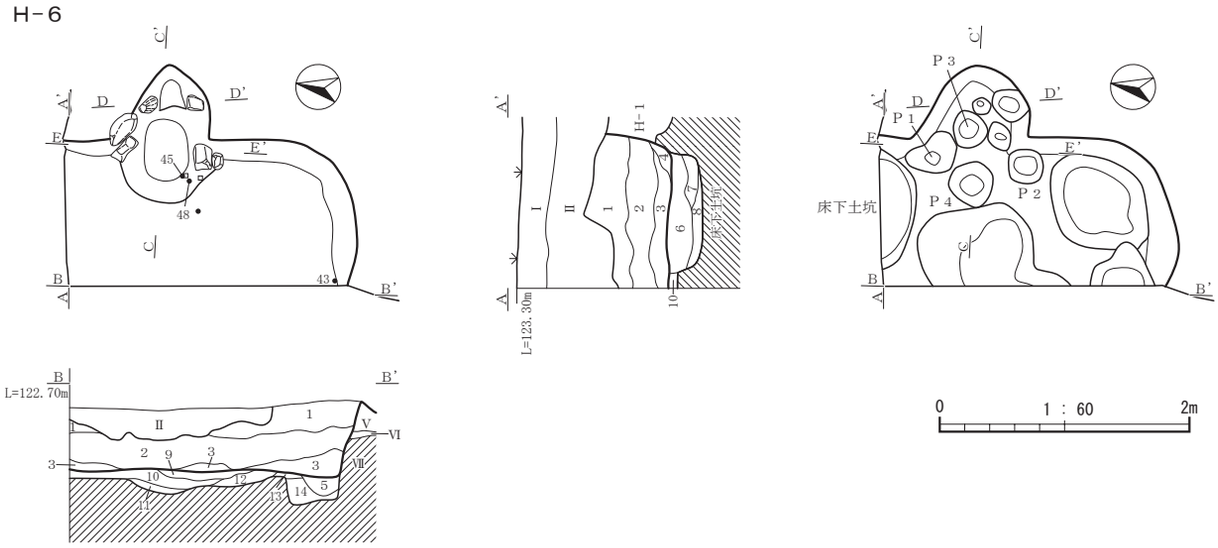
D－２号土坑　セクション

1	10YR3/4	暗褐色土	△△	スコリアφ2～4mm3%、焼土1%
2	10YR3/4	暗褐色土	△△	スコリア・焼土の混入なし

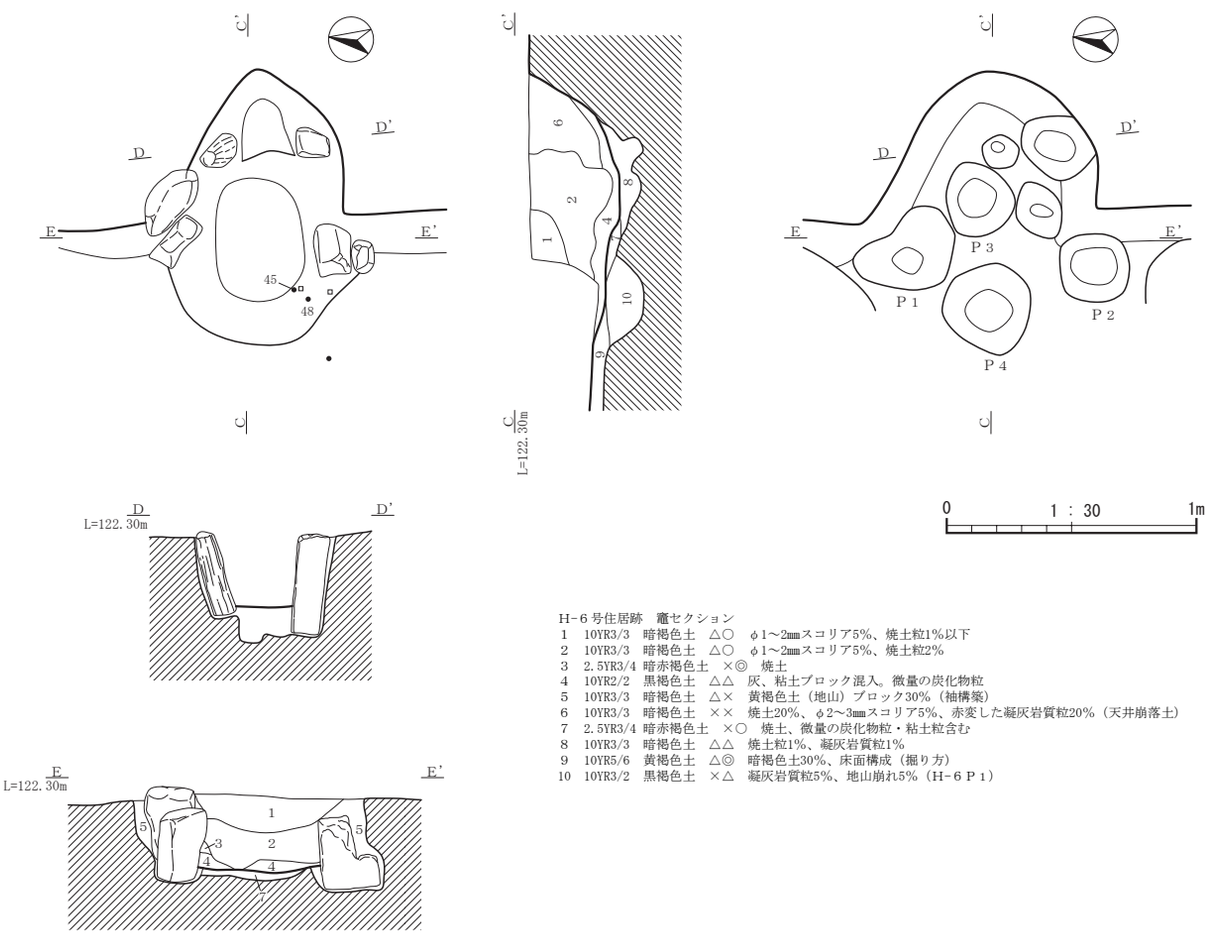
0　1 : 60　2m

Fig.66　33区Ｈ－５号住居跡竈、土坑

H－6

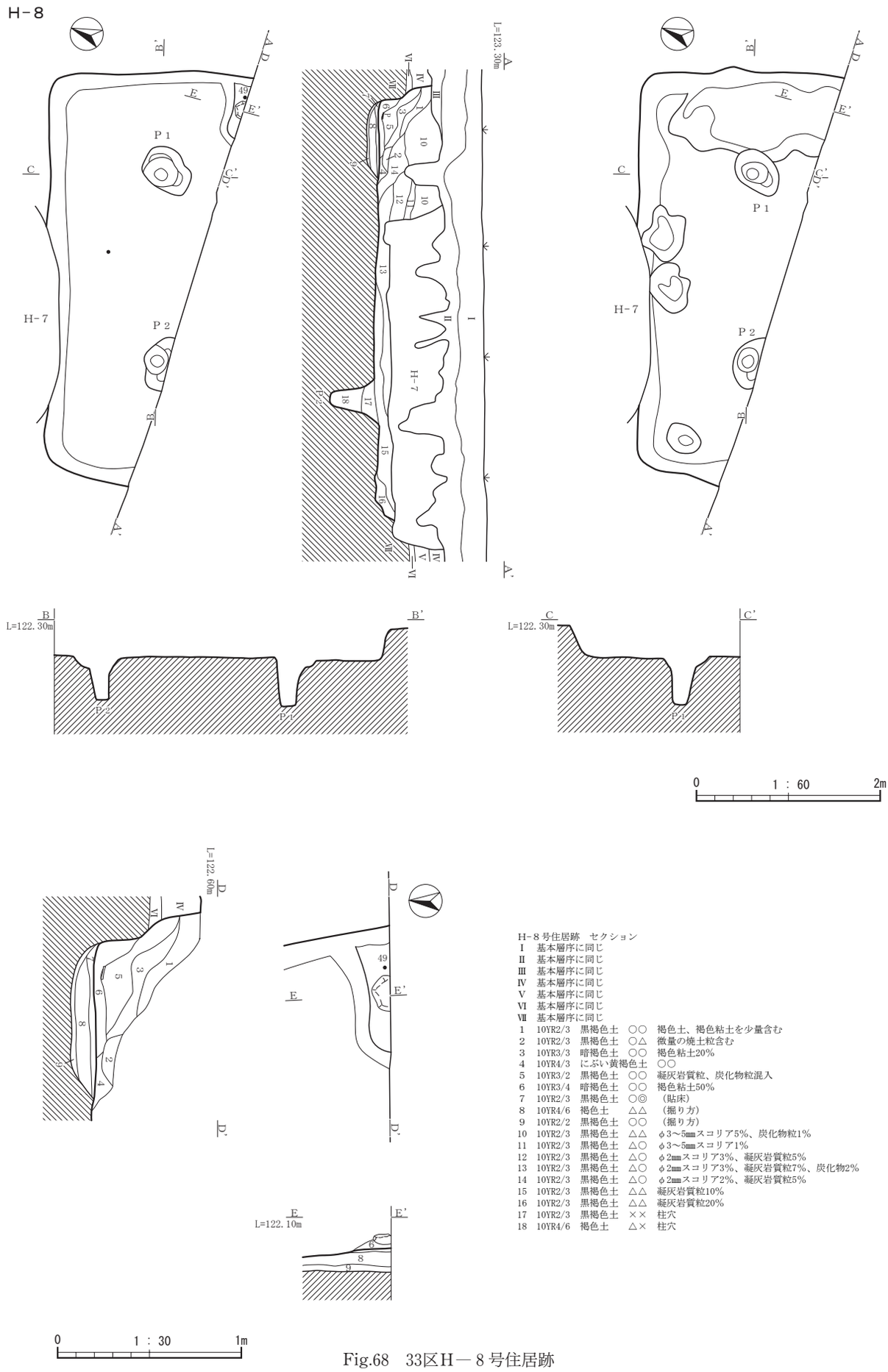


H－6号住居跡　セクション
Ⅰ　基本層序に同じ
Ⅱ　基本層序に同じ
Ⅴ　基本層序に同じ
Ⅵ　基本層序に同じ
Ⅶ　基本層序に同じ
1　10YR2/3　黒褐色土　△△　φ2～4㎜スコリア5%
2　10YR2/3　黒褐色土　△○　φ2～3㎜スコリア3%、凝灰岩質粒1%
3　10YR3/3　暗褐色土　△○　φ2～3㎜スコリア3%、炭化物粒1%、凝灰岩質粒1%
4　10YR3/4　暗褐色土　○○　φ2～3㎜スコリア2%、炭化物粒1%、焼土粒1%、褐色粘土1%
5　10YR3/3　暗褐色土　○△　φ2～3㎜スコリア1%、炭化物・焼土粒1%
6　10YR3/3　暗褐色土　○○　φ2～3㎜スコリア3%、凝灰岩質粒5%
7　10YR3/3　暗褐色土　○○　φ2～3㎜スコリア3%、凝灰岩質粒1%
8　10YR3/3　暗褐色土　○○　φ2～3㎜スコリア3%、凝灰岩質粒3%
9　10YR2/2　黒褐色土　○◎　粘土粒5%、凝灰岩質粒5%（貼床）
10　10YR2/2　黒褐色土　○◎　凝灰岩質粒10%（貼床）
11　10YR2/2　黒褐色土　○◎　凝灰岩質粒1%
12　10YR7/4　にぶい黄橙土　◎○　粘土（シルト）層
13　10YR2/2　黒褐色土　○◎　粘土5%、凝灰岩質粒5%（貼床）
14　10YR3/4　暗褐色土　△△　凝灰岩質粒10%



H－6号住居跡　竈セクション
1　10YR3/3　暗褐色土　△○　φ1～2㎜スコリア5%、焼土粒1%以下
2　10YR3/3　暗褐色土　△○　φ1～2㎜スコリア5%、焼土粒2%
3　2.5YR3/4　暗赤褐色土　×◎　焼土
4　10YR2/2　黒褐色土　△△　灰、粘土ブロック混入。微量の炭化物粒
5　10YR3/3　暗褐色土　△×　黄褐色土（地山）ブロック30%（袖構築）
6　10YR3/3　暗褐色土　××　焼土20%、φ2～3㎜スコリア5%、赤変した凝灰岩質粒20%（天井崩落土）
7　2.5YR3/4　暗赤褐色土　×○　焼土、微量の炭化物粒・粘土粒含む
8　10YR3/3　暗褐色土　△△　焼土粒1%、凝灰岩質粒1%
9　10YR5/6　黄褐色土　△◎　暗褐色土30%、床面構成（掘り方）
10　10YR3/2　黒褐色土　×△　凝灰岩質粒5%、地山崩れ5%（H－6Ｐ1）

Fig.67　33区Ｈ－６号住居跡



H-8号住居跡　セクション

Ⅰ　基本層序に同じ
Ⅱ　基本層序に同じ
Ⅲ　基本層序に同じ
Ⅳ　基本層序に同じ
Ⅴ　基本層序に同じ
Ⅵ　基本層序に同じ
Ⅶ　基本層序に同じ

1	10YR2/3	黒褐色土	○○	褐色土、褐色粘土を少量含む
2	10YR2/3	黒褐色土	○△	微量の焼土粒含む
3	10YR3/3	暗褐色土	○○	褐色粘土20%
4	10YR4/3	にぶい黄褐色土	○○	
5	10YR3/2	黒褐色土	○○	凝灰岩質粒、炭化物粒混入
6	10YR3/4	暗褐色土	○○	褐色粘土50%
7	10YR2/3	黒褐色土	○◎	（貼床）
8	10YR4/6	褐色土	△△	（掘り方）
9	10YR2/2	黒褐色土	○○	（掘り方）
10	10YR2/3	黒褐色土	△△	φ3～5㎜スコリア5%、炭化物粒1%
11	10YR2/3	黒褐色土	△○	φ3～5㎜スコリア1%
12	10YR2/3	黒褐色土	△○	φ2㎜スコリア3%、凝灰岩質粒5%
13	10YR2/3	黒褐色土	△○	φ2㎜スコリア3%、凝灰岩質粒7%、炭化物2%
14	10YR2/3	黒褐色土	△○	φ2㎜スコリア2%、凝灰岩質粒5%
15	10YR2/3	黒褐色土	△△	凝灰岩質粒10%
16	10YR2/3	黒褐色土	△△	凝灰岩質粒20%
17	10YR2/3	黒褐色土	××	柱穴
18	10YR4/6	褐色土	△×	柱穴

Fig.68　33区H－8号住居跡

33区の遺物

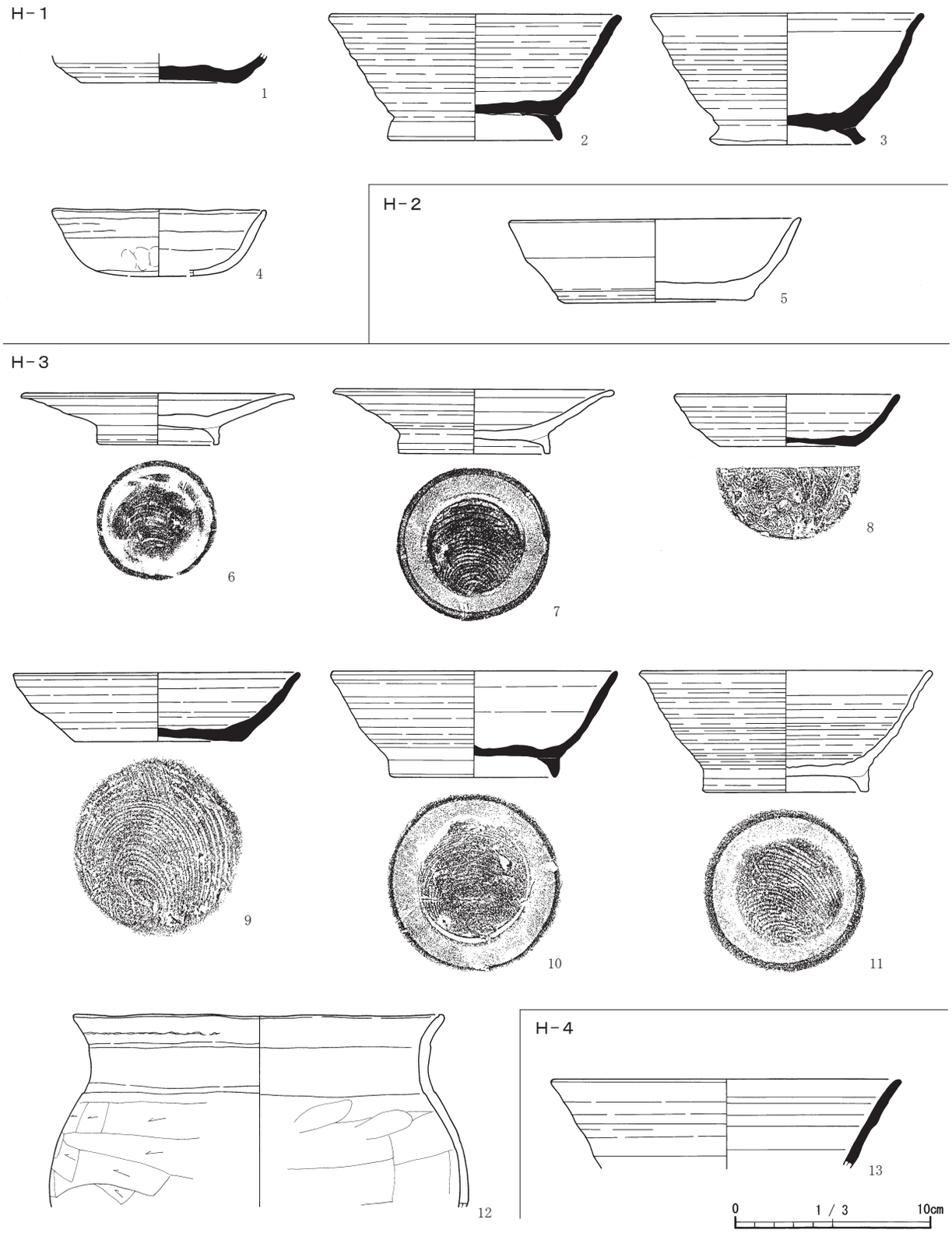


Fig.69　33区H－1～H－4出土遺物

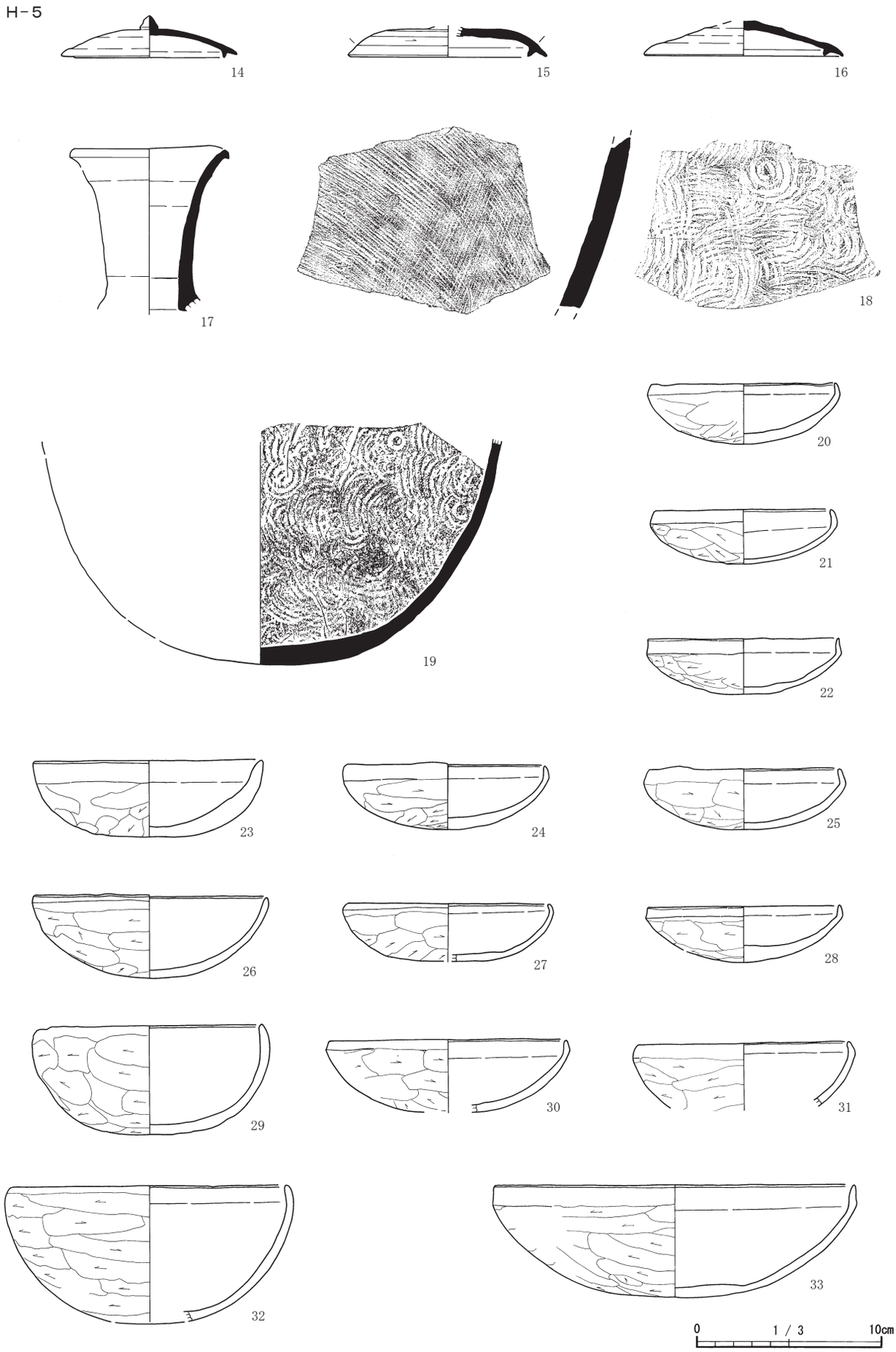


Fig.70　33区H－5出土遺物（1）

H－5

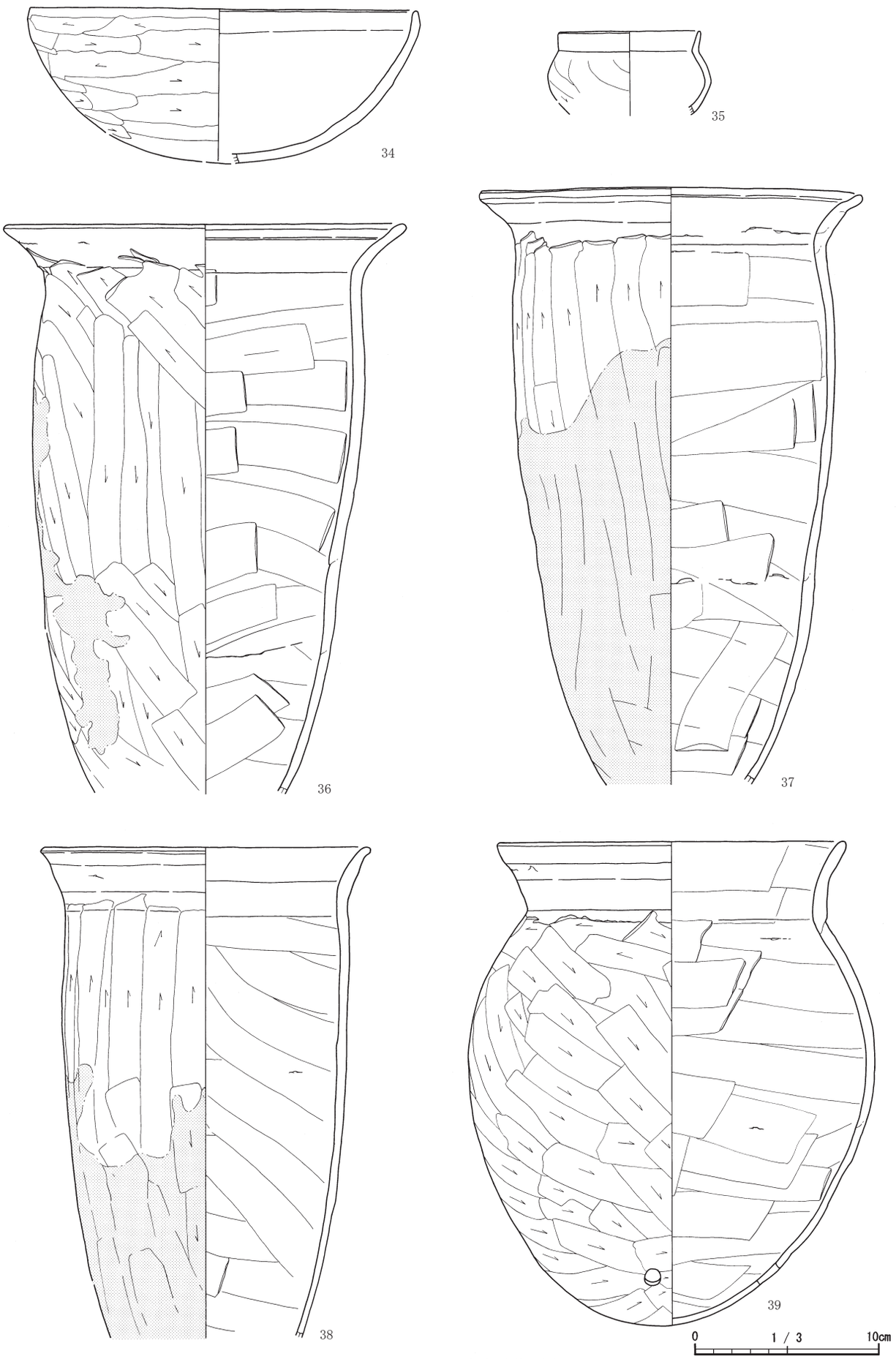


Fig.71　33区H－5出土遺物（2）

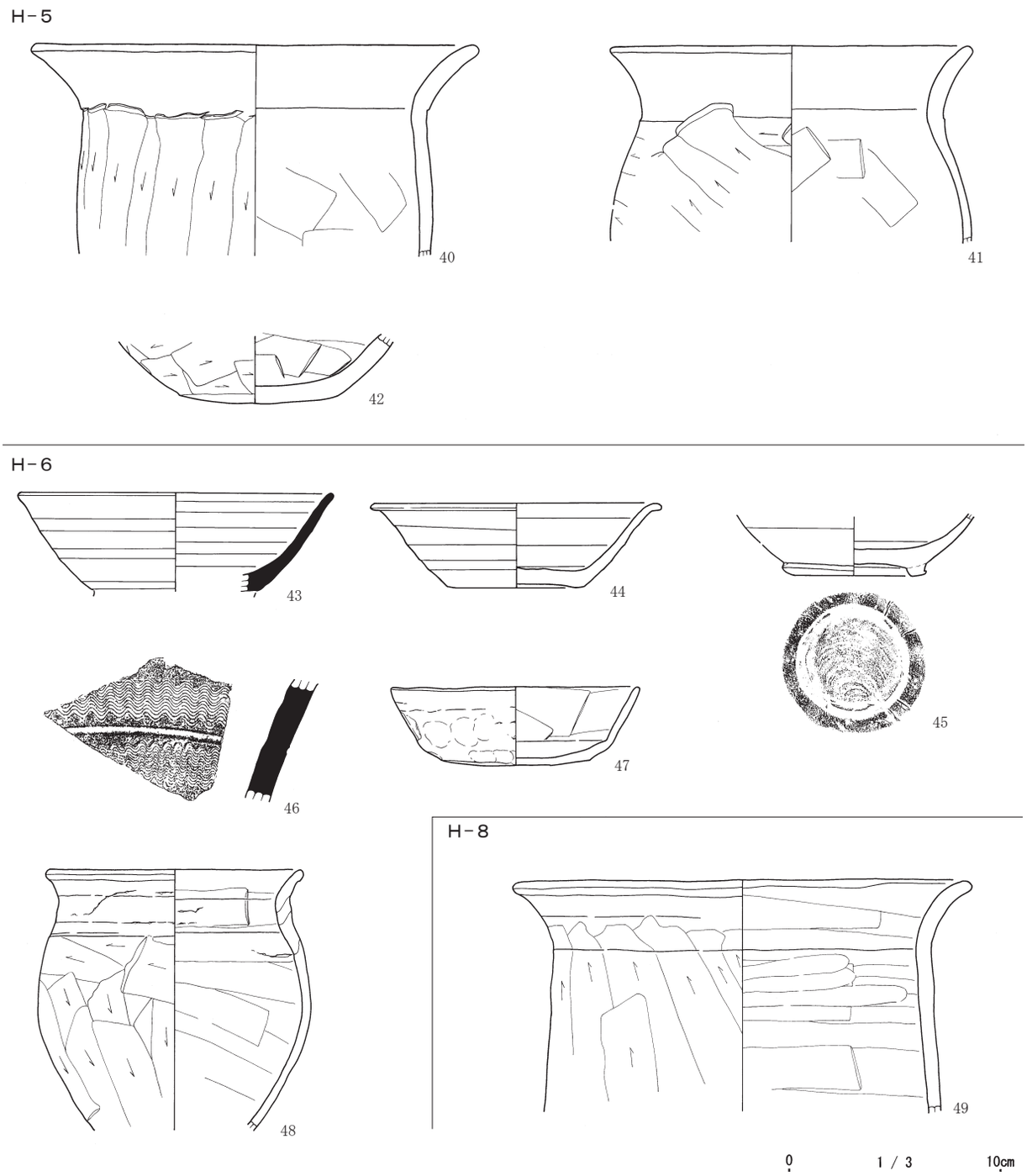


Fig.72　33区H－5 (3) ～H－8 出土遺物

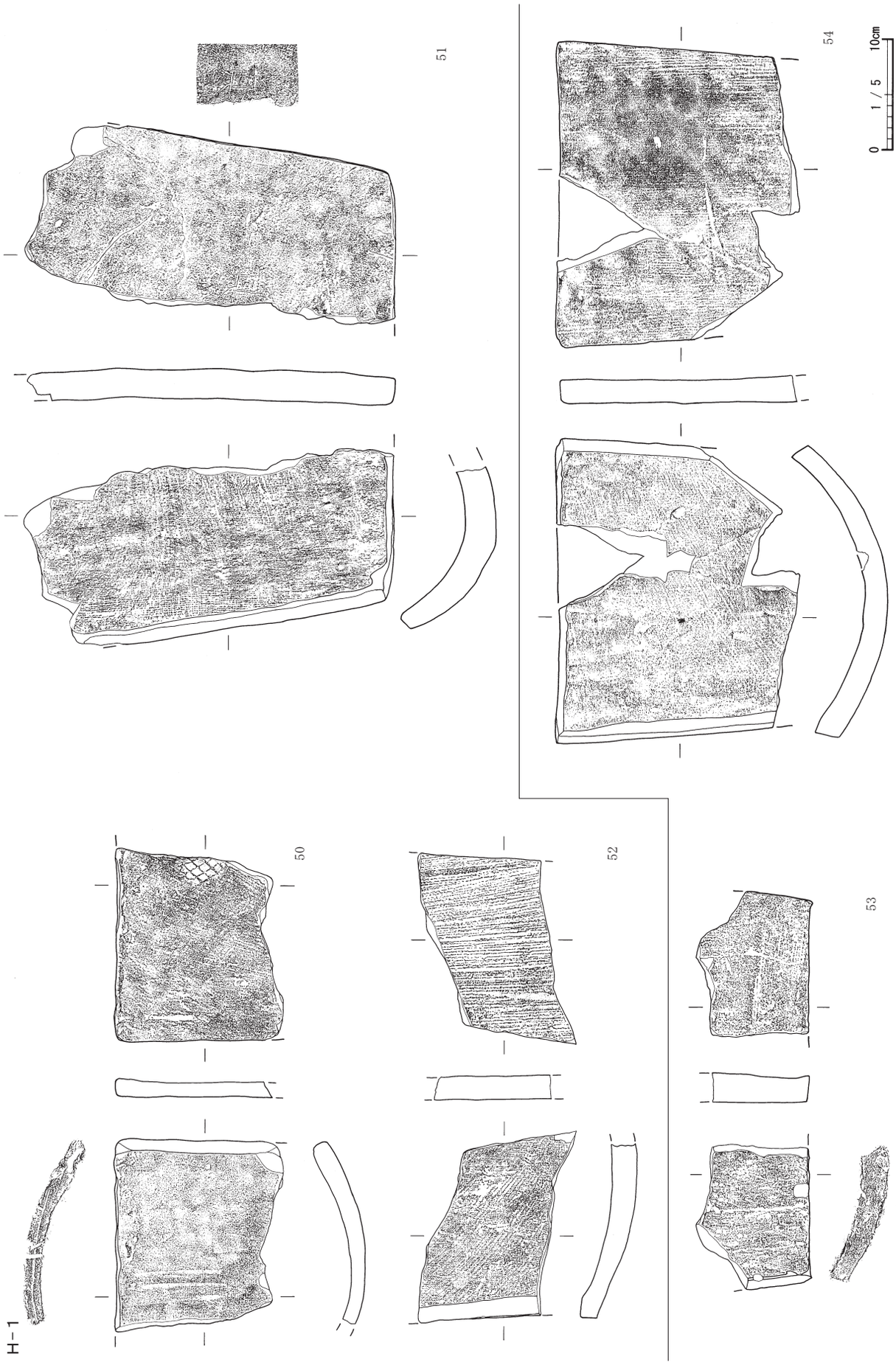


Fig.73　33区H－1・3 (1) 出土瓦

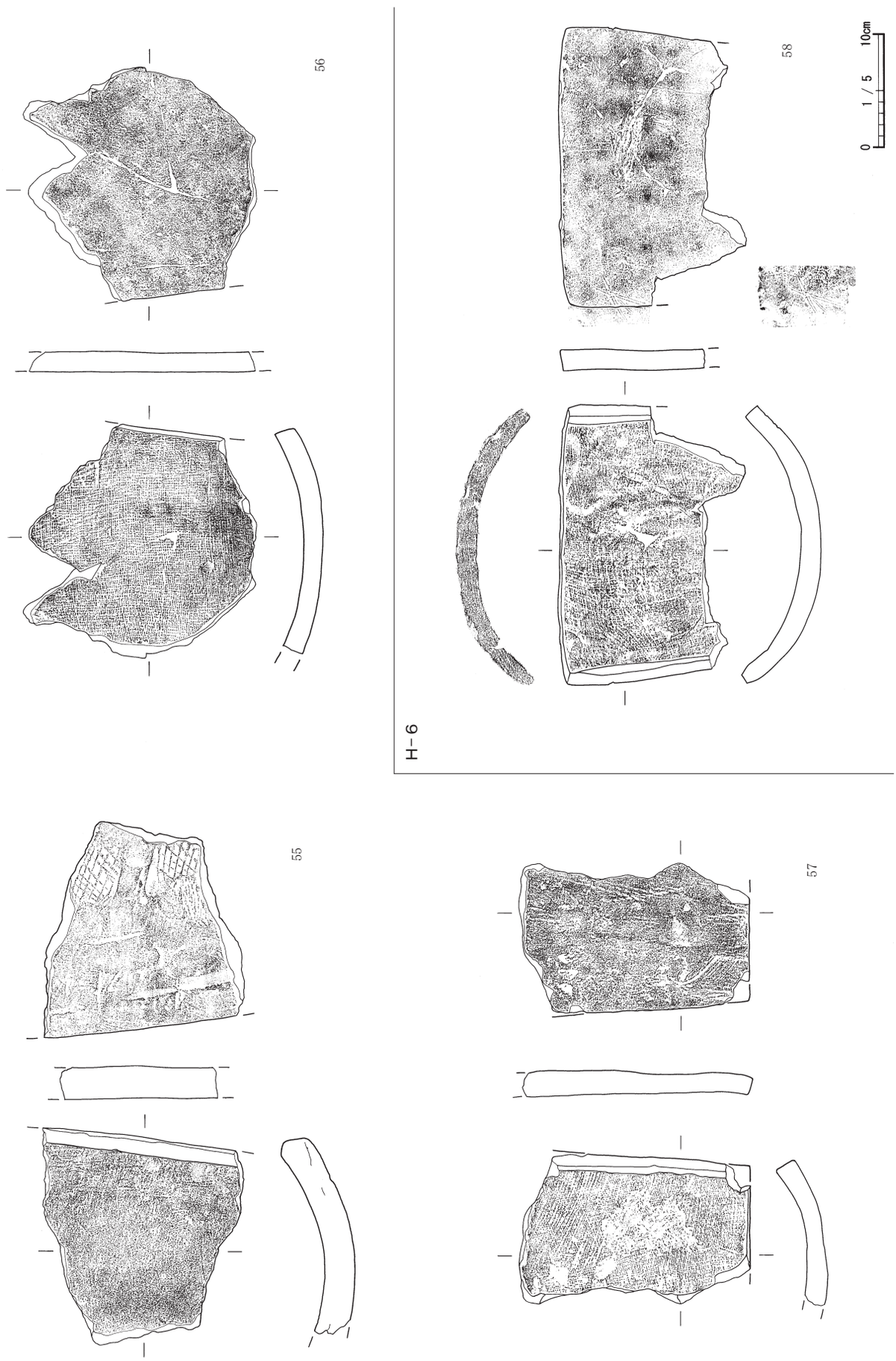


Fig.74　33区H－3 (2)・6出土瓦

Ⅷ　ま　と　め

今回の調査では、弥生時代から中近世に亘る遺構を確認し、遺物では縄文時代以降の土器・石器・鉄製品を採取することができた。縄文時代では遺構は確認されないが、前期後半から中期後半の土器片や打製石斧片が採取されている。量的にはわずかである。弥生時代では、10区に土坑が１基検出されている。遺物は少ないが、後期の遺構と思われる。古墳時代では、後期後半の住居跡がいずれの区からも検出されている。奈良時代とともに軒数は多くないが、以後平安時代中半前後まで集落の形成が続くことになる。このなかで、主体を占めるのが９世紀から10世紀にかけての住居跡である。

ここでは、本調査で確認した遺構を元総社蒼海遺跡群における従来の分類に従い、Ⅰ期（～７世紀前半：律令期以前）、Ⅱ期（７世紀後半～10世紀初頭：律令期）、Ⅲ期（10世紀前半～：律令期以降）の３期に大別して概観しておくことにしたい。

Ⅰ期（～７世紀前半：律令期以前）

この時期に該当する遺構は、10区のＤ―27号土坑である。出土土器から弥生時代後期の所産と思われる。10区では、調査区一括採取として弥生土器があるが、量的には少ない。縄文時代の遺構はなく、前期後半から中期後半の土器片や打製石斧等の石器片が採取されている。

Ⅱ期（７世紀後半～10世紀初頭：律令時代）

この時期が遺構・遺物ともに主体となるが、８世紀代は少なく、７世紀代、ついで９世紀代が多い。10区、33区の７世紀代の住居跡は、他の住居跡と同様に東竈となるが(10区Ｈ―13号住居跡のみ西竈)、主軸を北東―南西位前後に採る住居が多い。この点からみると、遺物が少なくて時期不明とした10区Ｈ―14号住居跡などは７世紀代の住居跡の可能性が強い。一方、８区では、主軸方位の違いはそれほど顕著にはみられない。８世紀代は８区３軒、10区１軒と軒数がやや減ずる一方、８区Ｔ―３・４号跡のような大きな竪穴状遺構が現れる。底面にＴの字状や方形の掘り込みの見られるこの遺構の性格は判然としないが、深い方形の掘り込みのＤ―26号土坑やゴミ穴かとも思われるＤ―24号土坑の存在などとともに、遺跡（８区）の特異な性格を表しているのかもしれない。次の９世紀代から10世紀初頭の住居跡がもっとも多い。８区Ｈ―29～32号住居跡群のように重複の激しい住居出土の土器ではやや時期判断に不安が残るものもあるが、大勢では、この時期が主体となると思われる。

Ⅲ期（10世紀前半～：律令期以降）

この時期では、羽釜などの土器をもつ10世紀前半代の住居跡や、中世以降の道路跡（８区）、近世以降の溝群（８・10区の畝間溝）などが見られる。

参考文献

前橋市埋蔵文化財発掘調査団・山武考古学研究所　『元総社小見遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2001

前橋市埋蔵文化財発掘調査団・山武考古学研究所　『元総社小見Ⅲ遺跡　元総社草作Ⅴ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2003

前橋市埋蔵文化財発掘調査団　『元総社小見Ⅳ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2003

前橋市埋蔵文化財発掘調査団　『元総社小見内Ⅶ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2004

前橋市埋蔵文化財発掘調査団　『元総社小見内Ⅸ遺跡　総社閑泉明神北Ⅴ遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2005

前橋市埋蔵文化財発掘調査団　『元総社蒼海遺跡群（4）』前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2006

前橋市埋蔵文化財発掘調査団　『元総社蒼海遺跡群（5）』前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2006

前橋市埋蔵文化財発掘調査団　『元総社蒼海遺跡群（15）』前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2008

前橋市埋蔵文化財発掘調査団　『元総社蒼海遺跡群（16）』前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2008

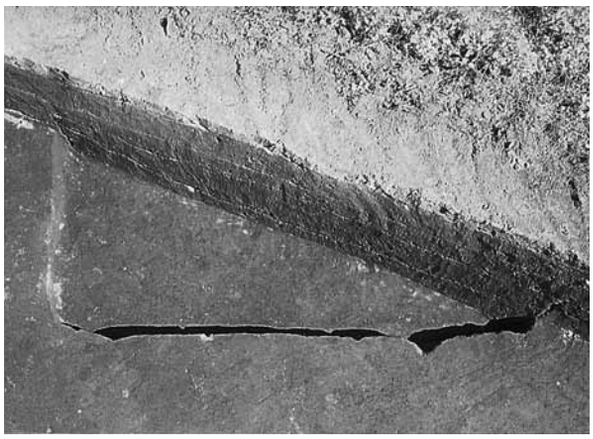
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　『元総社蒼海遺跡群（18）』前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2008

Fig.75　竪穴住居跡時期別分布図

図　　版

８区Ｈ－1号住居跡全景（西より）

８区Ｈ－２号住居跡全景（西より）

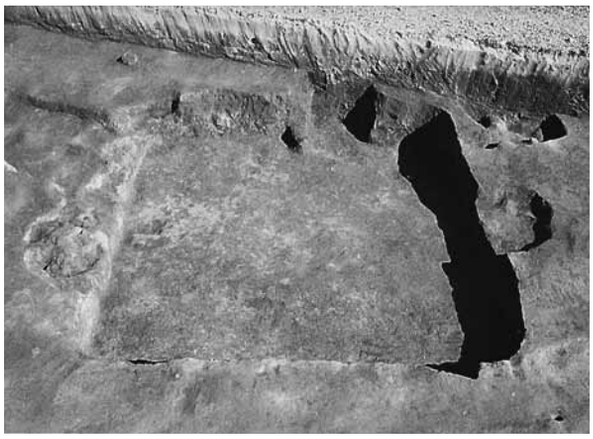


８区Ｈ－３号住居跡全景（西より）

８区Ｈ－４号住居跡全景（西より）

８区Ｈ－５号住居跡全景（西より）

８区Ｈ－７号住居跡全景（西より）



８区Ｈ－８号住居跡全景（西より）

８区Ｈ－９号住居跡全景（東より）

８区Ｈ－10号住居跡全景（東より）

８区Ｈ－11号住居跡全景（西より）

８区Ｈ－12号住居跡全景（西より）

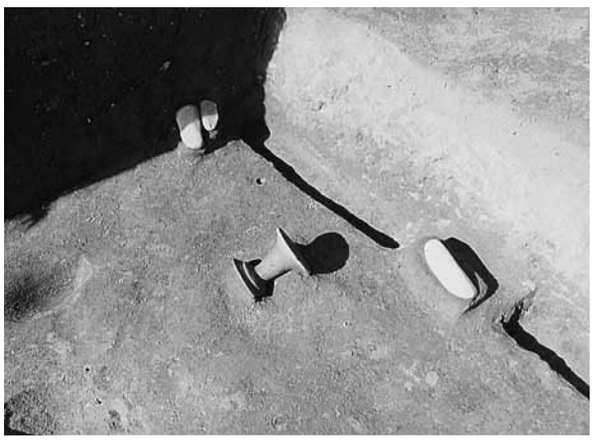
８区Ｈ－12号住居跡遺物出土状況（西より）

８区Ｈ－12号住居跡竈遺物出土状況（西より）

８区Ｈ－12号住居跡竈全景（西より）

８区Ｈ－13号住居跡東半部（西より）

８区Ｈ－13号住居跡西半部（西より）



８区Ｈ－13号住居跡遺物出土状況（東より）

８区Ｈ－13号住居跡竈１甕据付け痕（西より）

８区Ｈ－13号住居跡竈１全景（西より）

８区Ｈ－13号住居跡竈２全景（南より）

８区Ｈ－14号住居跡全景（西より）

８区Ｈ－16号住居跡全景（西より）

８区Ｈ－15号住居跡全景（西より）

８区Ｈ－15号住居跡竈全景（西より）

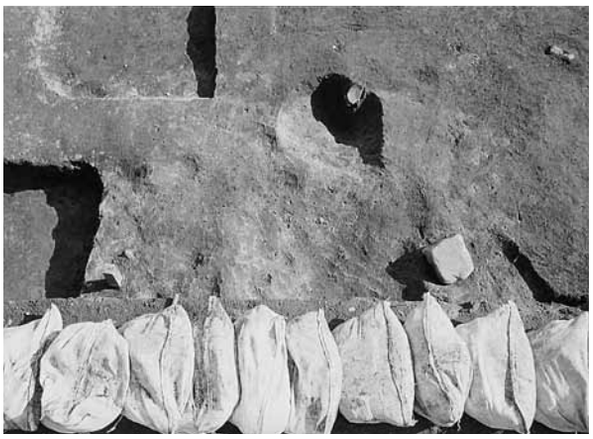
８区Ｈ－17号住居跡全景（西より）

８区Ｈ－18号住居跡掘り方全景（北より）

８区Ｈ－19号住居跡全景（西より）

８区Ｈ－20号住居跡全景（西より）

８区Ｈ－21号住居跡全景（西より）



８区Ｈ－22号住居跡全景（西より）

８区Ｈ－23号住居跡全景（西より）

８区Ｈ－24号住居跡全景（西より）

８区Ｈ－25号住居跡全景（西より）

８区Ｈ－26号住居跡全景（東より）

８区Ｈ－27号住居跡全景（西より）

８区Ｈ－28号住居跡全景（西より）

８区Ｈ－29号住居跡全景（西より）

８区Ｈ－30号住居跡全景（南より）

８区Ｈ－31号住居跡全景（西より）

８区Ｈ－32号住居跡全景（西より）

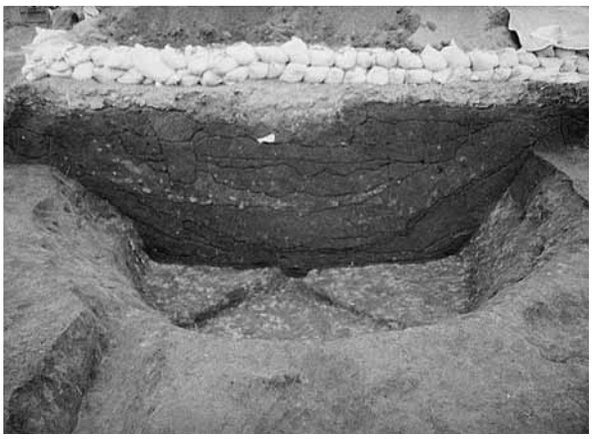
８区Ｈ－33号住居跡全景（西より）

８区Ｔ－１号竪穴跡全景（西より）

８区Ｔ－２号竪穴跡東半部全景（北より）

８区Ｔ－２号竪穴跡西半部全景（東より）

８区Ｔ－３号竪穴跡全景（北より）



８区Ｔ－３号竪穴跡土層（東より）

８区Ｔ－４号竪穴跡全景（北東より）

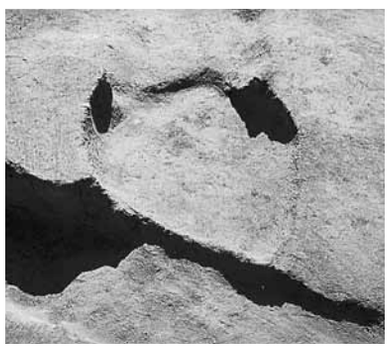
８区Ｔ－4竪穴跡土層

８区Ｄ－１号土坑（東より）

８区Ｄ－２号土坑（西より）

８区Ｄ－３号土坑（北より）

８区Ｄ－４号土坑（東より）


８区Ｄ－５号土坑（北より）

８区Ｄ－6号土坑（北より）

８区Ｄ－７号土坑（北より）

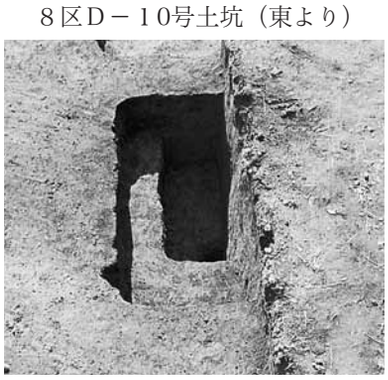
８区Ｄ－８号土坑（北より）

８区Ｄ－９号土坑（北東より）

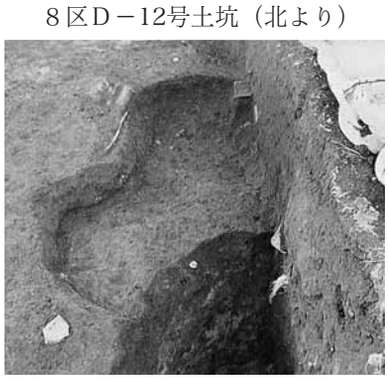
８区Ｄ－１0号土坑（東より）

８区Ｄ－１1号土坑（南より）

８区Ｄ－12号土坑（北より）

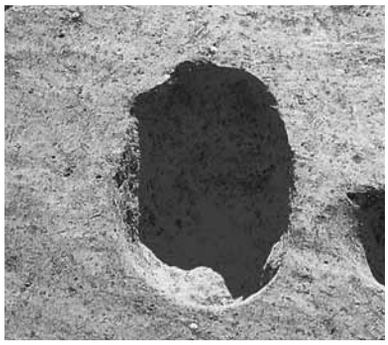

８区Ｄ－13号土坑（北より）

８区Ｄ－14号土坑（東より）

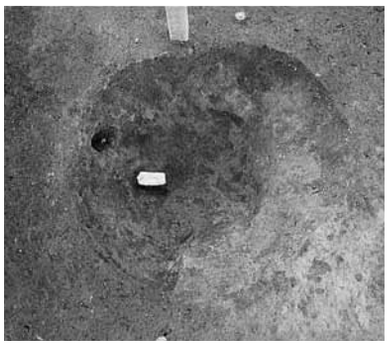

８区Ｄ－15号土坑（西より）

８区Ｄ－16号土坑（南より）

８区Ｄ－17号土坑（東より）



８区Ｄ－18号土坑（北より）



８区Ｄ－19号土坑（東より）

８区Ｄ－20号土坑（北より）

８区Ｄ－21号土坑（東より）

８区Ｄ－23号土坑（西より）

８区Ｄ－24号土坑（東より）

８区Ｄ－24号土坑遺物出土状況（西より）

８区Ｄ－26号土坑（南より）

８区Ｄ－26号土坑土層

８区Ａ－１号道路跡（北西より）

10区Ｈ－１号住居跡全景（西より）

10区Ｈ－１号住居跡竈全景（西より）

10区Ｈ－２号住居跡全景（西より）

10区Ｈ－２号住居跡竈全景（西より）

10区Ｈ－３号住居跡全景（西より）

10区Ｈ－４号住居跡全景（西より）

10区Ｈ－３号住居跡竈全景（西より）

10区Ｈ－４号住居跡竈全景（西より）

10区Ｈ－４号住居跡貯蔵穴（南西より）

10区Ｈ－５号住居跡全景（南西より）

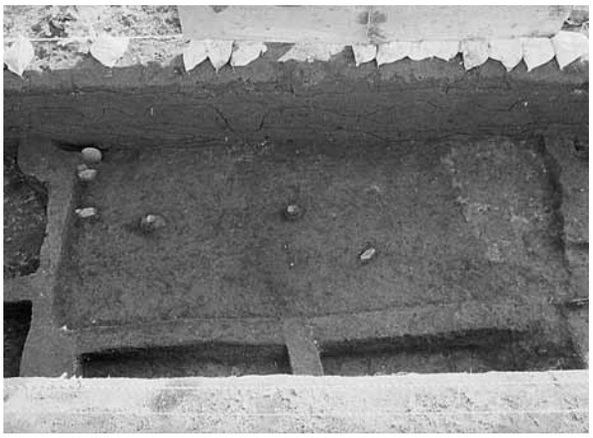
10区Ｈ－６号住居跡全景（北より）

10区Ｈ－７号住居跡全景（北より）

10区Ｈ－７号住居跡竈・貯蔵穴（西より）

10区Ｈ－７号住居跡掘り方（北より）

10区Ｈ－８号住居跡・Ｔ－１号竪穴跡（北より）



10区Ｈ－９号住居跡全景（北より）

10区Ｈ－10号住居跡全景（北より）

10区Ｈ－９号住居跡竈全景（北西より）

10区Ｈ－10号住居跡竈全景（北西より）

10区Ｈ－11号住居跡全景（西より）

10区Ｈ－11号住居跡竈全景（西より）

10区Ｈ－11号住居跡竈全景（北より）

10区Ｈ－11号住居跡貯蔵穴（北より）

10区Ｈ－12号住居跡全景（北より）

10区Ｈ－14号住居跡掘り方（南より）

10区Ｈ－12号住居跡遺物出土状況（西より）

10区Ｈ－13号住居跡全景（北東より）

10区Ｈ－13号住居跡竈全景（北東より）

10区Ｈ－15号住居跡全景（南より）

10区Ｈ－16号住居跡全景（北より）

10区Ｄ－１号土坑（南西より）

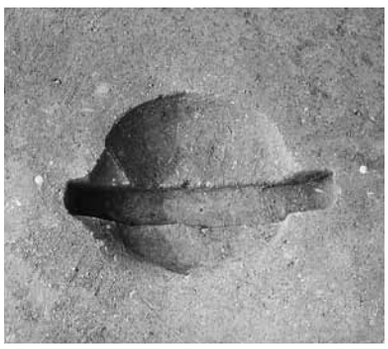
10区Ｄ－３号土坑（南より）

10区Ｄ－４号土坑土層（西より）

10区Ｄ－５号土坑（北より）

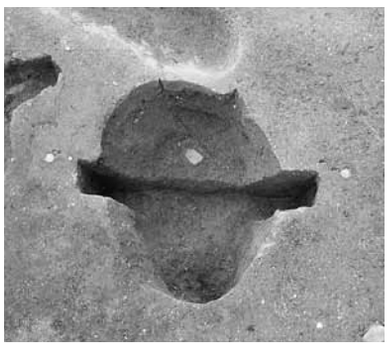
10区Ｄ－６号土坑（東より）

10区Ｄ－７号土坑（南東より）


10区Ｄ－８号土坑（北東より）

10区Ｄ－９号土坑（北より）

10区Ｄ－10号土坑（西より）

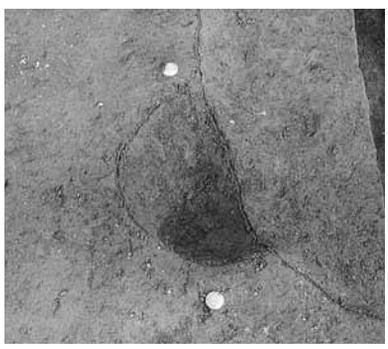

10区Ｄ－11号土坑（北東より）

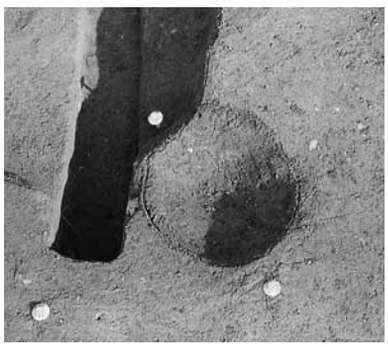
10区Ｄ－12号土坑（北より）

10区Ｄ－13号土坑（北より）

10区Ｄ－14号土坑（東より）

10区Ｄ－16号土坑（南より）

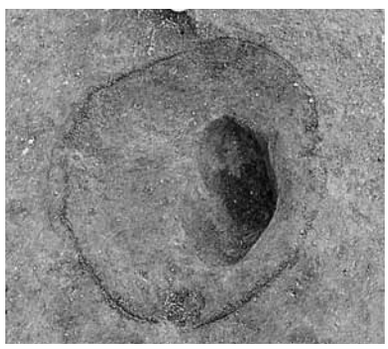

10区Ｄ－17号土坑（南より）

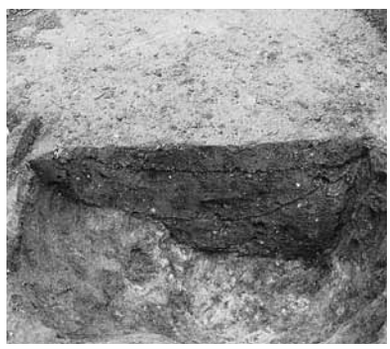

10区Ｄ－18号土坑（南より）

10区Ｄ－19号土坑（北より）

10区Ｄ－20号土坑（北東より）

10区Ｄ－21号土坑（北より）

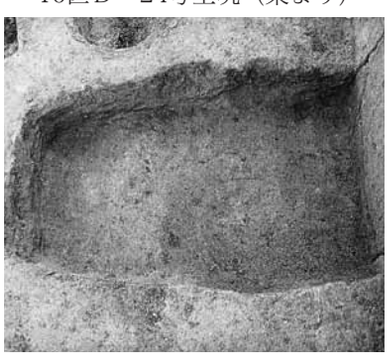

10区Ｄ－23号土坑（南東より）


10区Ｄ－20号土坑土層

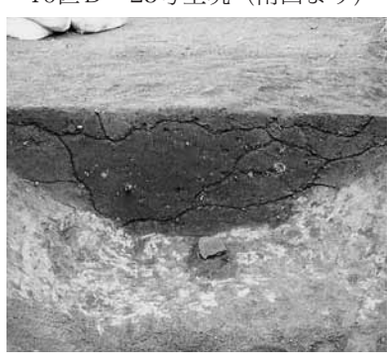
10区Ｄ－24号土坑（東より）

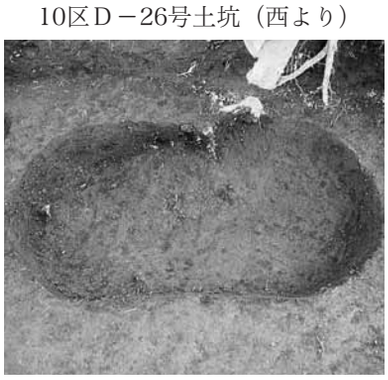
10区Ｄ－24号土坑土層

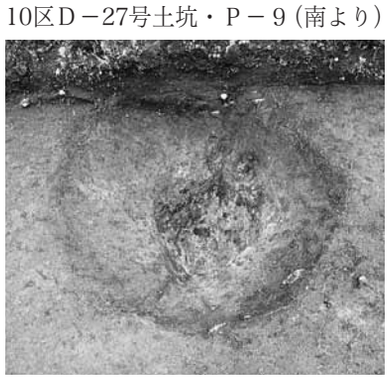
10区Ｄ－25号土坑（南西より）

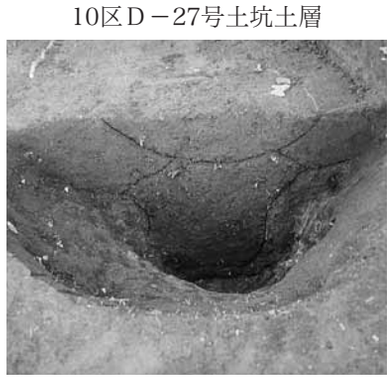

10区Ｄ－26号土坑（西より）

10区Ｄ－27号土坑・Ｐ－９（南より）

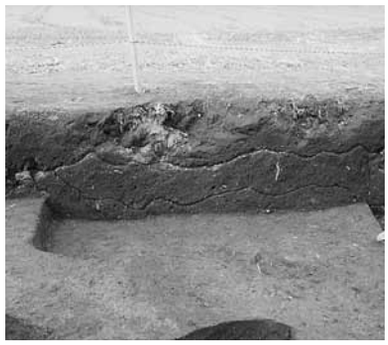

10区Ｄ－27号土坑土層


10区Ｄ－28・29号土坑（北より）


10区Ｄ－30号土坑（北より）

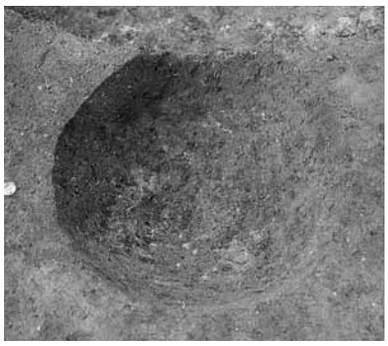

10区Ｄ－30号土坑土層

10区Ｄ－31・32号土坑（南より）

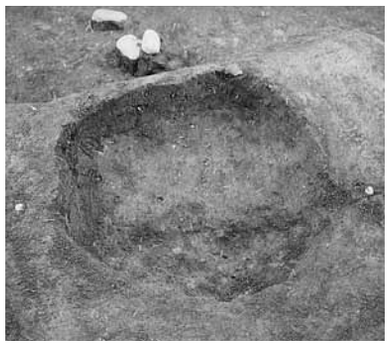


10区Ｄ－33号土坑・Ｈ－14（南より）

10区Ｄ－34号土坑（西より）



10区Ｄ－35号土坑（南より）



10区Ｄ－36号土坑（南より）

10区Ｄ－37号土坑（南より）

10区Ｄ－38号土坑（南より）

10区Ｄ－38号土坑土層

10区Ｄ－39号土坑（北より）

10区西半溝群（東より）

33区Ｈ－１号住居跡全景（西より）

33区Ｈ－１号住居跡竈全景（西より）

33区Ｈ－２号住居跡全景（東より）

33区Ｈ－２号住居跡南壁土層

33区Ｈ－３号住居跡全景（西より）

33区Ｈ－３号住居跡竈全景（西より）

33区Ｈ－４号住居跡全景（北より）

33区Ｈ－４号住居跡掘り方土層

33区Ｈ－５号住居跡全景（西より）

33区Ｈ－５号住居跡遺物出土状況（西より）

33区Ｈ－５号住居跡竈全景（西より）

33区Ｈ－５号住居跡竈土層（西より）

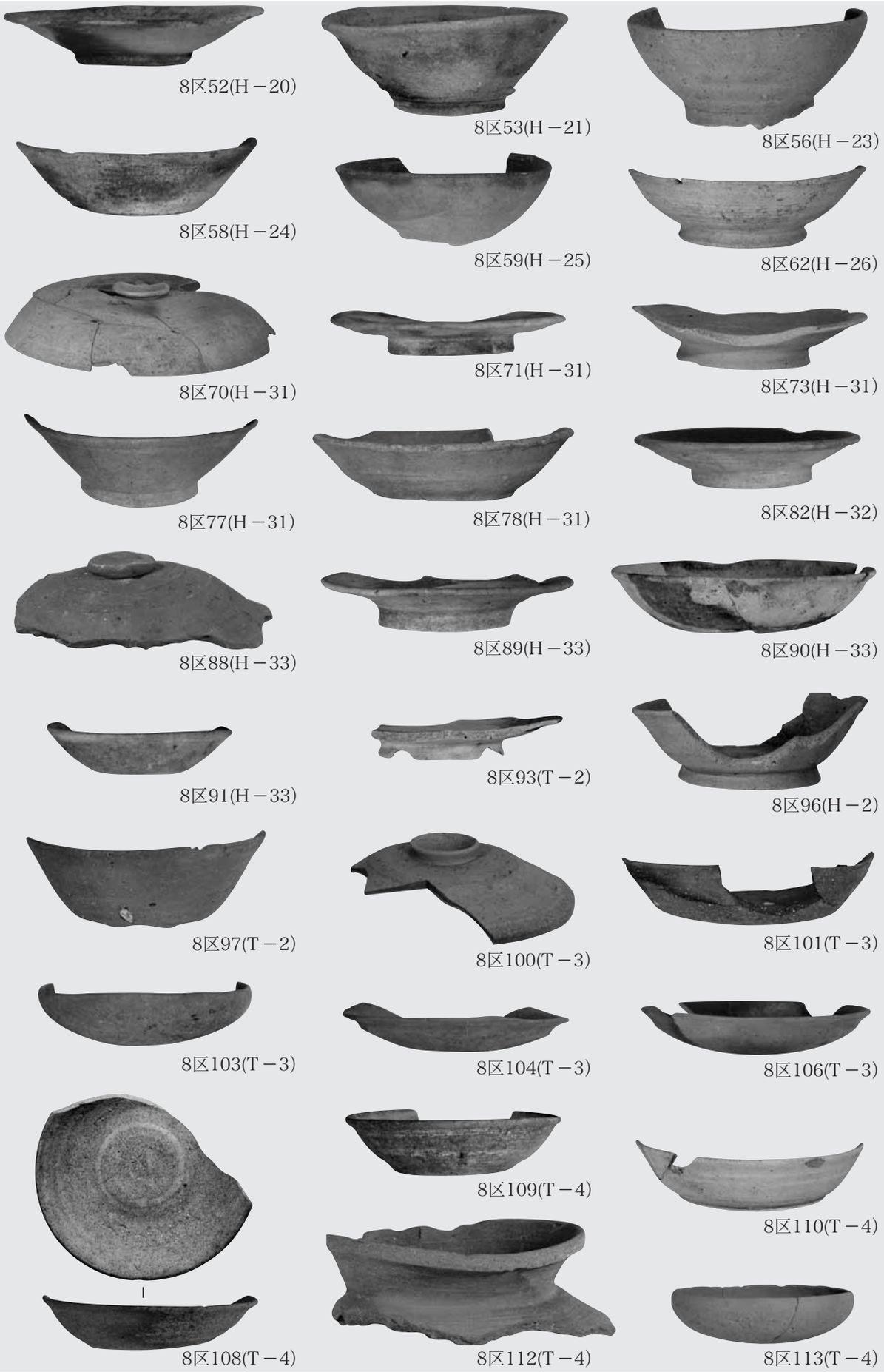
33区Ｈ－６号住居跡全景（西より）

33区Ｈ－６号住居跡竈全景（西より）

33区Ｈ－７号住居跡全景（西より）

33区Ｈ－８号住居跡全景（西より）

8区3(H－2)
8区10(H－5)
8区11(H－7)
8区12(H－8)
8区15(H－11)
8区22(H－12)
8区23(H－12)
8区25(H－12)
8区29(H－12)
8区30(H－12)
8区27(H－12)
8区31(H－13)
8区33(H－13)
8区43(H－15)
8区36(H－13)
8区39(H－15)
8区47(H－18)
8区41(H－15)
8区48(H－19)


8区52(H－20)
8区53(H－21)
8区56(H－23)
8区58(H－24)
8区59(H－25)
8区62(H－26)
8区70(H－31)
8区71(H－31)
8区73(H－31)
8区77(H－31)
8区78(H－31)
8区82(H－32)
8区88(H－33)
8区89(H－33)
8区90(H－33)
8区91(H－33)
8区93(T－2)
8区96(H－2)
8区97(T－2)
8区100(T－3)
8区101(T－3)
8区103(T－3)
8区104(T－3)
8区106(T－3)
8区109(T－4)
8区110(T－4)
8区108(T－4)
8区112(T－4)
8区113(T－4)

8区117(D－16)

8区121(D－24)

8区125(D－24)

8区126(D－24)

8区127(D－24)

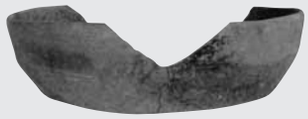
8区133(D－24)

8区134(D－24)

8区137(D－24)

8区139(D－24)

8区148(D－24)


8区149(D－24)

8区145(D－24)

8区154(D－24)

8区159(D－24)

8区157(D－26)

8区169(A－1)

8区170
(P－1)

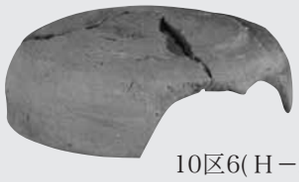
8区171
(調査区)

8区172
(調査区)

10区4(H－1)

10区1(H－1)

10区7(H－2)


10区6(H－2)

10区9(H－2)

10区11(H－2)

10区12(H－2)

10区10(H－2)

10区13(H－3)

10区14(H－3)

10区15(H－3)

10区16(H－3)

10区21(H－4)

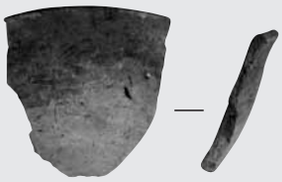
10区H－4白玉

10区26(H－3)

10区24(H－4)

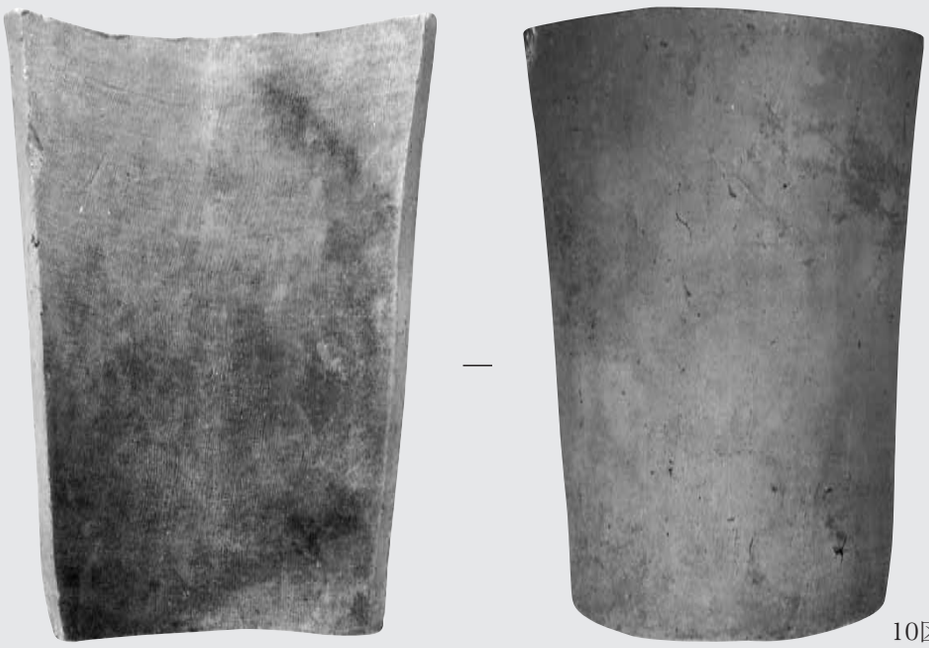
25 26 27 28 29

10区31(H－6)



10区33(H－6)

10区40(H－7)



10区41(H－7)

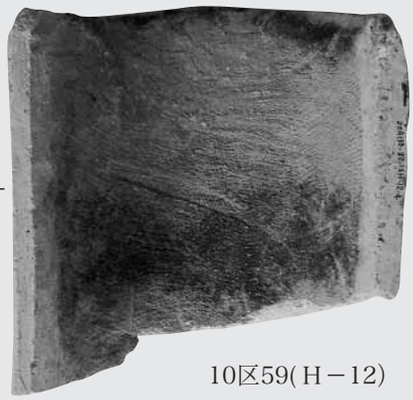
10区42(H－8)

10区46(H－9)

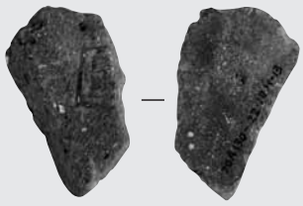
10区49(H－10)

10区55(H－12)

10区58(H－12)



10区59(H－12)



10区65(H－13)

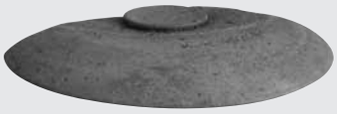
10区72(H－15)

10区73(H－15)

10区76(H－15)

10区74(H－15)

10区75(H－15)



10区77(H－16)

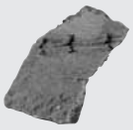
10区78(T－1)

10区D－27

82

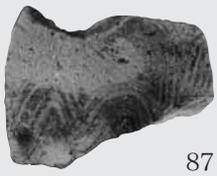
83

84



85

86



87

88

89

90

91

92

10区95(調査区)

10区96(調査区)

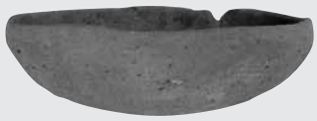
10区99(調査区)

33区3(H－1)

33区9(H－3)

33区10(H－3)

33区23(H－5)

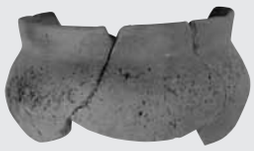

33区24(H－5)

33区25(H－5)

33区26(H－5)

33区29(H－5)

33区34(H－5)


33区35(H－5)

33区36(H－5)

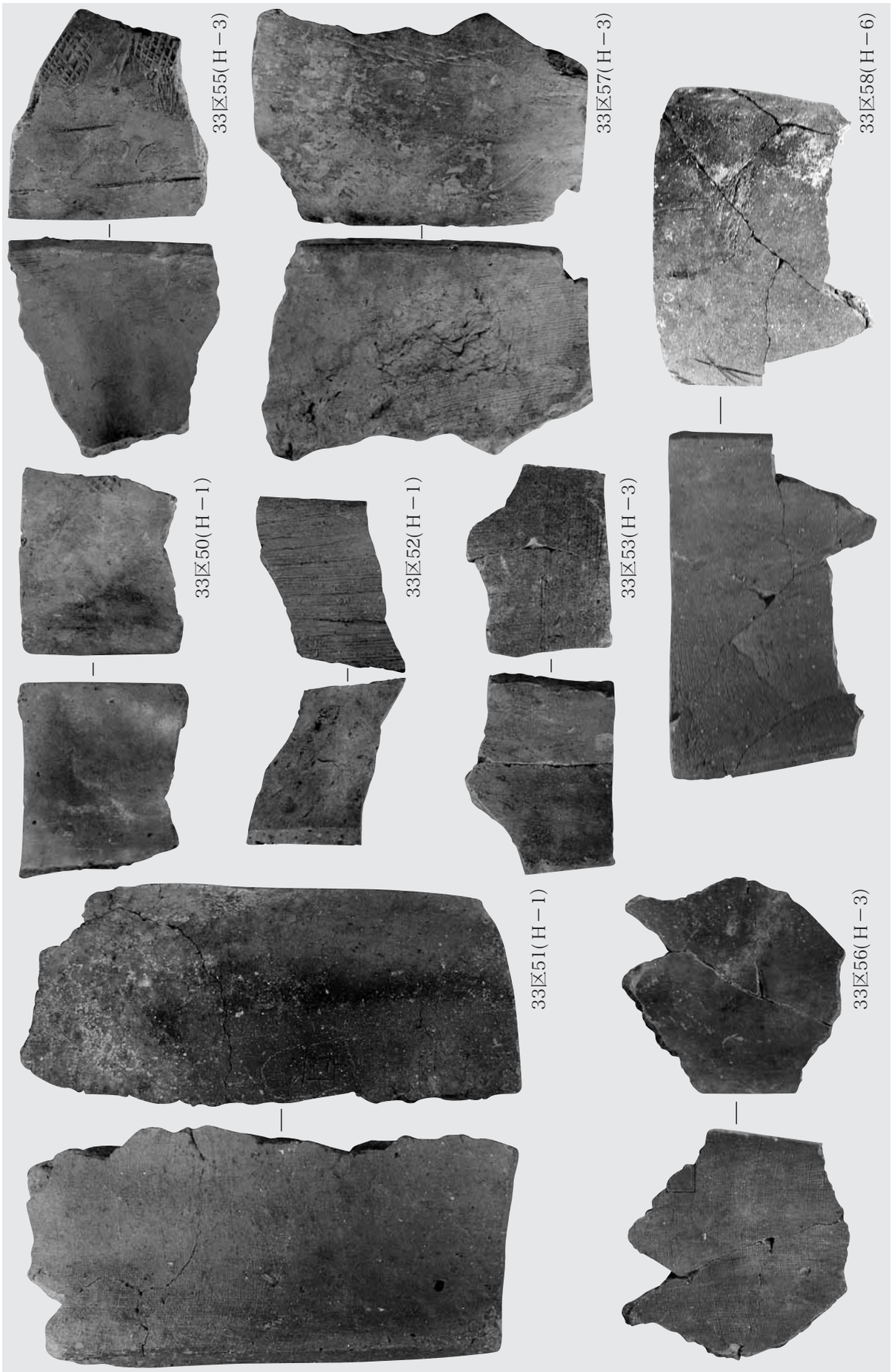
33区37(H－5)

33区38(H－5)

33区39(H－5)

33区44(H－6)

33区47(H－6)


33区55(H－3)
33区50(H－1)
33区51(H－1)
33区57(H－3)
33区52(H－1)
33区53(H－3)
33区58(H－6)
33区56(H－3)

報告書抄録

フリガナ	モトソウジャオウミイセキグン
書名	元総社蒼海遺跡群（22）
副書名	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
編著者名	山下歳信　宇佐美義春　関　健吾
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団・技研測量設計株式会社
発行機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
発行機関所在地	〒371-0018　群馬県前橋市三俣町二丁目10-2
発行年月日	西暦2009年３月６日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
元総社 蒼海遺跡群(22)	群馬県 前橋市 元総社町 1312-3番ほか	10201	20Ａ130 -22	（８区） 36°23′05″ （10区） 36°23′28″ （33区） 36°23′27″	（８区） 139°01′52″ （10区） 139°01′58″ （33区） 139°02′05″	2008.10.7 ～ 2009.2.6	1,362㎡	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元総社 蒼海遺跡群(22)	集落跡 その他	古墳時代～ 奈良・平安 中近世	（８区） 竪穴住居跡　32軒 竪穴　4基 土坑　27基 溝跡　25条 ピット　55口 （10区） 竪穴住居跡　16軒 竪穴　1基 土坑　37基 溝跡　30条 ピット　10口 （33区） 竪穴住居跡　8軒 土坑　2基 ピット　40口	縄文土器・石器 弥生土器 灰釉・緑釉 須恵器・土師器 瓦・石製品・鉄製品 陶磁器、古銭	10区に弥生時代の土坑 10区に鍵出土

元総社蒼海遺跡群（22）

2009年３月１日　印　刷
2009年３月６日　発　行

編集発行　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
前橋市三俣町二丁目10－２
TEL　027－231－9531
印刷所　朝日印刷工業株式会社